佐久市埋蔵文化財調査報告書　第202集

# 中堰遺跡

長野県佐久市平賀中堰遺跡発掘調査報告書

２０１３.１

社会福祉法人　佐久平福祉会
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第202集

# 中堰遺跡

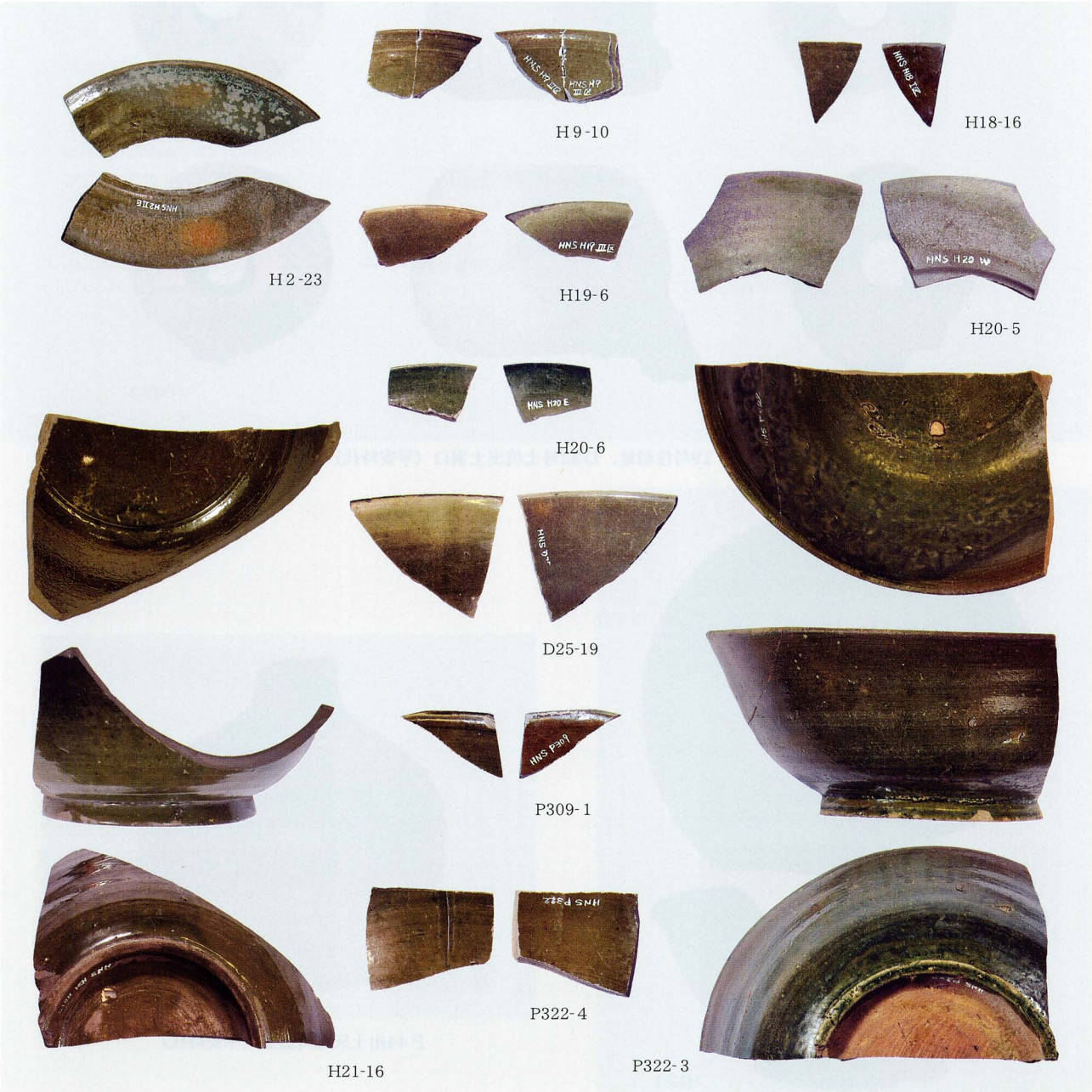
長野県佐久市平賀中堰遺跡発掘調査報告書

２０１３.１

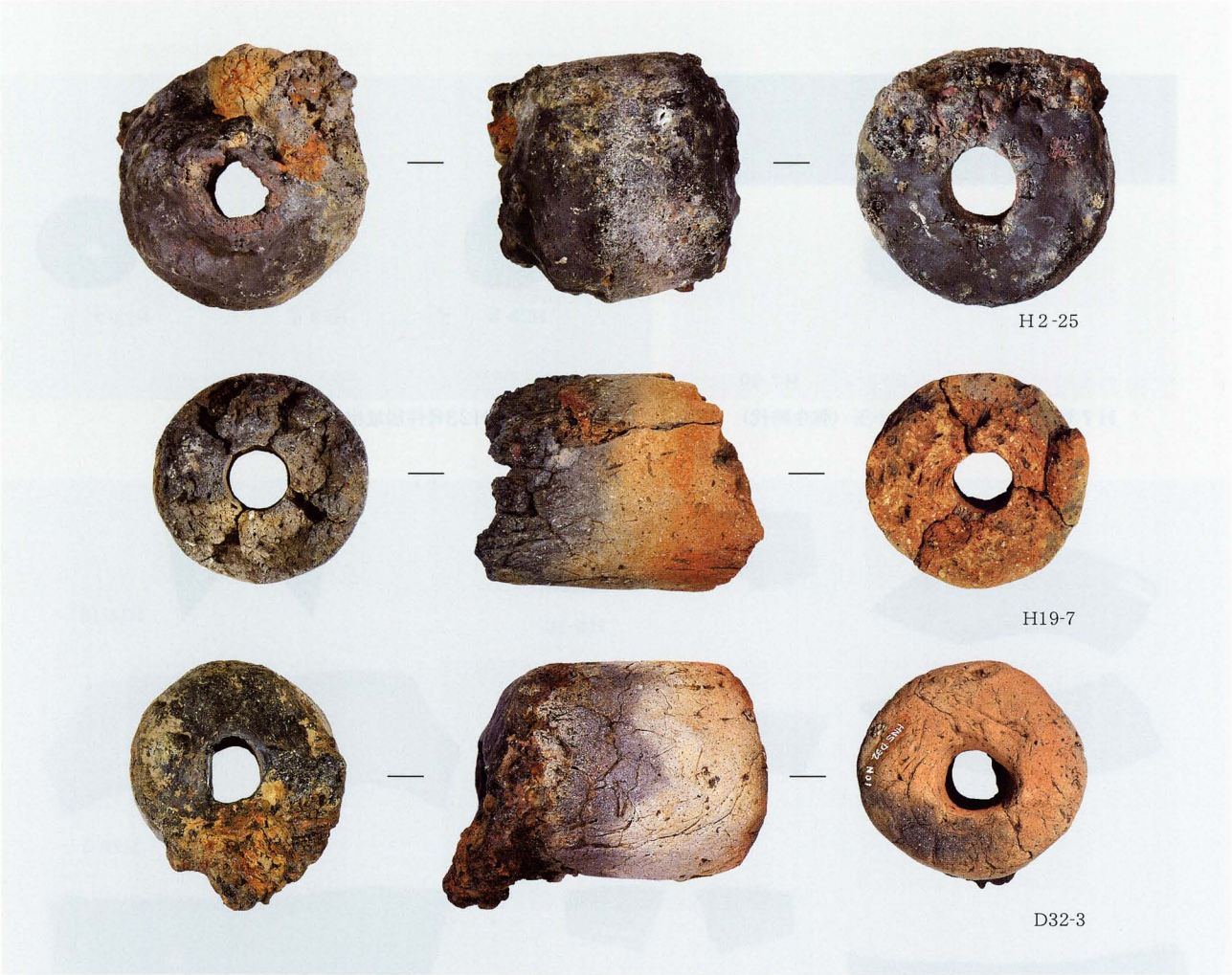
社会福祉法人　佐久平福祉会
佐久市教育委員会

H７号住居址出土ガラス小玉（弥生時代）

H23号住居址出土臼玉（古墳時代）




中堰遺跡出土緑釉陶器（平安時代）




Ｈ２・19号住居址、Ｄ32号土坑出土羽口（平安時代）

Ｈ12号住居址出土土師器碗（平安時代）

Ｐ44出土灰釉陶器壷（平安時代）

## 例　言

1　本書は社会福祉法人　佐久平福祉会　理事長　柳澤　秀樹による平成23年度佐久市特別養護老人ホーム整備運営事業に伴う中堰遺跡の発掘調査報告書である。
2　事業主体者　佐久市長土呂860番地2　社会福祉法人　佐久平福祉会　理事長　柳澤　秀樹
3　調査主体者　佐久市中込3056　佐久市教育委員会　教育長　土屋　盛夫
4　遺跡名及び発掘調査所在地　　中堰遺跡（ＨＮＳ）　佐久市平賀字樫藪738、740、741番地
5　調査担当者　上原　学
6　本書の編集・執筆は上原が行った。
7　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

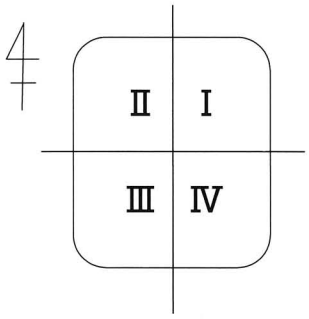
## 凡　例

1　遺構の略称は以下の通りである。
　Ｈ－竪穴住居址　　Ｄ－土坑　　Ｍ－溝状遺構　　Ｐ－ピット
2　スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺物－須恵器断面　黒色処理　赤色塗彩　遺構－焼土

灰釉・緑釉　羽口還元部　石器使用痕　地山断面

3　挿図の縮尺は以下の通りである。
　遺構－竪穴住居址・ピット・土坑　1/80　溝状遺構　1/80、1/160
　遺物－土器・石製品　1/4　　石鏃　1/2　　臼玉　1/2　　鉄製品　1/4　　ガラス小玉　1/1
4　遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6　調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
7　遺物表中の［　］は推定値、〈　〉は残存値を表す。
8　遺物の出土地点は、下図の区割りによる。



# 目　次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯
第１節　発掘調査に至る経過 ---------- 1
第２節　調査日誌 ---------- 2
第３節　調査体制 ---------- 2
第４節　発見された遺構と遺物 ---------- 3

第Ⅱ章　遺跡の環境
第１節　自然環境 ---------- 3
第２節　周辺遺跡 ---------- 3
第３節　基本層序 ---------- 7

第Ⅲ章　遺構と遺物
第１節　竪穴住居址 ---------- 9
第２節　土坑 ---------- 46
第３節　溝状遺構 ---------- 53
第４節　ピット ---------- 56
第５節　遺構外遺物 ---------- 68

写真図版

抄録

## 挿　図　目　次

第１図　中堰遺跡位置図 ---------- 1
第２図　周辺遺跡位置図 ---------- 6
第３図　基本層序模式図 ---------- 7
第４図　調査遺構・試掘トレンチ配置図 ---------- 7
第５図　調査区全体図 ---------- 8
第６図　Ｈ１号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 9
第７図　Ｈ２号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 10
第８図　Ｈ２号住居址遺物実測図 ---------- 11
第９図　Ｈ３号住居址実測図 ---------- 12
第10図　Ｈ３号住居址遺物実測図（１） ---------- 12
第11図　Ｈ３号住居址遺物実測図（２） ---------- 13
第12図　Ｈ４号住居址実測図 ---------- 13
第13図　Ｈ４号住居址遺物実測図 ---------- 14
第14図　Ｈ５号住居址実測図 ---------- 14
第15図　Ｈ５号住居址遺物実測図 ---------- 15
第16図　Ｈ６号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 15
第17図　Ｈ７号住居址実測図 ---------- 16
第18図　Ｈ７号住居址遺物実測図 ---------- 17
第19図　Ｈ８号住居址実測図 ---------- 18
第20図　Ｈ８号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 19
第21図　Ｈ９号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 20
第22図　H10号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 21
第23図　H11号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 21
第24図　H12号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 22
第25図　H13号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 23
第26図　H14号住居址実測図 ---------- 23
第27図　H14号住居址遺物実測図（１） ---------- 24
第28図　H14号住居址遺物実測図（２） ---------- 25
第29図　H15号住居址実測図 ---------- 26
第30図　H15号住居址遺物実測図 ---------- 27
第31図　H16号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 28
第32図　H17号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 29
第33図　H18号住居址実測図 ---------- 30
第34図　H18号住居址遺物実測図 ---------- 31
第35図　H19号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 32
第36図　H20号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 33
第37図　H21号住居址実測図 ---------- 34
第38図　H21号住居址遺物実測図 ---------- 35
第39図　H22号住居址実測図 ---------- 36
第40図　H23号住居址実測図 ---------- 36
第41図　H23号住居址カマド・遺物実測図 ---------- 37
第42図　H24号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 38
第43図　H24号住居址遺物実測図 ---------- 39
第44図　H25号住居址実測図 ---------- 39
第45図　H25号住居址遺物実測図 ---------- 40
第46図　H26号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 40
第47図　H26号住居址遺物実測図 ---------- 41
第48図　H27号住居址実測図 ---------- 41
第49図　H27号住居址遺物実測図 ---------- 42
第50図　H28号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 43
第51図　H29号住居址遺構・遺物実測図 ---------- 44
第52図　H30号住居址実測図 ---------- 44
第53図　H30号住居址遺物実測図 ---------- 45
第54図　H31号住居址実測図 ---------- 45
第55図　土坑　遺構・遺物実測図（１） ---------- 46
第56図　土坑　遺構・遺物実測図（２） ---------- 47
第57図　土坑　遺構・遺物実測図（３） ---------- 48
第58図　土坑　遺構・遺物実測図（４） ---------- 49

第59図　土坑　遺構・遺物実測図（５）---------- 50
第60図　土坑実測図（６）---------- 51
第61図　Ｍ１号溝状遺構　遺構・遺物実測図 ------ 53
第62図　Ｍ２号溝状遺構実測図 ---------- 54
第63図　Ｍ３号溝状遺構　遺構・遺物実測図 ------ 54
第64図　Ｍ４号溝状遺構　遺構・遺物実測図 ------ 55
第65図　Ｍ５号溝状遺構実測図 ---------- 55
第66図　ピット実測図（１）---------- 56
第67図　ピット実測図（２）---------- 57
第68図　ピット実測図（３）---------- 58
第69図　ピット実測図（４）---------- 59
第70図　ピット実測図（５）---------- 60
第71図　ピット実測図（６）－１ ---------- 61
第72図　ピット実測図（６）－２ ---------- 62
第73図　ピット実測図（７）－１ ---------- 62
第74図　ピット実測図（７）－２ ---------- 63
第75図　ピット実測図（８）－１ ---------- 64
第76図　ピット実測図（８）－２ ---------- 65
第77図　ピット実測図（９）---------- 66
第78図　ピット出土遺物実測図---------- 67
第79図　遺構外遺物実測図---------- 68

## 表　目　次

第１表　周辺遺跡表 ---------- 5
第２表　Ｈ１号住居址遺物観察表 ---------- 9
第３表　Ｈ２号住居址遺物観察表（１） ---------- 11
第４表　Ｈ２号住居址遺物観察表（２） ---------- 12
第５表　Ｈ３号住居址遺物観察表 ---------- 13
第６表　Ｈ４号住居址遺物観察表 ---------- 14
第７表　Ｈ５号住居址遺物観察表 ---------- 15
第８表　Ｈ６号住居址遺物観察表 ---------- 16
第９表　Ｈ７号住居址遺物観察表 ---------- 17
第10表　Ｈ８号住居址遺物観察表 ---------- 19
第11表　Ｈ９号住居址遺物観察表 ---------- 20
第12表　H10号住居址遺物観察表 ---------- 21
第13表　H11号住居址遺物観察表 ---------- 22
第14表　H12号住居址遺物観察表 ---------- 22
第15表　H13号住居址遺物観察表 ---------- 23
第16表　H14号住居址遺物観察表（１） ---------- 25
第17表　H14号住居址遺物観察表（２） ---------- 26
第18表　H15号住居址遺物観察表 ---------- 27
第19表　H16号住居址遺物観察表 ---------- 28
第20表　H17号住居址遺物観察表（１） ---------- 29
第21表　H17号住居址遺物観察表（２） ---------- 30
第22表　H18号住居址遺物観察表 ---------- 31
第23表　H19号住居址遺物観察表 ---------- 32
第24表　H20号住居址遺物観察表 ---------- 33
第25表　H21号住居址遺物観察表 ---------- 35
第26表　H23号住居址遺物観察表 ---------- 37
第27表　H24号住居址遺物観察表 ---------- 39
第28表　H25号住居址遺物観察表 ---------- 40
第29表　H26号住居址遺物観察表 ---------- 41
第30表　H27号住居址遺物観察表 ---------- 42
第31表　H28号住居址遺物観察表 ---------- 43
第32表　H29号住居址遺物観察表 ---------- 44
第33表　H30号住居址遺物観察表 ---------- 45
第34表　土坑遺物観察表（１）---------- 51
第35表　土坑遺物観察表（２）---------- 52
第36表　土坑石器・石製品観察表 ---------- 52
第37表　土坑鉄製品観察表---------- 52
第38表　Ｍ１号溝状遺構遺物観察表 ---------- 54
第39表　Ｍ３号溝状遺構遺物観察表 ---------- 55
第40表　Ｍ４号溝状遺構遺物観察表 ---------- 56
第41表　ピット出土遺物観察表（１）---------- 67
第42表　ピット出土遺物観察表（２）---------- 68
第43表　ピット出土石器・石製品観察表 ---------- 68
第44表　遺構外遺物観察表---------- 68

## 図　版　目　次

図版１　中堰遺跡南側調査区全景（北東から）
中堰遺跡南側調査区全景（北西から）

図版２　中堰遺跡北側調査区全景（北東から）
中堰遺跡北側調査区全景（西から）

図版３　Ｈ１号住居址堀方全景（南から）
Ｈ２号住居址全景（南から）
Ｈ２号住居址北カマド（南から）
Ｈ２号住居址北カマド石材（南から）
Ｈ２号住居址北カマド堀方（南から）
Ｈ２号住居址東カマド（西から）
Ｈ２号住居址東カマド堀方（西から）
Ｈ２号住居址北東コーナー遺物出土状況

図版４　Ｈ２号住居址南東コーナー土坑
Ｈ２号住居址遺物出土状況
Ｈ２号住居址遺物出土状況
Ｈ２号住居址遺物出土状況
Ｈ３号住居址全景（南から）
Ｈ３号住居址掘方全景（南から）
Ｈ３号住居址遺物出土状況
Ｈ４号住居址全景（南から）

図版５　Ｈ４号住居址掘方全景（南から）
Ｈ５号住居址全景（南から）
Ｈ５号住居址カマド（南から）
Ｈ５号住居址掘方全景（南から）
Ｈ５号住居址カマド掘方（南から）
Ｈ６号住居址全景（南から）
Ｈ６号住居址カマド（西から）
Ｈ６号住居址カマド掘方（西から）

図版６　Ｈ６号住居址掘方全景（南から）
Ｈ７号住居址全景（東から）
Ｈ７号住居址炉跡
Ｈ７号住居址炉跡掘方
Ｈ８号住居址全景（南から）
Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ４礎石
Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ３礎石
Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ１礎石

図版７　Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ２礎石
Ｈ８号住居址カマド（南から）
Ｈ８号住居址カマド掘方（南から）
Ｈ８号住居址掘方全景（南から）
Ｈ９号住居址全景（南から）
Ｈ９号住居址掘方全景（南から）
Ｈ９号住居址遺物出土状況
H10号住居址全景（南から）

図版８　H10号住居址炉跡
H10号住居址炉跡掘方
H11号住居址全景（南から）
H12号住居址全景（西から）
H12号住居址遺物出土状況
H13号住居址南側部分（西から）
H13号住居址北側部分（南から）
H14号住居址全景（南から）

図版９　H14号住居址カマド掘方（北西から）
H15号住居址全景（西から）
H15号住居址遺物出土状況
H15号住居址カマド（北西から）
H15号住居址カマド掘方（西から）

H15号住居址掘方全景（西から）
H16号住居址全景（南から）
H16号住居址炉跡

図版10　H16号住居址炉跡（覆土除去状況）
H17号住居址全景（東から）
H17号住居址炉跡
H17内P298号ピット出土搗臼出土状況
H18号住居址全景（南から）
H18号住居址カマド（南から）
H18号住居址カマド掘方（南から）
H18号住居址掘方全景（南から）

図版11　H19号住居址全景（南西から）
H19号住居址カマド（西から）
H19号住居址カマド掘方（西から）
H19号住居址掘方（南から）
H20号住居址全景（南から）
H20号住居址掘方全景（南から）
H21号住居址全景（南から）
H21号住居址鍛冶関連遺構？

図版12　H22号住居址全景（南から）
H23号住居址全景（南から）
H23号住居址カマド（南から）
H23号住居址カマド掘方（南から）
H23号住居址掘方全景（南から）
H24号住居址全景（南から）
H24号住居址炉跡
H24号住居址南壁際遺物出土状況

図版13　H24号住居址南西壁際遺物出土状況
H24号住居址南東コーナー遺物出土状況
H25号住居址全景（南から）
H25号住居址カマド（南から）
H25号住居址堀方全景（南から）
H26号住居址全景（東から）
H26号住居址炉跡
H26号住居址遺物出土状況

図版14　H26号住居址遺物出土状況
H27号住居址全景（西から）
H27号住居址カマド（西から）
H27号住居址カマド堀方（西から）
H27・28号住居址堀方（南から）
H28号住居址全景（南から）
H27・28号住居址ピット掘り下げ後状態（南から）
H28号住居址カマド（西から）

図版15　H27号住居址内ピット
H29号住居址全景（東から）
H30号住居址全景（南から）
H31号住居址全景（南から）
Ｄ１号土坑全景
Ｄ２号土坑全景
Ｄ３号土坑全景
Ｄ４号土坑全景

図版16　Ｄ５・６号土坑全景
Ｄ７号土坑全景
Ｄ８号土坑全景
Ｄ９号土坑全景
Ｄ10号土坑全景（東から）
Ｄ11号土坑炭化層確認状況
Ｄ11号土坑完掘状況全景
Ｄ12号土坑全景

図版17　Ｄ14・15号土坑全景
Ｄ16号土坑遺物出土状況
Ｄ16号土坑全景
Ｄ17号土坑全景
Ｄ18号土坑全景
Ｄ19号土坑全景
Ｄ20号土坑全景
Ｄ21号土坑全景

図版18　Ｄ22号土坑全景
Ｄ23号土坑全景
Ｄ24号土坑全景
Ｄ25号土坑全景
Ｄ26号土坑全景
Ｄ27号土坑全景
Ｄ28号土坑全景
Ｄ29号土坑全景

図版19　Ｄ30号土坑全景
Ｄ31号土坑全景
Ｄ32号土坑羽口出土状況
Ｄ32号土坑全景
Ｄ34号土坑全景
Ｄ35号土坑全景
Ｄ36号土坑全景
Ｄ37号土坑全景

図版20　南側調査区Ｍ１号溝状遺構全景（東から）
北側調査区Ｍ１号溝状遺構全景（東から）
Ｍ２号溝状遺構全景（南から）
Ｍ４号溝状遺構全景（西から）
Ｍ５号溝状遺構全景（北から）
南側調査区表土除去作業
北側調査区表土除去作業
調査風景

図版21　Ｈ１・２号住居址出土遺物

図版22　Ｈ２・３・４号住居址出土遺物

図版23　Ｈ４・５・６・７号住居址出土遺物

図版24　Ｈ８・９・10・11・12号住居址出土遺物

図版25　H13・14号住居址出土遺物

図版26　H14・15号住居址出土遺物

図版27　H16・17・18号住居址出土遺物

図版28　H19・20・21号住居址出土遺物

図版29　H21・23・24号住居址出土遺物

図版30　H24・25・26号住居址出土遺物

図版31　H26・27号住居址出土遺物

図版32　H27・28・29・30号住居址、Ｄ１・２・３・４・６号土坑出土遺物
図版33　Ｄ７・８・９・10・11・13・14・16・20・21・22号土坑出土遺物
図版34　Ｄ25・26・28号土坑出土遺物

図版35　Ｄ28・29・32・33号土坑、Ｍ１号溝状遺構出土遺物

図版36　Ｍ１・３・４号溝状遺構、Ｐ６・８・22・43・44・66・170・183・258号ピット出土遺物
図版37　Ｐ294・295・297・298・315・322号ピット、グリッド出土遺物

# 第Ⅰ章　発掘調査の経緯

## 第１節　発掘調査に至る経過

中堰遺跡は、佐久市の平賀地籍に位置する、縄文時代から中世を中心とする複合遺跡である。調査地域は、東方の北関東山地から佐久平に注ぎ込む滑津川の谷口扇状地と西方の千曲川によって形成された沖積地が交じり合う、標高688m内外を測る微高地上に位置する。

今回、社会福祉法人　佐久平福祉会による佐久市特別養護老人ホーム整備運営事業に伴い、埋蔵文化財試掘調査を平成23年４月５～13日にかけて実施した。その結果、竪穴住居址等の遺構が多数発見されたことから、開発主体者との保護協議によって、遺構が破壊される建物部分についての発掘調査を佐久市教育委員会が主体となって行う運びとなった。なお、今回の工事によって遺構への影響がない地域については、埋土保存とした。

第１図　中堰遺跡位置図（1:50,000）

## 第２節　調査日誌

平成23年度

４月５～13日　試掘調査。調査の結果、竪穴住居址及び遺物が多数発見され、文化財保護協議の結果、建物部分の発掘調査を実施する運びとなった。

４月20日　平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。

４月27日　重機による南側調査区の表土除去作業。
ハウス・トイレ設置（原因者による）
遺構確認面までの深さは20～30cmと全体的に浅い。

５月２日　発掘調査機材準備・搬入作業。
南側調査区測量基準杭設定。（原因者による）

５月６日～　南側調査区調査員による発掘調査開始。
住居址・溝・土坑等の遺構掘り下げ作業・遺構図面作成・遺構写真撮影。
雨天時は室内にて整理作業を行う。

５月31日　重機による北側調査区表土除去作業。（原因者による）
遺構確認面までの深さは南側調査区同様20～30cmと浅い。

６月１日～　北側調査区調査員による発掘調査開始。

６月２日～　調査員による住居址・溝・土坑等の遺構掘り下げ作業開始。図面作成・写真撮影。
北側調査区測量基準杭設定。（原因者による）
雨天時は室内にて整理作業を行う。

６月21・22日　現場調査終了。機材撤収。重機による埋め戻し作業。

５月10日～　室内整理作業。遺物洗浄・遺物注記・遺物接合・図面修正・現場写真整理。

１月17日　埋蔵文化財変更契約。

２月10日　平成23年度発掘調査作業完了。

平成24年度

４月４日　平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。

４月４日～　発掘調査整理作業開始。遺物復元、遺物実測、遺物写真、遺物・遺構トレース、遺構・遺物図版作成、原稿作成、印刷製本、校正。

平成25年１月　平成24年度発掘調査整理作業終了。
１月　報告書刊行

## 第３節　調査体制

| | | |
|---|---|---|
| 調査受託者 | 佐久市教育委員会 | 教育長　土屋盛夫 |
| 事　務　局 | 社会教育部長 | 伊藤明弘 |
| | 社会教育部次長 | 藤牧浩（平成23年度） |
| | 文 化 財 課 長 | 吉澤隆 |
| | 文化財調査係長 | 三石宗一 |
| | 文化財調査係専門員 | 林幸彦（平成23年度）　須藤隆司　小林眞寿<br>羽毛田卓也　冨沢一明　上原学 |
| | 文化財調査係 | 並木節子　神津一明（平成23年10月～）<br>井出泰章（平成23年４月～9月）　久保浩一郎（平成24年度～） |
| | 嘱託職員 | 林幸彦（平成24年度～） |
| | 調査主任 | 佐々木宗昭　森泉かよ子 |
| 調査担当者 | 上原　学 | |
| 調　査　員 | 浅沼勝男　阿部和人　安藤孝司　飯森成英　江原富子　小幡弘子　風間敏　狩野小百合<br>川瀬祥太　木内勇　菊池喜重　小井戸秀元　小林百合子　坂井一夫　堺益子　清水澄生 | |

滝沢三男　田中ひさ子　土屋武士　中嶋フクジ　中條勝良　比田井久美子　日向昭次
広瀬梨恵子　武者幸彦　柳澤孝子　油井重明　横尾敏雄　依田三男　渡辺長子　渡辺学

第４節　発見された遺構と遺物

遺構－竪穴住居址　31軒
　弥生時代７軒　古墳時代３軒
　奈良時代１軒　平安時代18軒他
溝状遺構　５条
土　　坑　37基　平安時代
ピ ッ ト　　平安時代

遺物－土師器（坏・皿・甕・高坏）　羽口
　須恵器（坏・高台付坏・甕）
　弥生土器（甕・壺・高坏・甑）
　灰釉陶器（碗・皿・壺）　緑釉陶器（碗）
　石器（臼玉・搗臼・すり石・敲石・磨製石斧）
　鉄製品（鋤先・紡錘車）

# 第Ⅱ章　遺跡の環境

## 第１節　自然環境

佐久地域は、周辺を山地・台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。

この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成している。

これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主で地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した中堰遺跡は、南部の千曲川右岸に広がる標高687～688mの沖積地に位置する。

## 第２節　周辺遺跡

中堰遺跡周辺に目を向けると、縄文時代から中世に至る幅広い時期の遺跡が存在する。佐久市が作成した遺跡地図では北に平賀中屋敷遺跡群、樋村遺跡、後家山遺跡、東久保遺跡、寄山遺跡、東に平賀城跡、南には久禰添遺跡、大奈良遺跡等が所在する。

これらの遺跡内における遺跡の状況を、実際に行われた発掘調査結果から、時代別に述べる。

縄文時代－平成15年には道路改良に伴い、低丘陵を背後に背負う河岸段丘上に立地する大奈良遺跡(29)から中期の竪穴住居址10軒・敷石住居址2軒、後期の敷石住居址１軒及び、土器・打製石斧が多量に発見されている。また、北方には、佐久市でも代表的な縄文遺跡である寄山遺跡が所在する。遺跡は東の北関東山地から張り出した丘陵先端部の台地上に形成されている。この丘陵の先には現在は消滅しているが、巨大な池［志賀湖］が江戸時代まで存在していた。寄山遺跡の当時の情景は背後に丘陵地、眼下に大池といった状況で、集落の形成には恵み多い地域であったことが窺える。中期の住居址等の遺構に加えて土器・打製石斧等の遺物が多数発見されている。佐久市における縄文時代の遺跡の立地について、これまで、丘陵地域から発見されることが多かったが、近年では、大奈良遺跡のように、河川に近接する段丘上などの平坦部からも発見されるようになってきている。

弥生時代－北の城山小学校敷地内において、平成14年に行われた体育館建替えに伴う平賀中屋敷遺遺跡Ⅴ(25)から後期の住居址１軒が、平成９～12年に道路改良に伴い南西600mの千曲川右岸段丘端部で行われた久禰添遺跡(30)の調査から後期の竪穴住居址が４軒発見されている。久禰添遺跡の住居址からは磨製石鏃の完成品及び石材片が認められることから、製品の製作が行われていた可能性が考えられている。また、北の滑津川右岸に発達した複合扇状地微高地上に樋村遺跡(13.14)、その東方向に張り出す低丘陵先端の台地上には後家山遺跡(16)・東久保遺跡(18)が存在する。後家山遺跡からは中期の竪穴住居址２軒、後期の竪穴住居址68軒、後期の木棺墓２基、環濠と思われる溝等が発見され、遺物は土器に加え、竪穴住居址から炭化した小型の木鋤、木棺墓からガラス小玉、螺旋状の鉄釧が出土している。東久保遺跡では後期の竪穴住居址３軒が調査されている。樋村遺跡では中期の竪穴住居址５軒、後期の竪穴住居址17軒及び環濠と思われる溝が発見され、この一帯では中期終わりから集落が形成されはじめ、後期にかけて規模が拡大していった様子が窺える。また、後家山遺跡・東久保遺跡については、その立地から、高地性集落的な性格が認められる。住居址の規模は中期後半が１辺４m内外と小型で、形態は隅丸方形、楕円形、円形に近い方形など様々である。柱穴は４本が整然と並ぶもの、不明確なものが存在する。炉は住居址のほぼ中央に位置するものが多く、大半は地面を窪めた地床炉である。後期になると形態は、ほぼ長方形に統一され、規模も大型化する。本遺跡周辺では長辺８m、短辺６mを越える住居址が樋村遺跡で発見されている。佐久市全域に目を向けると、平成18年に高速道路建設に伴い行われた西近津遺跡の調査から、長辺18mを測る巨大な竪穴住居址が発見されるなど、近年、１辺10mを越える大型の住居址が確認されている。柱穴については規則正しく４本掘り込まれており、その平面形態は楕円形を示すことが多い。これは円形の柱ではなく、板材もしくは割材を利用した可能性があり、木材加工技術の向上が考えられる。この他、入り口、棟持柱に関するピット等が確認できることも多い。炉は柱穴との間に主となる炉を設け、他に小型の炉を認めることもできる。炉の形態は、地面を掘り窪めただけの地床炉を主とするもの、地床炉の脇に一つないし数個の炉縁石を伴うこともある。また、土器片を敷き詰めた土器敷炉、土器の底部や輪切りにした口縁部を埋め込むもの等が存在する。

古墳時代－中期後半以降になると遺跡数が増加し始め、後期になると北方の樋村遺跡周辺で大規模な集落が形成される。昭和57・58年に調査を行った樋村遺跡(13)では後期の住居址だけでも273軒が調査され、さらに平成11・12年に行われた樋村遺跡Ⅱ(14)の28軒をあわせると300軒を越す。調査を行った付近には未だ発見されていない住居址も相当数あることを考えると、古墳時代後期（６～８世紀初頭）には本遺跡北に広がる沖積地上には、安定した集落が営まれていたと考えられる。発見された住居址の大半は１辺４～６mの方形だが、前半期は１辺８～10mを測る大型も存在する。また、南壁のほぼ中央に方形の張り出し部を持つ住居址も現れる。ピットは基本的には４本規則正しく掘り込まれており、住居址コーナー付近に貯蔵穴を伴うことが多い。古墳時代も中期後半（５世紀後半）になると徐々に炉からカマドへと変化し、後期（６世紀）に入ると大半の竪穴住居址は壁にカマドを構築するようになる。構築場所は、時期によってある程度の規則性があったようで、古墳時代を通して、多くは北壁のほぼ中央に位置している。時期が下るに従い北東及び東カマドが認められるようになるが、北カマドに対する比率は低い状況である。また、極めて希だが樋村遺跡では南、西カマドも確認されている。この他、古墳時代の集落としては樋村遺跡ほどの規模ではないが、北の平賀中屋敷遺跡Ⅳ(24)、北東の開戸田遺跡(15)、扇田遺跡、南の大奈良遺跡からも生活の痕跡を認めることができる。

古墳については、東の山地から張り出す舌状の丘陵地斜面部には後期から終末期と思われる小古墳が点在し、南谷津古墳群(34)、西久保古墳群(36)、松井日影古墳群(35)、打越古墳群等を形成している。

奈良・平安時代－後家山遺跡で平安時代の竪穴住居址１軒、平賀中屋敷遺跡Ⅳ(24)で平安時代の竪穴住居址２軒、平成４年の道路改良に伴う中屋敷遺跡の調査で平安時代の竪穴住居址4軒が発見されている。小規模調査であるため遺構の発見数は少ないように見えるが、本遺跡の北側沖積地上には広範囲に渡り、遺構が発見されている。古墳時代のような大規模な集落ではないが、小規模な集落が広く展開しているようである。

中・近世－遺跡北側の地域には屋敷跡があったとされ、現在は、平賀中屋敷遺跡(26)と称されている。付近の調査では、北側の城山小学校体育館建て替えに伴う平賀中屋敷遺跡Ⅴから、中世と考えられる南北方向の溝が発見されている。また、道路改良工事に伴う平賀中屋敷遺跡の調査では中世の土坑が認められた。遺物は、常滑の甕、古銭等が出土している。また、東側には、山城である平賀城跡(27)が存在し、現在も郭・土塁・空堀・石積みを見ることができる。築城は平安末ともいわれ、平賀氏、大井氏と領主を代えつつ戦国期まで存続していたようである。しかし、戦国時代に大井氏が甲斐武田氏に攻め込まれ、平賀城も武田氏の支配下となった後の詳細は不明で、廃絶時期もはっきりしていない。

| No | 遺　跡　名 | 所　在　地 | 遺跡番号 | 旧 | 縄 | 弥 | 古 | 歴 | 中 | 近 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中堰遺跡 | 平賀字中堰 | 433 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | H23年調査 |
| 2 | 深堀遺跡群 | 瀬戸字深掘・狐塚・残塚・下原外 | 255 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | H11・12年調査 |
| 3 | 南海堂遺跡 | 瀬戸字南海道 | 338 | | | | ○ | ○ | | | |
| 4 | 八反田遺跡 | 瀬戸字八反田 | 335 | | | | | ○ | | | |
| 5 | 東千石平遺跡群 | 瀬戸字東千石平・西千石平外 | 333 | | | | ○ | ○ | ○ | | H11年調査 |
| 6 | 中反遺跡 | 瀬戸字中反・中屋敷 | 336 | | | | | ○ | | | |
| 7 | 八反田城跡 | 瀬戸字八反田 | 347 | | | | | | ○ | | |
| 8 | 中条峯遺跡 | 瀬戸字中城峯・中城平 | 337 | | ○ | | ○ | ○ | | | H元・2・3年調査 |
| 9 | 西屋敷添遺跡 | 瀬戸字西屋敷添 | 334 | | | | | ○ | | | |
| 10 | 上の台遺跡 | 瀬戸 | 345 | | | ○ | | | | | S57年調査 |
| 11 | 城山城跡 | 瀬戸字城 | 348 | | | | | | ○ | | |
| 12 | 屋敷古墳群 | 瀬戸字屋敷 | 352 | | | | ○ | | | | |
| 13 | 樋村遺跡 | 平賀字樋村 | 344 | | | ○ | ○ | | | | S57・58調査 |
| 14 | 樋村遺跡Ⅱ | 平賀字樋村 | 344 | | | ○ | ○ | ○ | | | H11・12調査 |
| 15 | 開戸田遺跡 | 平賀字開戸田 | 343 | | | | ○ | ○ | ○ | | H14・15調査 |
| 16 | 後家山遺跡Ⅰ・Ⅱ | 平賀字後家山 | 341 | | | ○ | | ○ | | | H13・14調査 |
| 17 | 宮田遺跡Ⅰ・Ⅲ | 瀬戸字宮田 | 340 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | H13・14調査 |
| 18 | 東久保遺跡 | 平賀字東久保・瀬戸字宮田 | 342 | | | ○ | ○ | ○ | | | H13・14調査 |
| 19 | 西和田古墳群 | 内山字西和田 | 367 | | | | ○ | | | | |
| 20 | 東久保古墳群１号墳 | 平賀字東久保 | 354 | | | | ○ | | | | H13調査 |
| 21 | 宮田Ⅱ遺跡 | 瀬戸字宮田 | 332 | | | | | ○ | | | |
| 22 | 東久保古墳群 | 瀬戸字東久保・開戸田・後家山 | 354 | | | | ○ | | | | |
| 23 | 後家山古墳群 | 瀬戸字後家山 | 353 | | | | ○ | | | | S49後家山古墳調査 |
| 24 | 平賀中屋敷遺跡Ⅳ | 平賀 | 432 | | | ○ | ○ | ○ | | | H14調査 |
| 25 | 平賀中屋敷遺跡Ⅴ | 平賀字下屋敷 | 432 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | H18調査 |
| 26 | 平賀中屋敷遺跡群 | 平賀字中屋敷・下屋敷・上屋敷 | 432 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 27 | 平賀城跡 | 平賀字城平・滝・北谷津・滝平外 | 447 | | | | | | ○ | | |
| 28 | 萩本古墳 | 平賀字萩本 | 453 | | | | ○ | | | | |
| 29 | 大奈良遺跡 | 大奈良・金石外 | 660 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | H15調査 |
| 30 | 久禰添遺跡 | 太田部字久禰添・飛越・飯塚 | 434 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | H11・12年調査 |
| 31 | 離山遺跡 | 上中込・離山 | 658 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 32 | 中反田遺跡 | 大奈良・中反田・田口・一丁田外 | 659 | | | | ○ | ○ | | | |
| 33 | 上屋敷古墳 | 平賀字上屋敷 | 418 | | | | ○ | | | | |
| 34 | 南谷津古墳群 | 平賀字南谷津 | 419 | | | | ○ | | | | |
| 35 | 松井日影古墳群 | 内山字松井日影 | 449 | | | | ○ | | | | |
| 36 | 西久保古墳群 | 常和字西久保・城下・城平外 | 450 | | | | ○ | | | | |
| 37 | 城平遺跡群 | 平賀字城平・筒井・常和字八十海戸外 | 443 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 38 | 北谷津遺跡 | 平賀字北谷津・南谷津 | 437 | | | | | ○ | | | |
| 39 | 東姥石古墳群 | 平賀字東姥石 | 365 | | | | ○ | | | | |
| 40 | 月崎古墳群 | 平賀字月崎 | 366 | | | | ○ | | | | |
| 41 | 八十海戸遺跡 | 常和字八十海戸 | 442 | | | | ○ | | | | |
| 42 | 堤井遺跡 | 常和字堤井 | 499 | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 43 | 打越遺跡 | 常和字打越 | 500 | | | | | ○ | | | |
| 44 | はかせ久保遺跡 | 清川・はかせ久保 | 666 | | | | | ○ | | | |
| 45 | 清川遺跡 | 清川・部落内 | 665 | | ○ | | | ○ | | | |
| 46 | 清川入口城跡 | 清川入口 | 798 | | | | | | ○ | | |
| 47 | 荒屋遺跡 | 平賀字荒屋 | 431 | | | | ○ | ○ | | | |
| 48 | 新町遺跡 | 中込字新町・横道・狐塚・南畑 | 428 | | | | | ○ | | | |
| 49 | 向畑遺跡 | 鍛治屋字向畑 | 497 | | | | | ○ | | | |
| 50 | 前堀遺跡 | 高柳字前堀・社在家外 | 498 | | | | ○ | | | | |

第１表　周辺遺跡表

1 中堰遺跡
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
29
30
31
32

第２図　周辺遺跡位置図

## 第３節　基本層序

中堰遺跡周辺の佐久市南部地域は、千曲川右岸の氾濫源沖積地及び東からの支流の谷口扇状地によって形成された、緩やかな南西方向に傾斜する台地が広がる。堆積状況は河川によって運ばれた河床礫層、沖積粘土層、シルト層が層状に堆積した状況が主となる。また、本調査区一帯は、圃場整備された水田が広がり、旧表土が広範囲に掘削された地域である。調査地域の層序は、以下の通りである。

Ⅰ層は層厚20～30cm内外を測る黒褐色土の水田耕作土である。

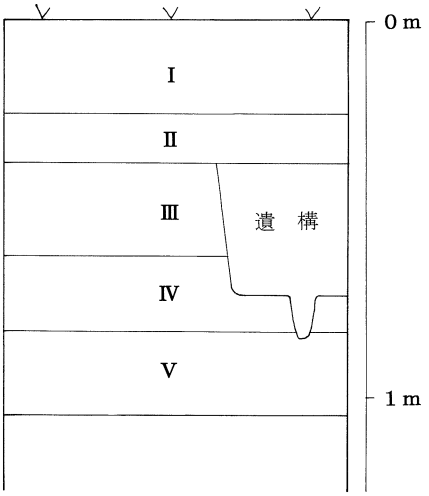
Ⅱ層は層厚10～15cm内外を測る褐色土の水田床土である。

Ⅲ層は層厚20～30cm内外を測る黄褐色土のシルトである。遺構検出はこの上面で明確に確認することができる。調査区一帯は、圃場整備によって、かなり削り込まれた可能性が窺われ、遺構の上部は大半が破壊され、本来の遺構の深さより、浅い状態である。また、発見された遺構の中には、掘方など一部の痕跡を残すものも多く、こうした状況から、中堰遺跡周辺では、圃場整備によって遺構が完全に破壊されたものが相当数あったと考えられる。

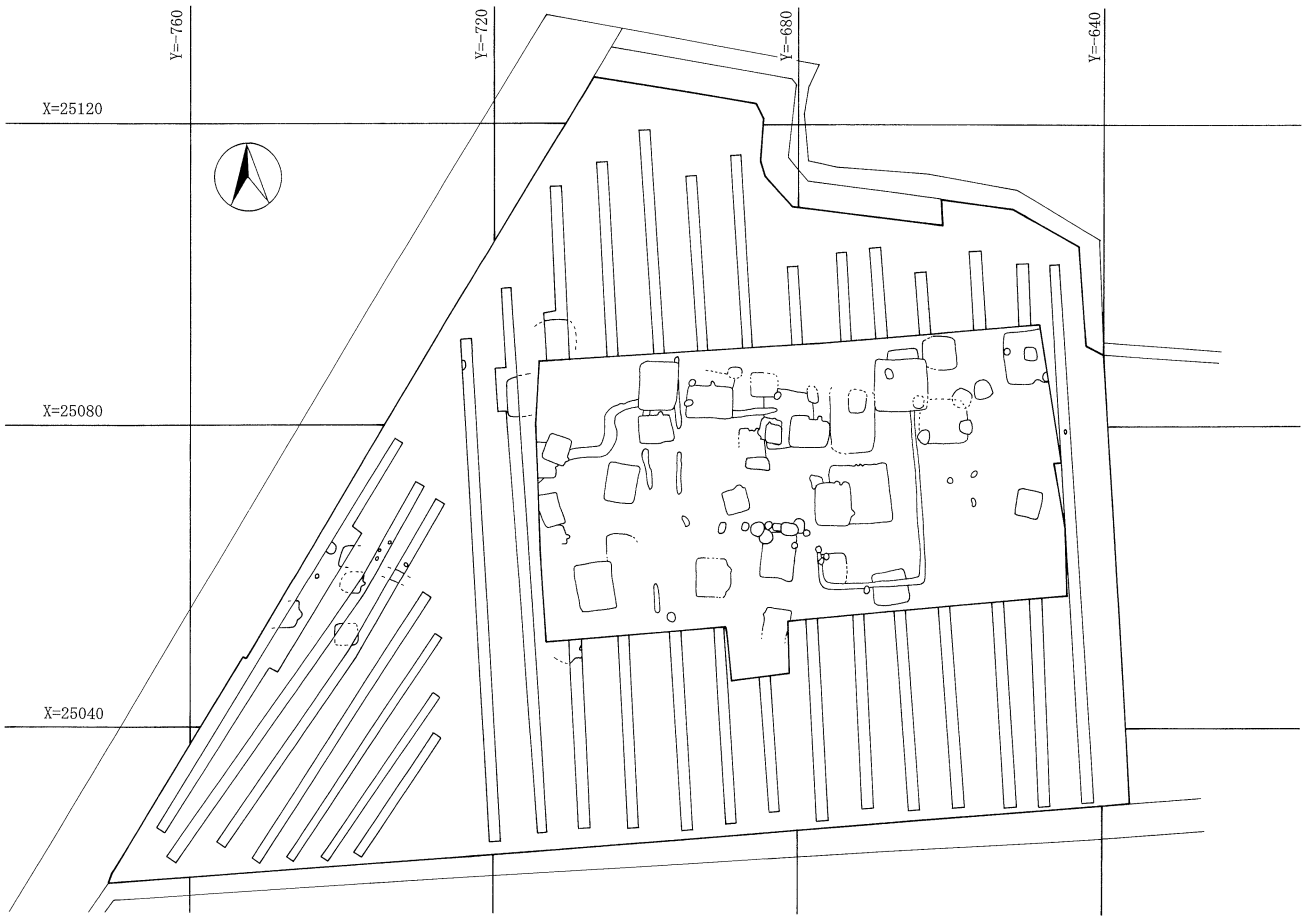
Ⅳ層は褐色土の沖積粘土層である。東側に比べ西側で厚い状況である。

Ⅴ層は層厚20cm以上を測る小礫を含む砂礫層である。

Ⅴ層以下の層序は、沖積粘土層、シルト、砂礫層が交互に厚く堆積しているようである。




第３図　基本層序模式図




第４図　調査遺構・試掘トレンチ配置図

7
8
9
10
1
2
3
4
5
6
7
8
9
A
C
B
D
い
う
え
お
か
き
く
け
こ
あ
い
う
え
お
か
き
く
け
こ
Y=-680
X=25080
0
10m
H1
H2
H3
H4
H5
H6
H7
H8
H9
H10
H11
H12
H13
H14
H15
H16
H17
H18
H19
H20
H21
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
H31
D1
D2
D3
D4
D5
D6
D7
D8
D9
D10
D11
D12
D13
D14
D15
D16
D17
D18
D19
D20
D21
D22
D23
D24
D25
D26
D27
D28
D29
D30
D31
D32
D33
D34
D35
D36
D37
M1
M2
M3
M4
M5

第５図　調査区全体図

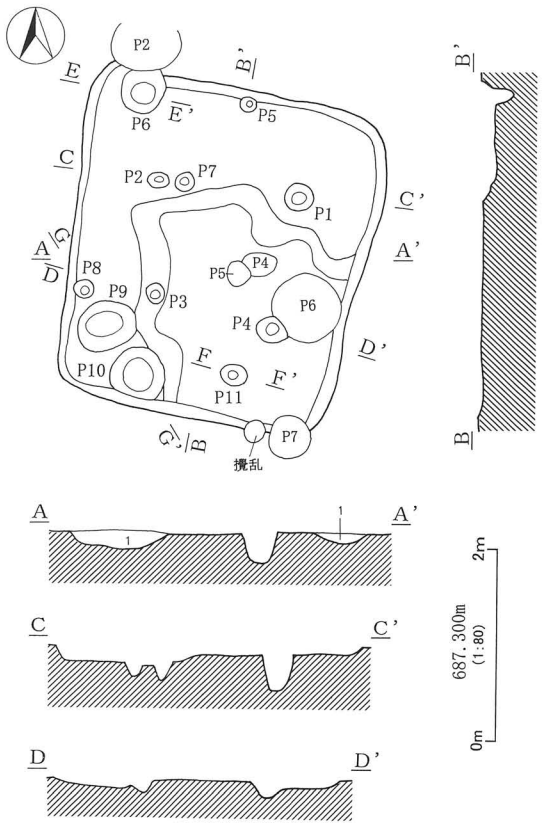
# 第Ⅲ章　遺構と遺物

## 第１節　竪穴住居址

### Ｈ１号住居址

遺構は調査区東のＣ－う－３グリッドに位置し、圃場整備によって、遺構の上部は削り取られており、検出段階ですでに床面の大半が露出している状態であった。平面形態はやや台形状の方形で、規模は南北3.3m、東西3.2m、深さは残存した覆土の最深部で５cmを測る。ピットは11個確認でき、Ｐ１・４・７・３が主柱穴と思われる。カマドの確認はできなかったが、床面上に焼土の散布が認められた。掘方は締まりのある黒褐色土が埋め込まれ、焼土・炭化物が混入していた。

遺物は土師器の坏・碗・甕が出土したが小破片が多く、形態の判別できる個体は１点である。時期は、小型化した湯飲み状の形態から平安時代、10世紀後半から11世初頭としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物多い。焼土粒含む。しまりあり。（堀方）

第６図　Ｈ１号住居址遺構・遺物実測図

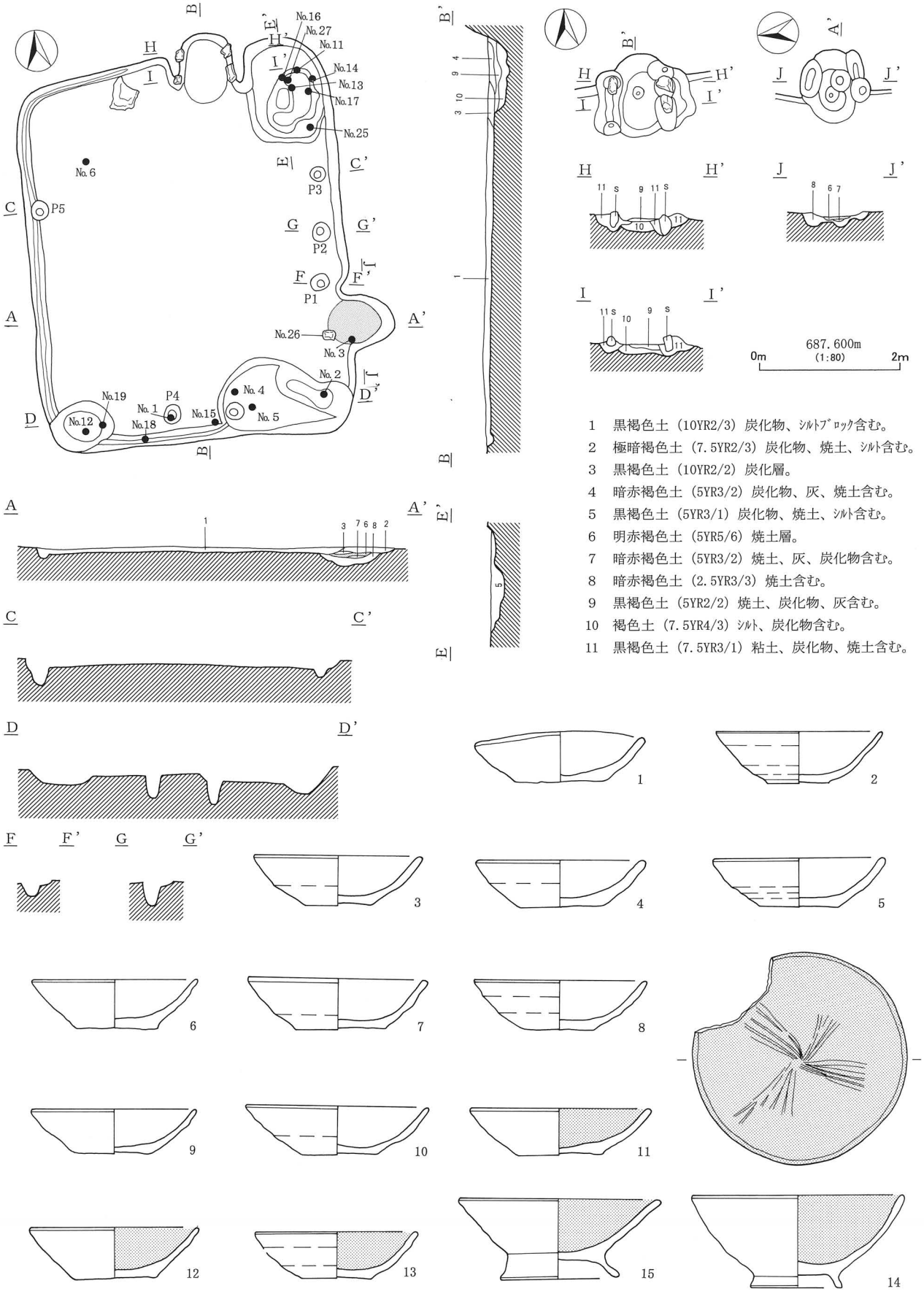
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 碗 | 9.8 | 5.7 | 4.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 70 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |

第２表　Ｈ１号住居址遺物観察表

### Ｈ２号住居址

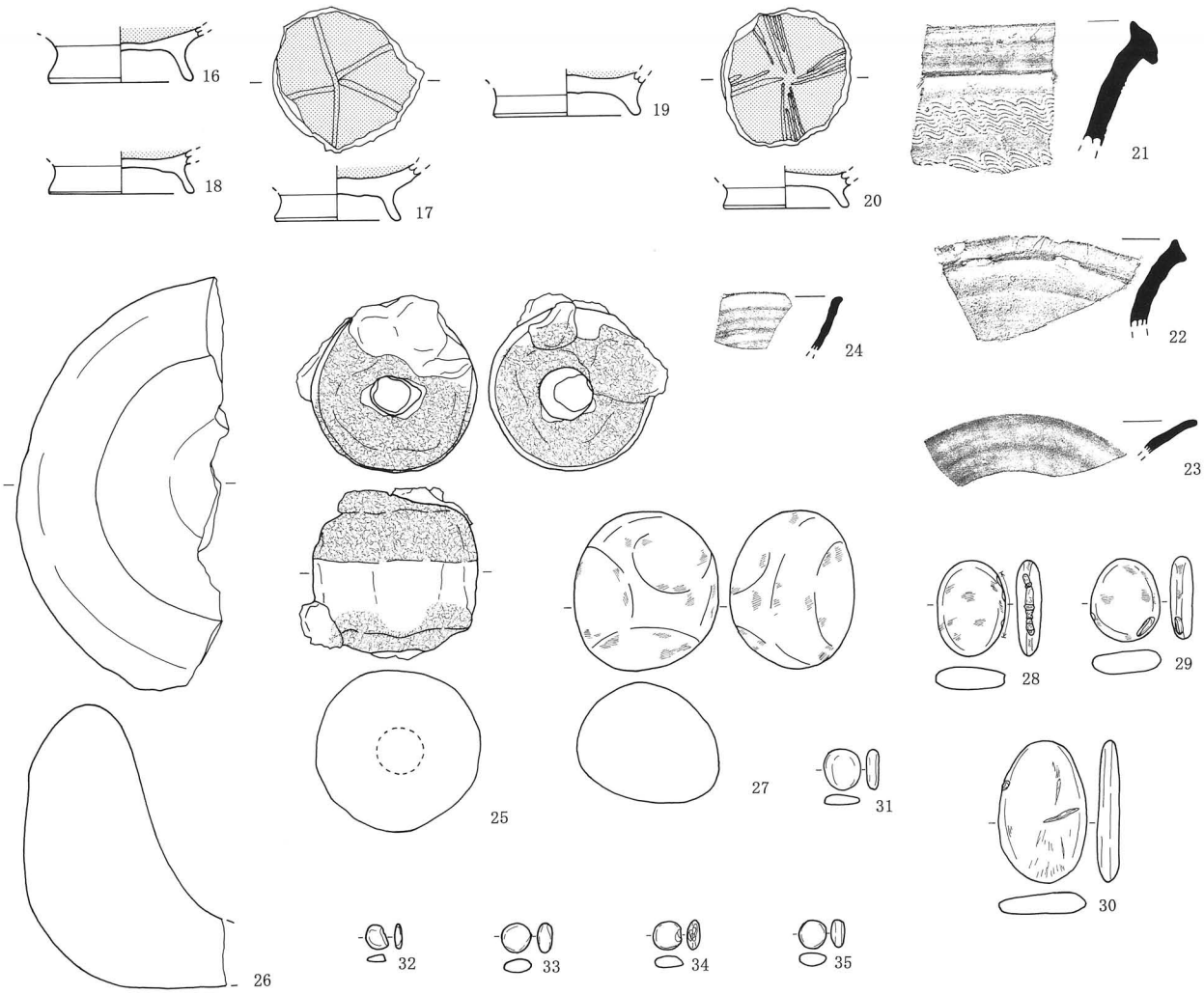
遺構は調査区Ｃ－け－３グリッドに位置し、Ｈ８を切る。平面形態は南北にやや長い長方形である。規模は南北5.4m、東西4.3m、検出面から床面までの深さは最深部で12cmを測る。床面はほぼ平坦で、硬質である。西側半分の壁際に溝が認められた。床面上に小ピット５個、住居址コーナーの３カ所に土坑が掘り込まれており、いずれの土坑からも多くの土器が出土した。カマドは北壁の東にやや寄った位置及び東壁の南寄りの２カ所に存在する。いずれも僅かな袖の痕跡、壁外への張り出し、火床が残存する程度であった。北壁カマドは両袖の一部に石材が一部残り、火床に僅かな焼土は含まれていたが明確な堆積は認められなかった。東カマドの火床には径70cm、厚さ５cmの焼土が堆積していた。掘方は全体に薄く、貼り床状に硬質な褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の甕、灰釉陶器、緑釉陶器、羽口、石器・石製品が出土した。須恵器の坏は認められない。遺物は土坑内から形態の残る物が多く出土しており、住居内の土坑を利用して小鍛冶等の作業が行われていた可能性も考えられる。須恵器甕、灰釉陶器、緑釉陶器は破片である。土師器坏の器厚はやや厚く、体部はやや開き気味に立ち上がり底径の小型な物も含まれる。土師器碗は、坏部が直線的に開き高台の作りが雑な物、高台は低めでやや内湾しながら立ち上がる形状の整った物が存在する。高台のみの個体も多く、中にはやや高台が高い物も存在する。時期は、須恵器坏が認められず、一部足高の高台をもつ碗が存在すること。小型化した土師器碗・坏が認められないことなどから、平安時代、10世紀前半としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　極暗褐色土（7.5YR2/3）炭化物、焼土、ｼﾙﾄ含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）炭化層。
4　暗赤褐色土（5YR3/2）炭化物、灰、焼土含む。
5　黒褐色土（5YR3/1）炭化物、焼土、ｼﾙﾄ含む。
6　明赤褐色土（5YR5/6）焼土層。
7　暗赤褐色土（5YR3/2）焼土、灰、炭化物含む。
8　暗赤褐色土（2.5YR3/3）焼土含む。
9　黒褐色土（5YR2/2）焼土、炭化物、灰含む。
10　褐色土（7.5YR4/3）ｼﾙﾄ、炭化物含む。
11　黒褐色土（7.5YR3/1）粘土、炭化物、焼土含む。

第７図　Ｈ２号住居址遺構・遺物実測図




第８図　Ｈ２号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 12.3 | 6.5 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　平面形状ややいびつ | 100 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 4.4 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面10YR8/2灰白色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 12 | 4.6 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 12.3 | 5.9 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 98 | 外面5YR4/4にぶい赤褐色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 12.5 | 5.6 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面5YR6/6橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 6 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面5YR6/6橙色 |
| 7 | 土師器 | 坏 | 13 | 6.3 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　平面形状ややいびつ | 60 | 外面5YR6/6橙色 |
| 8 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 5.1 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| 9 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 5.5 | 3.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面5YR6/6橙色 |
| 10 | 土師器 | 坏 | 13.2 | 5.4 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り<br>口縁内外面煤付着　平面形状やや楕円形　灯明として使用？ | 100 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 11 | 土師器 | 坏 | 13.1 | 6.1 | 3.4 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 70 | 外面5YR6/6橙色 |
| 12 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 6 | 3.7 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 80 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 13 | 土師器 | 坏 | [11.6] | 5 | 3.3 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 50 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 14 | 土師器 | 碗 | 15.4 | 6.7 | 6.7 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付　内面暗文・黒色処理 | 80 | 外面10YR8/3浅黄橙色 |
| 15 | 土師器 | 碗 | 14.6 | 8.6 | 5.8 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付　内面黒色処理 | 90 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 16 | 土師器 | 碗 | － | 7.9 | 〈3〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面5YR3/3暗赤褐色 |
| 17 | 土師器 | 碗 | － | 6.8 | 〈3.1〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 18 | 土師器 | 碗 | － | 7.9 | 〈2.3〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |

第３表　Ｈ２号住居址遺物観察表（１）

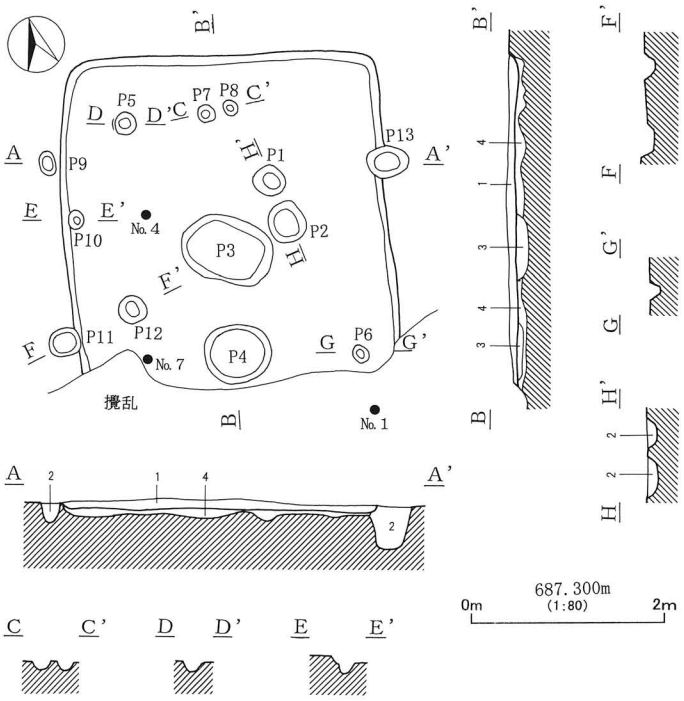
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 土師器 | 碗 | － | 8 | 〈2.3〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面暗文・黒色処理 | 底部・高台100 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 20 | 土師器 | 碗 | － | 6.8 | 〈1.9〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面暗文・黒色処理 | 底部・高台100 | 外面5YR6/3にぶい橙色 |
| 21 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 内外面ロクロナデ　外面7単位櫛描波状文 | 口縁破片 | 外面10Y4/1灰色 |
| 22 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 内外面ロクロナデ | 口縁破片 | 外面10YR1.7/1黒色 |
| 23 | 緑釉陶器 | 皿 | － | － | － | 内外面ロクロナデ・緑釉 | 口縁破片 | 内外面7.5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色 |
| 24 | 灰釉陶器 | － | － | － | － | 内外面ロクロナデ | 口縁破片 | 内外面N8/0灰白色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　　整・文　　様 | 重量(g) | 備　　考 |
| 25 | 土製品 | 羽口 | 9.4 | 8.9 | 3.2 | 内径2.5　両側先端部還元　外面削り・ナデ | 8.7 | 完形品 |
| 26 | 石製品 | 搗臼 | 〈22.6〉 | 〈11.6〉 | 〈15〉 | 凹径7.3、凸深11.8 | 〈4650〉 | 1/2欠損 |
| 27 | 石器 | すり石 | 8.7 | 7.8 | 6.7 | 全体に滑らか | 603.56 | |
| 28 | 石器 | すり石 | 5.2 | 3.7 | 1.3 | 全体に滑らか　側面に削り痕 | 28.4 | Ⅰ区出土 |
| 29 | 石器 | すり石 | 4.5 | 3.7 | 1.2 | 全体に滑らか　側面に一部きず | 26.2 | Ⅰ区出土 |
| 30 | 石器 | すり石 | 7.7 | 4.8 | 1.2 | 正面にすり痕あり | 60.77 | Ｐ４出土 |
| 31 | 石器 | すり石 | 2.3 | 2 | 0.6 | 全体に滑らか | 3.38 | Ⅱ区出土 |
| 32 | 石製品 | 碁石 | 〈1.3〉 | 〈1.2〉 | 〈0.4〉 | 右側欠損　全体に滑らか | 〈0.62〉 | Ⅳ区出土 |
| 33 | 石製品 | 碁石 | 1.6 | 1.5 | 0.8 | 全体に滑らか | 2.96 | Ⅳ区出土 |
| 34 | 石製品 | 碁石 | 1.6 | 1.5 | 0.7 | 右側欠損　全体に滑らか | 2.49 | Ⅳ区出土 |
| 35 | 石製品 | 碁石 | 1.5 | 1.5 | 0.7 | 全体に滑らか | 2.42 | Ⅳ区出土 |

第４表　Ｈ２号住居址遺物観察表（２）

Ｈ３号住居址

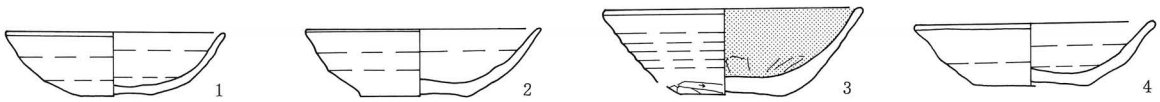
遺構は調査区南のＤ－あ－７グリッドに位置し、南側の一部は削り取られている。平面形態は残存状態から方形と考えられる。調査規模は南北3.4m、東西3.2m、検出面から床面までの深さは最深部で12cmと浅めである。圃場整備によって、遺構上部の大半が削り取られたと考えられる。床面は硬質で、ピットは大小13個認められた。主柱穴は壁際のＰ９・11・13と考えられる。他のピットについては本遺構に伴うか不明である。壁溝、カマドは認められなかった。掘方は全体的に５cm程度の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は、土師器の坏・碗・皿・甕、須恵器の坏・甕、石製品を出土したが、土師器が圧倒的に多い。須恵器坏・甕は僅かな破片が認められる程度である。土師器坏の形状は上部からやや押しつぶしたような緩やかな丸みを持つ体部で底径の小型な物も含まれ、形状にややゆがみが認められる。土師器碗の器厚はやや厚めで、形状にゆがみが認められ、胎土も荒い。高台はやや高めである。時期は、やや足高の土師器碗、小型化した土師器碗が認められないことから、平安時代、10世紀前半としたい。

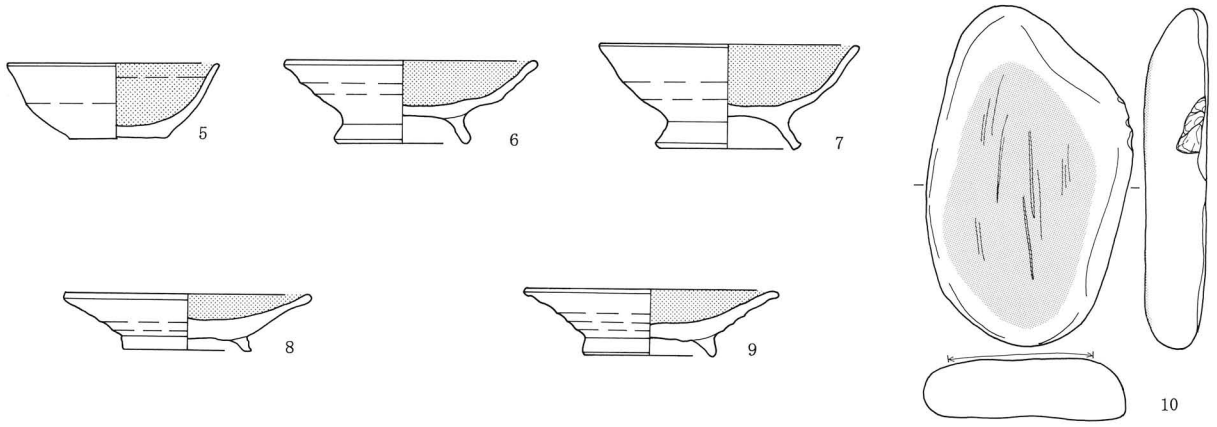



1　黒褐色土（10YR2/2）炭化物多い。ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）炭化物、焼土含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。

第９図　Ｈ３号住居址実測図




第10図　Ｈ３号住居址遺物実測図（１）

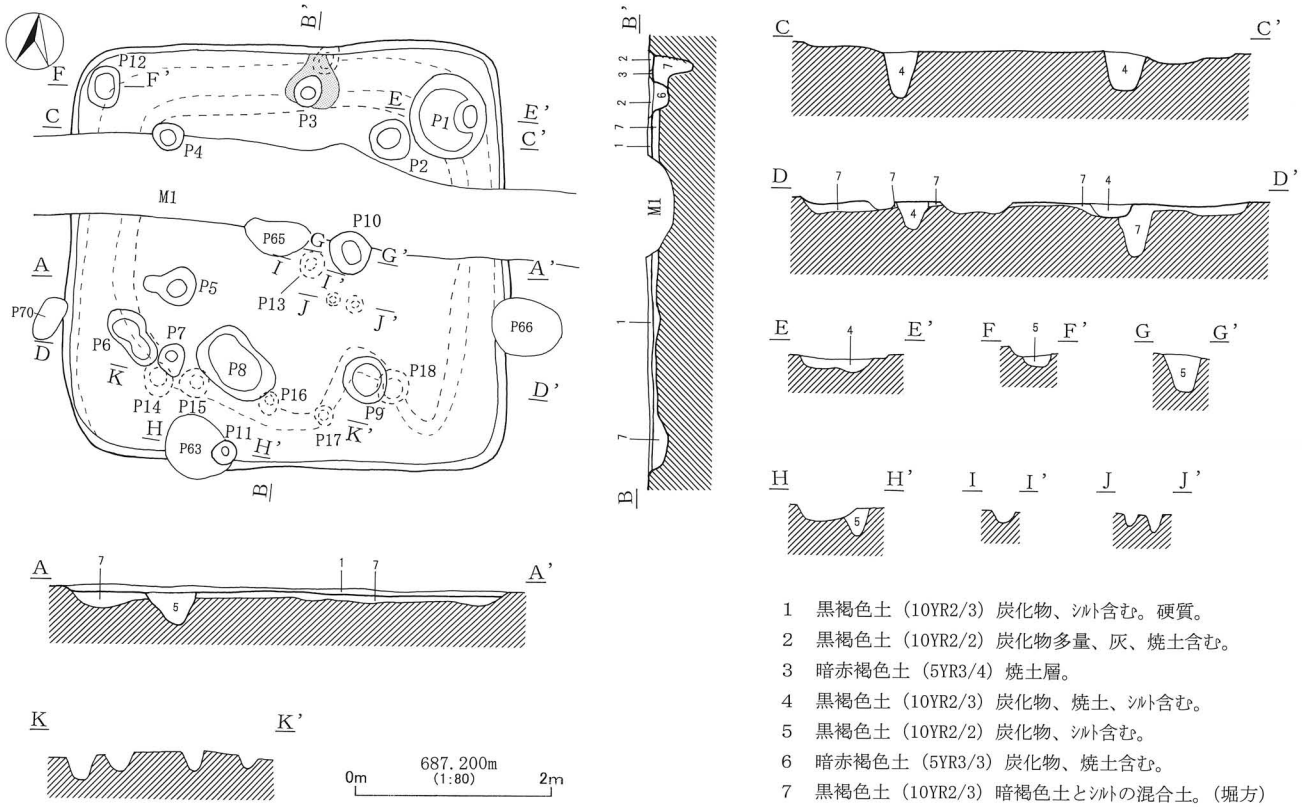



第11図　Ｈ３号住居址遺物実測図（２）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 11.4 | 3.8 | 3.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | [12.5] | 5.7 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面10YR5/6黄褐色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | [13.4] | 5.4 | 4.5 | 外面ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理 底部周辺ヘラケズリ | 50 | 外面10YR4/4褐色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | [12.6] | 6 | 3.2 | 内外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 60 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 11.2 | 5.2 | 4 | 外面ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理 | 70 | 外面10YR6/4にぶい黄橙色 |
| 6 | 土師器 | 碗 | 13.3 | 7.1 | 4.4 | 外面ロクロナデ　底部高台貼付　内面黒色処理 | 50 | 外面10YR5/6黄褐色 |
| 7 | 土師器 | 碗 | 13.6 | 7.7 | 5.5 | 外面ロクロナデ　底部高台貼付　内面黒色処理 | 50 | 外面5YR5/8明赤褐色 |
| 8 | 土師器 | 皿 | [13.1] | 6.8 | 3 | 外面ロクロナデ　底部高台貼付　内面黒色処理 | 40 | 外面7.5Y4/1灰色 |
| 9 | 土師器 | 皿 | [13.6] | 6.8 | 3.5 | 外面ロクロナデ　底部高台貼付　内面黒色処理 | 40 | 外面10YR6/6明黄褐色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　　整・文　　様 | 重量(g) | 備　　考 |
| 10 | 石製品 | 台石 | 18 | 10.8 | 3.3 | 正面中央摩滅、使用面と思われる | 851.69 | |

第５表　Ｈ３号住居址遺物観察表

## Ｈ４号住居址

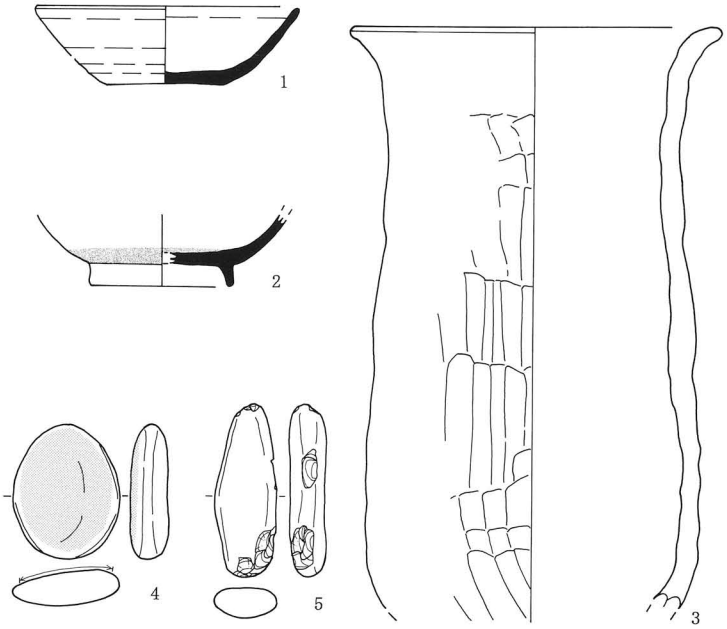



1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。硬質。
2　黒褐色土（10YR2/2）炭化物多量、灰、焼土含む。
3　暗赤褐色土（5YR3/4）焼土層。
4　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土、ｼﾙﾄ含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
6　暗赤褐色土（5YR3/3）炭化物、焼土含む。
7　黒褐色土（10YR2/3）暗褐色土とｼﾙﾄの混合土。（堀方）

第12図　Ｈ４号住居址実測図

遺構は調査区南のＣ－く－6グリッドに位置し、Ｍ１に切られる。平面形態は隅丸方形である。規模は南北4.3m、東西4.5m、検出面から床面までの深さは最深部で５cmと浅い。圃場整備によって、遺構上部の大半が削り取られたと考えられる。床面は硬質で、ピットは掘方を含め大小18個確認できた。主柱穴はＰ２・４・７・９である。北東コーナーのＰ１は貯蔵穴である。北壁中央に焼土の堆積が認められることから、カマドの火床部分と考えられる。袖等の構築物は完全に破壊され残存していなかった。掘方は中央部分に比べ壁際１m内外の範囲が一段深く掘り下げられたドーナツ状を呈している。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕、灰釉陶器碗、石器が出土している。土師器の長胴甕は混入品である可能性がある。須恵器坏は底部回転糸切り後無調整で、胎土はやや荒い。灰釉陶器は漬け掛けの碗で、高台の内側はやや直線的である。虎渓山１号窯跡様式に類似する。時期は、高台部内側が直線的な灰釉陶器碗の存在から、10世紀後半以降としたいが、形状の残るやや雑な作りの須恵器坏が含まれることから、９世紀後葉から10世紀代と幅を持たせたい。

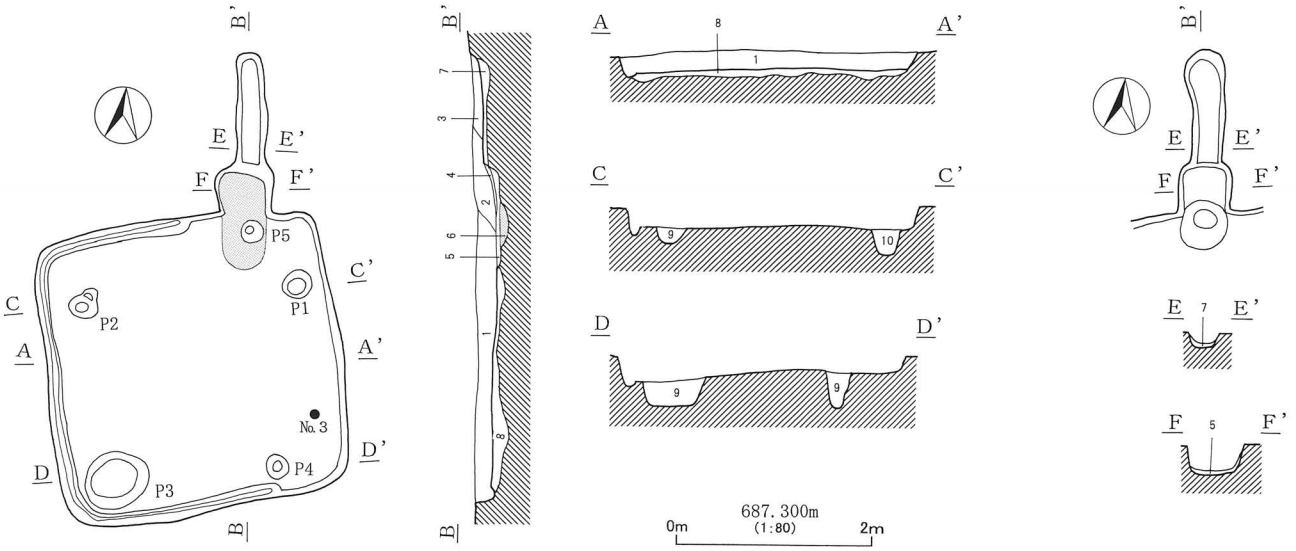



第13図　Ｈ４号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | [13.8] | 6.2 | 4.1 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面2.5Y8/1灰白色 |
| 2 | 灰釉陶器 | 碗 | － | [7.4] | 3.6 | ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付　漬け掛け | 40 | 外面10YR7/1灰白色 |
| 3 | 土師器 | 甕 | [19.4] | － | 〈30.8〉 | 口縁横ナデ　外面縦ヘラケズリ　内面ナデ | 口縁～胴部破片 | 外面5YR4/3にぶい赤褐色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 4 | 石器 | すり石 | 7.1 | 5.5 | 2 | 正面すり面 | 91.99 | |
| 5 | 石器 | 敲石 | 9.1 | 3.2 | 1.7 | 上下端部・側面に敲打痕 | 63.01 | |

第６表　Ｈ４号住居址遺物観察表

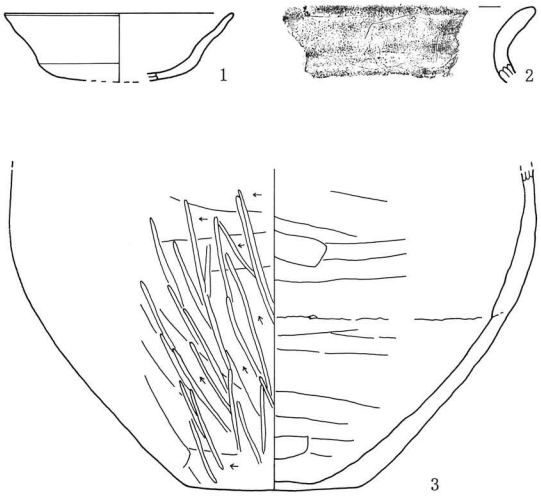
## Ｈ５号住居址




第14図　Ｈ５号住居址実測図

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化物やや多い。焼土含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土粒含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）炭化層。
5　暗赤灰色土（2.5YR3/1）炭化物、灰層。
6　暗赤褐色土（2.5YR3/6）焼土層。
7　暗赤色土（10R3/4）地山焼土化。
8　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色土とｼﾙﾄの混合土。
9　黒褐色土（10YR2/3）炭化物含む。
10　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土含む。

遺構は調査区のほぼ中央Ｄ－う－３グリッドに位置する。平面形態は方形である。規模は南北3.0m、東西3.0m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。床面は硬質で、住居址の東側３分の１以外は壁際に溝が掘り込まれている。ピットは床面上では確認できなかったが、掘方で主柱穴と思われるＰ１～４が確認できた。Ｐ３は主柱穴及び貯蔵穴をかねていた可能性がある。カマドは北壁の東寄りに位置する。住居址内への袖は確認できず、壁外への掘り込みと1.1mを越える長さの煙道及び火床が残存していた。火床には厚さ８cmの焼土が堆積していた。掘方は全体に５～10cm程度の厚みがあり、暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・甕が出土した。体部に明瞭な稜を伴う坏、厚手の甕の存在から古墳時代後期、６世紀としたい。

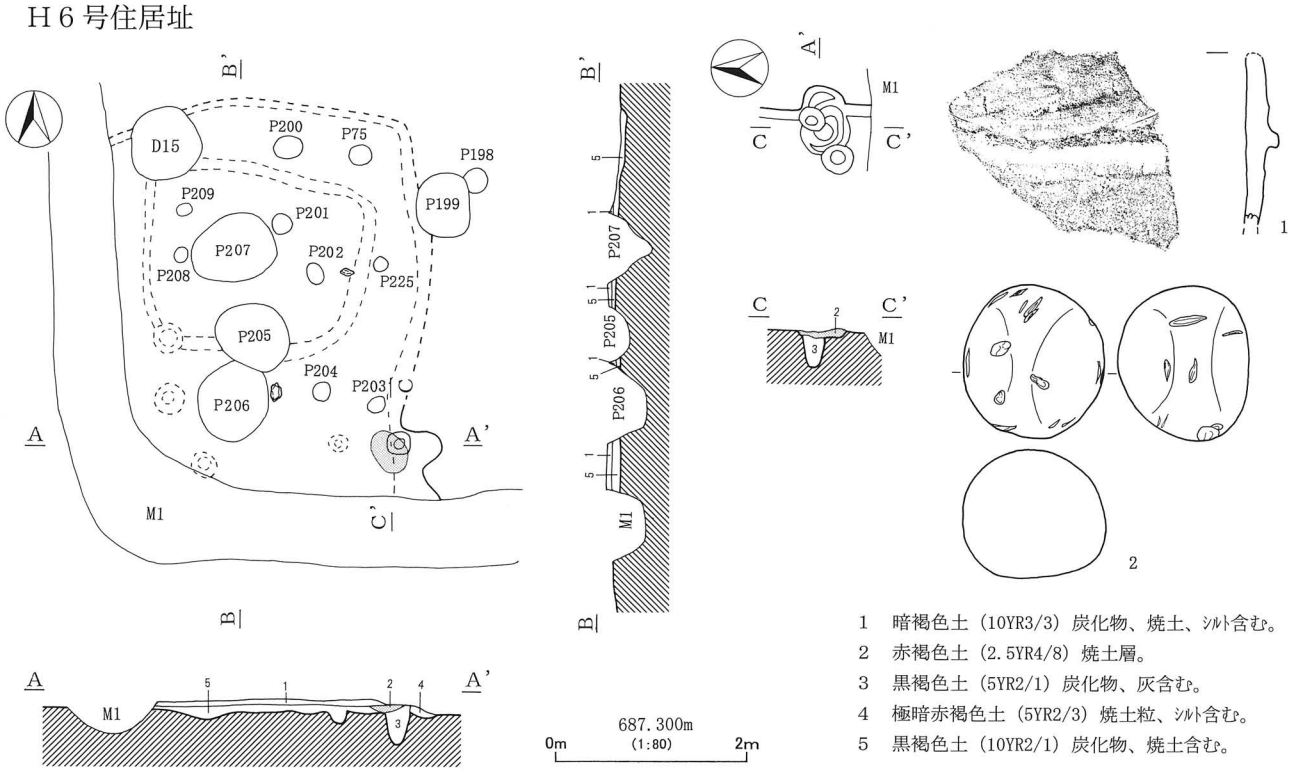



第15図　Ｈ５号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | [12] | 丸底 | 〈3.6〉 | 口縁横ナデ　底部から体部ヘラケズリ | 口縁～体部破片 | 内外面7.5YR6/8橙色 |
| 2 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 口縁横ナデ | 口縁破片 | 内外面7.5YR5/8明褐色 |
| 3 | 土師器 | 甕 | － | 9.2 | 〈17〉 | 外面ヘラケズリ後ミガキ　内面ナデ | 底部～胴部破片 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |

第７表　Ｈ５号住居址遺物観察表

## Ｈ６号住居址




1　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、焼土、ｼﾙﾄ含む。
2　赤褐色土（2.5YR4/8）焼土層。
3　黒褐色土（5YR2/1）炭化物、灰含む。
4　極暗赤褐色土（5YR2/3）焼土粒、ｼﾙﾄ含む。
5　黒褐色土（10YR2/1）炭化物、焼土含む。

第16図　Ｈ６号住居址遺構・遺物実測図

遺構は調査区南のＣ－け－５グリッドに位置し、Ｍ１に切られる。検出段階で、床面が露出し、部分的に掘方状態になっていた。正確な平面形態は不明である。規模は掘方の掘り込みが確認できた範囲で南北4.8m、東西3.3mを測る。本住居址に確実に伴うと断定できるピットは確認できなかった。遺構の南東隅に円形の焼土の堆積が確認できたことから、カマドが存在していたと思われる。

遺物は土師器の坏・甕・羽釜、須恵器の坏・甕が出土したがいずれも小破片である。図示できた土器は羽釜の口縁部破片の１点で、やや作りは荒く、低い鍔が全周するタイプと思われる。時期は、カマドが住居址の南東に構築されていたと考えられること、土師器の羽釜が認められ、僅かだが須恵器坏が認められることから平安時代、10世紀としたい。

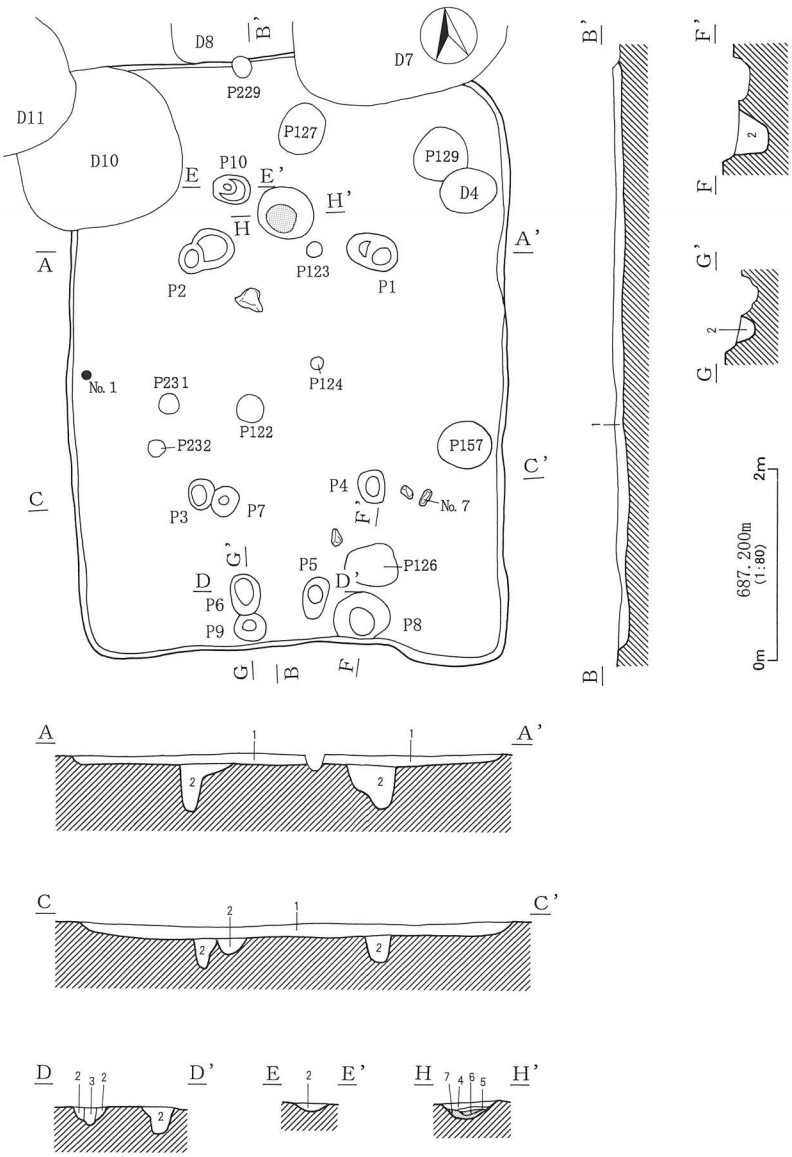
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 羽釜 | － | － | － | 外面ヘラケズリ　内面ナデ　鍔貼付 | 鍔周辺破片 | 外面2.5YR5/6明赤褐色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 2 | 石器 | すり石 | 8.1 | 7.5 | 6.8 | 全体にすり・条痕あり | 470.67 | |

第８表　Ｈ６号住居址遺物観察表

Ｈ７号住居址

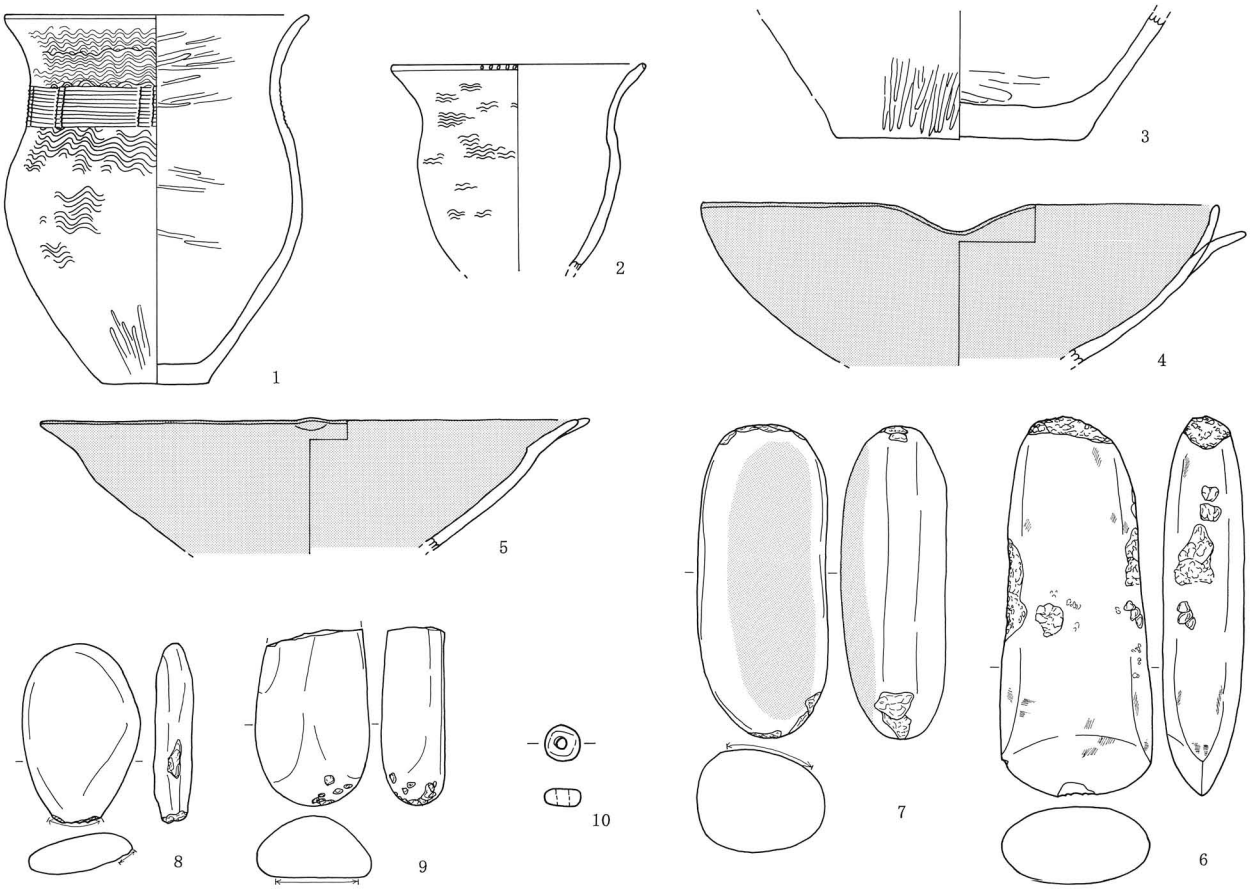
遺構は調査区南のＤ－あ－５グリッドに位置し、Ｄ４・７・８・10、小ピットに切られる。平面形態はやや隅丸の南北方向に長い長方形である。規模は南北6.2m、東西4.5m、検出面から床面までの深さは最深部で10cmと浅い。遺構上部の大半は圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は全体的に土間状を呈し、硬質である。ピットは大小９個確認できた。Ｐ１～４は主柱穴で、Ｐ５・６は入り口部、Ｐ８は貯蔵穴と思われる。壁際の溝は確認できなかった。炉はＰ１・２の中間からやや北に寄った位置に存在し、円形に約15cm程度掘り窪めた地床炉である。炉内の壁面は熱によって硬化していた。また、円形の焼け込みが住居址中央付近に１箇所存在した。土間状の硬質化した床面直下は地山となり、掘方状の明瞭な掘り込みは存在しなかった。

遺物は、弥生土器の甕・壺・高坏・鉢、石器、ガラス製品が出土した。時期は赤色塗彩された高坏の存在から弥生時代後期、箱清水期としたい。




1　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　黒褐色土（7.5YR2/2）炭化物、焼土粒、ｼﾙﾄ含む。
3　黒褐色土（7.5YR3/1）ｼﾙﾄ含む。
4　極暗褐色土（7.5YR2/3）炭化物、焼土含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）炭化層。
6　赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。（炉）
7　暗赤褐色土（2.5YR3/4）焼土層。（炉）

第17図　Ｈ７号住居址実測図




第18図　Ｈ７号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 甕 | 16 | 5.6 | 19.6 | 外面口縁・胴上半櫛描波状文　外面胴下半縦ミガキ<br>頸部櫛描簾状文　内面ナデ | 90 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 2 | 弥生土器 | 甕 | [13.2] | － | 〈11〉 | 外面櫛描波状文　口唇部刻み　内面ナデ　表面摩耗 | 口縁～胴部破片 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 3 | 弥生土器 | 甕 | － | 13 | 〈6.8〉 | 外面縦ミガキ　内面ナデ | 底部100 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 4 | 弥生土器 | 片口鉢 | [27.2] | － | 〈8.5〉 | 内外面赤色塗彩 | 40 | 内外面10R5/6赤色 |
| 5 | 弥生土器 | 高坏 | [28.2] | － | 〈6.9〉 | 内外面赤色塗彩 | 坏部破片 | 内外面7.5R4/6赤色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 6 | 石器 | 磨製石斧 | 20 | 7.9 | 4.3 | 基部・側面に敲打痕　刃部使用痕 | 1102.78 | 検出 |
| 7 | 石器 | すり・敲石 | 16.5 | 7 | 5.4 | 上下端部に敲打痕　表面すり痕 | 908.05 | |
| 8 | 石器 | 敲石 | 9.4 | 6.2 | 1.9 | 下部に敲打痕 | 145.2 | Ⅳ区出土 |
| 9 | 石器 | 敲石 | 9.2 | 6 | 3.3 | 下部欠損　先端部敲打痕 | 289.27 | Ⅲ区出土 |
| 10 | ガラス製品 | ガラス小玉 | 0.5 | 0.45 | 0.25 | 口径0.15 | 0.04 | Ⅲ区出土 |

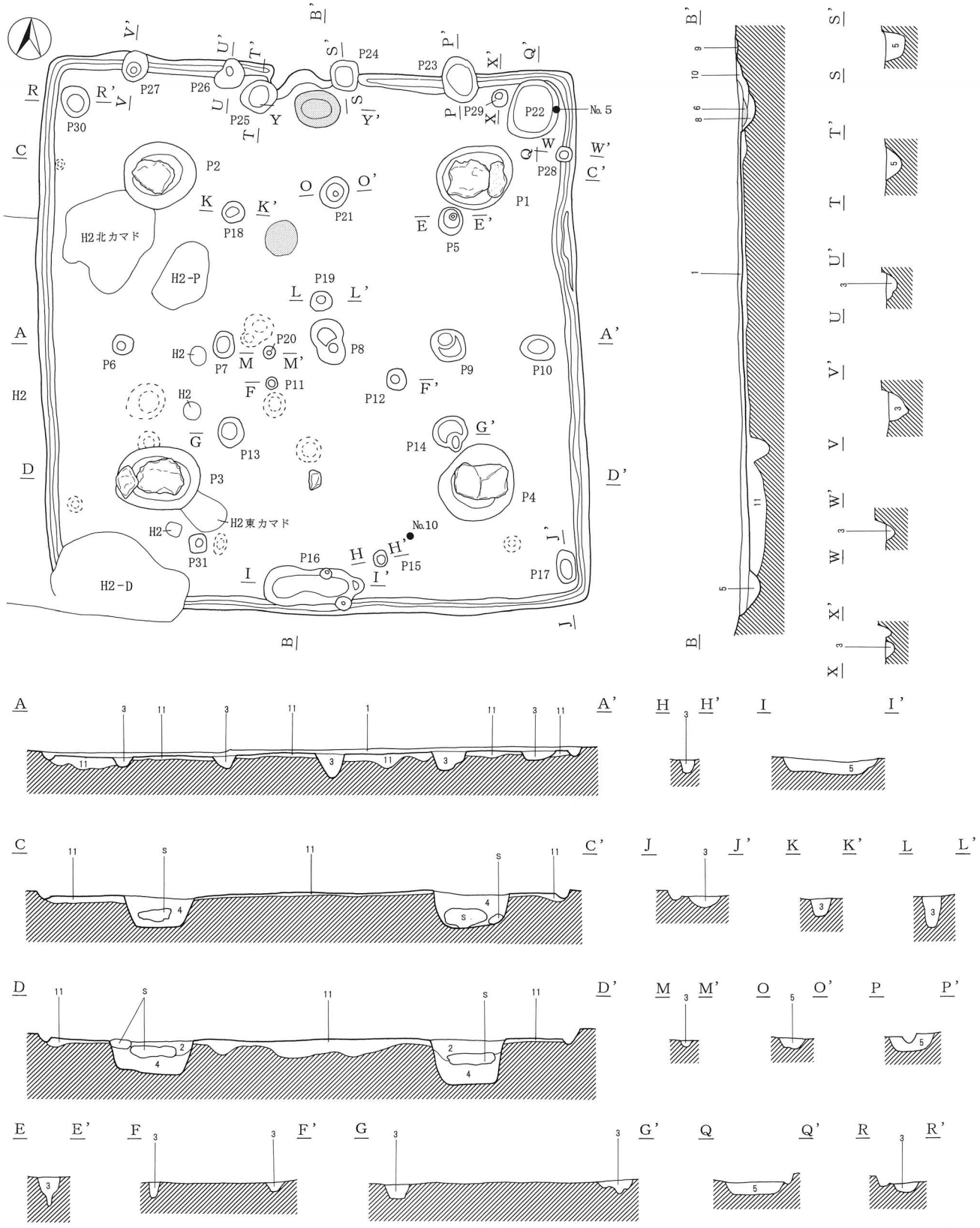
第９表　Ｈ７号住居址遺物観察表

Ｈ８号住居址

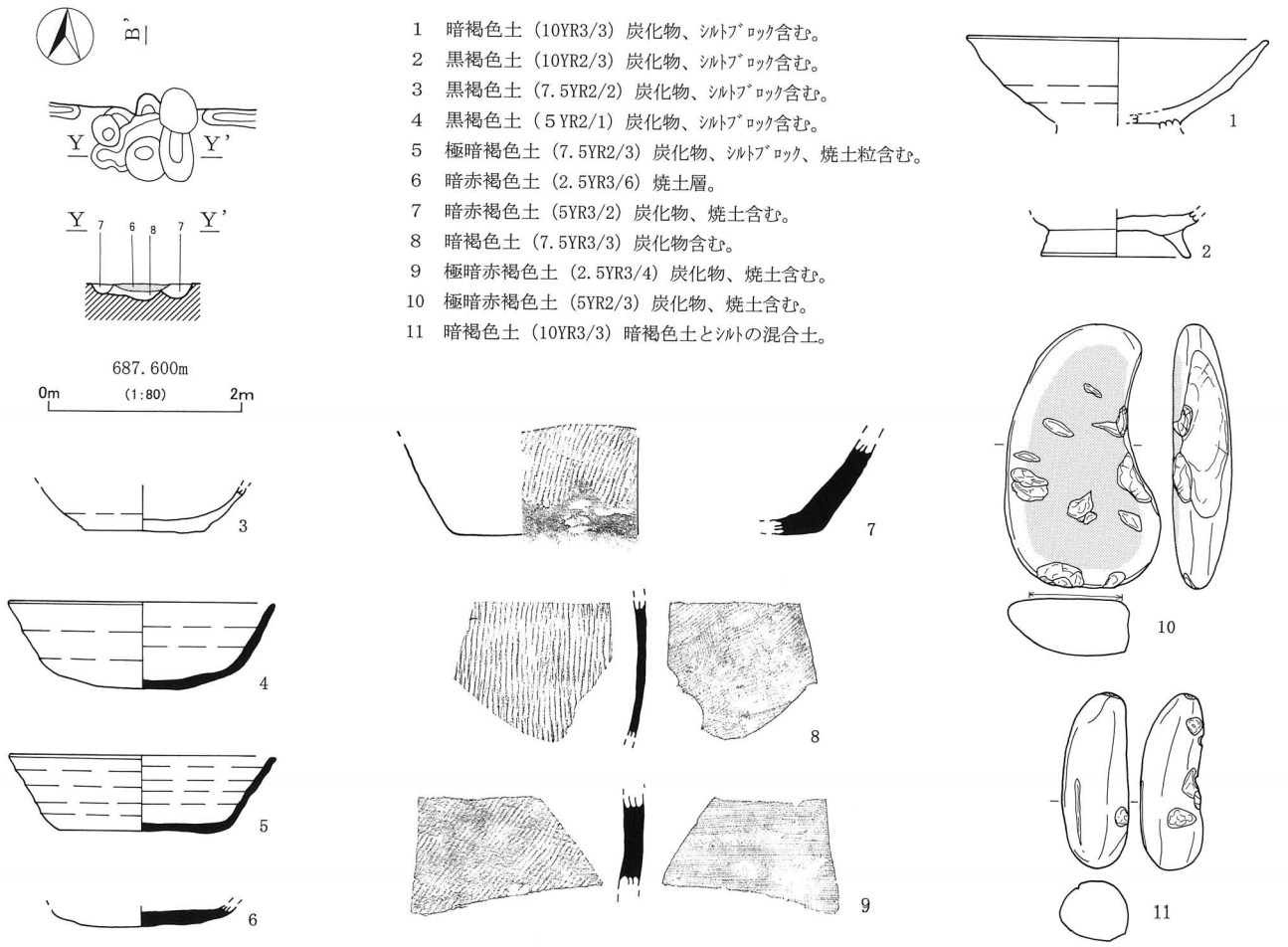
遺構はＣ－く－３グリッドに位置し、Ｈ２に切られる。平面形態は方形である。規模は南北7.4m、東西7.4m、検出面から床面までの深さは最深部で10cmを測る。遺構上部の大半は圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は全体的に土間状を呈し、硬質である。壁際には溝が巡らされている。ピットは大小30個が確認できた。Ｐ１～４が主柱穴で、ピット内に礎石状の石が埋め込まれていた。カマドは北壁中央に構築されているが、大半が破壊され、僅かな袖の張り出しと火床のみ残存していた。火床には径60cm、厚さ８cmの焼土が堆積していた。掘方は、北側３分の２で５～10cmと比較的浅く、南側３分の１は10～20cmと、やや深く掘り込まれていた。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕が出土したが破片が多く、形態の残る物は少ない。須恵器坏は底部全面にヘラケズリを施している。土師器は高台の付いた土師器碗で前者と時期が異なると考えられる。時期は底部全体にヘラケズリを施す須恵器坏の存在、10世紀と考えられるＨ２に切ら

れていることから、奈良時代、７世紀代としたい。土師器碗については、Ｈ２の混入品である可能性が考えられる。




第19図　Ｈ８号住居址実測図




第20図　Ｈ８号住居址遺構・遺物実測図

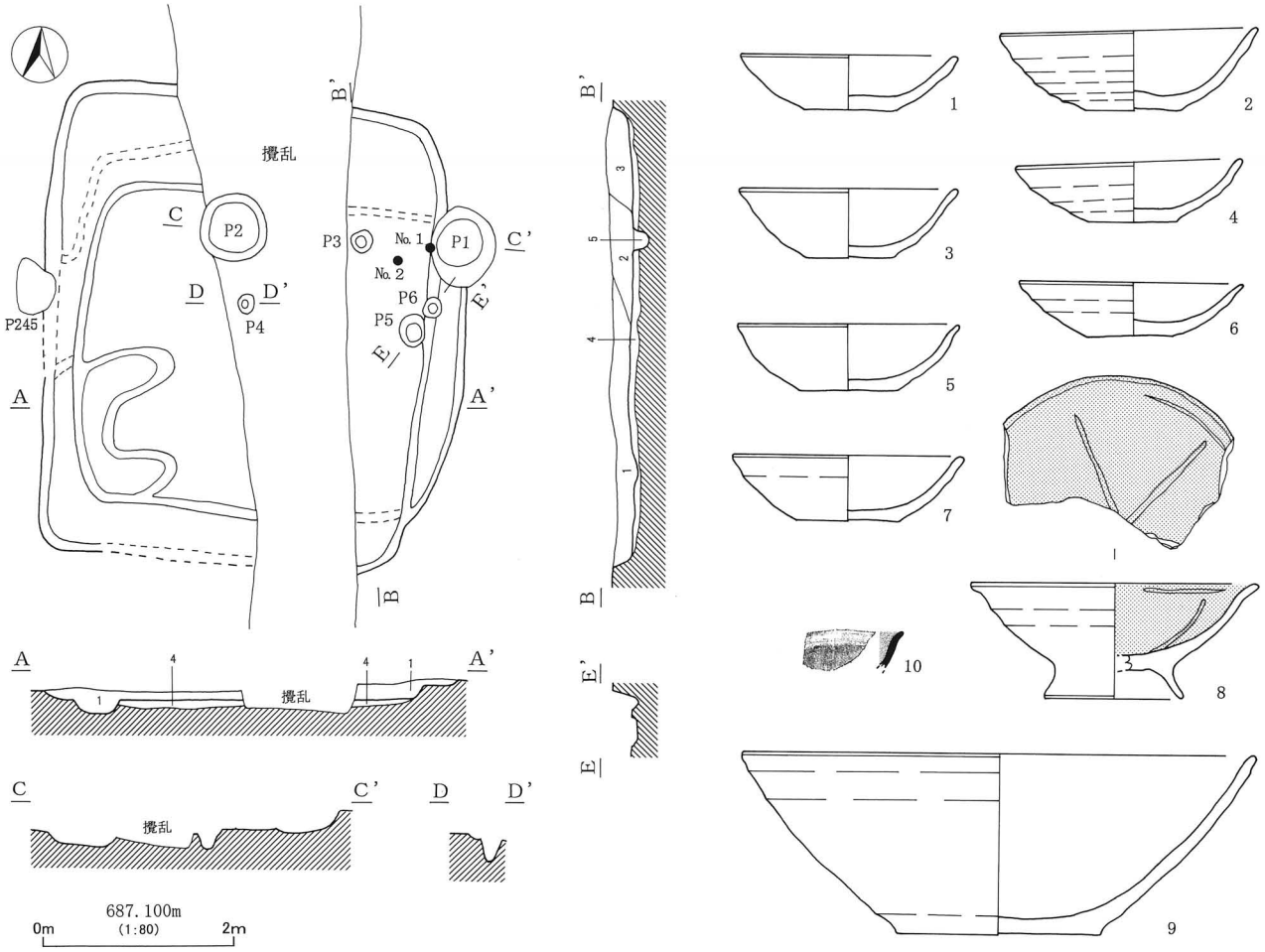
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 碗 | [16] | [6.6] | 〈4.5〉 | 内外面ロクロナデ　高台部欠損 | 20 | 外面7.5YR5/3にぶい褐色 |
| 2 | 土師器 | 碗 | － | 8 | 〈2.5〉 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 底部高台100 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | － | 6.3 | 〈2.3〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 底部～体部破片 | 外面7.5YR6/6橙色 |
| 4 | 須恵器 | 坏 | 14.1 | 丸底 | 4.5 | 内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ | 60 | 外面N5/0灰色 |
| 5 | 須恵器 | 坏 | 14 | 8.6 | 4 | 内外面ロクロナデ　底部回転ヘラ切り | 40 | 内外面5Y7/1灰白色 |
| 6 | 須恵器 | 坏 | － | 6.5 | 〈1.1〉 | 底部回転ヘラ切り | 底部80 | 内外面N7/0灰白色 |
| 7 | 須恵器 | 甕 | － | [19] | 〈5〉 | 外面縄目叩き　内面ハケ目 | 底部～胴部破片 | 外面2.5Y7/1灰白色 |
| 8 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面縄目叩き　内面ハケ目 | 胴部破片 | 外面N5/0灰色 |
| 9 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面平行叩き　内面ハケ目 | 胴部破片 | 外面N4/0灰色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 10 | 石器 | すり石 | 14.1 | 8.3 | 3.1 | 正面すり面状の使用痕 | 393.3 | |
| 11 | 石器 | すり石 | 9.4 | 3.5 | 3.1 | 正面に条痕　側面・裏面にすり使用痕 | 131.05 | Ⅲ区出土 |

第10表　Ｈ８号住居址遺物観察表

Ｈ９号住居址

遺構はＤ－う－５グリッドに位置し、中央部分を南北方向に大きく破壊されている。調査の結果、平面形態が南北方向に長い、規模が南北4.8m、東西3.9m、検出面から床面までと考えられる深さ30cmの長方形の掘り込みと、ほぼ方形で規模が南北3.8m、東西3.9m、検出面から床面までと考えられる高さが20cmを測る掘り込みの２棟分と考えられる状態となった。正確な新旧関係は断定できない。ともにカマド、主柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器の坏・碗・鉢、緑釉陶器が出土した。土師器鉢、緑釉陶器は破片である。出土の特徴として東壁中央からやや北に寄った付近で、形状の整った土器が多く出土した。時期は足高の土師器碗、小型化した土師器坏・碗が認められないことから10世紀前半としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土粒、ｼﾙﾄ含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、ｼﾙﾄ、暗褐色土の混合土。
4　黒褐色土（10YR3/2）炭化物、ｼﾙﾄ、暗褐色土の混合土。
5　極暗褐色土（7.5YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。

第21図　Ｈ９号住居址遺構・遺物実測図

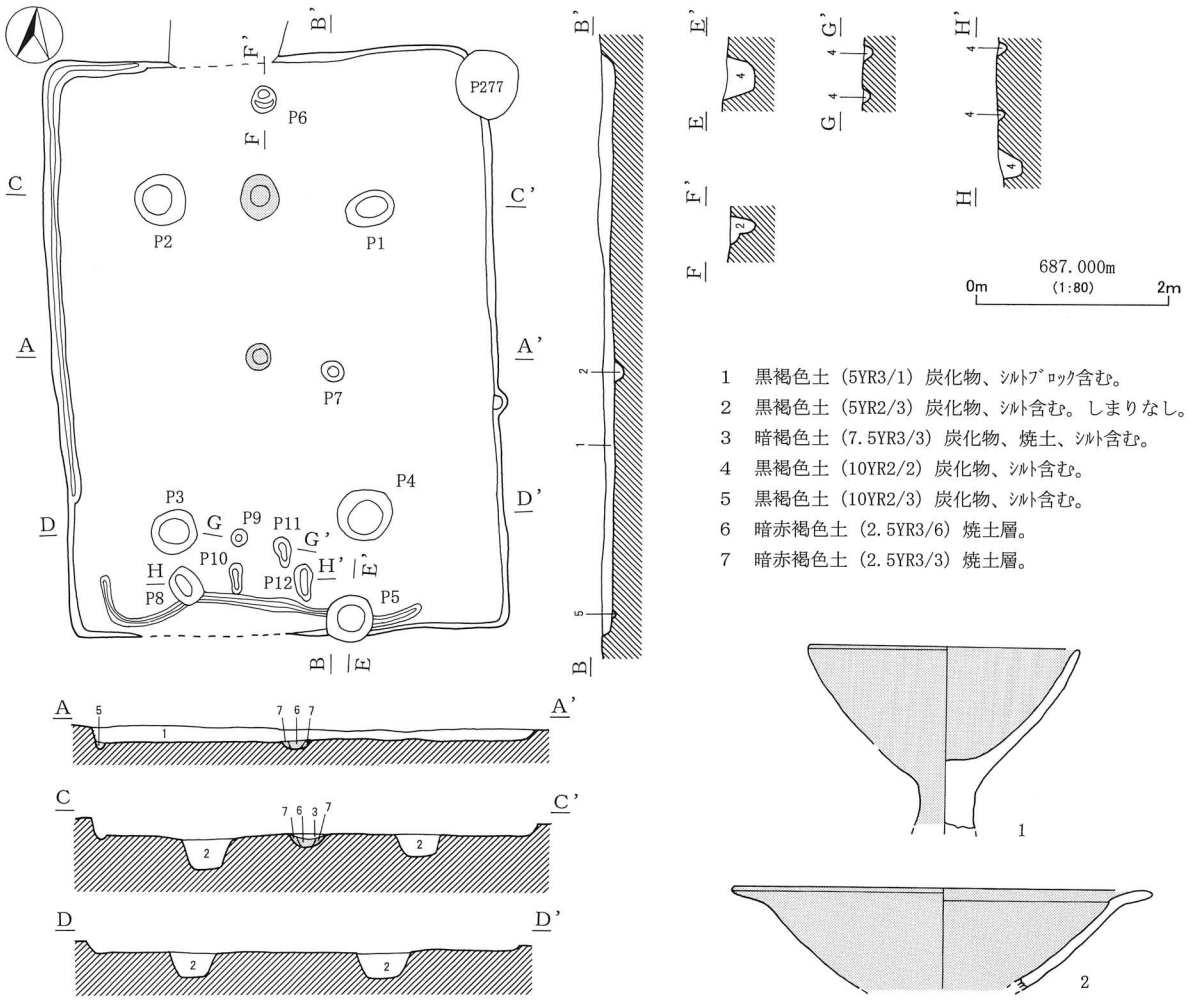
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 11.4 | 4.6 | 2.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 内外面5YR6/6橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 13.8 | 4.9 | 4.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 外面5YR6/3にぶい橙色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | [11.5] | 4.5 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面一部黒色 | 50 | 外面7.5YR8/2灰白色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 4.6 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 70 | 外面7.5YR6/6橙色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | [11.7] | 5.2 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 12 | 5 | 3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 7 | 土師器 | 坏 | [12.2] | 5.2 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR8/1灰白色 |
| 8 | 土師器 | 碗 | [15.4] | [7.4] | 6.2 | 内外面ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け 内面暗文・黒色処理 | 40 | 外面10YR8/4浅黄橙色 |
| 9 | 土師器 | 鉢 | [27.2] | [10.8] | [9.6] | 内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ | 30 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 10 | 緑釉陶器 | 碗 | － | － | － | 口縁端部僅かに外反　内外面緑釉 | 口縁破片 | 内外面10Y5/2オリーブ灰色 |

第11表　Ｈ９号住居址遺物観察表

## Ｈ10号住居址

遺構はＤ－き－６グリッドに位置する。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は南北6.0m、東西4.5mを測り、検出面から床面までの深さは最深部で15cmと全体的に浅い。上部の大半は、圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は全体に土間状を呈し硬質である。西壁から北壁に壁溝が認められる。ピットは大小12個確認でき、Ｐ１～４が主柱穴、Ｐ９～12は入り口部、Ｐ６は棟持に関すると考えられる。炉はＰ１・２の間に存在し、円形の地面を15cm程度掘り窪めた地床炉である。炉の壁面は熱によって硬化していた。また、中央にやや小型の地床炉が存在した。床面直下の状況は、

土間状の硬質面直下が地山となり、掘方状の明瞭な掘り込みは確認できなかった。
遺物は弥生土器の高坏・甕・壺が出土した。時期は弥生時代後期、箱清水期としたい。




第22図　H10号住居址遺構・遺物実測図

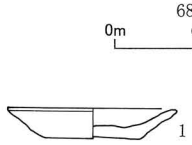
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 高坏 | [14.2] | － | 〈9.6〉 | 内外面赤色塗彩　ミガキ　表面摩耗 | 坏部50 | 外面5YR6/4にぶい橙色 |
| 2 | 弥生土器 | 高坏 | [22] | － | 〈5.3〉 | 内外面赤色塗彩　ミガキ　表面摩耗 | 坏部50 | 外面2.5YR4/6赤褐色・7.5YR8/3浅黄橙色 |

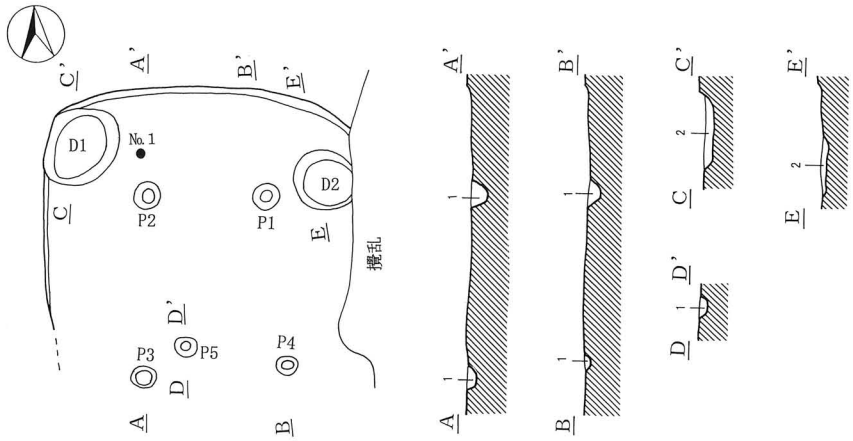
第12表　H10号住居址遺物観察表

## H11号住居址

1　黒褐色土（10YR2/2）
　　炭化物、ｼﾙﾄ含む。

2　黒褐色土（10YR2/3）
　　ｼﾙﾄと暗褐色土の混合土。




第23図　H11号住居址遺構・遺物実測図

遺構はD－か－４グリッドに位置する。遺構の上部は圃場整備によって大半が削り取られ、確認できたのは北壁及び西壁の一部である。調査規模は南北3.2m、東西3.2m、検出面から床面までの深さは最深で８㎝を測る。カマドの痕跡は認められなかった。実際に存在していたかは断定できないが、東側が大きく攪乱に破壊されていることから、東壁に構築されていたとも考えられる。

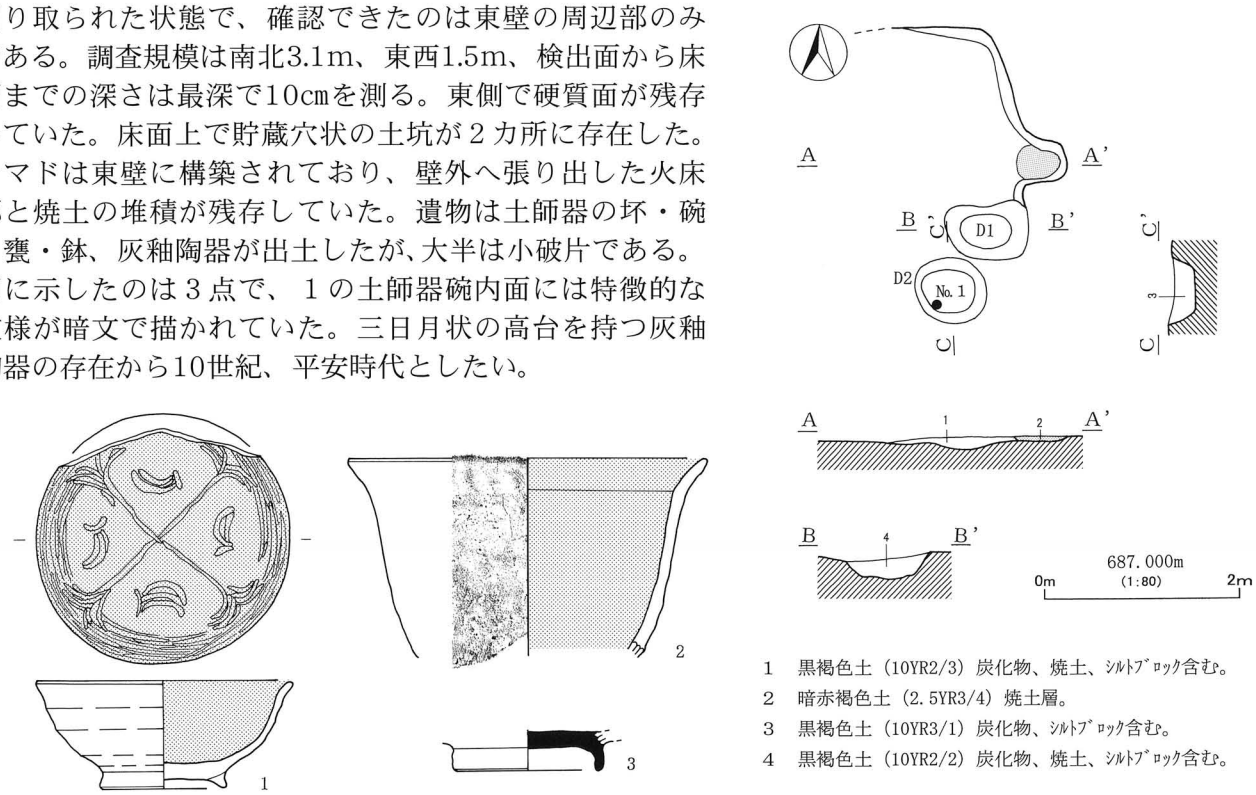
遺物は土師器・灰釉陶器が出土したが、図示した土師質の小皿１点を除き小破片で数も少ない。時期は平安時代としたい。

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 皿 | 9 | 5 | 1.6 | 内外面横ナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面10YR7/6明黄褐色 |

第13表　H11号住居址遺物観察表

H12号住居址

遺構はD－く－４グリッドに位置する。遺構の大半は削り取られた状態で、確認できたのは東壁の周辺部のみである。調査規模は南北3.1m、東西1.5m、検出面から床面までの深さは最深で10㎝を測る。東側で硬質面が残存していた。床面上で貯蔵穴状の土坑が２カ所に存在した。カマドは東壁に構築されており、壁外へ張り出した火床部と焼土の堆積が残存していた。遺物は土師器の坏・碗・甕・鉢、灰釉陶器が出土したが、大半は小破片である。図に示したのは３点で、１の土師器碗内面には特徴的な文様が暗文で描かれていた。三日月状の高台を持つ灰釉陶器の存在から10世紀、平安時代としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　暗赤褐色土（2.5YR3/4）焼土層。
3　黒褐色土（10YR3/1）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、焼土、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。

第24図　H12号住居址遺構・遺物実測図

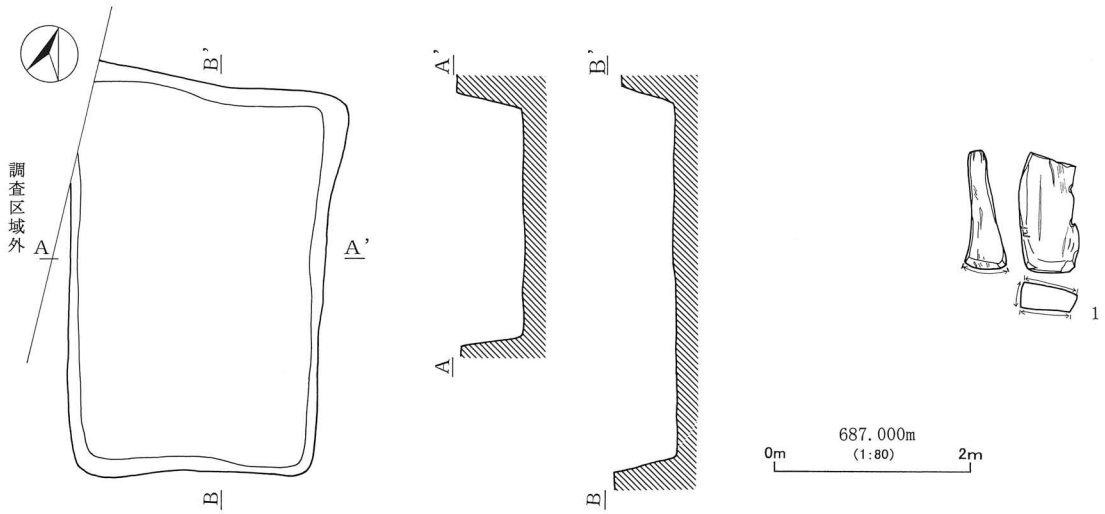
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 碗 | 13.4 | 6.6 | 5.7 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け　内面ヘラミガキ<br>暗文　黒色処理 | 80 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 2 | 土師器 | 鉢 | [19] | － | 〈10.5〉 | 口縁部ロクロ横ナデ　胴部ヘラケズリ　内面黒色処理 | 口縁～胴部破片 | 外面10YR5/6　黄褐色 |
| 3 | 灰釉陶器 | 碗 | － | 8 | 〈2.1〉 | 底部回転糸切り後高台貼り付け　高台内側やや内湾 | 底部・高台40 | 内外面7.5Y7/1　灰白色 |

第14表　H12号住居址遺物観察表

H13号住居址

遺構はD－け－３グリッドに位置する。遺構は２分割した南区と北区の調査区境に位置することから、２回に分けて調査を行った。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は南北3.8m、東西2.5m、検出面から床面までの深さは70㎝を測る。カマド・ピットは確認できなかった。調査状況から竪穴状遺構である可能性がある。

遺物は土師器・須恵器、砥石が出土したが、いずれも小破片で数も少ない。時期を決定づける遺物が認められないことから不明としたい。

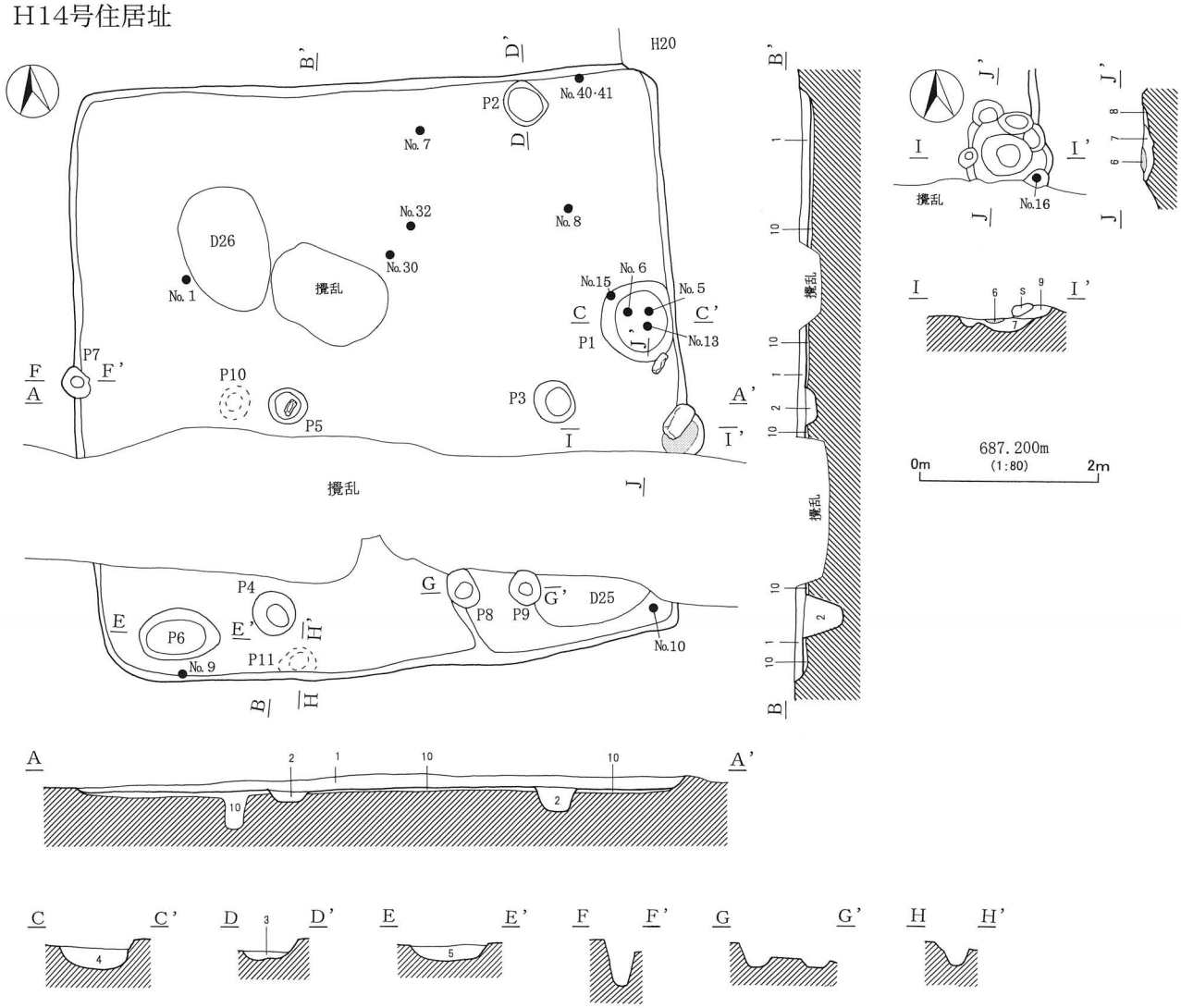



第25図　H13号住居址遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石製品 | 砥石 | 〈6.3〉 | 〈3.3〉 | 〈2.0〉 | 上部～左側欠損　砥面数4　4面条痕あり | 〈39.64〉 | |

第15表　H13号住居址遺物観察表

## H14号住居址

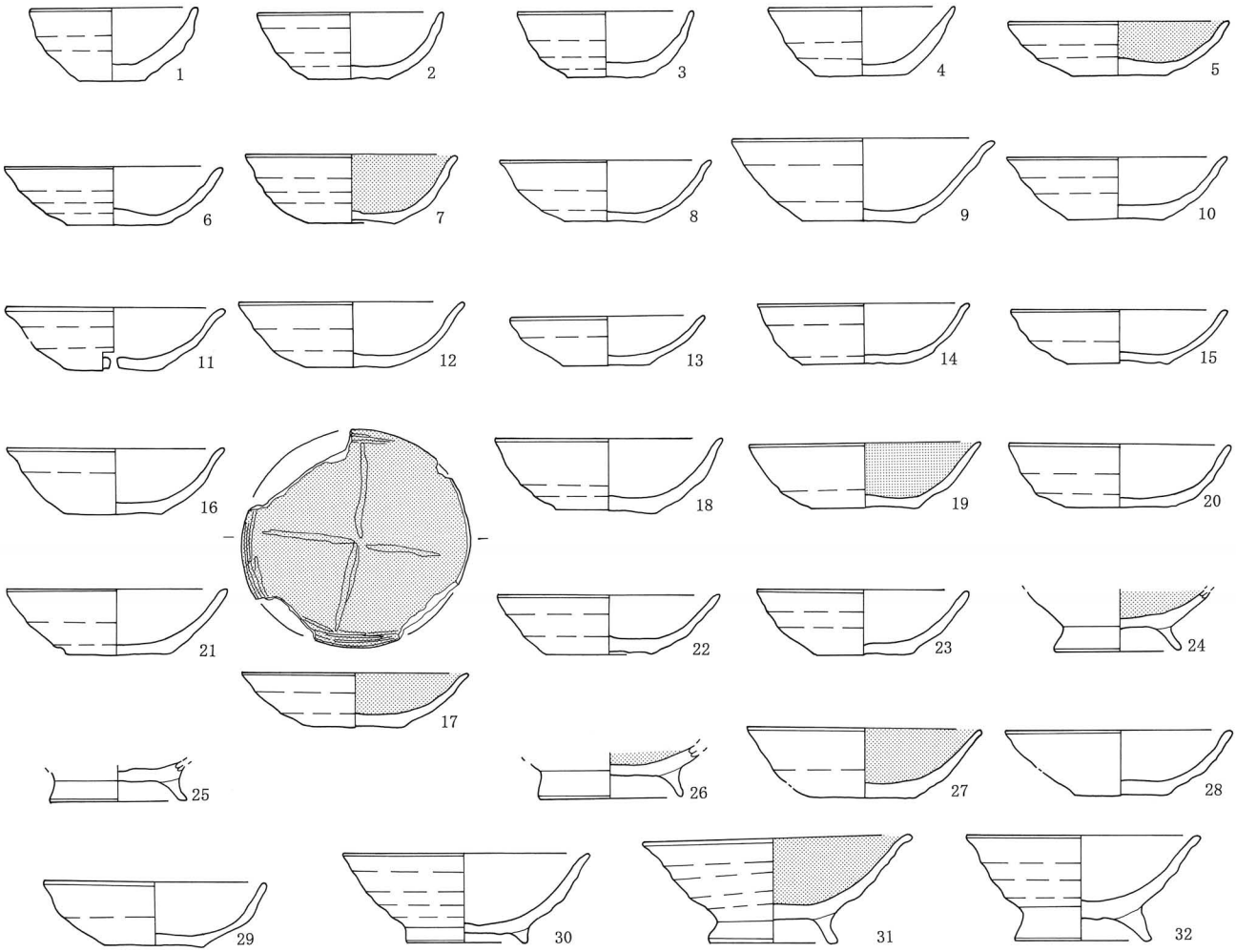



第26図　H14号住居址実測図

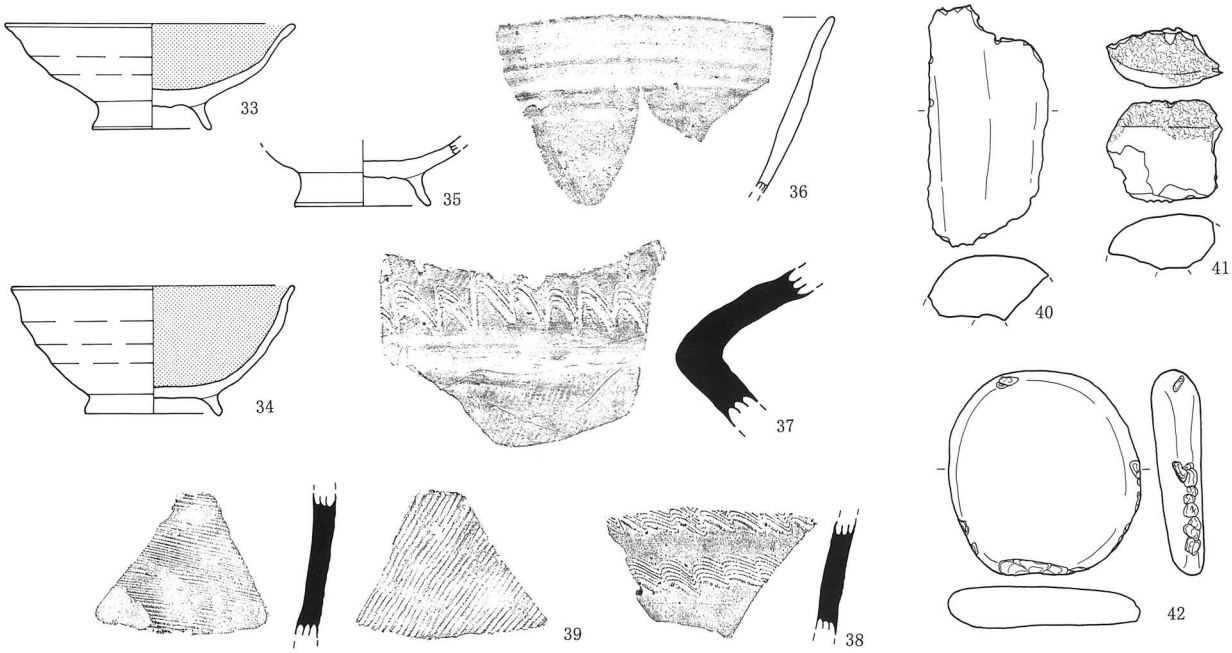
1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）炭化物含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、焼土、ｼﾙﾄ含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）焼土、炭化物含む。
6　明赤褐色土（5YR5/8）焼土層。
7　赤褐色土（5YR4/8）焼土層。
8　黒褐色土（5YR2/2）焼土、炭化物含む。
9　黒褐色土（7.5YR2/2）焼土ﾌﾞﾛｯｸ、炭化物、灰含む。
10　暗褐色土（10YR3/3）炭化物含む。（掘方）

遺構はＡ－き－９グリッドに位置し、Ｈ15を切る。南側の一部は溝状の攪乱に破壊されている。平面形態は方形である。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは11個確認できたが主柱穴と断定できる物は認められなかった。Ｐ１・７の覆土内及び床面直上から形状の残る土器が多数出土した。カマドは東壁の南寄りに構築され、南側の一部は攪乱に破壊されている。確認できたのは北袖の一部と焼土の堆積した火床である。掘方は薄く、厚さ５cm内外を測り、全体的に硬質である。

遺物は土師器の坏・碗・甕・鉢、須恵器の坏・甕、灰釉陶器の碗、形態不明鉄製品、羽口、石器が出土している。特に土師器坏・碗については形状の残る物が多数出土している。土師器坏は口径９～10cmの小型品、底径が小型で、体部がやや上から押しつぶしたような状態の立ち上がりを見せるものが認められる。碗は器厚がやや厚めと薄いものがあり、厚手のものに足高の高台が認められる。須恵器は甕の破片と、坏の破片が僅かに出土した。時期は、須恵器が破片のみで僅かであること、高台が足高の土師器碗及び小型化した土師器碗が多数含まれることから10世紀後半としたい。ただ、本遺跡と切り合い関係にあるＨ15の床面との比高差が5cm程度と僅かであることから、お互いの出土遺物に混入品が含まれている可能性にも注意したい。




第27図　Ｈ14号住居址遺物実測図（１）




第28図　H14号住居址遺物実測図（2）

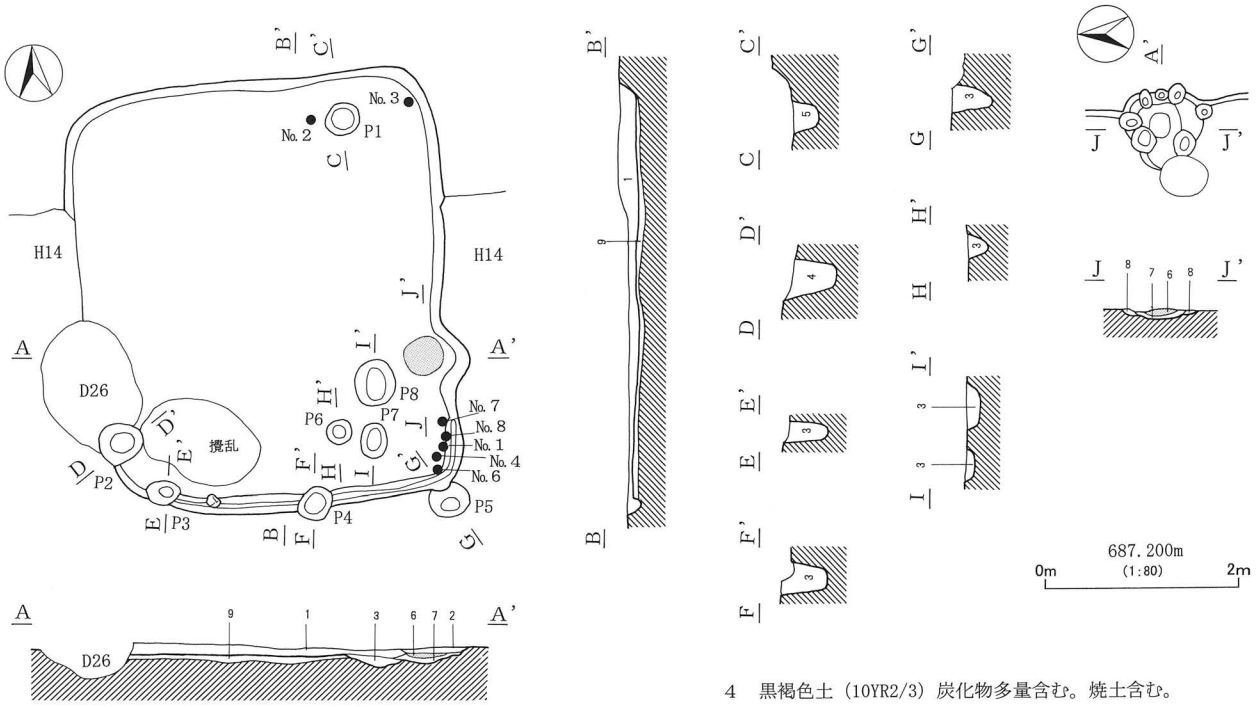
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 9.2 | 3.6 | 4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 10.3 | 4.3 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | [9.6] | 4.2 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR4/1褐灰色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | [10.4] | 5 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 12 | 5 | 3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 100 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 12 | 5.2 | 3.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 7 | 土師器 | 坏 | 11.8 | 4.6 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 100 | 内外面5YR6/4にぶい橙色 |
| 8 | 土師器 | 坏 | 11.5 | 4.3 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面7.5YR5/2灰褐色 |
| 9 | 土師器 | 坏 | 14.6 | 6.2 | 4.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 10 | 土師器 | 坏 | 11.9 | 5 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 内外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| 11 | 土師器 | 坏 | [12.1] | 5.3 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　底部中央径4mmの穿孔 | 60 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 12 | 土師器 | 坏 | [12.6] | 4.5 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 13 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 4.2 | 2.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り・ハケ目 | 60 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 14 | 土師器 | 坏 | [11.7] | 5.3 | 3.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 外面7.5YR8/2灰白色 |
| 15 | 土師器 | 坏 | 10.8 | 5.2 | 3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 16 | 土師器 | 坏 | [11.9] | 5.2 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 70 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 17 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 5.5 | 3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理　暗文 | 80 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 18 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 5.3 | 4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 19 | 土師器 | 坏 | 12.9 | 5.7 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 80 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 20 | 土師器 | 坏 | 12 | 5 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 85 | 内外面7.5YR6/8橙色 |
| 21 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 5.9 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 85 | 外面5YR7/4にぶい橙色他 |
| 22 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 5.9 | 3.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　胎土粗い | 95 | 外面7.5YR5/4にぶい褐色 |
| 23 | 土師器 | 坏 | 11.8 | 5.4 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 24 | 土師器 | 碗 | － | 6.9 | 〈3.3〉 | 底部回転糸切り後高台貼り付け　内面黒色処理 | 高台底部100～体部 | 外面5YR7/4にぶい橙色 |
| 25 | 土師器 | 碗 | － | 7.5 | 〈2.2〉 | 底部回転糸切り後高台貼り付け　内面一部黒色 | 高台底部100～体部 | 外面5YR7/4にぶい橙色他 |
| 26 | 土師器 | 碗 | － | 7.9 | 〈2.8〉 | 底部回転糸切り後高台貼り付け　内面黒色処理 | 高台底部100～体部 | 外面5YR7/4にぶい橙色 |
| 27 | 土師器 | 坏 | [13] | 6 | 3.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 50 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 28 | 土師器 | 坏 | [12.3] | 5 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面一部黒色 | 50 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 29 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 5.4 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 30 | 土師器 | 碗 | 13.6 | 6.8 | 5 | 内外面ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け 内面黒色処理? | 95 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 31 | 土師器 | 碗 | 14.9 | 7.1 | 6 | 内外面ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け 内面黒色処理 | 80 | 外面5YR6/6橙色 |
| 32 | 土師器 | 碗 | 12.7 | 7.4 | 5.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け | 80 | 外面7.5YR5/3にぶい褐色 |

第16表　H14号住居址遺物観察表（1）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 土師器 | 碗 | 15.1 | 6.2 | 5.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け　内面黒色処理 | 70 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 34 | 土師器 | 碗 | 15 | 7.2 | 6.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け　内面黒色処理 | 70 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 35 | 土師器 | 碗 | － | 7.1 | 〈3.4〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け | 高台～体部 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 36 | 土師器 | 鉢 | － | － | － | 口縁ロクロナデ　体部ヘラケズリ | 口縁破片 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 37 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 頸部外面櫛描波状文　肩部外面叩き　内面ナデ | 頸部破片 | 内外面N4/0灰色 |
| 38 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面櫛描波状文　内面ナデ | 胴部破片 | 外面5B2/1青黒色 |
| 39 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面平行叩き　内面ハケ目 | 胴部破片 | 内外面N5/0灰色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　　整・文　　様 | 重量(g) | 備　　考 |
| 40 | 土製品 | 羽口 | 外径－ | 内径〈2.2〉 | 3.3 | 周辺欠損 | | |
| 41 | 土製品 | 羽口 | 外径8 | 内径〈2.2〉 | 2.9 | 周辺欠損　上部端部還元 | | |
| 42 | 石器 | 敲石 | 10.8 | 10 | 2.7 | 縁辺に敲打痕 | 348.18 | |

第17表　H14号住居址遺物観察表（2）

## H15号住居址



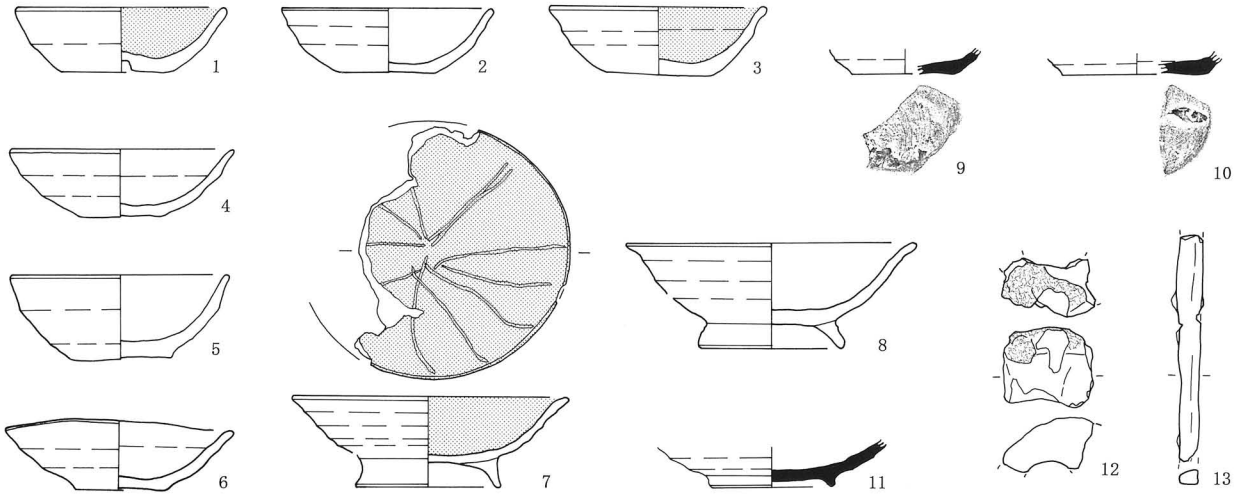

1　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、焼土、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　暗赤褐色土（5YR3/4）焼土、炭化物多く含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）炭化物やや多い。焼土含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）炭化物多量含む。焼土含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、焼土含む。
6　赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。
7　暗褐色土（10YR3/3）火床の焼け込み。
8　極暗赤褐色土（5YR2/4）炭化物、焼土含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）炭化物含む。

第29図　H15号住居址実測図

遺構はA－き－８グリッドに位置し、H14に切られ、南側３分の２の上部は削り取られている。平面形態は南北方向にやや長い、隅丸の長方形である。規模は南北4.3m、東西3.7m、検出面から床面までの深さは北壁の最深部で20cmを測る。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは壁際部分も含め８個確認できたが、主柱穴と断定できるものは認められなかった。南壁際と東壁の一部に溝が存在し、南東コーナー付近の床上から形状の良好な土師器坏・碗がまとまって数個体出土した。カマドは東壁の南寄りに位置し、壁外への張り出しと、火床が残存していた。火床には径40cm、厚さ５cmの焼土が堆積していた。掘方は厚さ５cm内外と薄く、全体的に硬質であった。

遺物は、土師器の坏・碗、須恵器坏・甕、灰釉陶器の碗又は皿、羽口、鉄製品が出土した。土師器坏は径11～11.5cmを測り、器厚はやや厚めで、形状は整っており、作りが丁寧なものと、形状が楕円状にややゆがんだ比較的雑な作りのものが存在する。碗は口縁端部が外反し、高台部は厚めである。

須恵器坏は破片が大半で、底部と口縁部が存在する。灰釉陶器は底部が残存した皿と思われ、高台は厚くつぶれたように低い形状で、丸石２号窯跡に類似する。時期は灰釉陶器から考えると10世紀後半以降としたいが、出土位置が、10世紀後半としたH14に上部を破壊された地域であることから、灰釉陶器については混入遺物である可能性が高い。他の遺物についても混入遺物の可能性があることに注意したい。本住居址には小型化した土師器坏・碗が認められないこと、僅かだが須恵器坏が認められることなどからH14よりやや古い10世紀前半としたい。




第30図　H15号住居址遺物実測図

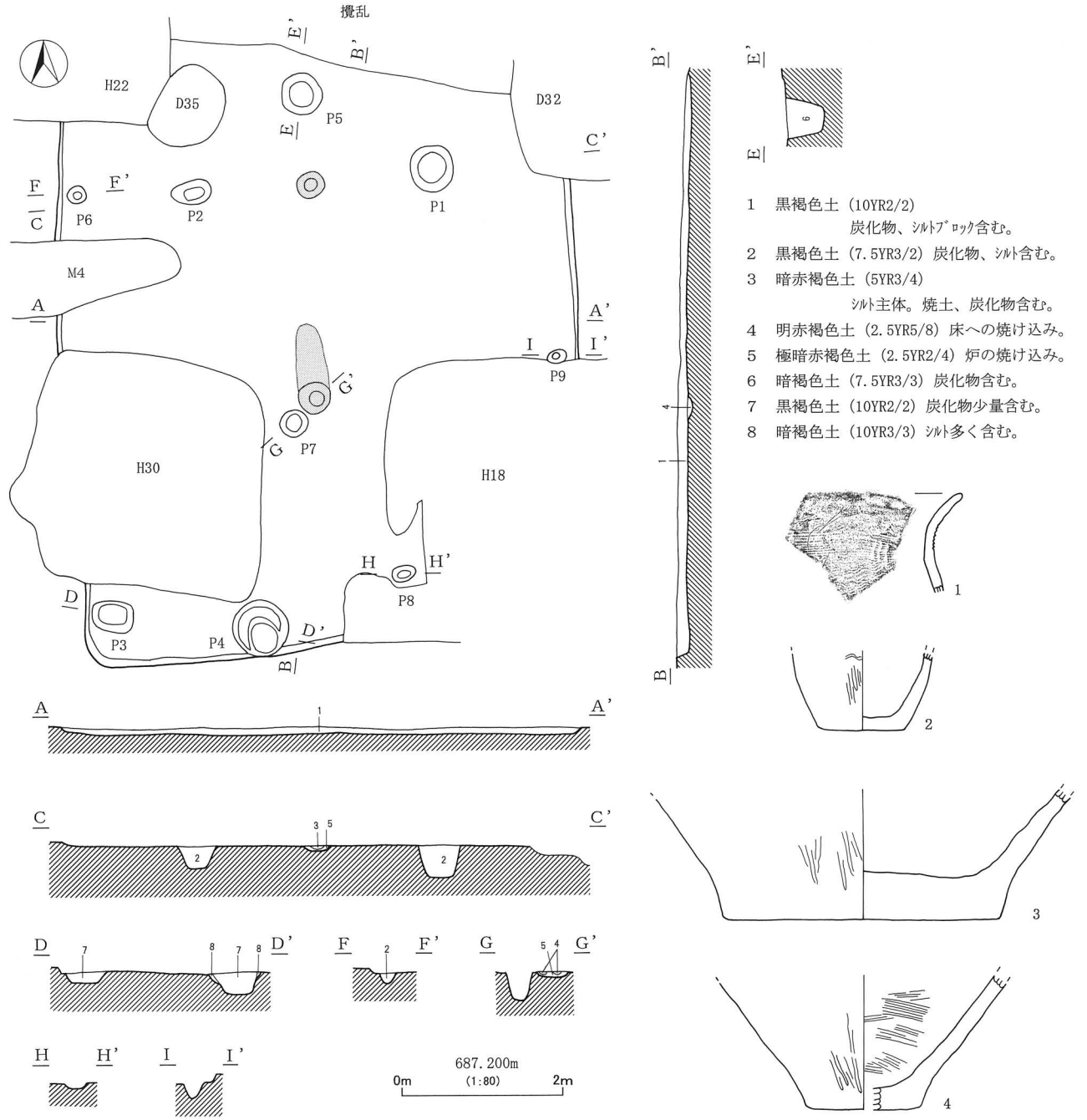
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 11 | 6 | 3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理　底部中央窪み | 100 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 11.2 | 4.9 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　口唇部煤付着 | 90 | 外面10YR3/1黒褐色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 11.4 | 5.5 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 90 | 外面口辺部黒色<br>他10YR6/6明黄褐色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 11.5 | 4.2 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 70 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 11.4 | 5.2 | 4.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　平面やや楕円状にゆがみあり | 70 | 内外面7.5YR6/6橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 12 | 4.7 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　平面やや楕円状にゆがみあり | 95 | 外面2.5YR6/8橙色 |
| 7 | 土師器 | 碗 | 15.4 | 7.8 | 5.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け<br>内面放射状暗文・黒色処理 | 70 | 外面10YR3/2黒褐色 |
| 8 | 土師器 | 碗 | 15.4 | 7.8 | 5.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け | 60 | 外面10YR6/6明黄褐色 |
| 9 | 須恵器 | 坏 | － | 〈5.6〉 | 〈1.2〉 | 底部回転糸切り　火ダスキ | 底部破片 | 外面7.5Y6/1灰色 |
| 10 | 須恵器 | 坏 | － | 〈7.6〉 | 〈0.8〉 | 底部回転糸切り　火ダスキ | 底部破片 | 外面10YR7/1灰白色 |
| 11 | 灰釉陶器 | 皿 | － | 6.4 | 〈2.1〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け | 高台～体部欠損品 | 内外面7.5YR8/1灰白色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　　整・文　　様 | 重量(g) | 備　　考 |
| 12 | 土製品 | 羽口 | － | － | － | 周辺部欠損　先端部還元　表面ケズリ後ナデ | | |
| 13 | 鉄製品 | 角棒状製品 | 〈11.9〉 | 〈1.4〉 | 〈1.3〉 | 上下欠損 | 26.51 | |

第18表　H15号住居址遺物観察表

H16号住居址

遺構はB－あ－10グリッドに位置し、H18・22・30、D29・32・35、M４に切られ、北側は近年の攪乱に破壊されている。平面形態は南北方向に長い長方形と考えられる。調査規模は南北7.6m、東西6.4m、検出面から床面までの深さは最大で16cmと浅い。上部は近年の圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは９個認められた。Ｐ１・２は主柱穴である。Ｐ５は位置的に棟持柱の可能性がある。炉は主柱穴の間に存在し、直径36cmを測る円形で、床面を10cm程度掘窪めた地床炉である。壁面は熱により焼土化し、硬質である。掘方は踏み固めた床のみで明確な掘り込みは存在しない。

遺物は、弥生土器の甕・壺が出土した。時期は櫛描簾状文・櫛描波状文を施す甕、赤色塗彩された甕の存在、住居址の形態が長方形で、北側ピット間に炉が設置されているといった特徴から、弥生時代後期としたい。




第31図　H16号住居址遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 甕 | － | － | － | 外面頸部櫛描簾状文 外面口辺・体部櫛描波状文 内外面口辺部赤色塗彩 | 口縁～頸部破片 | 外面7.5YR5/3にぶい褐色 内面赤色 |
| 2 | 弥生土器 | 甕 | － | [5.4] | 〈5〉 | 内外面摩耗 | 底部～胴部破片 | 外面5YR6/4にぶい橙色 |
| 3 | 弥生土器 | 壺 | － | [17.4] | 〈8.2〉 | 外面ミガキやや摩耗　内面ハケ目ナデやや摩耗 | 底部～胴部破片 | 外面7.5YR6/6橙色 |
| 4 | 弥生土器 | 壺 | － | [7.2] | 〈8.2〉 | 外面ミガキやや摩耗　内面ナデやや摩耗 | 底部～胴部破片 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |

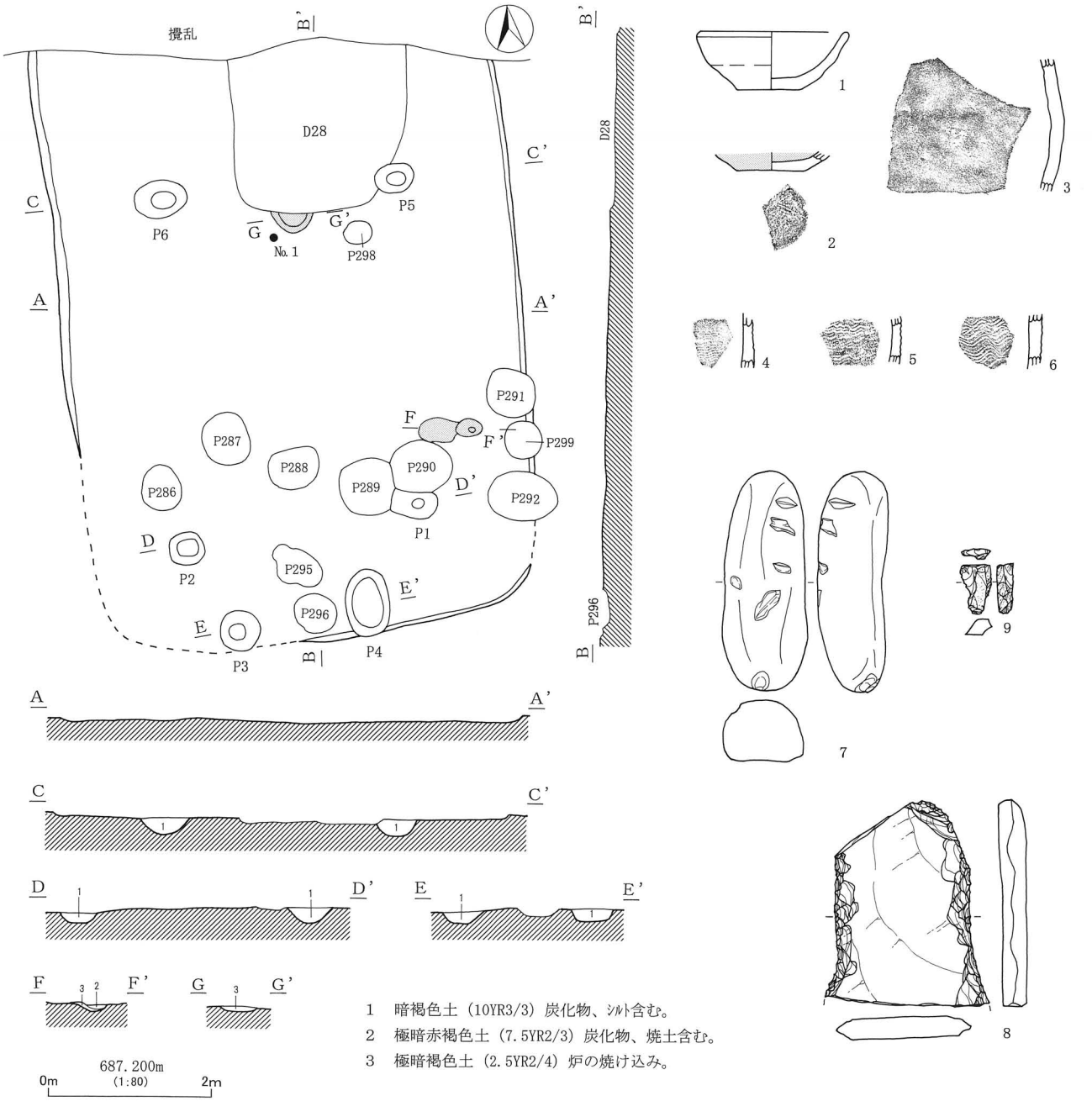
第19表　H16号住居址遺物観察表

H17号住居址

遺構はA－け－10グリッドに位置し、D28に切られ、北壁部分は近年の撹乱に破壊されている。平面形態は、隅丸の南北方向に長い長方形と思われる。規模は南北7.2m、東西5.6m、検出面から床面までの深さは最大で10cmを測る。遺構上部の多くは近年の圃場整備によって削り取られており、壁の立ち上がりが認められない カ所も存在した。床面は土間状に硬質で、本遺構に伴うと思われるピットは

6個確認できた。P1・2・5・6が主柱穴、P3・4は入り口に関するピットである。炉はP5・6の間に存在する。北側半分はD28に破壊されている。掘方は踏み固めた土間状の床のみで明確な掘り込みは存在しなかった。

遺物は弥生土器の甕・壺、土師器坏、石器等が出土した。土師器坏については、混入品と思われる。時期は弥生土器の存在及び住居址の形態が長方形で、北側主柱穴間に炉が設置されているといった特徴から、弥生時代後期としたい。




1　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、シルト含む。
2　極暗赤褐色土（7.5YR2/3）炭化物、焼土含む。
3　極暗褐色土（2.5YR2/4）炉の焼け込み。

第32図　H17号住居址遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 9.4 | 4 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| 2 | 弥生土器 | 鉢？ | － | [4.2] | 〈1〉 | 底部ヘラケズリ　内外面赤色塗彩 | 底部～体部破片 | 内外面10R4/8赤色 |
| 3 | 弥生土器 | 壺 | － | － | － | 外面赤色塗彩　内面摩耗 | 胴部破片 | 外面2.5YR5/6明赤褐色 |
| 4 | 弥生土器 | 甕 | － | － | － | 外面櫛描波状文 | 胴部破片 | 外面10YR4/4褐色 |

第20表　H17号住居址遺物観察表（1）

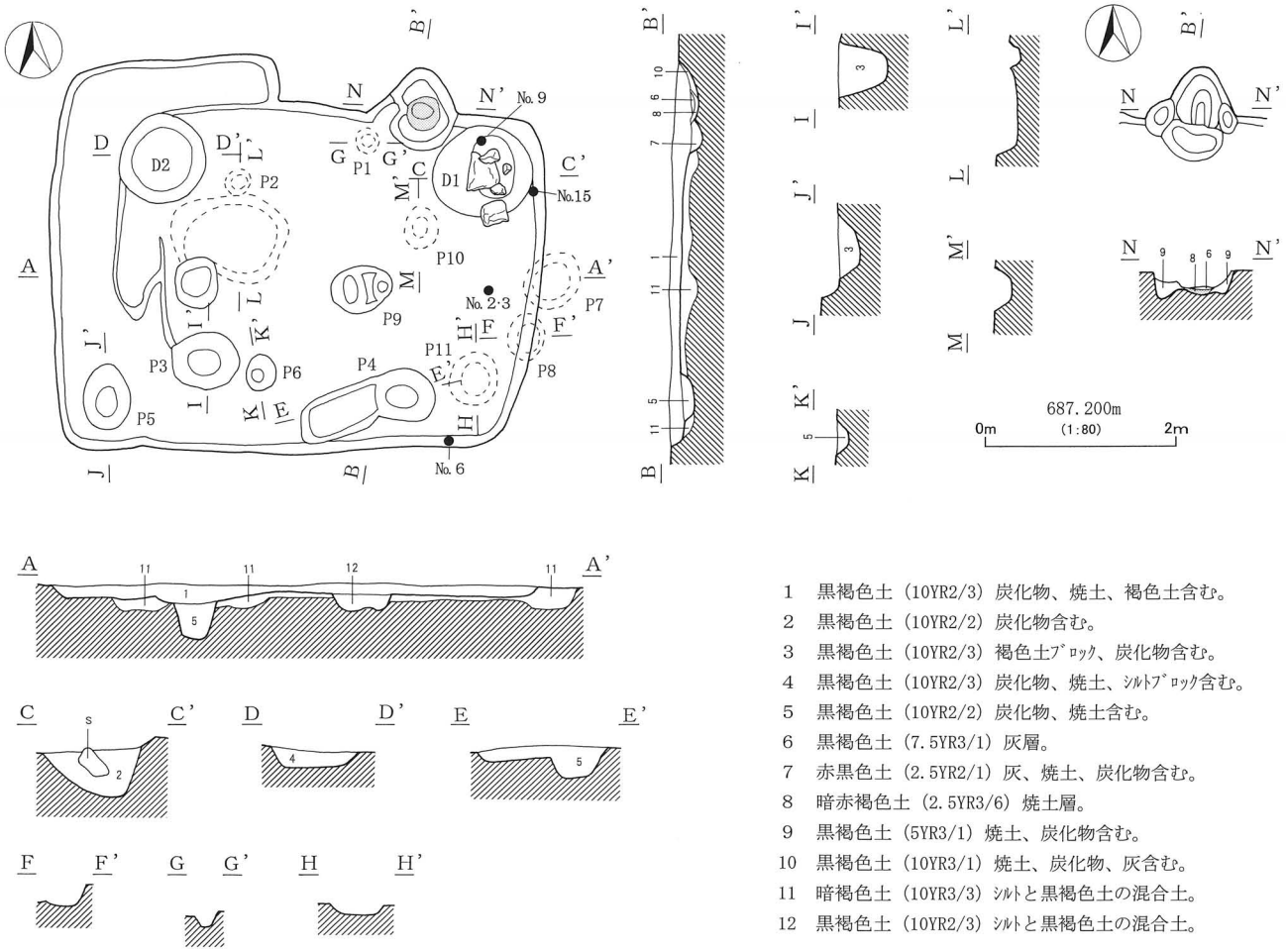
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 弥生土器 | 甕 | － | － | － | 外面櫛描波状文 | 胴部破片 | 外面7.5YR4/4褐色 |
| 6 | 弥生土器 | 甕 | － | － | － | 外面櫛描波状文 | 胴部破片 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 7 | 石器 | 砥石 | 13.9 | 5.3 | 4 | 正面に砥石使用痕 | 371.2 | |
| 8 | 石器 | 打製石斧 | 〈13〉 | 〈10〉 | 〈1.5〉 | 下部欠損 | 〈296.51〉 | |
| 9 | 石器 | 剥片 | 3.1 | 1.9 | 1 | 正面に剥離面（二次加工は認められない） | 5.48 | |

第21表　H17号住居址遺物観察表（2）

H18号住居址

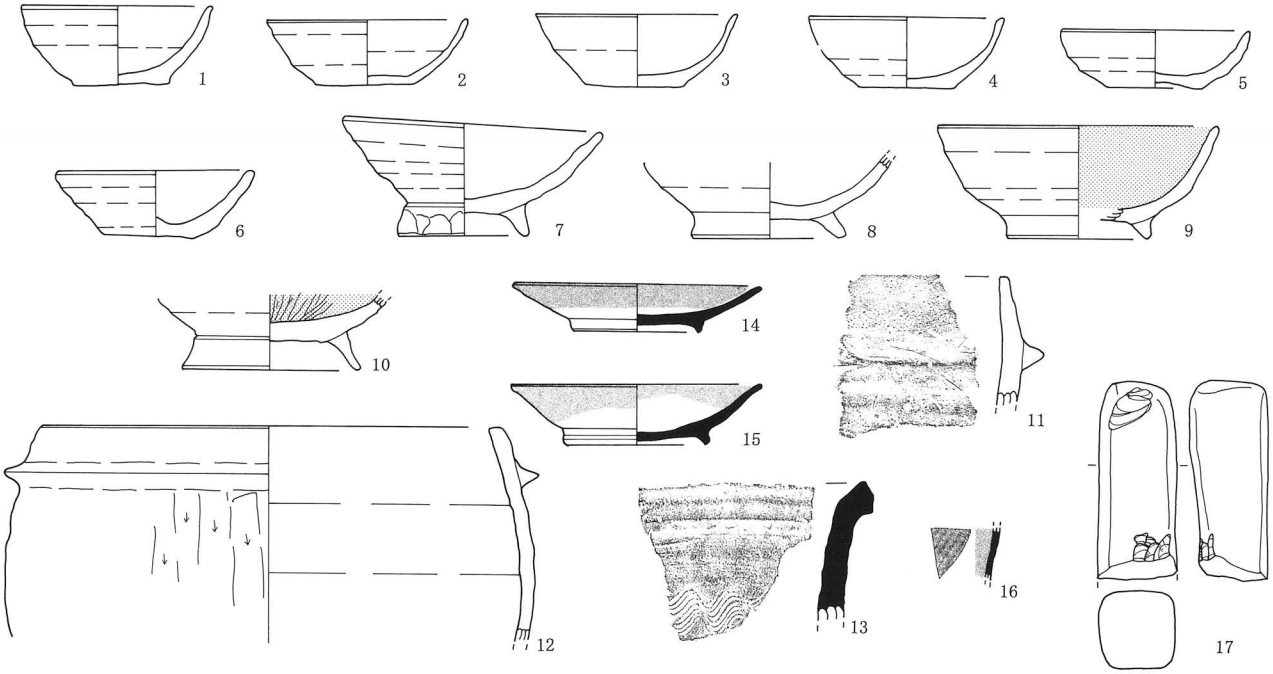
遺構はA－こ－10グリッドに位置し、H16を切る。西側に床面が一段高い竪穴状の遺構が付随する。検出段階で切り合いが確認できなかったことから、やや段差の伴う張り出し部である可能性も考えられる。規模は南北3.6m、東西4.4m、検出面から床面までの深さは最大で15cmを測る。床面は土間状の硬質面を持つ。壁際の溝は認められなかった。ピットは掘方における発見も含めて11個確認でき、北東コーナー及び北西コーナーに土坑が存在する。カマドは北壁の東寄りに構築されている。ほとんどが破壊され、北壁外への張り出しと火床が残存するのみである。掘方は全体的に５～15cmの厚みで強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・碗・甕・羽釜、須恵器の甕、灰釉陶器の皿、石器が出土した。土師器の坏は大半が小型化した形状で、土師器碗は深みのある坏部を持ち、高台は厚めで、高さは１～1.3cm程度である。羽釜は口縁の破片で２種類存在する。形状はやや樽形をしたものと思われる。灰釉陶器は漬け掛けで高台は低く、やや厚めである。時期は坏の大半が小型化していること、灰釉陶器皿に漬け掛け、高台が低く厚い丸石２号窯跡に類似するものが含まれることから平安時代、10世紀後半～11世紀前半としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土、褐色土含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）炭化物含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）褐色土ﾌﾞﾛｯｸ、炭化物含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、焼土含む。
6　黒褐色土（7.5YR3/1）灰層。
7　赤黒色土（2.5YR2/1）灰、焼土、炭化物含む。
8　暗赤褐色土（2.5YR3/6）焼土層。
9　黒褐色土（5YR3/1）焼土、炭化物含む。
10　黒褐色土（10YR3/1）焼土、炭化物、灰含む。
11　暗褐色土（10YR3/3）ｼﾙﾄと黒褐色土の混合土。
12　黒褐色土（10YR2/3）ｼﾙﾄと黒褐色土の混合土。

第33図　H18号住居址実測図




第34図　H18号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 10.1 | 5 | 4.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面10YR7/3にぶい黄橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 10.2 | 5 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 5.1 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 内外面10YR8/4浅黄橙色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 10.1 | 4.9 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 65 | 内外面10YR6/2灰黄褐色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 10 | 5 | 3.1 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 10.4 | 4.6 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 70 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 7 | 土師器 | 碗 | 13.5 | 6.8 | 6 | 坏部内外面ロクロナデ　高台貼付・外面指頭圧痕 | 60 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 8 | 土師器 | 碗 | － | 8.1 | 4 | 坏・高台部内外面ロクロナデ　高台貼付 | 50 | 外面7.5YR7/8黄橙色 |
| 9 | 土師器 | 碗 | [14.9] | [7.2] | 6 | 外面ロクロナデ 内面ミガキ 底部回転糸切り後高台貼付 表面一部摩耗 | 50 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 10 | 土師器 | 碗 | － | 9.3 | 〈4〉 | 坏部外面高台ロクロナデ　内面放射状暗文・黒色処理 | 底部・高台100 | 外面10YR7/1灰白色 |
| 11 | 土師器 | 羽釜 | － | － | 〈6.9〉 | 口縁横ナデ　鍔貼付 | 口縁・鍔破片 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 12 | 土師器 | 羽釜 | [24] | － | 〈11.3〉 | 口縁内外面横ナデ　鍔貼付　胴部外面ヘラケズリ　内面ナデ | 口縁・鍔破片 | 外面5YR6/6橙色 |
| 13 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 口縁外面8単位櫛描波状文　内外面自然釉付着 | 口縁破片 | 外面10Y4/1灰色 |
| 14 | 灰釉陶器 | 皿 | [13.2] | 6.5 | 2.5 | 内外面ロクロナデ 底部ロクロナデ 高台貼付 三角高台ぎみ ハケ塗り? | 40 | 内外面5P7/1明紫灰色 |
| 15 | 灰釉陶器 | 皿 | [13.3] | [7.3] | 3.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ　高台貼付<br>高台外面弧状・内面やや弧状　漬け掛け | 高台～口縁破損品 | 内外面10YR8/1灰白色 |
| 16 | 緑釉陶器 | － | － | － | － | 内外面緑釉 | 破片 | 内外面5Y4/4暗オリーブ色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 17 | 石器 | 敲石 | 〈10.6〉 | 〈4.2〉 | 〈4.1〉 | 下部欠損 | 320.76 | Ⅰ区出土 |

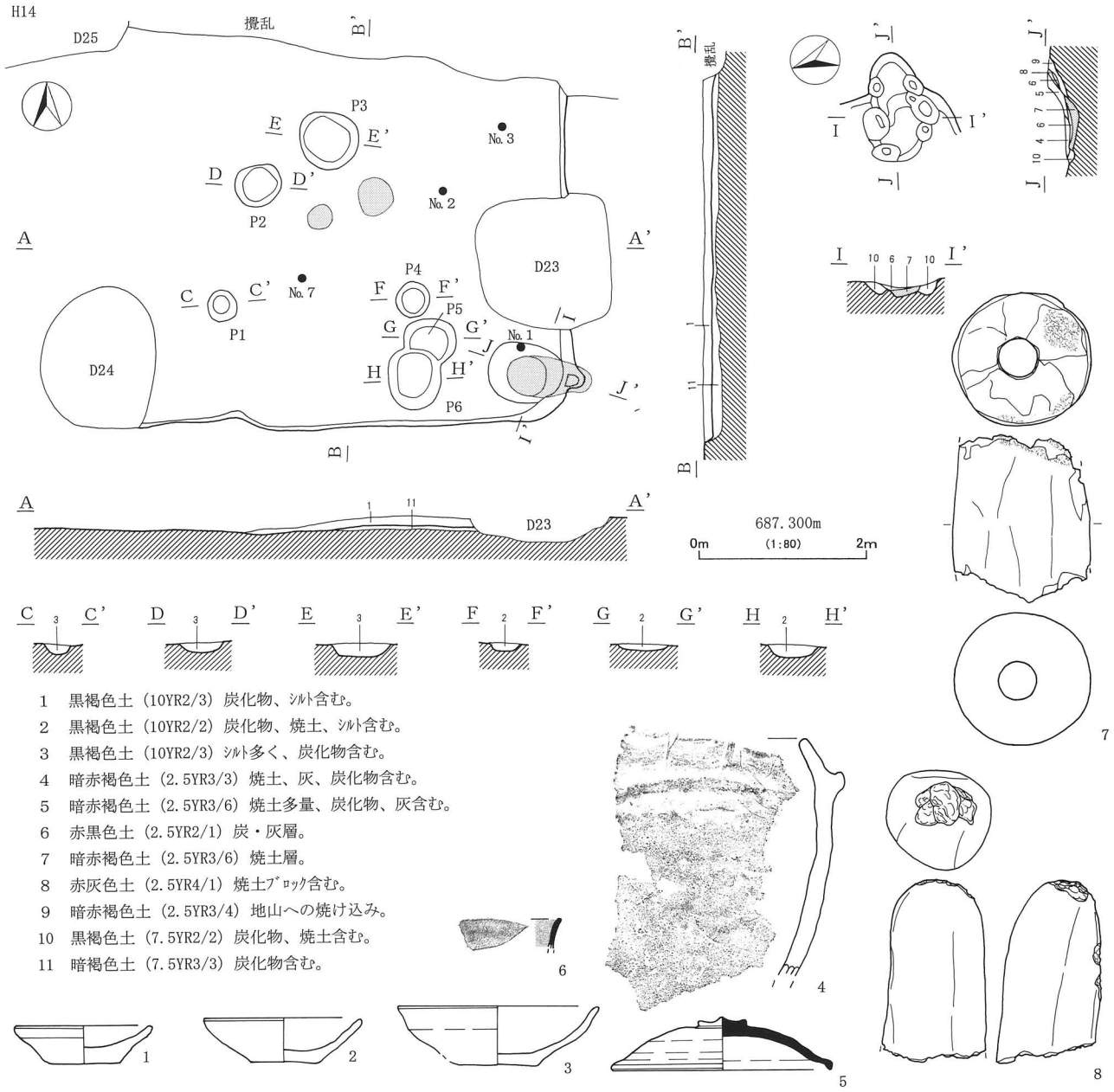
第22表　H18号住居址遺物観察表

H19号住居址

遺構はC－か－1グリッドに位置し、北側は近年の攪乱に破壊されている。H14と切り合い関係にあるが、遺構の深度が浅いため確実な新旧関係は検出段階で確認できなかった。平面形態は方形と思われる。規模は南北4.2m、東西5.2m、検出面から床面までの深さは最大で13cmを測る。床面は周辺の地山が強粘性であることから、土間状の硬質面を持ち、2カ所に円形の焼土が存在した。羽口が出土していることから住居内で小鍛冶が行われていた可能性も窺える。ピットは6個確認できたが、確実に本遺構に伴うかは断定できない。カマドは南東コーナーに構築されているが大半は破壊され、壁外への一部張り出しと焼土の堆積した火床が残存しているのみであった。掘方は全体的に5～10cm掘り込まれ、強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・碗・羽釜、須恵器の蓋・甕、灰釉陶器、緑釉陶器、羽口、石器が出土した。須恵器の甕、灰釉陶器、緑釉陶器は小破片で出土量も僅かである。土師器坏は小型化し、かわらけ状の

形態を持つ。羽釜の鍔部分は部分的に貼り付けた形態で全周しない。須恵器蓋については形状から時期がやや古い可能性がある。時期は土師器坏及び羽釜の形状から平安時代、11世紀以降としたい。



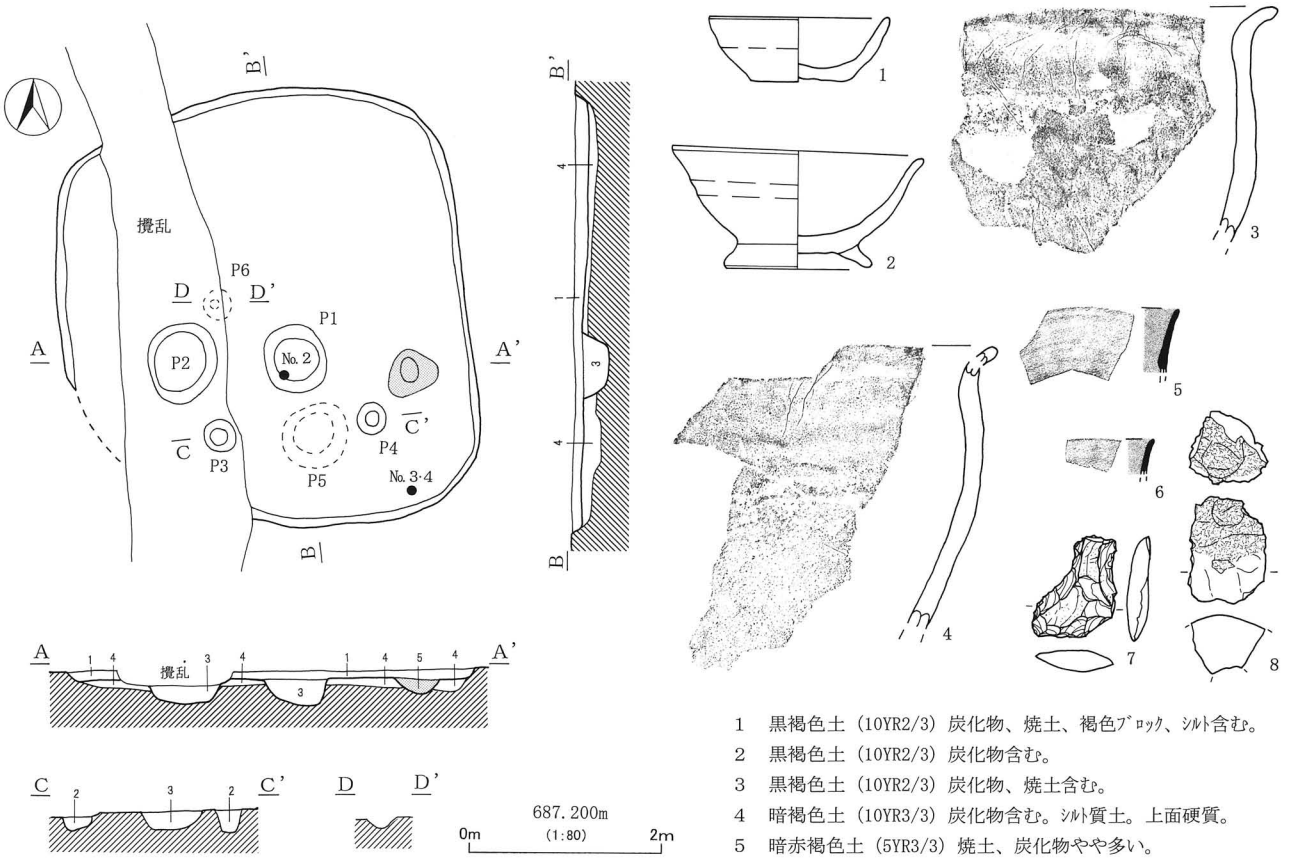

第35図　H19号住居址遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 8.4 | 4.5 | 2.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　底部穴あり | 100 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 9.6 | 4 | 2.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 外面5YR4/3にぶい赤褐色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | [12.3] | 4.9 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 4 | 土師器 | 羽釜 | － | － | 〈14.7〉 | 口縁横ナデ　鍔独立型貼付　外面ヘラケズリ　内面ナデ | 口縁～胴部破片 | 外面5YR5/8明赤褐色 |
| 5 | 須恵器 | 蓋 | [13.4] | つまみ径3 | 3.3 | 内外面ロクロナデ　つまみ貼付　天井部回転ヘラケズリ | つまみ～返り部破片 | 内外面N5/0灰色 |
| 6 | 緑釉陶器 | － | － | － | － | 内外面緑釉 | 口縁破片 | 内外面7.5Y4/3暗オリーブ色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 7 | 土製品 | 羽口 | 〈10〉 | 外径8.1<br>内径2.4 | 3 | 上下欠損　上部一部還元 | － | |
| 8 | 石器 | 敲石 | 〈11.1〉 | 〈6.4〉 | 〈5.7〉 | 下部欠損　上部・側面敲打痕 | 504.47 | |

第23表　H19号住居址遺物観察表

H20号住居址

遺構はA－か－８グリッドに位置する。平面形態は隅丸の方形である。規模は南北4.4m、東西4.1m、検出面から床面までの深さは10cmを測る。床面は土間状に硬質面を持つ。ピットは４個確認できたが、位置的に性格は不明である。南東コーナー付近の床面上に円形の焼土の堆積が認められ、この場所にカマドが存在していたか、あるいは羽口が出土していることから小鍛冶が行われていた可能性も考えられる。遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・蓋・甕、灰釉陶器、緑釉陶器、羽口、石器が出土した。須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器は小破片で出土量も僅かである。土師器坏は小型化した形状である。時期は、小型化した土師器坏が伴うことから10世紀後半～11世紀前半としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土、褐色ﾌﾞﾛｯｸ、ｼﾙﾄ含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化物含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）炭化物含む。ｼﾙﾄ質土。上面硬質。
5　暗赤褐色土（5YR3/3）焼土、炭化物やや多い。

第36図　H20号住居址遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 9.4 | 5 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面5YR7/3にぶい橙色 |
| 2 | 土師器 | 碗 | 13.1 | 7.5 | 6.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付 | 65 | 内外面5YR7/4にぶい橙色 |
| 3 | 土師器 | 甕 | － | － | 〈12.5〉 | 口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面横ハケナデ | 口縁～胴部破片 | 外面2.5YR6/8橙色 |
| 4 | 土師器 | 甕 | － | － | 〈15.1〉 | 口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面横ハケナデ | 口縁～胴部破片 | 外面2.5YR6/4にぶい橙色 |
| 5 | 緑釉陶器 | 皿 | － | － | － | 内外面淡い緑釉　段皿 | 口縁破片 | 内外面10Y7/2灰白色 |
| 6 | 緑釉陶器 | － | － | － | － | 内外面緑釉 | 口縁破片 | 内外面10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | 備　考 |
| 7 | 石器 | 石匙 | 5.5 | 4.4 | 1.1 | 一部自然面が残存（摩滅のためか） | 25.18 | |
| 8 | 土製品 | 羽口 | | | 2.8 | 一部還元 | － | 破片資料 |

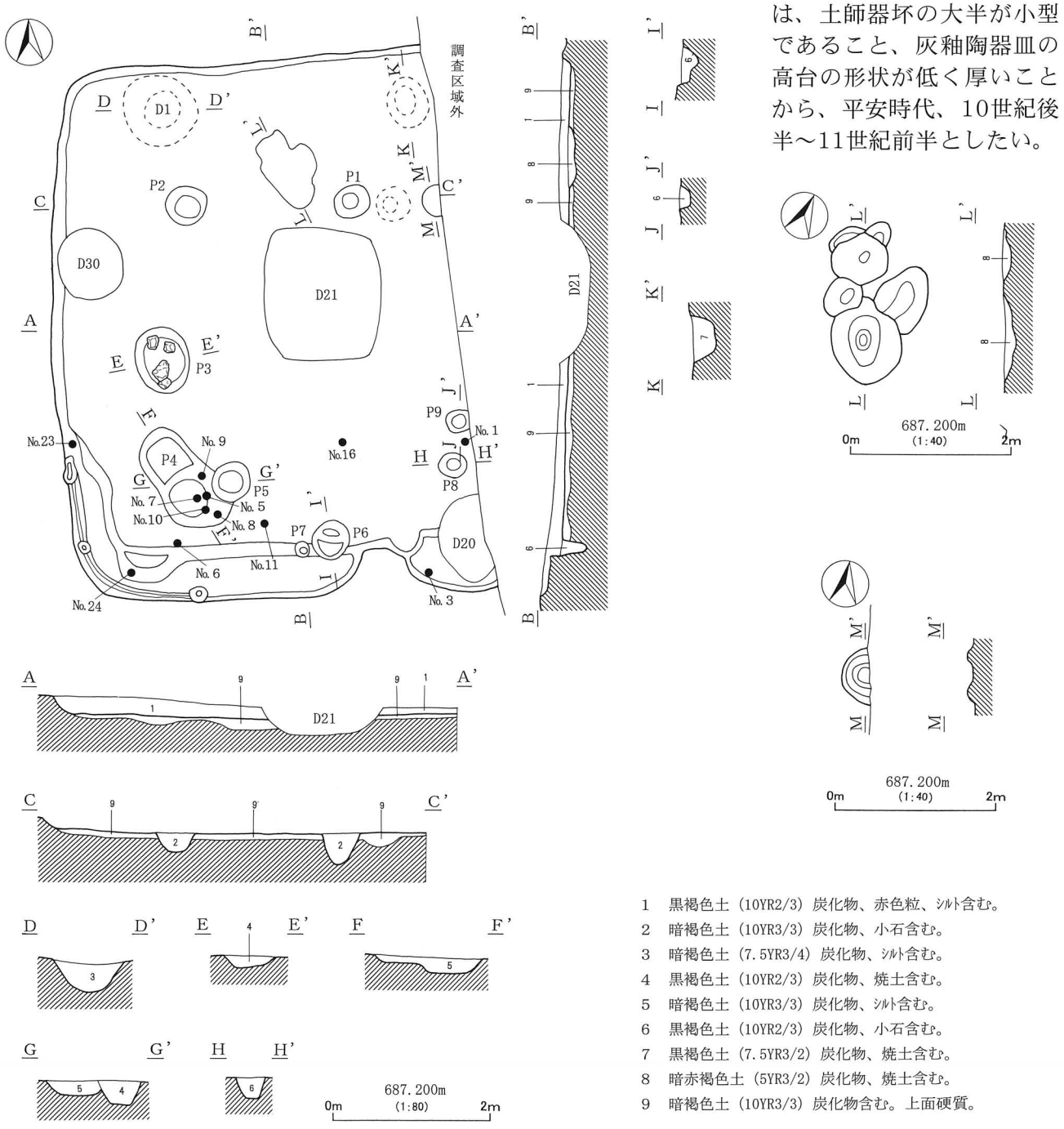
第24表　H20号住居址遺物観察表

H21号住居址

遺構はA－う－９グリッドに位置し、D20・21・30に切られ、東側は調査区域外となる。平面形態はやや隅丸の方形と考えられ、南壁は一段高いテラス状の段となる。調査規模は南北6.8m、東西5.1m、確認面から床面までの深さは最深で25cmを測る。ピットは床面上で９個確認できた。北側のＰ１とＰ２の間にいくつかの窪みがまとまって存在し、一部は熱によって焼土化し硬質な壁・底面を持つもの

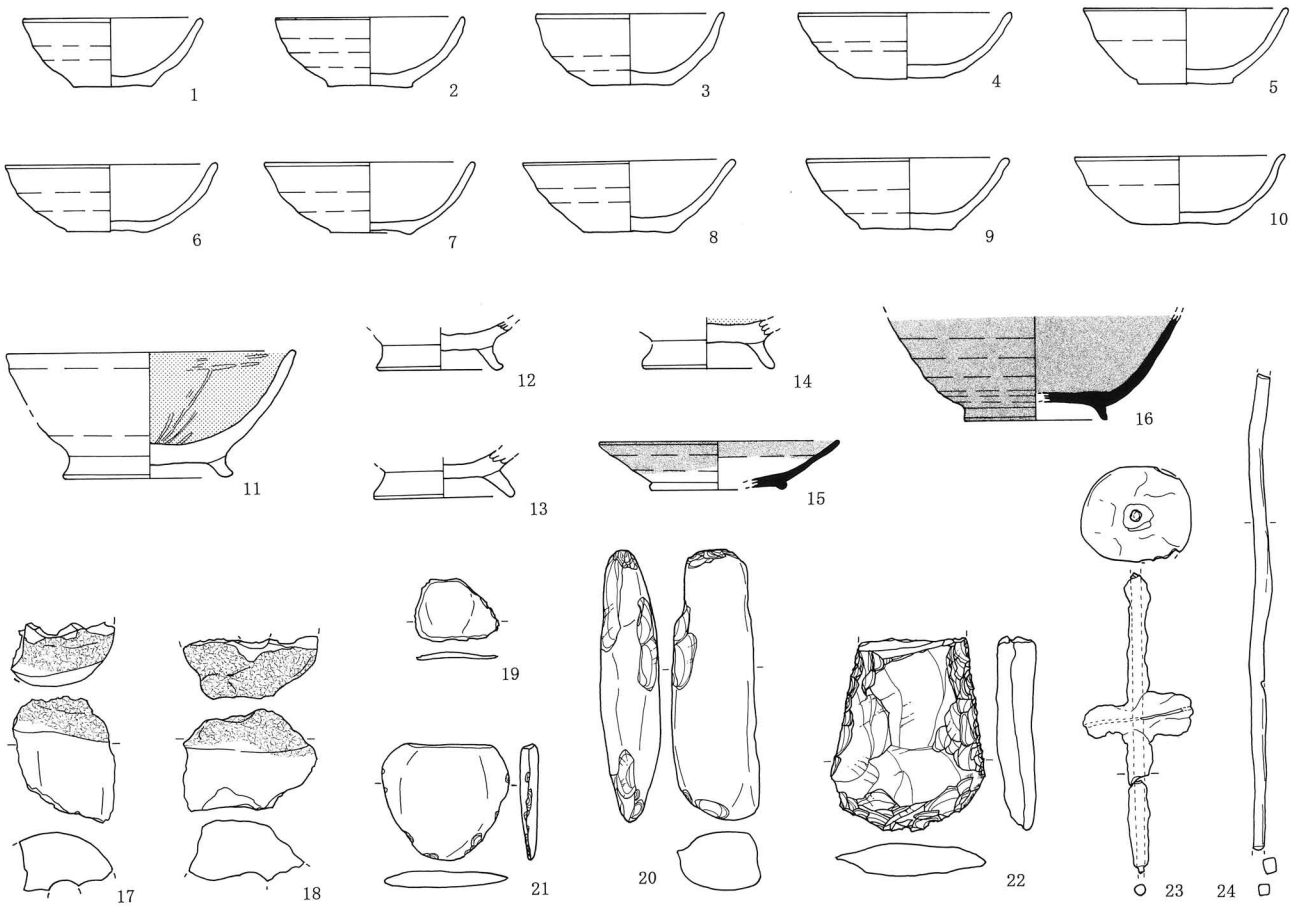
も認められた。また、東の調査区境にも円形の焼土化した窪みが認められた。本遺構内から鉄滓・羽口が出土するため、小鍛治が行われていた可能性が推察できる。また、南東コーナーに位置するD20からは形状の残る坏も多数出土した。調査範囲からカマドは確認できなかった。調査区域外の東壁に構築されている可能性がある。掘方は厚さ5cm内外の土間状の硬質面直下は地山の砂礫層となり、明確な掘り込みは確認できなかった。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕、灰釉陶器の皿、緑釉陶器の碗、羽口、石器、鉄製品、鉄滓が出土した。土師器の坏・碗の出土が多い。土師器坏は口径が10～11cmと全体的に小型である。土師器碗は厚く、やや深みのある内黒の坏部を持つ。また破片中にはやや足高の高台も認められる。灰釉陶器の皿は漬け掛けで高台は低く蒲鉾状である。緑釉陶器碗は表裏全体に施釉されている。時期は、土師器坏の大半が小型であること、灰釉陶器皿の高台の形状が低く厚いことから、平安時代、10世紀後半～11世紀前半としたい。




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、赤色粒、シルト含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、小石含む。
3　暗褐色土（7.5YR3/4）炭化物、シルト含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、シルト含む。
6　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、小石含む。
7　黒褐色土（7.5YR3/2）炭化物、焼土含む。
8　暗赤褐色土（5YR3/2）炭化物、焼土含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）炭化物含む。上面硬質。

第37図　H21号住居址実測図




第38図　H21号住居址遺物実測図

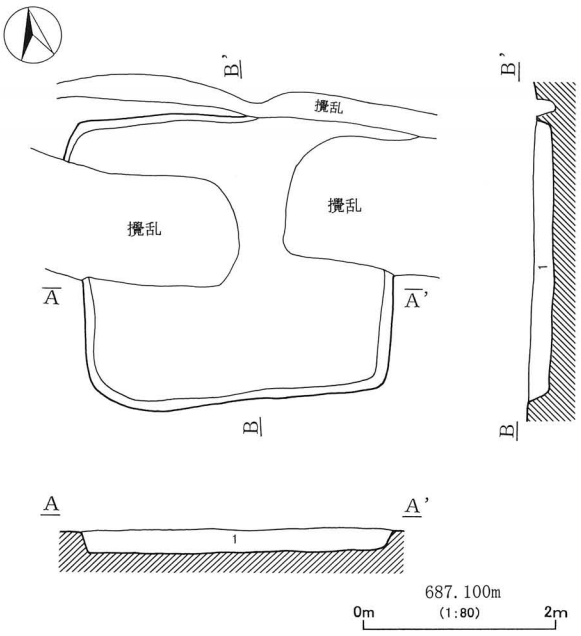
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 9.5 | 4.2 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 98 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 9.8 | 4.5 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 10 | 4.3 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色他 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 11.2 | 4.7 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 11.9 | 5 | 4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 99 | 内外面5YR7/6橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 11.1 | 4.2 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　平面形状やや楕円形 | 100 | 内外面5YR7/6橙色 |
| 7 | 土師器 | 坏 | 11 | 4.2 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色他 |
| 8 | 土師器 | 坏 | 11.1 | 4.8 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 内外面5YR7/6橙色 |
| 9 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 4.7 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 85 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 10 | 土師器 | 坏 | 11.1 | 4.8 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 11 | 土師器 | 碗 | 15.2 | 9 | 6.5 | 外面ロクロナデ 内面放射状ミガキ・黒色処理・付着物あり漆紙か？<br>高台貼付・先端部面取り | 65 | 外面7.5YR8/2灰白色 |
| 12 | 土師器 | 碗 | － | 6.6 | 〈2.5〉 | 高台貼付 | 底部・高台100 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 13 | 土師器 | 碗 | － | 7.3 | 〈2.4〉 | 高台貼付 | 底部・高台100 | 内外面5YR7/3にぶい橙色 |
| 14 | 土師器 | 碗 | － | 7 | 〈2.4〉 | 高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色他 |
| 15 | 灰釉陶器 | 皿 | [12.6] | [7.2] | 2.5 | 内外面ロクロナデ　高台貼付　断面蒲鉾状 | 25 | 内外面N7/1灰色 |
| 16 | 緑釉陶器 | 碗 | － | [7.5] | 〈5.6〉 | 内外面高台・底部にかけて緑釉 | 25 | 内外面5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | |
| 17 | 土製品 | 羽口 | 〈6.6〉 | 〈6〉 | 2.8 | 先端部還元　先端部破片 | － | 炉出土 |
| 18 | 土製品 | 羽口 | 〈5.4〉 | 〈6.7〉 | 2.6 | 先端部還元　先端部破片 | － | |
| 19 | 金属製品 | 不明 | 〈3.3〉 | 〈4.3〉 | 〈0.3〉 | 周辺部欠損 | 〈12.45〉 | Ⅰ区出土 |
| 20 | 石器 | 敲石 | 14.4 | 4.5 | 3.2 | 上下端部・側面に敲打痕 | 282.22 | |
| 21 | 石器 | ｽｸﾚｲﾊﾟｰ? | 6.2 | 6.6 | 0.9 | 全体に表面滑らか　周辺使用痕らしき剥離面 | 46.92 | 混入製品 |
| 22 | 石器 | 打製石斧 | 〈10.2〉 | 〈8.1〉 | 〈1.8〉 | 上部欠損　刃部一部摩耗 | 〈202.87〉 | Ⅲ区出土　混入製品 |
| 23 | 鉄製品 | 紡錘車 | 軸長〈17〉<br>車外径 5.8 | 軸径0.6 | 車厚1.2 | 軸部上下欠損 | 〈81.62〉 | |
| 24 | 鉄製品 | 角棒状製品 | 〈25.3〉 | 0.8 | － | 上下欠損 | 〈45〉 | |

第25表　H21号住居址遺物観察表

H22号住居址

遺構はＢ－い－９グリッドに位置し、一部近年の攪乱に破壊されている。平面形態は方形である。規模は南北3.0m、東西3.0m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。床面はほぼ平坦で、土間状の硬質面を持つ。ピット、壁溝、カマドは確認できなかった。遺構の状態から竪穴状遺構的な性格の遺構である可能性もあるが今回は住居址として取り扱った。

遺物は土師器の坏・甕が出土したが量は少ない。時期は薄手の甕の存在から奈良・平安時代としたい。



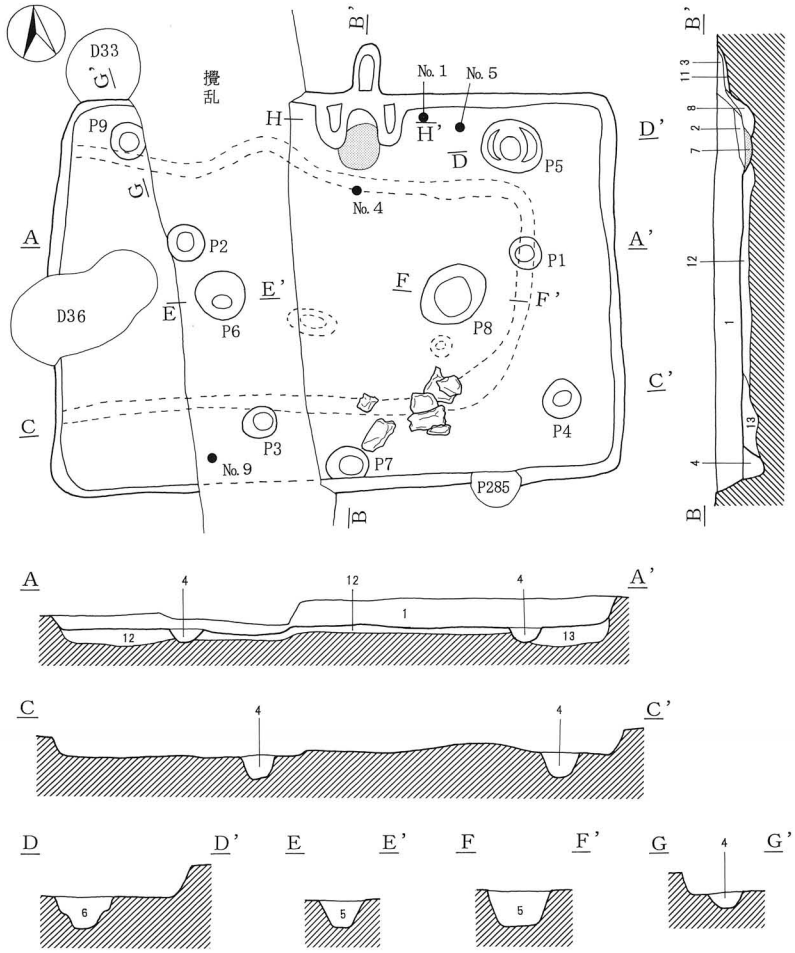

1　黒褐色土（10YR2/3）ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ、炭化物含む。

第39図　H22号住居址実測図

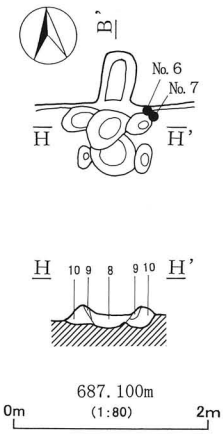
H23号住居址

遺構はＢ－う－10グリッドに位置し、一部攪乱に破壊されている。平面形態は東西方向に長い長方形である。規模は南北4.0m、東西5.8m、確認面から床面までの深さは30cmを測る。ピットは床面上で９個確認できた。北東コーナーに掘り込まれたＰ５は位置的に貯蔵穴である可能性がある。主柱穴はＰ１・２あるいはＰ６・８と考えられる。柱の移動を伴う建て替えがあった可能性も窺える。カマドは北壁中央に構築され、両袖及び壁外へ延びる煙道の一部、焼土の堆積した火床が残存していた。掘方は５～10cmの厚みで強粘性の暗褐色土が埋め込まれ、中央に比べ、北・東・南側の壁際をコの字状にやや深く掘り下げいていた。

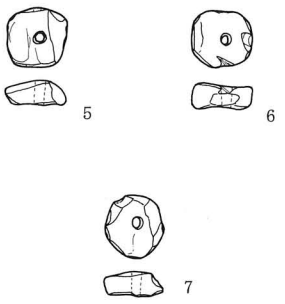
遺物は土師器の坏・甕・高坏、須恵器の甕、臼玉、石器、鉄製品が出土した。土師器坏は丸底で、体部途中に明瞭な稜を持つ。高坏は裾部及び坏部が大きく開き、坏部の体部途中に明瞭な稜を持つ。甕は厚手で、破片からやや胴長と胴丸状が認められる。臼玉はやや大きめの造りで、カマド東脇から出土した。時期は明瞭な稜をもつ土師器坏及び高坏の坏部形状が土師器坏と同形態であることから古墳時代、６世紀としたい。

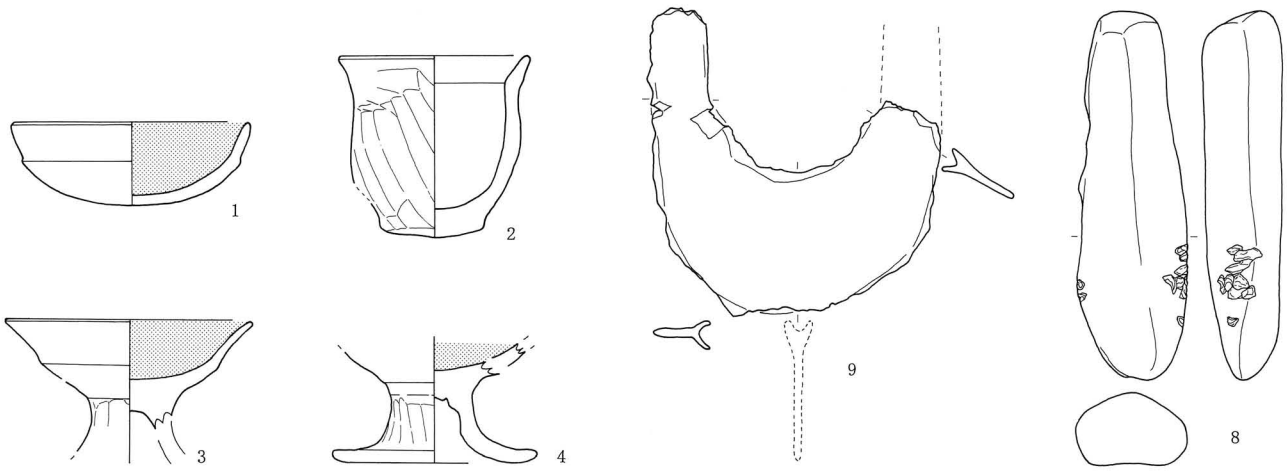



第40図　H23号住居址実測図




1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　極暗褐色土（7.5YR2/3）焼土、炭化物含む。
3　極暗赤褐色土（5YR2/3）焼土多く、炭化物含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）黒褐色土と暗褐色土の混合土。炭化物含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）黒褐色土と暗褐色土の混合土。炭化物含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
7　暗赤色土（10R3/6）焼土層。
8　黒褐色土（5YR2/1）焼土、灰、炭化物多く含む。
9　暗赤褐色土（2.5YR3/3）焼土層。袖内壁の焼け込み。
10　暗褐色土（7.5YR3/3）粘質。ｼﾙﾄ含む。
11　黒褐色土（5YR2/2）煙道部地山への焼け込み。
12　暗褐色土（10YR3/3）黒褐色土と褐色土の混合土。炭化物含む。
13　黒褐色土（10YR3/2）褐色土と黒褐色土の混合土。炭化物含む。




第41図　H23号住居址カマド・遺物実測図

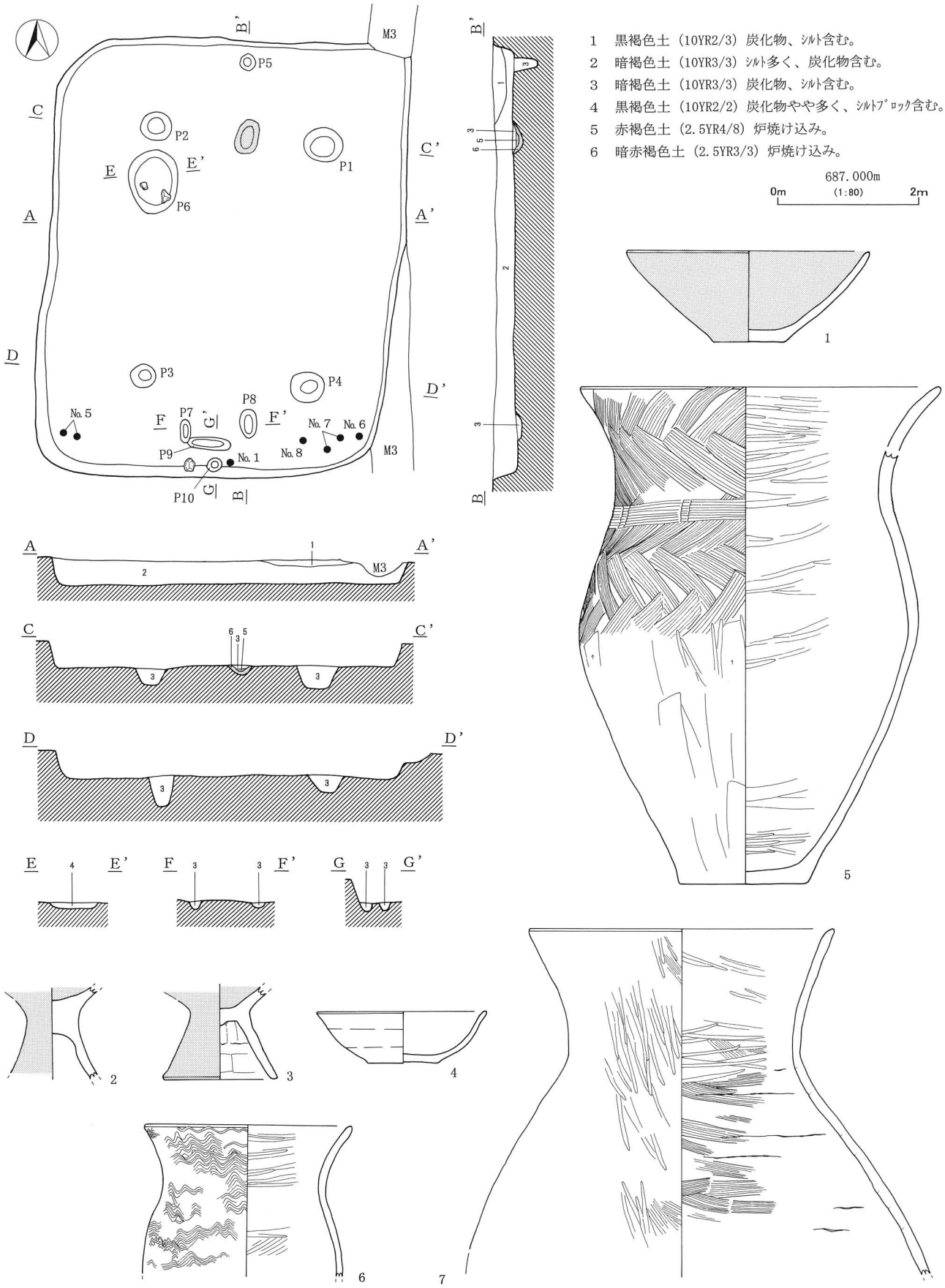
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 12.2 | 丸底 | 4.4 | 口縁横ナデ後ミガキ　体部外面ヘラケズリ　内面黒色処理<br>外面一部黒色 | 85 | 外面5YR6/2灰褐色 |
| 2 | 土師器 | 小型甕 | 10 | 5 | 9.7 | 口縁横ナデ　胴部・底部ヘラケズリ　内面ナデ | 70 | 外面2.5YR6/4にぶい橙色 |
| 3 | 土師器 | 高坏 | [13] | － | 〈5.8〉 | 坏部口縁外面横ナデ　体部から脚部外面ヘラケズリ　坏部内面黒色処理 | 30 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| 4 | 土師器 | 高坏 | － | 10.6 | 〈6〉 | 坏部外面から脚部ヘラケズリ　坏部内面黒色処理<br>脚裾部横ナデ　脚部内面ヘラ調整 | 60 | 外面7.5YR8/2灰白色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | |
| 5 | 石製品 | 臼玉 | 外径1.6 | 孔径0.25 | 0.7 | 一部欠損　滑石製 | 2.42 | |
| 6 | 石製品 | 臼玉 | 外径1.6 | 孔径0.25 | 0.7 | 一部欠損　滑石製 | 2.84 | カマド出土 |
| 7 | 石製品 | 臼玉 | 外径1.7 | 孔径0.3 | 0.7 | 一部欠損　滑石製 | 2.63 | |
| 8 | 石器 | 敲石 | 19.7 | 5.8 | 4.2 | 側面に敲打痕 | 641.11 | Ⅱ区出土 |
| 9 | 鉄製品 | 鋤先 | [16.2] | 15.5 | 装着部1.5<br>刃先0.4 | 片側基部欠損 | 〈576.6〉 | 出土状況が住居内に突き刺さった状態のため本住居址に伴うか断定できない |

第26表　H23号住居址遺物観察表

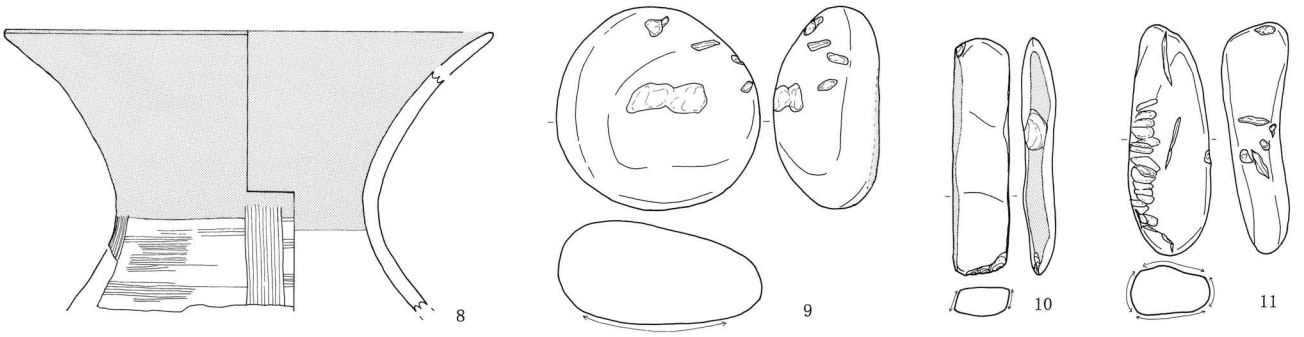
## H24号住居址

遺構はＢ－お－９グリッドに位置し、Ｍ３・４・５に切られる。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は東西4.8m、南北6.2m、確認面から床面までの深さは最深で35cmを測る。床面は全体的に土間状の硬質面を持つ。ピットは10個確認できた。Ｐ１～４は主柱穴、Ｐ５は棟持柱、Ｐ７～10は入り口に関係するピットと考えられる。炉はＰ１・２の間に設置されている。やや南北に長い楕円形で、地面を掘り窪めた地床炉である。炉内の焼土を取り除いた壁及び底面は熱によって焼土化し硬質であった。

遺物は弥生土器の高坏・鉢・甕・壺、土師器の坏、石器が出土した。時期は、赤色塗彩された壺及び甕の形状から弥生時代後期としたい。




第42図　H24号住居址遺構・遺物実測図




第43図　H24号住居址遺物実測図

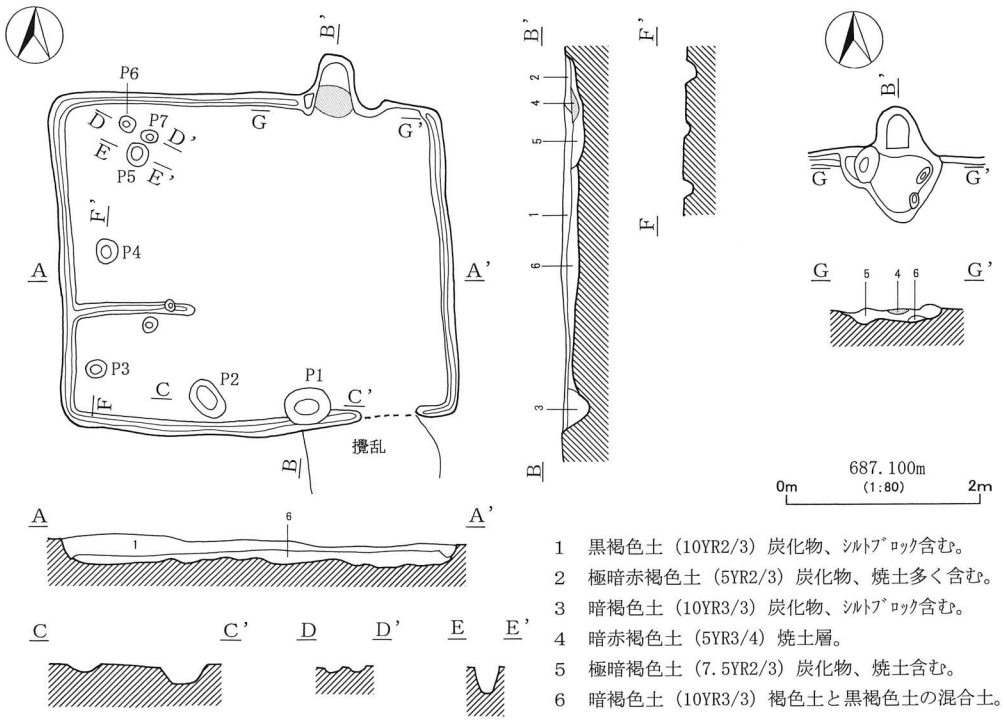
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 鉢 | 17.4 | 5.1 | 6.6 | 内外面ミガキ 赤色塗彩 外面塗彩部分的に剥離 内面塗彩部剥離大 | 90 | 外面10R5/8赤色 |
| 2 | 弥生土器 | 高坏 | － | － | 〈5.8〉 | 坏部内外面・脚部外面赤色塗彩　内面ヘラ調整 | 坏底部～脚部上半 | 外面10R5/8赤色 |
| 3 | 弥生土器 | 高坏 | － | 8.2 | 〈6.6〉 | 坏部内外面・脚部外面赤色塗彩　内面ヘラ調整 | 脚部100～体部一部 | 外面2.5YR5/6明赤褐色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 12.2 | 5.2 | 3.7 | 内外面ロクロナデ 底部回転糸切り 口唇部・底部に煤付着 混入遺物 | 99 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 5 | 弥生土器 | 甕 | 25.9 | 9.3 | 36 | 口縁・胴部上半外面9単位櫛描羽状文 胴部下部外面縦ミガキ 内面ナデ | 90 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| 6 | 弥生土器 | 甕 | 14.9 | － | 〈10.8〉 | 外面櫛描波状文　口縁内面ハケナデ・ミガキ | 60 | 外面5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 7 | 弥生土器 | 壺 | 21.9 | － | 〈25.1〉 | 外面縦ミガキ　口縁内面横ナデ　全体に表面摩耗 | 40 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| 8 | 弥生土器 | 壺 | 25.5 | － | 〈14.9〉 | 口縁内外面赤色塗彩 頸部外面櫛描横線文・櫛描垂下文 表面摩耗多 | 口縁～頸部 | 外面10R5/6赤色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | |
| 9 | 石器 | すり・敲石 | 10.8 | 10.8 | 5.4 | 表面・側面に敲痕　裏面にすり面 | 744.63 | Ⅲ区出土 |
| 10 | 石器 | すり・敲石 | 12.6 | 3 | 1.8 | 両面にすり面　先端部に敲痕 | 108.23 | Ⅲ区出土 |
| 11 | 石器 | 砥石 | 12.2 | 4.3 | 3.5 | 砥面4　条痕あり | 197.31 | 検出 |

第27表　H24号住居址遺物観察表

H25号住居址

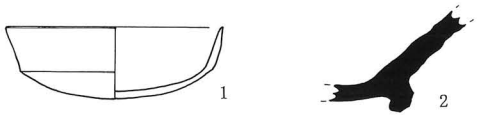
遺構はB－お－10グリッドに位置する。平面形態は方形である。規模は南北3.5m、東西4.4m、検出面から床面までの深さは最深で25cmを測る。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは8個確認できた。主柱穴と断定できるピットは認められなかった。壁際には溝が巡り、西壁から東方向に間仕切り状の溝が延びる。カマドは北壁の東寄りに構築されている。壁外に張り出した火床部分及び煙道の立ち上がりの一部が残存していた。掘方は全体に5～15cmの厚みで強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。いずれも小破片で、




第44図　H25号住居址実測図

形状が残るものは丸底の底部から立ち上がり体部途中に明瞭な稜を持つ土師器坏の１点である。時期は土師器坏の形状から古墳時代、６世紀前後としたい。




第45図　H25号住居址遺物実測図

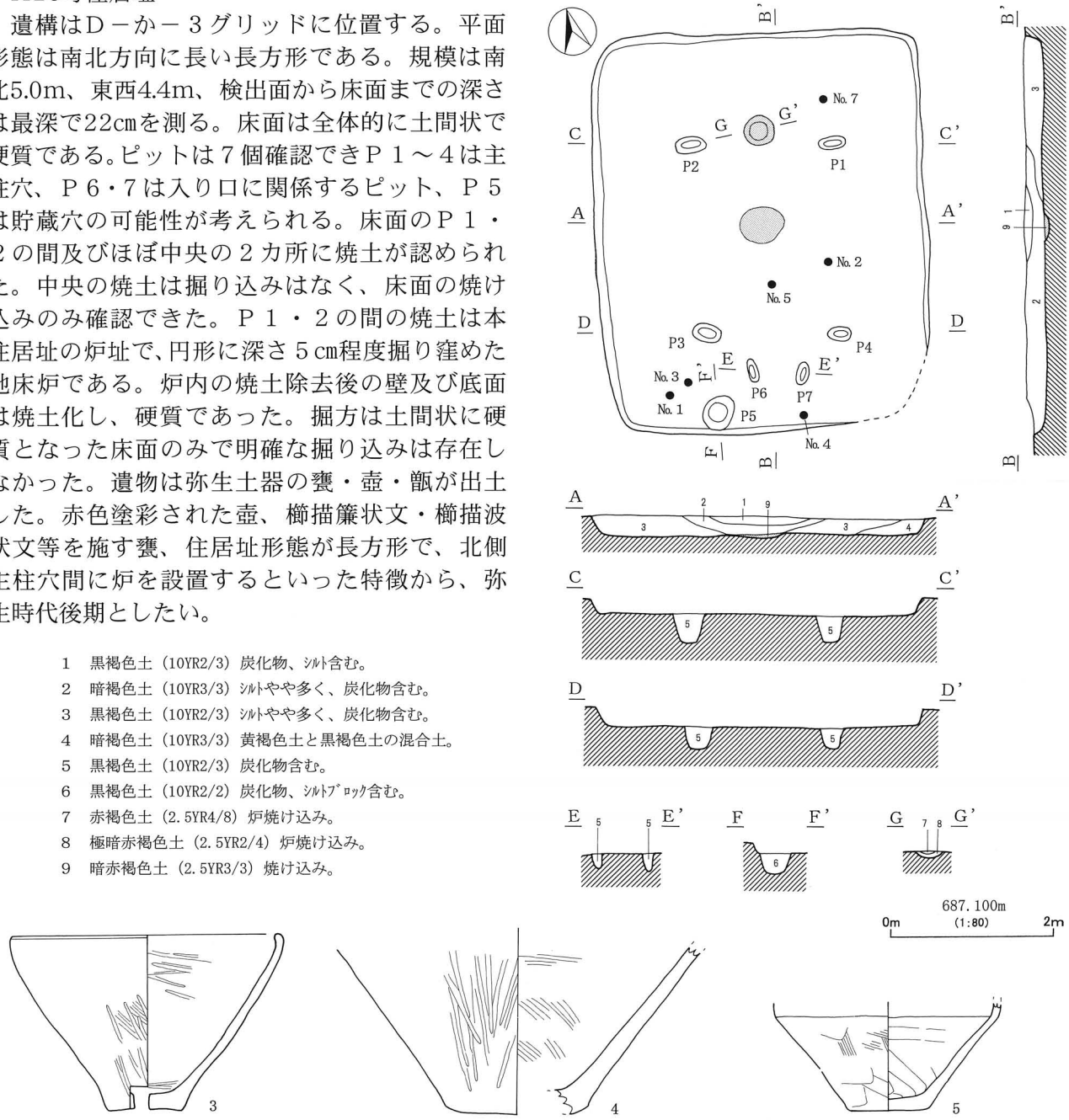
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 11.3 | 丸底 | 3.8 | 口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ | 70 | 外面7.5YR8/8黄橙色 |
| 2 | 須恵器 | 甕 | － | － | 〈5.6〉 | 内面ナデ　自然釉付着 | 高台～胴下部破片 | 外面7.5Y4/1灰色 |

第28表　H25号住居址遺物観察表

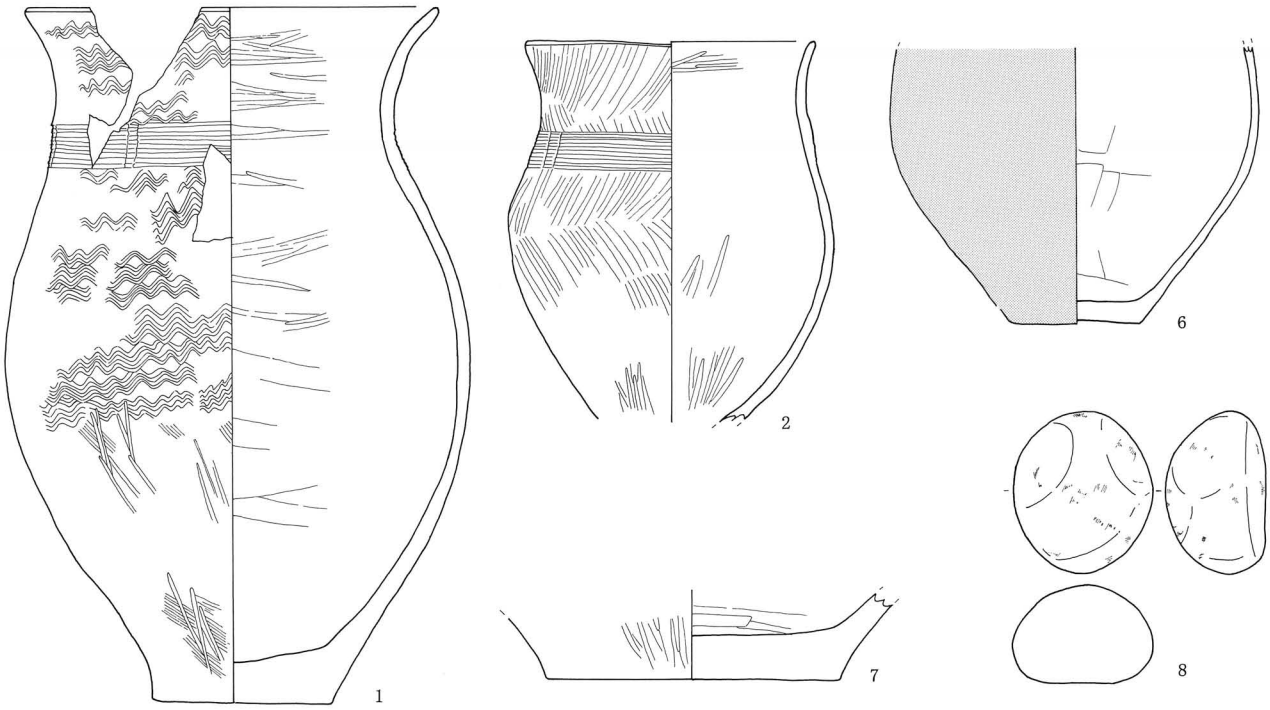
H26号住居址

遺構はＤ－か－３グリッドに位置する。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は南北5.0m、東西4.4m、検出面から床面までの深さは最深で22cmを測る。床面は全体的に土間状で硬質である。ピットは７個確認できＰ１～４は主柱穴、Ｐ６・７は入り口に関係するピット、Ｐ５は貯蔵穴の可能性が考えられる。床面のＰ１・２の間及びほぼ中央の２カ所に焼土が認められた。中央の焼土は掘り込みはなく、床面の焼け込みのみ確認できた。Ｐ１・２の間の焼土は本住居址の炉址で、円形に深さ５cm程度掘り窪めた地床炉である。炉内の焼土除去後の壁及び底面は焼土化し、硬質であった。掘方は土間状に硬質となった床面のみで明確な掘り込みは存在しなかった。遺物は弥生土器の甕・壺・甑が出土した。赤色塗彩された壺、櫛描簾状文・櫛描波状文等を施す甕、住居址形態が長方形で、北側主柱穴間に炉を設置するといった特徴から、弥生時代後期としたい。

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）ｼﾙﾄやや多く、炭化物含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）ｼﾙﾄやや多く、炭化物含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土と黒褐色土の混合土。
5　黒褐色土（10YR2/3）炭化物含む。
6　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
7　赤褐色土（2.5YR4/8）炉焼け込み。
8　極暗赤褐色土（2.5YR2/4）炉焼け込み。
9　暗赤褐色土（2.5YR3/3）焼け込み。




第46図　H26号住居址遺構・遺物実測図

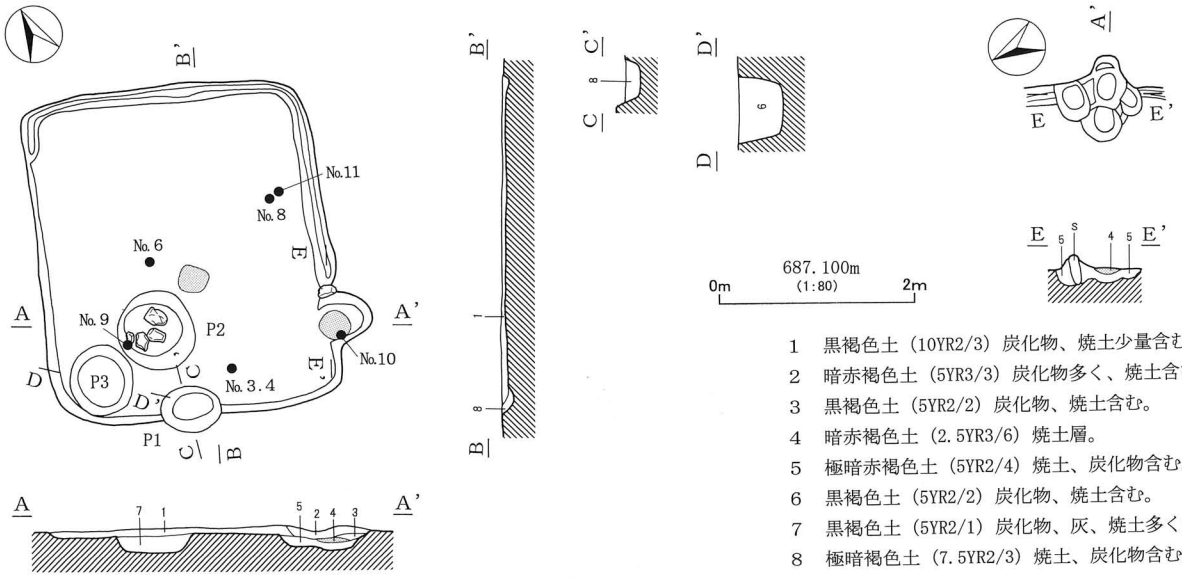



第47図　H26号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 甕 | 21.7 | 9.5 | 37 | 口縁+胴部上半櫛描波状文 頸部簾状文 胴部外面下半縦ミガキ 内面ナデ | 70 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 2 | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | － | 〈20.2〉 | 口縁・胴部上半櫛描羽状文　頸部外面櫛描簾状文<br>口縁内面横ミガキ　胴部内面ナデ・ミガキ | 85 | 外面7.5YR5/6明褐色 |
| 3 | 弥生土器 | 甑 | 17.1 | 4.6 | 11 | 外面ミガキ　内面横ミガキ　全体に摩耗　底部中央に径8mm穿孔 | 70 | 外面7.5YR6/6橙色 |
| 4 | 弥生土器 | 壺 | － | [9] | 〈10.6〉 | 外面縦ミガキ　内面ハケナデ　全体に摩耗 | 底部～胴下半片 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| 5 | 弥生土器 | 壺 | － | 5.2 | 〈6.7〉 | 外面ハケ目　底部周辺ヘラケズリ　内面ナデ | 底部～胴下半片 | 外面10YR8/3浅黄橙色 |
| 6 | 弥生土器 | 壺 | － | 7 | 〈14.7〉 | 外面赤色塗彩　内面ナデ | 底部～胴部片 | 外面10R4/3赤褐色 |
| 7 | 弥生土器 | 壺 | － | 15.5 | 〈4.6〉 | 外面ナデ　表面やや摩耗 | 底部のみ | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | |
| 8 | 石器 | すり石 | 8.7 | 7.4 | 5.3 | 全体にすり痕 | 405.73 | |

第29表　H26号住居址遺物観察表

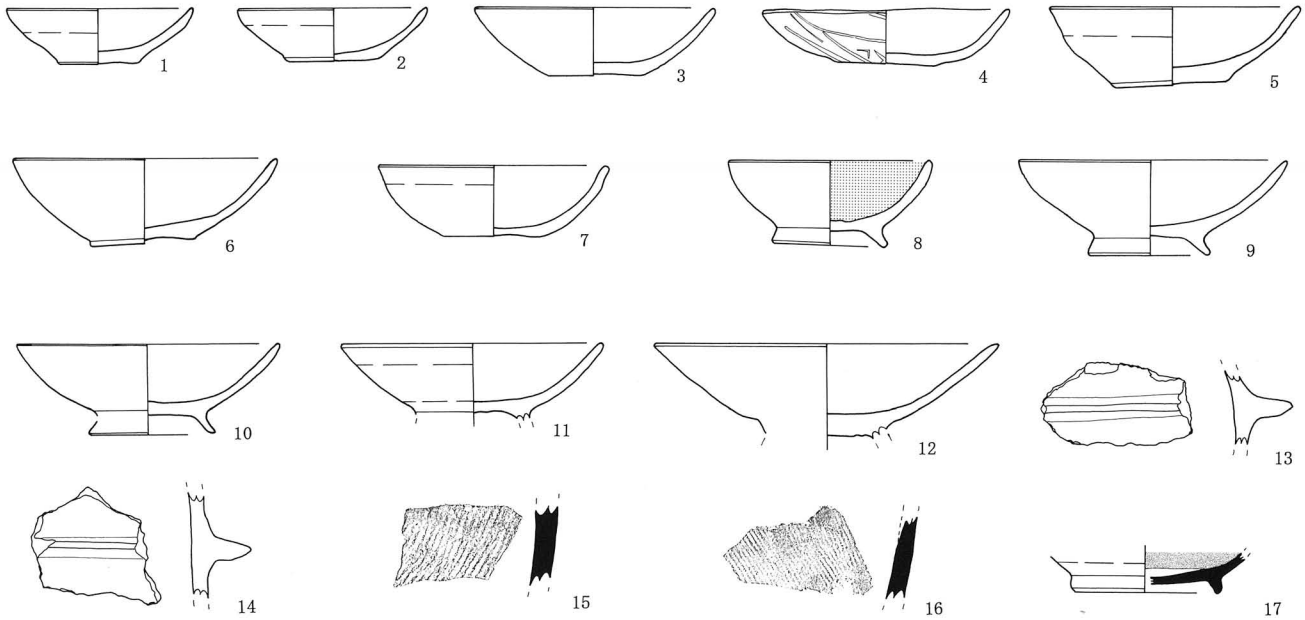
## H27号住居址




第48図　H27号住居址実測図

遺構はD－く－１グリッドに位置し、H28を切り、M４に切られる。平面形態は、ほぼ方形である。規模は南北3.4m、東西2.9m、確認面から床面までの深さは最深で５cmを測る。遺構の上部の大半は圃場整備によって削り取られた状態である。ピットは土坑状のものを含め３個認められたが、主柱穴らしきピットは確認できなかった。カマドは東壁の南に位置し、カマドの北側から北西コーナーにかけて壁溝が存在した。カマドは大半が破壊され、火床及び壁外への張り出しが確認できた。

遺物は土師器の坏・碗・甕・羽釜、須恵器の甕、灰釉陶器が出土した。土師器坏は薄く、開き気味に立ち上がり、上からやや押しつぶした状態のものと径10cm程度の小型が存在する。通常サイズの坏は全体的にいびつな形態が目立つ。土師器碗の坏部形態は、坏とほぼ同様の様相で、高台は「ハ」の字状に開く。足高は認められない。土師器の羽釜と識別できるものは、鍔部分の破片で、体部からの張り出しは２cm程度である。灰釉陶器は底部周辺の破片のため、碗か皿かは判別できない。施釉方法は漬け掛けで、高台は三日月状ほどではないが内側はやや反りを見せる。時期は押しつぶされたような形状の土師器坏・碗、小型化した坏・碗が含まれることから、平安時代、10世紀としたい。




第49図　H27号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 9.8 | 4.3 | 2.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　口唇部１カ所に煤付着 | 99 | 内外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 9.9 | 4.8 | 2.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 70 | 内外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 5 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 99 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 13 | 5.4 | 3.1 | 底部回転糸切り　器形全体にゆがみ　外面にヘラによる刻み痕 | 100 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 13 | 5.8 | 4.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面5YR6/3にぶい橙色 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 13.6 | 5.5 | 4.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面5YR6/3にぶい橙色 |
| 7 | 土師器 | 坏 | 13 | 5.8 | 4.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　平面楕円状 | 80 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 8 | 土師器 | 碗 | 10.6 | 6.1 | 4.6 | 内外面ロクロナデ　内面黒色処理　口唇部煤付着　高台貼付 | 90 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 9 | 土師器 | 碗 | 14 | 6.4 | 5.1 | 内外面ロクロナデ　高台貼付 | 90 | 内外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 10 | 土師器 | 碗 | 13.7 | [6.6] | 4.8 | 内外面ロクロナデ　高台8割欠損 | 90 | 外面2.5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 11 | 土師器 | 碗 | 13.8 | － | 〈3.9〉 | 内外面ロクロナデ　高台欠損 | 90 | 内外面5YR4/2灰褐色 |
| 12 | 土師器 | 碗 | 18.1 | － | 〈5〉 | 内外面ロクロナデ　高台欠損 | 70 | 外面5YR4/4にぶい赤褐色 |
| 13 | 土師器 | 羽釜 | － | － | － | 鍔貼付No.14と同一個体の可能性あり。 | 鍔周辺破片 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| 14 | 土師器 | 羽釜 | － | － | － | 鍔貼付No.13と同一個体の可能性あり。 | 鍔周辺破片 | 外面5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 15 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面平行叩き | 破片 | 外面N3/0暗灰色 |
| 16 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面平行叩き | 破片 | 外面7.5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色 |
| 17 | 灰釉陶器 | 碗？ | － | [7.9] | 〈1.8〉 | ロクロナデ　高台貼付　漬け掛け | 高台～体部破片 | 外面2.5Y7/1灰白色 |

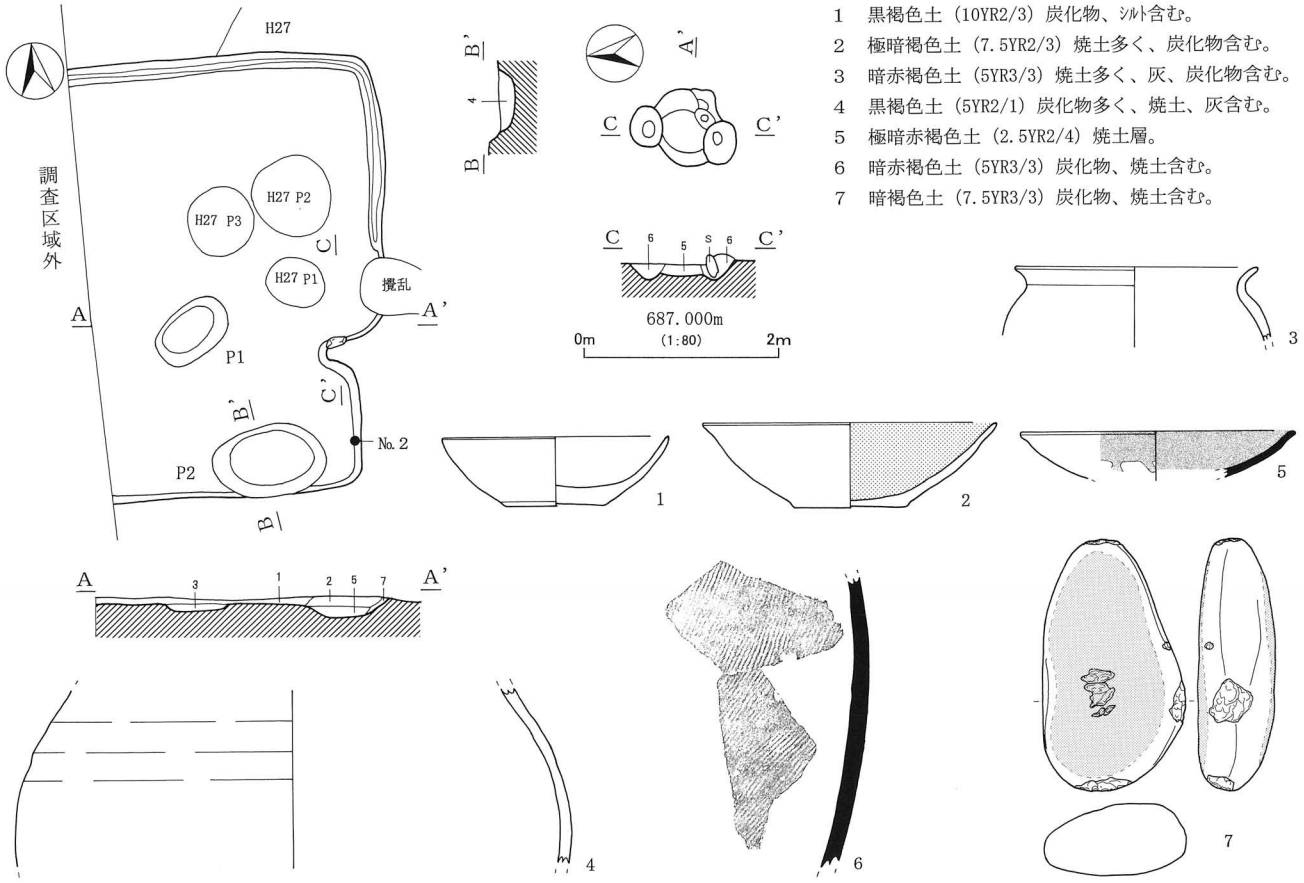
第30表　H27号住居址遺物観察表

H28号住居址

遺構はD－け－２グリッドに位置し、H27、M４に切られ、西側は調査区域外となる。平面形態は方形又は長方形と思われる。規模は南北4.5m、東西は調査規模で最大3.2m、確認面から床面までの深さは最大10cmを測る。床面は土間状の硬質面を持ち東壁から北壁にかけて壁際に溝が巡る。ピットは２個確認できた。Ｐ２は位置的に貯蔵穴と思われる。確実に主柱穴と呼べるピットは確認できなかった。カマドは東壁の中央からやや南に位置するが、北側は攪乱に破壊されている。確認できたのは南袖と火床の一部である。硬質な床面直下は地山の砂礫層となり、明確な掘方の掘り込みは認められなかった。

遺物は土師器の坏・轆轤甕・小型甕、須恵器甕、灰釉陶器の皿、石器が出土した。小破片が大半を占める。土師器坏は切られるH27の坏に比べ形状が整い、作りは丁寧である。土師器轆轤甕及び須恵器甕は胴部の破片、灰釉陶器は口縁部の破片である。

時期は10世紀前半としたH27に切られること、土師器坏の形状から平安時代９世紀後半～10世紀前葉としたい。




第50図　H28号住居址遺構・遺物実測図

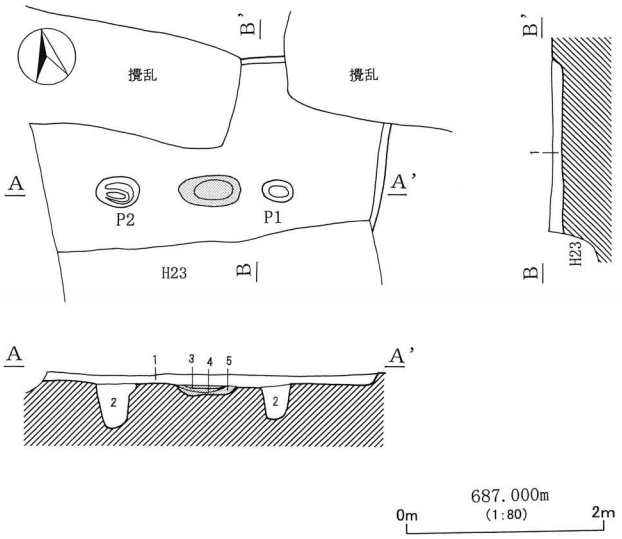
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | [11.8] | 5.4 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | [15.4] | 5.8 | 4.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 40 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |
| 3 | 土師器 | 小型甕 | [12.6] | － | 〈3.6〉 | 口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ | 口縁～胴部破片 | 内外面7.5YR4/3褐色 |
| 4 | 土師器 | 轆轤甕 | － | － | 〈9.3〉 | 外面上部ロクロナデ・下部ヘラケズリ　内面ハケ目 | 胴部破片 | 外面7.5YR6/6橙色 |
| 5 | 灰釉陶器 | 皿 | [14.4] | － | 〈2.5〉 | ロクロナデ | 口縁破片 | 外面10YR7/1灰白色 |
| 6 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面平行叩き　内面ナデ | 胴部破片 | 外面N4/1灰色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | |
| 7 | 石器 | すり・敲石 | 13.4 | 7.6 | 3.8 | 正・裏面にすり面　正面・側面に敲打痕 | 556.97 | Ⅰ区出土 |

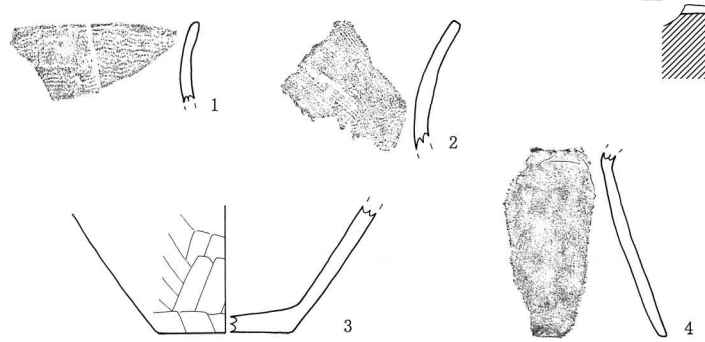
第31表　H28号住居址遺物観察表

H29号住居址

遺構はＢ－う－９グリッドに位置し、南側はH23に切られ、北側は部分的に攪乱に破壊されている。確認できた範囲は住居址北側の一部である。調査規模は南北2.0m、東西3.6m、確認面から床面までの深さは最大15cmを測る。床面は土間状に硬質で、住居址北側の主柱穴２個及びピット間の炉が確認できた。ピットの平面形態は東西方向に長い楕円形で深さは40～50cmを測る。炉の平面形態は東西に長い楕円形で、地面を10cm程度掘り窪めた地床炉である。炉内の焼土を除去した壁面及び底面は焼土化し硬質であった。

遺物は弥生土器の表面に櫛描きされた甕・赤色塗彩された高坏が出土した。時期は赤色塗彩された土器、櫛描簾状文・櫛描波状文を施す甕、北側主柱穴と思われるピットの間に炉が設置されているといった状況から、弥生時代後期としたい。



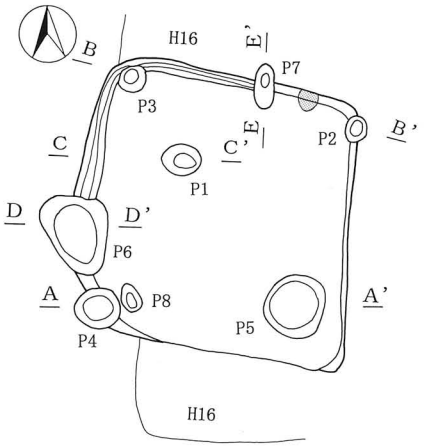
1　暗褐色土（7.5YR3/3）炭化物含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
3　暗赤褐色土（5YR3/2）炭化物、焼土含む。
4　赤褐色土（2.5YR4/8）　炉焼け込み。
5　暗赤褐色土（2.5YR3/3）炉焼け込み。

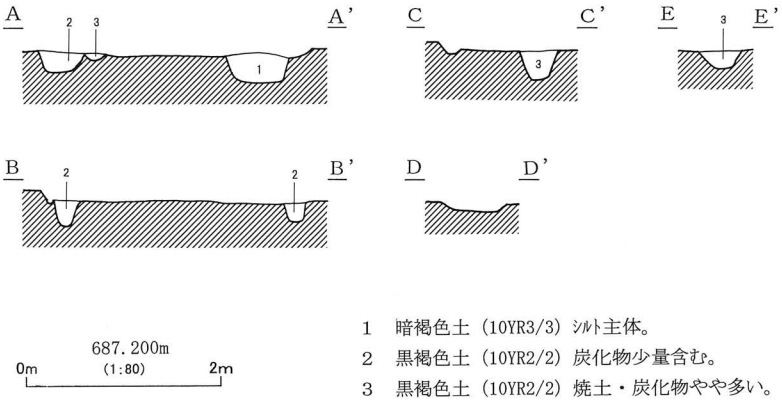
第51図　H29号住居址遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 甕 | － | － | － | 外面櫛描波状文 | 口縁破片 | 外面5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 2 | 弥生土器 | 甕 | － | － | － | 外面櫛描横線文・櫛描斜線文 | 口縁破片 | 外面5YR4/4にぶい赤褐色 |
| 3 | 弥生土器 | 甕 | － | [7.1] | 〈6.5〉 | 外面ミガキ・摩耗 | 底部～胴下半破片 | 外面5YR5/6明赤褐色 |
| 4 | 弥生土器 | 高坏 | － | － | － | 脚部外面赤色塗彩　脚部内面下半赤色塗彩 | 脚部破片 | 外面2.5YR5/6明赤褐色 |

第32表　H29号住居址遺物観察表

H30号住居址

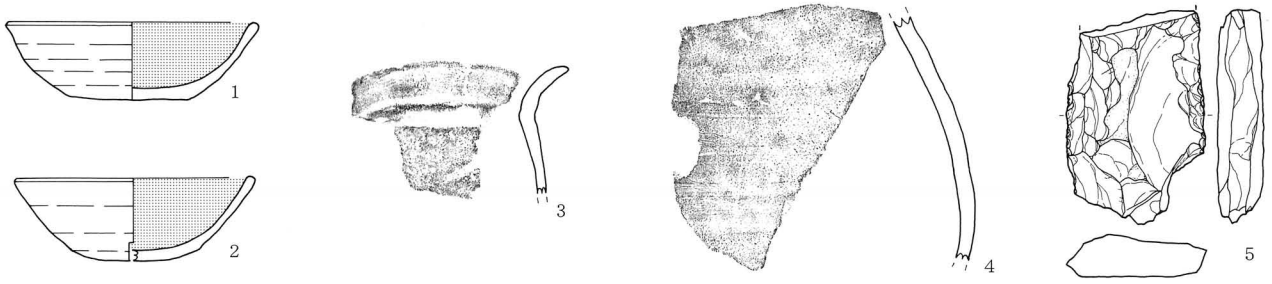



1　暗褐色土（10YR3/3）ｼﾙﾄ主体。
2　黒褐色土（10YR2/2）炭化物少量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）焼土・炭化物やや多い。

第52図　H30号住居址実測図

遺構はD－あ－１グリッドに位置し、D29に切られる。平面形態は方形である。規模は南北2.9m、東西2.8mを測る。検出段階ですでに床面が露出又は削られた状態で、生活面の詳細は不明である。北壁の東寄りに焼土の堆積が認められた。ピットは大小８個確認できたが、性格の断定はできない。遺物は土師器の坏・甕・轆轤甕、石器が出土している。土師器坏はやや厚手で、内面黒色処理を施す。土師器轆轤甕は胴部の破片である。時期は土師器坏の特徴から平安時代９世紀後半～10世紀前半としたい。



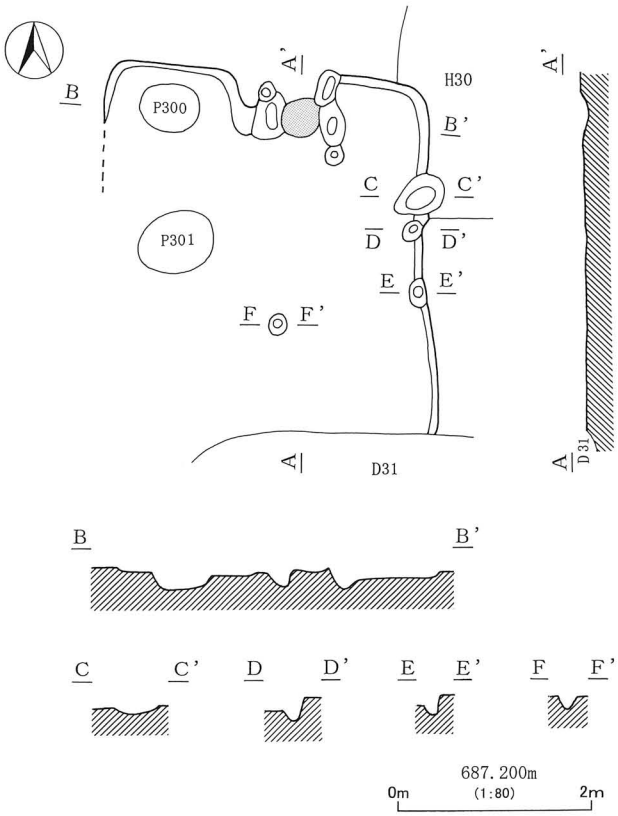

第53図　H30号住居址遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.3 | 6.2 | 4.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 90 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | [12.6] | [14.2] | 〈4.5〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 25 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| 3 | 土師器 | 甕 | － | － | 〈6.6〉 | 口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ | 口縁破片 | 外面2.5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 4 | 土師器 | 轆轤甕 | － | － | － | 外面ロクロナデ | 胴部破片 | 外面5YR5/8明赤褐色 |
| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量(g) | |
| 5 | 石器 | 打製石斧 | 〈11.3〉 | 〈7.4〉 | 〈2.4〉 | 基部・先端部欠損　全体に摩滅 | 276.23 | 混入遺物 |

第33表　H30号住居址遺物観察表

H31号住居址

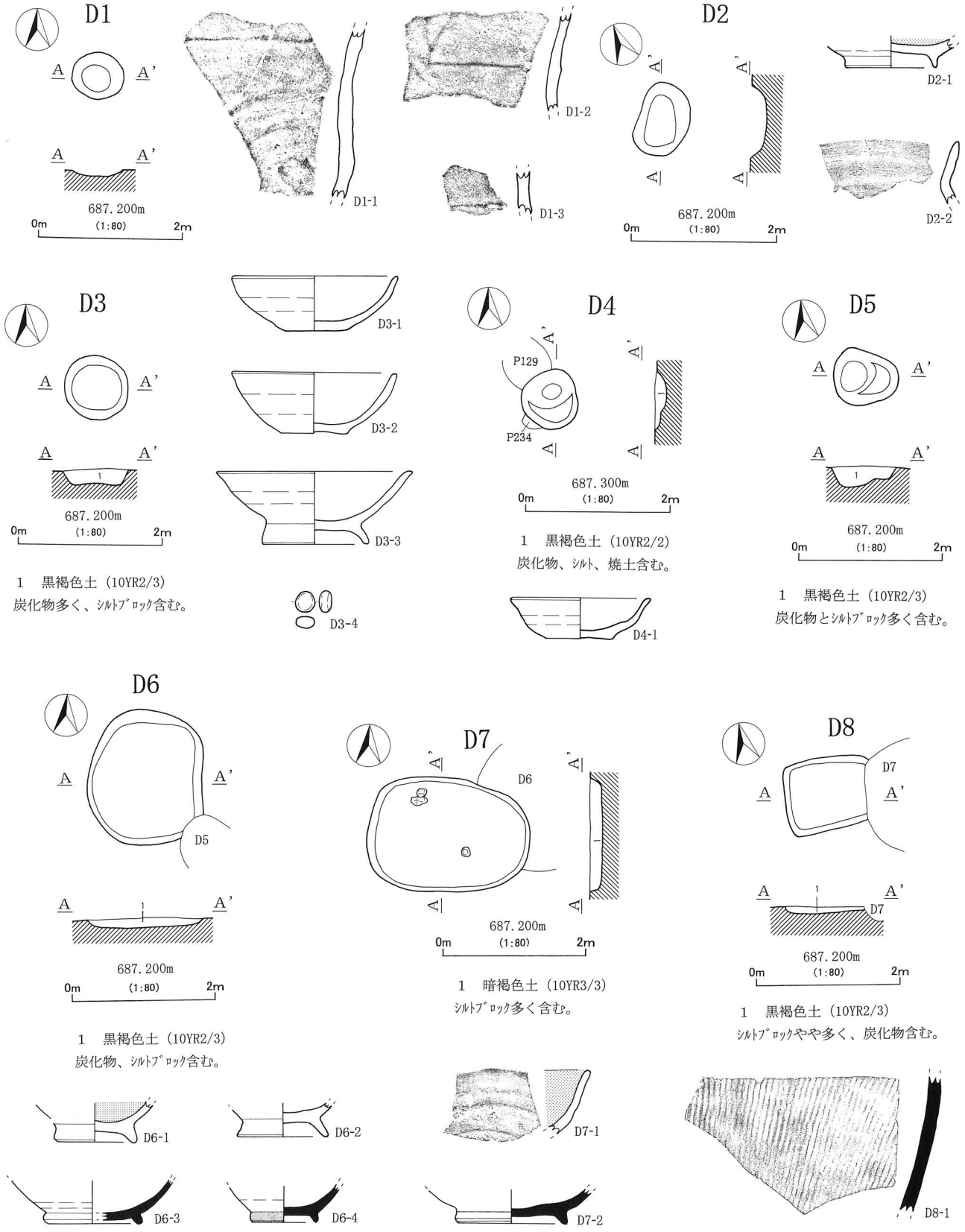
遺構はD－い－１グリッドに位置する。遺構上部の大半は削り取られ、確認できたのはカマドと住居址北側の掘方部分である。床面は完全に削り取られている。カマドは北壁中央に構築され、円形の火床が残存していた。ピットは４個確認できたが、本住居址に伴うかは断定できない。



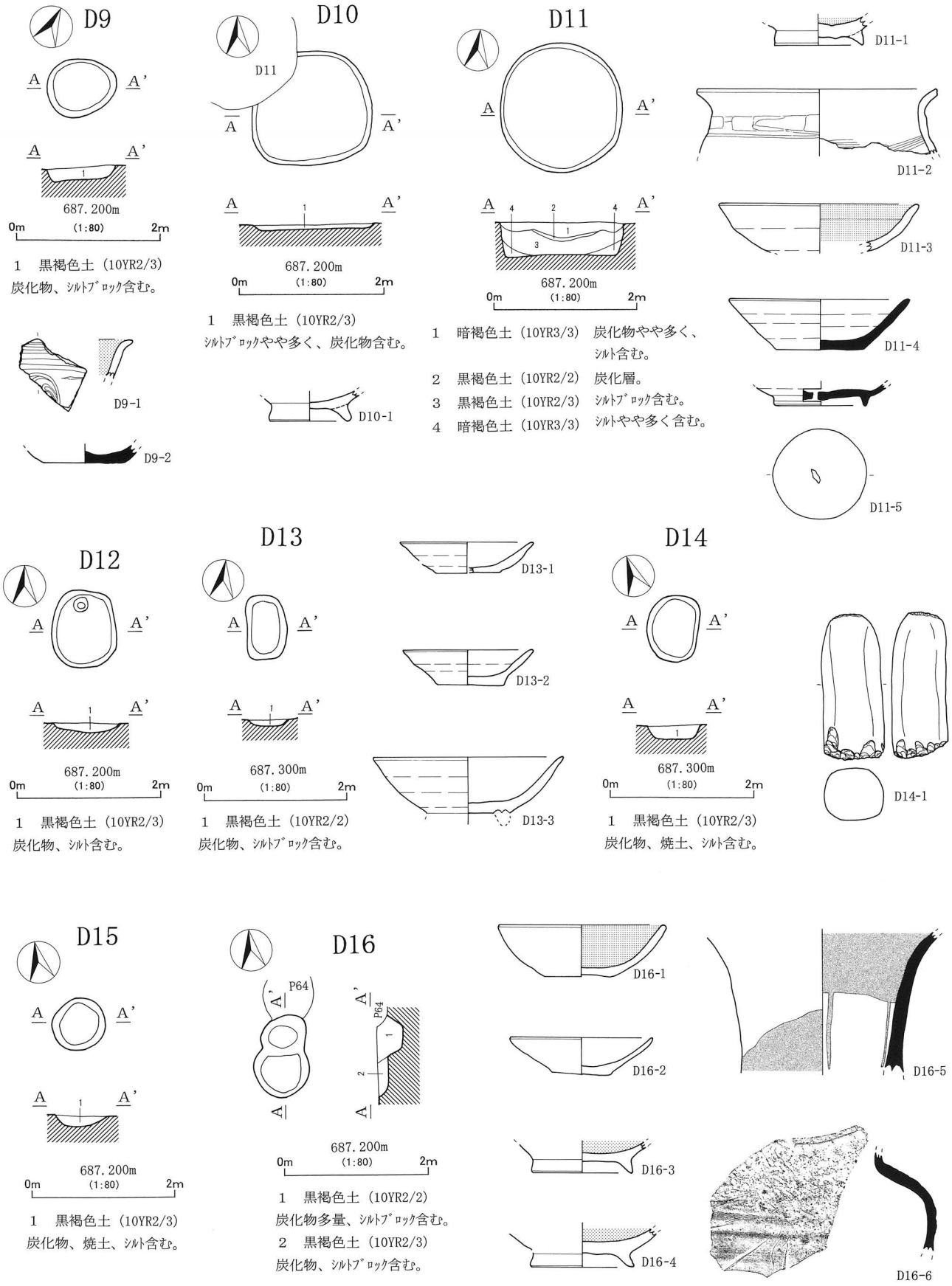

第54図　H31号住居址実測図

## 第２節　土坑

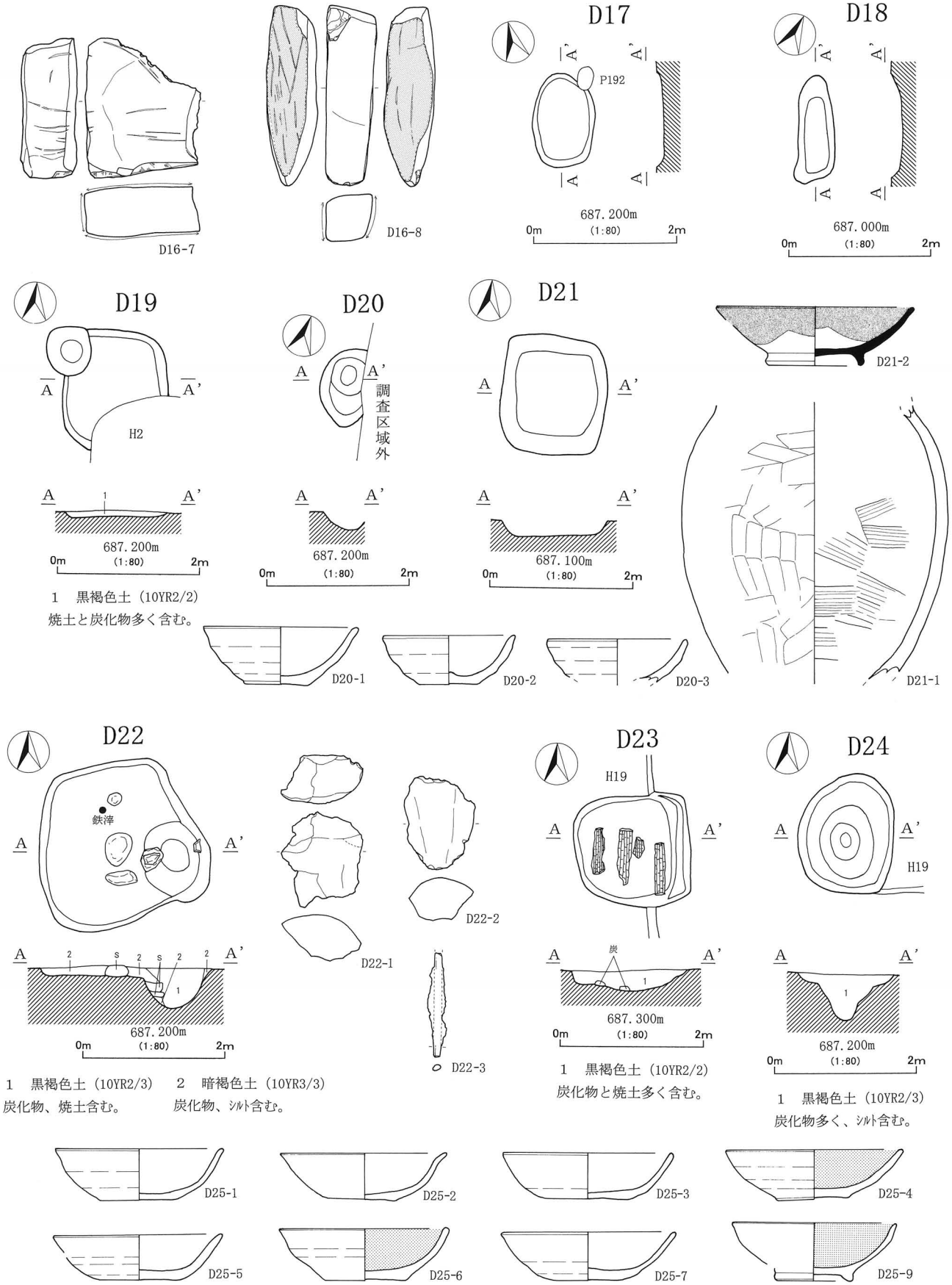
ピットと区別するため、直径80cmを越える掘り込みを土坑として取り扱った。



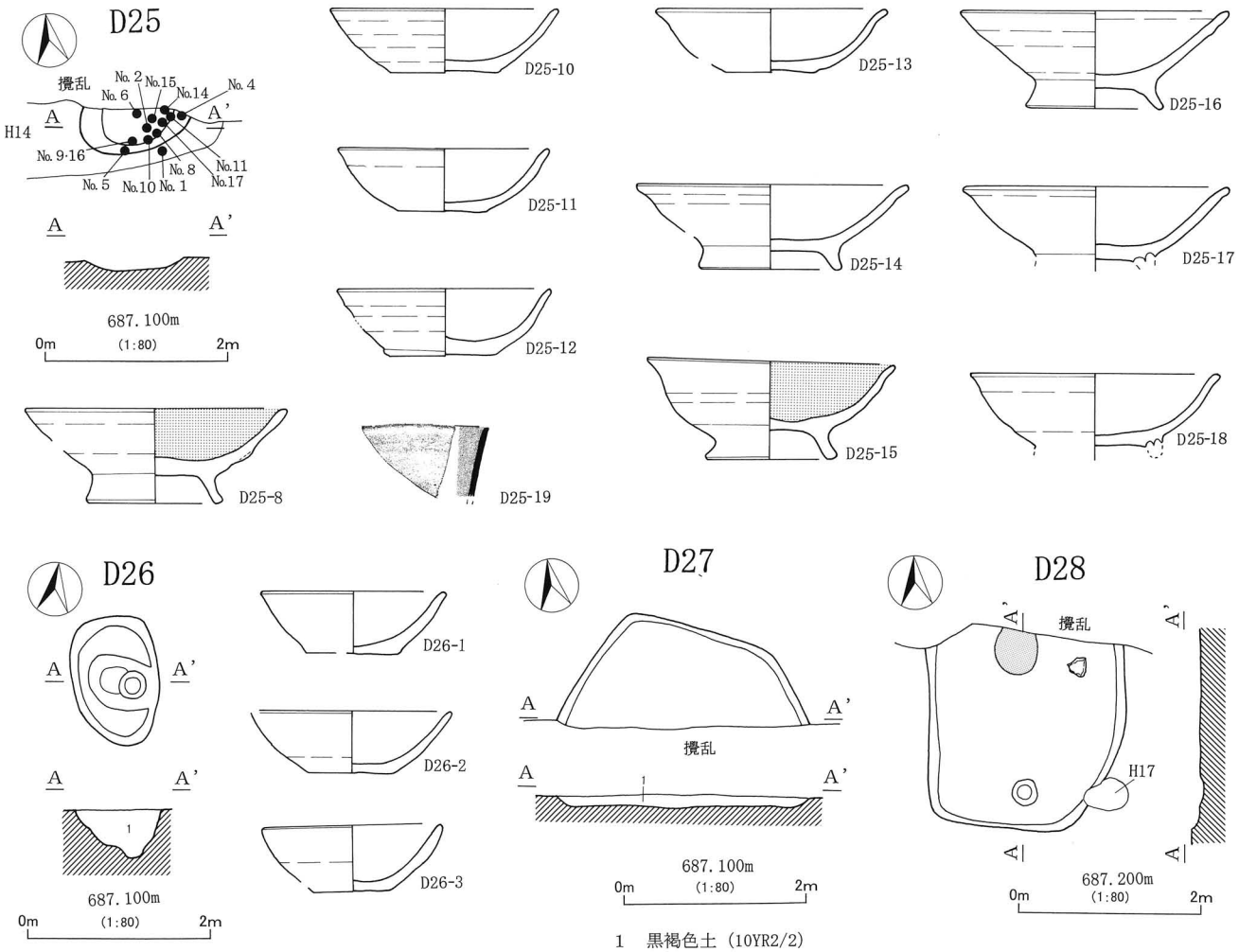

第55図　土坑　遺構・遺物実測図（１）

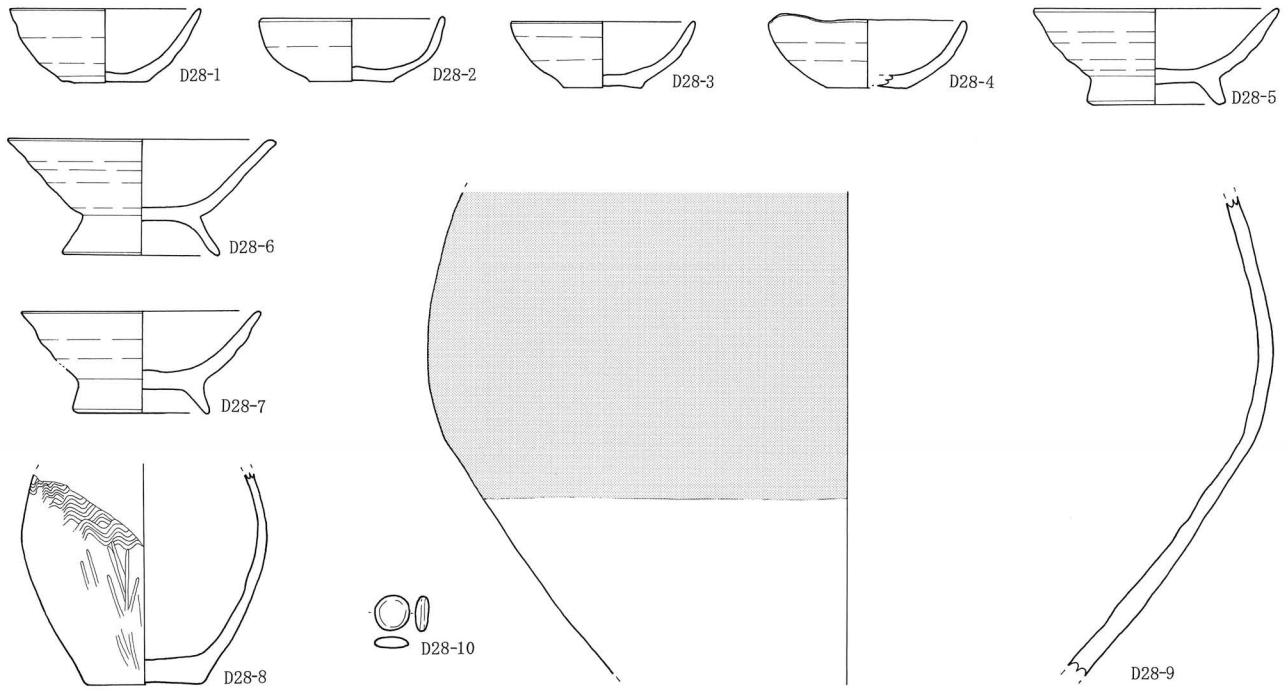



第56図　土坑　遺構・遺物実測図（2）

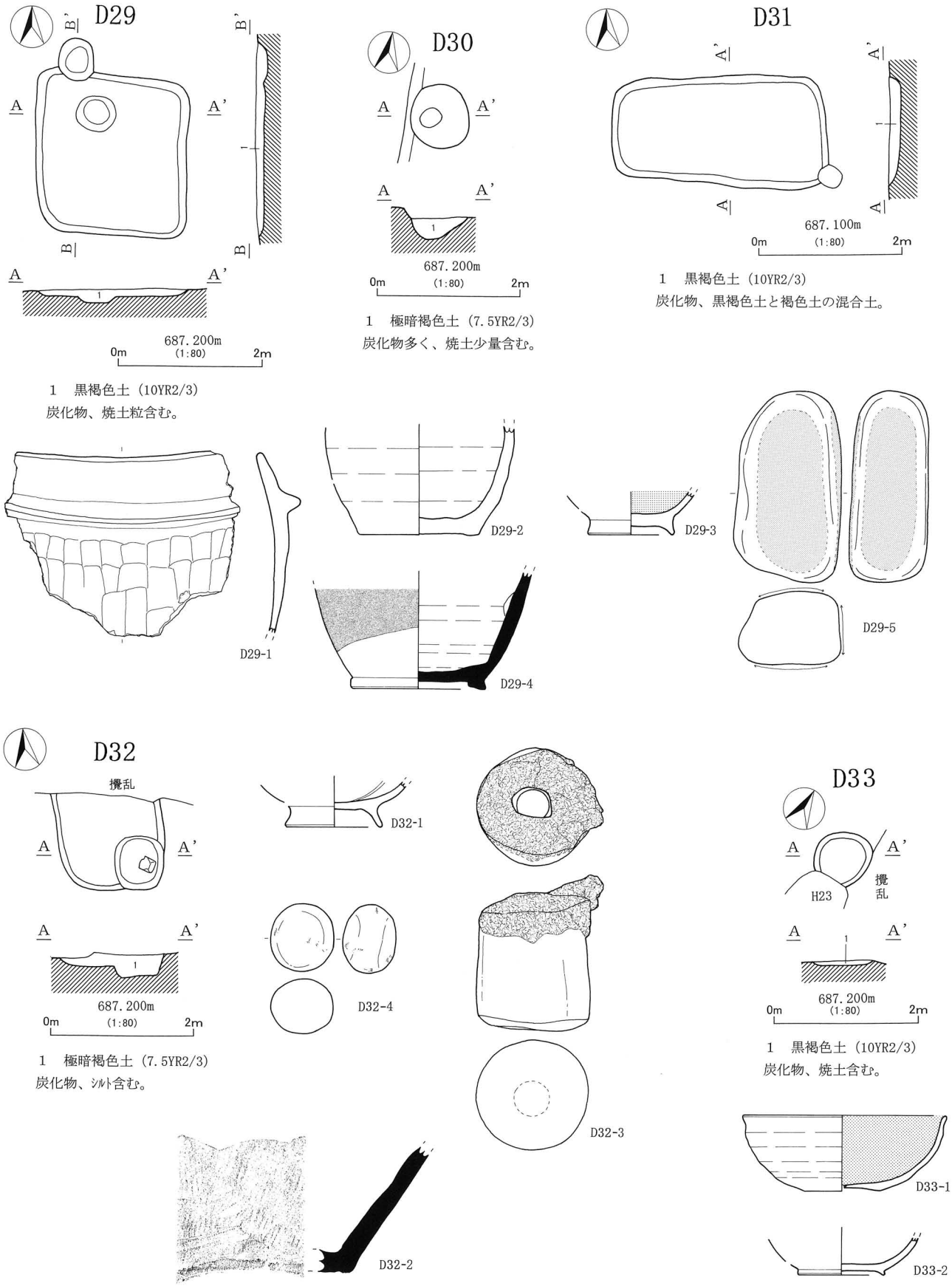



第57図　土坑　遺構・遺物実測図（3）

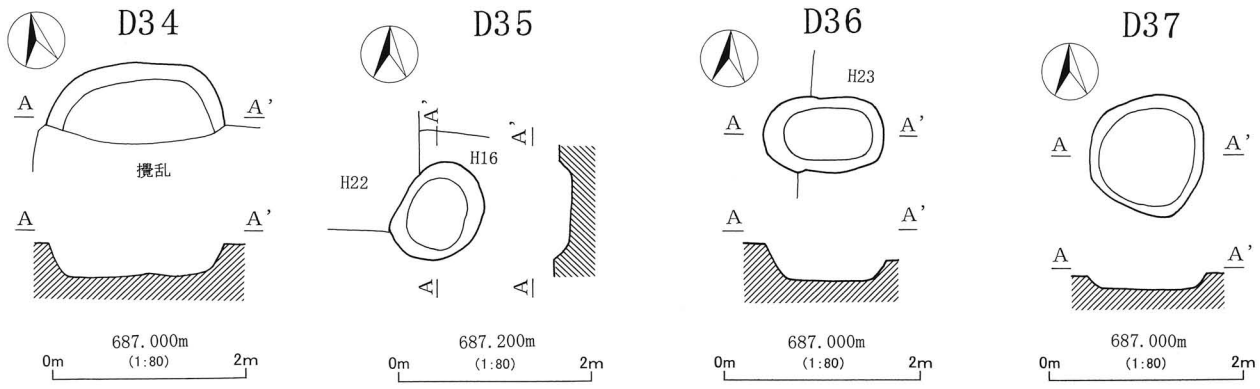



第58図　土坑　遺構・遺物実測図（4）




第59図　土坑　遺構・遺物実測図（5）




第60図　土坑実測図（6）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D1-1 | 縄文土器 | 深鉢 | － | － | － | 外面横線・弧状隆帯による文様　表面摩耗 | 破片 | 外面5YR6/6橙色 |
| D1-2 | 縄文土器 | 深鉢 | － | － | － | 外面隆帯による文様　表面摩耗 | 破片 | 外面5YR6/6橙色 |
| D1-3 | 縄文土器 | 深鉢 | － | － | － | 外面隆帯による文様　表面摩耗 | 破片 | 外面5YR6/6橙色 |
| D2-1 | 土師器 | 碗 | － | [6.6] | 〈2〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台50 | 外面5YR7/3にぶい橙色 |
| D2-2 | 土師器 | 轆轤甕 | － | － | － | 口縁横ナデ | 口縁破片 | 外面5YR7/4にぶい橙色 |
| D3-1 | 土師器 | 坏 | [11.5] | 4.5 | 3.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| D3-2 | 土師器 | 坏 | 11.5 | 4.6 | 4.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| D3-3 | 土師器 | 碗 | 13.6 | 7.4 | 5.1 | 内外面ロクロナデ　底部高台貼付 | 90 | 内外面7.5YR7/6橙色 |
| D4-1 | 土師器 | 坏 | 9.9 | 4.7 | 2.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 内外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| D6-1 | 土師器 | 碗 | － | 5.9 | 〈2.9〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| D6-2 | 土師器 | 碗 | － | 6.4 | 〈2.4〉 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 底部・高台100 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| D6-3 | 灰釉陶器 | 碗 | － | [7] | 〈3〉 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 底部・高台50 | 内外面N8/0灰白色 |
| D6-4 | 灰釉陶器 | 碗 | － | 6.4 | 〈2.4〉 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 底部・高台80 | 内外面5Y7/1灰白色 |
| D7-1 | 土師器 | 坏 | － | － | － | 外面横ナデ　内面黒色処理 | 口縁破片 | 外面7.5YR7/6橙色 |
| D7-2 | 灰釉陶器 | 碗 | － | [8] | 〈2.5〉 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 底部・高台50 | 内外面10YR7/1灰白色 |
| D8-1 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 外面縄目平行叩き | 胴部破片 | 外面N3/0暗灰色 |
| D9-1 | 土師器 | 坏 | － | － | － | 内外面黒色処理　内面暗文 | 口縁破片 | 内外面10YR1.7/1黒色 |
| D9-2 | 須恵器 | 坏 | － | 5.4 | 〈1.2〉 | 底部回転糸切り | 底部100 | 外面10YR5/1褐灰色 |
| D10-1 | 土師器 | 碗 | － | 5.8 | 〈2.2〉 | 高台貼付 | 底部・高台100 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| D11-1 | 土師器 | 碗 | － | 6.3 | 〈2〉 | 高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台90 | 外面5YR7/4にぶい橙色 |
| D11-2 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 口縁横ナデ　口辺外面横ナデ | 口縁破片 | 内外面7.5YR6/6橙色 |
| D11-3 | 土師器 | 坏 | [14.2] | － | 〈3.5〉 | 外面ロクロナデ　内面黒色処理 | 口縁破片 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| D11-4 | 須恵器 | 坏 | [12.8] | [6.3] | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 口縁～底部破片 | 外面10YR6/1褐灰色 |
| D11-5 | 灰釉陶器 | 皿 | － | [6.7] | 〈1.6〉 | 高台貼付　漬け掛け | 口縁・底部90 | 内外面5Y8/1灰白色 |
| D13-1 | 土師器 | 坏 | 9.5 | [4.7] | 2.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面5YR5/6明赤褐色 |
| D13-2 | 土師器 | 坏 | 9.4 | 5 | 2.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 内外面2.5YR6/6橙色 |
| D13-3 | 土師器 | 碗 | [13.5] | [6] | 〈4〉 | 内外面ロクロナデ　底部高台はがれ | 50 | 外面5YR6/6橙色 |
| D16-1 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 5 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 100 | 外面5YR7/3にぶい橙色 |
| D16-2 | 土師器 | 坏 | 10.2 | 4.3 | 2.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 内外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| D16-3 | 土師器 | 碗 | － | 7.2 | 〈2.1〉 | 底部高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面5YR7/4にぶい橙色 |
| D16-4 | 土師器 | 碗 | － | 7.4 | 〈2.6〉 | 底部高台貼付　内外面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面7.5YR1.7/1黒色 |
| D16-5 | 灰釉陶器 | 甕 | － | － | 〈10〉 | 内外面ロクロナデ・灰釉付着 | 頸部破片 | 内外面2.5Y7/1灰白色 |
| D16-6 | 須恵器 | 壺 | － | － | 〈7〉 | 内外面ロクロナデ　肩部自然釉薬付着 | 肩部破片 | 外面N3/0暗灰色 |
| D20-1 | 土師器 | 坏 | 11 | 4.6 | 4.1 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 外面7.5YR6/3にぶい褐色 |
| D20-2 | 土師器 | 坏 | 9.6 | 4.3 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 外面5YR6/4にぶい橙色 |
| D20-3 | 土師器 | 坏 | 10 | － | 〈3.1〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 底部欠損 | 外面7.5YR6/6橙色 |
| D21-1 | 土師器 | 甕 | － | － | 〈19.4〉 | 外面ヘラケズリ　内面ナデ・黒色 | 胴部破片 | 外面10YR2/2黒褐色 |
| D21-2 | 灰釉陶器 | 碗 | [14.1] | 6.8 | 4.2 | 内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ後高台貼付　漬け掛け | 60 | 内外面10YR8/1灰白色 |
| D25-1 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 5.6 | 3.8 | 内画面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| D25-2 | 土師器 | 坏 | 12 | 5 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 内外面5YR7/4にぶい橙色 |

第34表　土坑遺物観察表（1）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D25-3 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 6.3 | 3.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 内外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| D25-4 | 土師器 | 坏 | 12.8 | 5.3 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 70 | 外面7.5YR5/4にぶい褐色他 |
| D25-5 | 土師器 | 坏 | [12.2] | 5.8 | 3.3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面2.5YR4/4にぶい赤褐色 |
| D25-6 | 土師器 | 坏 | 12.2 | 5.7 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 70 | 外面5YR7/3にぶい橙色 |
| D25-7 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 5.2 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 60 | 外面5YR6/4にぶい橙色 |
| D25-8 | 土師器 | 碗 | [14.5] | 7.6 | 5.3 | 内外面ロクロナデ　高台貼付　内面黒色処理 | 60 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| D25-9 | 土師器 | 碗 | [11.8] | 5.6 | 9.2 | 内外面ロクロナデ　高台貼付　内面黒色処理 | 50 | 外面10YR8/3浅黄橙色 |
| D25-10 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 6 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| D25-11 | 土師器 | 坏 | 11.7 | 4.8 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 80 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| D25-12 | 土師器 | 坏 | 11.9 | 6.2 | 3.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| D25-13 | 土師器 | 坏 | [12.8] | 5 | 3.6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面5YR7/4にぶい橙色 |
| D25-14 | 土師器 | 碗 | [15.1] | 7.8 | 4.8 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付 | 40 | 内外面5YR7/4にぶい橙色 |
| D25-15 | 土師器 | 碗 | 13.7 | 7.2 | 5.5 | 内外面ロクロナデ　高台貼付　内面黒色処理 | 85 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| D25-16 | 土師器 | 碗 | 15 | 7.7 | 5.5 | 内外面ロクロナデ　高台貼付 | 80 | 内外面5YR7/4にぶい橙色 |
| D25-17 | 土師器 | 碗 | 14.9 | － | 〈4.2〉 | 内外面ロクロナデ　高台部欠損 | 80 | 外面10YR7/3にぶい黄橙色 |
| D25-18 | 土師器 | 碗 | 13.8 | － | 〈4〉 | 内外面ロクロナデ　高台部欠損 | 80 | 内外面7.5YR8/2灰白色 |
| D25-19 | 緑釉陶器 | 碗 | － | － | － | 内外面ロクロナデ | 口縁破片 | 内外面10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色 |
| D26-1 | 土師器 | 坏 | [10.2] | 5.2 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 30 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| D26-2 | 土師器 | 坏 | [11] | 4.8 | 〈3.5〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| D26-3 | 土師器 | 坏 | [9.9] | 4.1 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 30 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| D28-1 | 土師器 | 坏 | 10.1 | 4.6 | 4.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 85 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| D28-2 | 土師器 | 坏 | [9.6] | 4.4 | [3.3] | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面7.5YR8/2灰白色 |
| D28-3 | 土師器 | 坏 | 9.8 | 4.2 | 3.5 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 50 | 外面7.5YR7/3にぶい橙色 |
| D28-4 | 土師器 | 坏 | [10.3] | [4.2] | 3.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| D28-5 | 土師器 | 碗 | [12.9] | 7.3 | 5.1 | 内外面ロクロナデ　高台貼付 | 30 | 外面7.5YR6/2灰褐色 |
| D28-6 | 土師器 | 碗 | [14.2] | 8.3 | 6.1 | 内外面ロクロナデ　高台貼付 | 40 | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| D28-7 | 土師器 | 碗 | 12.6 | 7.2 | 5.5 | 内外面ロクロナデ　高台貼付 | 60 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| D28-8 | 弥生土器 | 甕 | － | 6.3 | 〈11.2〉 | 外面胴部上半櫛描波状文・下部縦ミガキ　内面ナデ | 底部～胴部破片 | 外面10YR4/3にぶい黄褐色 |
| D28-9 | 弥生土器 | 壺 | － | － | 〈25.4〉 | 外面赤色塗彩　表面摩耗 | 胴部破片 | 外面10R5/6赤色 |
| D29-1 | 土師器 | 羽釜 | － | － | － | 口縁横ナデ　鍔貼付　胴部縦ヘラケズリ | 口縁～胴部破片 | 外面7.5YR4/3褐色 |
| D29-2 | 土師器 | 轆轤甕 | － | 8.6 | 〈8.8〉 | ロクロ横ナデ　表面摩耗 | 底部～胴部の一部 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| D29-3 | 土師器 | 碗 | － | 6.2 | 〈3〉 | 高台貼付　内面黒色処理 | 底部・高台100 | 外面5YR5/4にぶい赤褐色 |
| D29-4 | 灰釉陶器 | 壺 | － | 9.6 | 〈8.3〉 | 内外面ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ　高台貼付 | 底部～胴部下半 | 内外面5Y7/2灰白色 |
| D32-1 | 土師器 | 碗 | － | 7 | 〈3.3〉 | 底部回転糸切り後高台貼付　内面暗文 | 底部・高台100 | 外面10YR8/3浅黄橙色 |
| D32-2 | 須恵器 | 甕 | － | － | 〈9〉 | 底部周辺ヘラケズリ　外面叩き　内面ナデ | 底部～胴部破片 | 外面5YR3/2暗赤褐色他 |
| D33-1 | 土師器 | 坏 | [12.4] | [5.4] | 5.5 | 外面ロクロナデ　内面黒色処理・暗文　底部回転糸切り | 25 | 外面2.5YR3/4暗赤褐色 |
| D33-2 | 土師器 | 碗 | － | 6.1 | 〈2.5〉 | 高台貼付　全体に摩耗 | 30 | 外面7.5YR6/4にぶい橙色 |

第35表　土坑遺物観察表（2）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　　整・文　　様 | 重量（g） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D14-1 | 石器 | 敲石 | 10.5 | 4.4 | 4 | 上下端部に敲打痕 | 316.25 | |
| D16-7 | 石製品 | 砥石 | 〈10.1〉 | 〈8.3〉 | 〈3.9〉 | ２面欠損　砥面４　３面に条痕あり | 447.65 | |
| D16-8 | 石器 | すり石 | 12.9 | 3.5 | 3.4 | ２面表面滑らか　２面条痕あり | 248.2 | |
| D22-1 | 土製品 | 羽口 | 〈3〉 | 〈2.8〉 | 1.5 | 外面削り後ナデ　内面ナデ | － | |
| D22-2 | 土製品 | 羽口 | 〈3.3〉 | 〈2.6〉 | 〈1.5〉 | 外面削り後ナデ　内面ナデ | － | |
| D28-10 | 石製品 | 碁石状 | 1.9 | 1.8 | 0.7 | 全体滑らか | 3.35 | |
| D29-5 | 石器 | すり石 | 13.7 | 7.7 | 5.3 | ３面滑らか | 911.83 | |
| D32-3 | 土製品 | 羽口 | 外径7～8.2 | 内径18～2.8 | 3 | 先端部還元　外面削り後ナデ | | |
| D32-4 | 石器 | すり石 | 4.9 | 4.5 | 3.9 | 全体に滑らか | 110.45 | |

第36表　土坑石器・石製品観察表

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　　整・文　　様 | 重量（g） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D22-3 | 鉄製品 | 角軸 | 〈7.4〉 | 〈0.5〉 | 〈0.5〉 | 両端欠損 | 8.9 | |

第37表　土坑鉄製品観察表

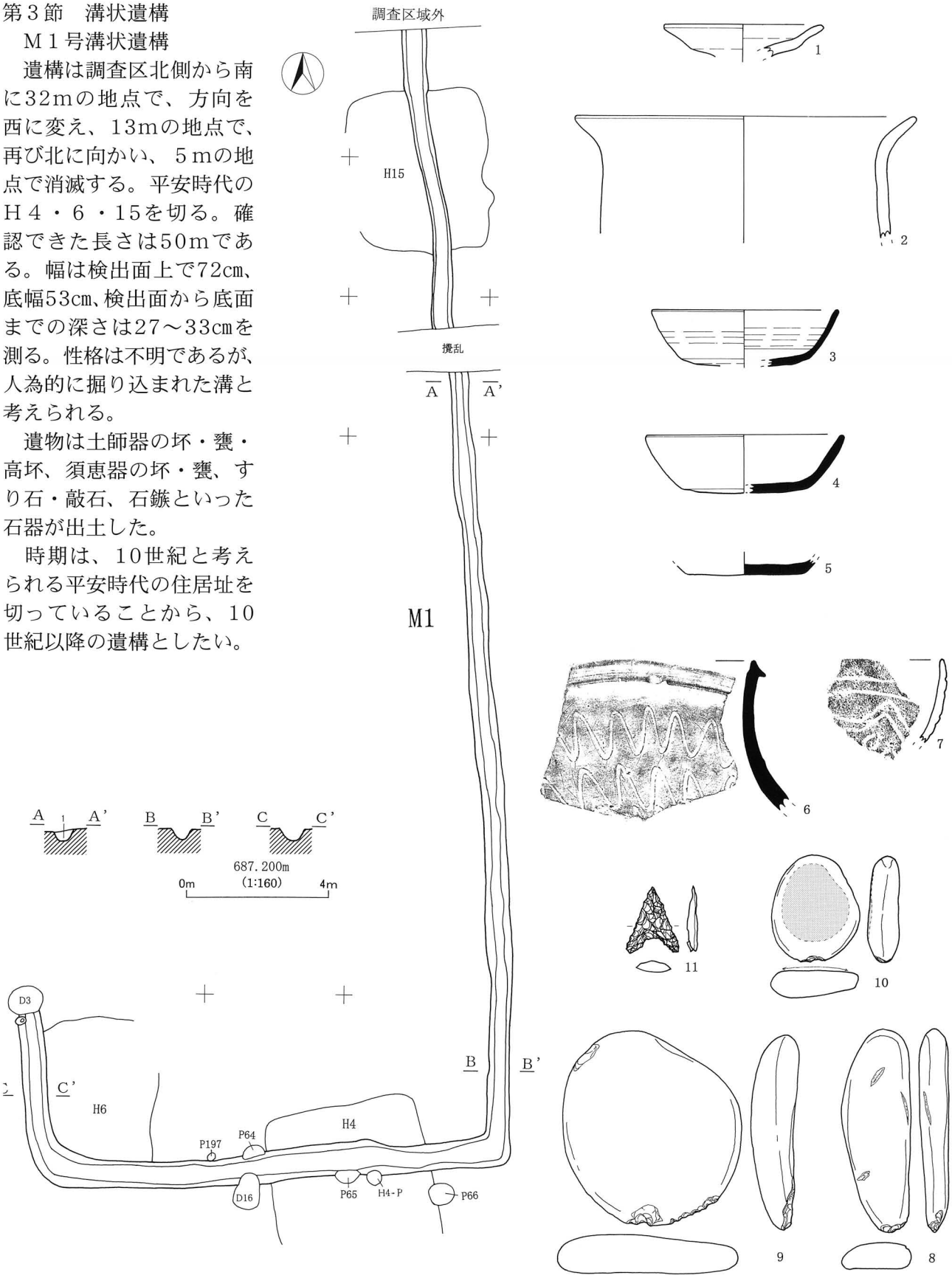
## 第３節　溝状遺構

### Ｍ１号溝状遺構

遺構は調査区北側から南に32ｍの地点で、方向を西に変え、13ｍの地点で、再び北に向かい、５ｍの地点で消滅する。平安時代のＨ４・６・15を切る。確認できた長さは50ｍである。幅は検出面上で72㎝、底幅53㎝、検出面から底面までの深さは27～33㎝を測る。性格は不明であるが、人為的に掘り込まれた溝と考えられる。

遺物は土師器の坏・甕・高坏、須恵器の坏・甕、すり石・敲石、石鏃といった石器が出土した。

時期は、10世紀と考えられる平安時代の住居址を切っていることから、10世紀以降の遺構としたい。




第61図　Ｍ１号溝状遺構　遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 残存率・部位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 調　整・文　様 | | | | | 備　考 |
| 1 | 土師器 | 坏 | [11.5] | － | 〈2.3〉 | 口縁40 |
| | 内外面ロクロナデ | | | | | 外面7.5YR5/4にぶい褐色 |
| 2 | 土師器 | 轆轤甕 | － | － | － | 口縁破片 |
| | 口縁内外面ロクロナデ | | | | | 外面5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 3 | 須恵器 | 坏 | [13.4] | [6] | 〈3.9〉 | 40 |
| | 内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ | | | | | 外面2.5Y7/1灰白色 |
| 4 | 須恵器 | 坏 | [14.2] | [8.9] | 4.2 | 40 |
| | 内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ | | | | | 外面5YR6/4にぶい橙色 |
| 5 | 須恵器 | 坏 | － | 8.4 | 〈1〉 | 底部100 |
| | 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ | | | | | 外面7.5YR7/2明褐灰色 |
| 6 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 口縁破片 |
| | 内外面ロクロナデ外面１単位ヘラ描波状文 | | | | | 外面7.5Y5/1灰色 |
| 7 | 縄文土器 | 不明 | － | － | － | 破片 |
| | 外面平行沈線文　楕円沈線文　小石多く含む | | | | | 外面7.5YR8/4浅黄橙色 |
| 番号 | 器種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 器高(cm) | 重量（g） |
| | 調　整・文　様 | | | | | 備　考 |
| 8 | 石器 | 敲石 | 14.6 | 4.8 | 1.9 | 159.85 |
| | 下部に敲打痕　正・裏面に条痕 | | | | | |
| 9 | 石器 | 敲石 | 14 | 12.9 | 2.8 | 603.45 |
| | 側面に敲打痕　全体に滑らか | | | | | |
| 10 | 石器 | すり・敲石 | 7.7 | 6.2 | 2 | 110.29 |
| | 側面に敲打痕　全体に滑らか | | | | | |
| 11 | 石器 | 石鏃 | 2.3 | 1.9 | 0.4 | 0.98 |
| | 無茎鏃 | | | | | |

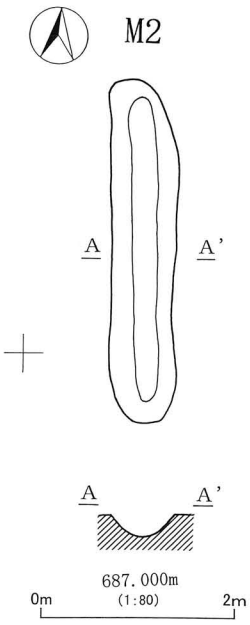
第38表　Ｍ１号溝状遺構遺物観察表

Ｍ２号溝状遺構

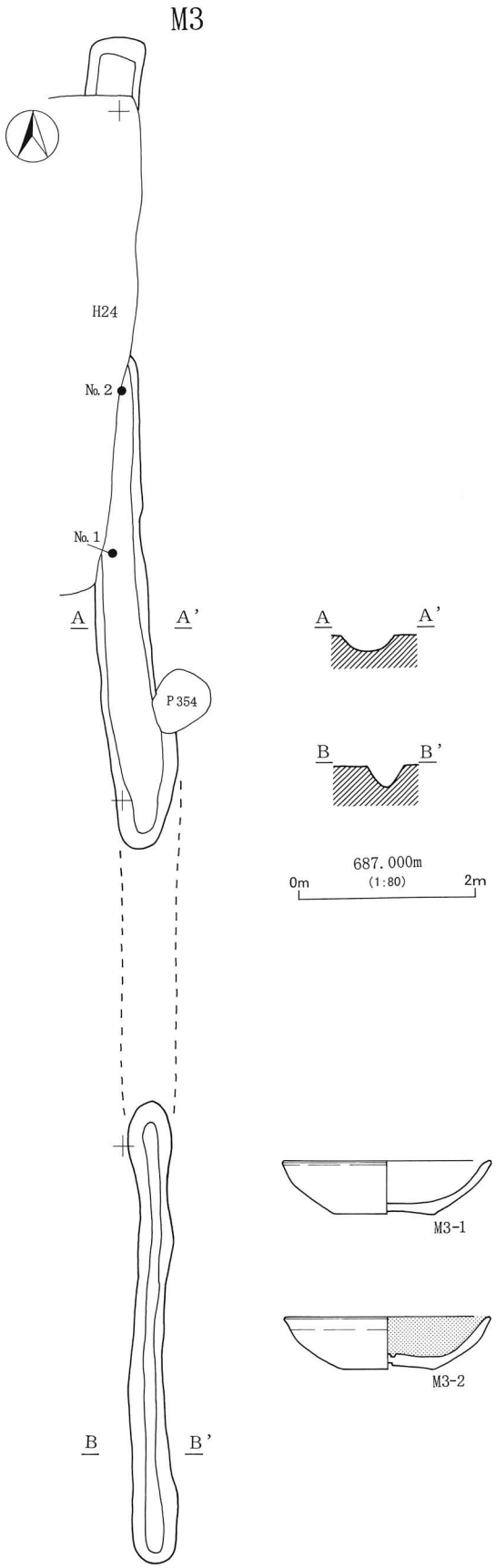
遺構は調査区西側のＤ－お－６グリッド付近に位置する。南北方向の溝と考えられるが、遺構の大半は圃場整備によって削り取られ、僅かな部分が残存している。確認できた規模は長さ3.7m、検出面上での幅62～72cm、底幅23～25cm、深さは24～26cmを測る。時期は不明である。

Ｍ３号溝状遺構

遺構は調査区西側に位置する。Ｍ２と並走した状態で存在した溝と考えられる。Ｍ３も圃場整備によって遺構の多くを削り取られ失っている。確認できた規模は長さ18m、検出面上での幅32～65cm、底幅12～48cm、深さは17～25cmを測る。時期は不明である。



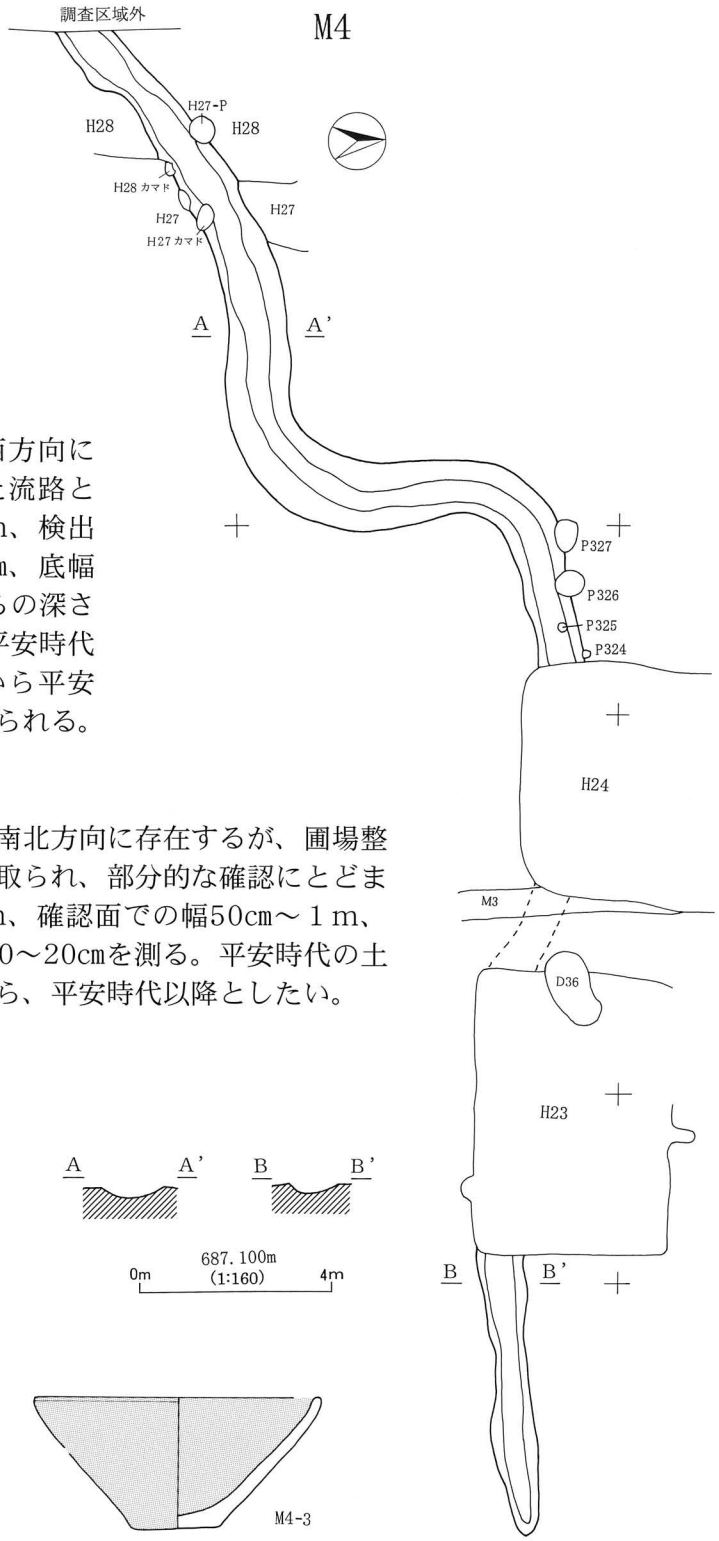

第62図　Ｍ２号溝状遺構実測図




第63図　Ｍ３号溝状遺構　遺構・遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　　整・文　　様 | 残存率・部位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 12 | 5.8 | 3.1 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面5YR5/4にぶい赤褐色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 11.9 | 5.3 | 3 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 100 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |

第39表　Ｍ３号溝状遺構遺物観察表

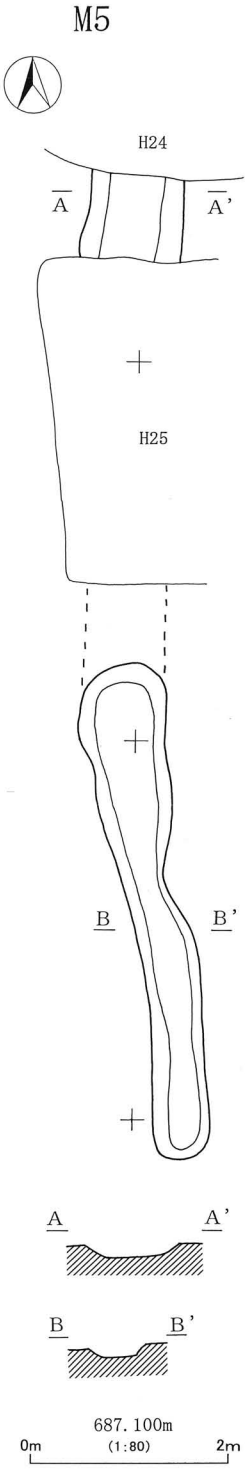



Ｍ４号溝状遺構

遺構は調査区を東西方向に蛇行しながら貫流した流路と考えられる。長さ37m、検出面上での幅70～140cm、底幅34～65cm、検出面からの深さは24～28cmを測る。平安時代の住居址を切ることから平安時代以降の流路と考えられる。

Ｍ５号溝状遺構

遺構は調査区西側を南北方向に存在するが、圃場整備によって大半が削り取られ、部分的な確認にとどまった。規模は長さ10m、確認面での幅50cm～１m、底幅22～56cm、深さ10～20cmを測る。平安時代の土器片が含まれることから、平安時代以降としたい。



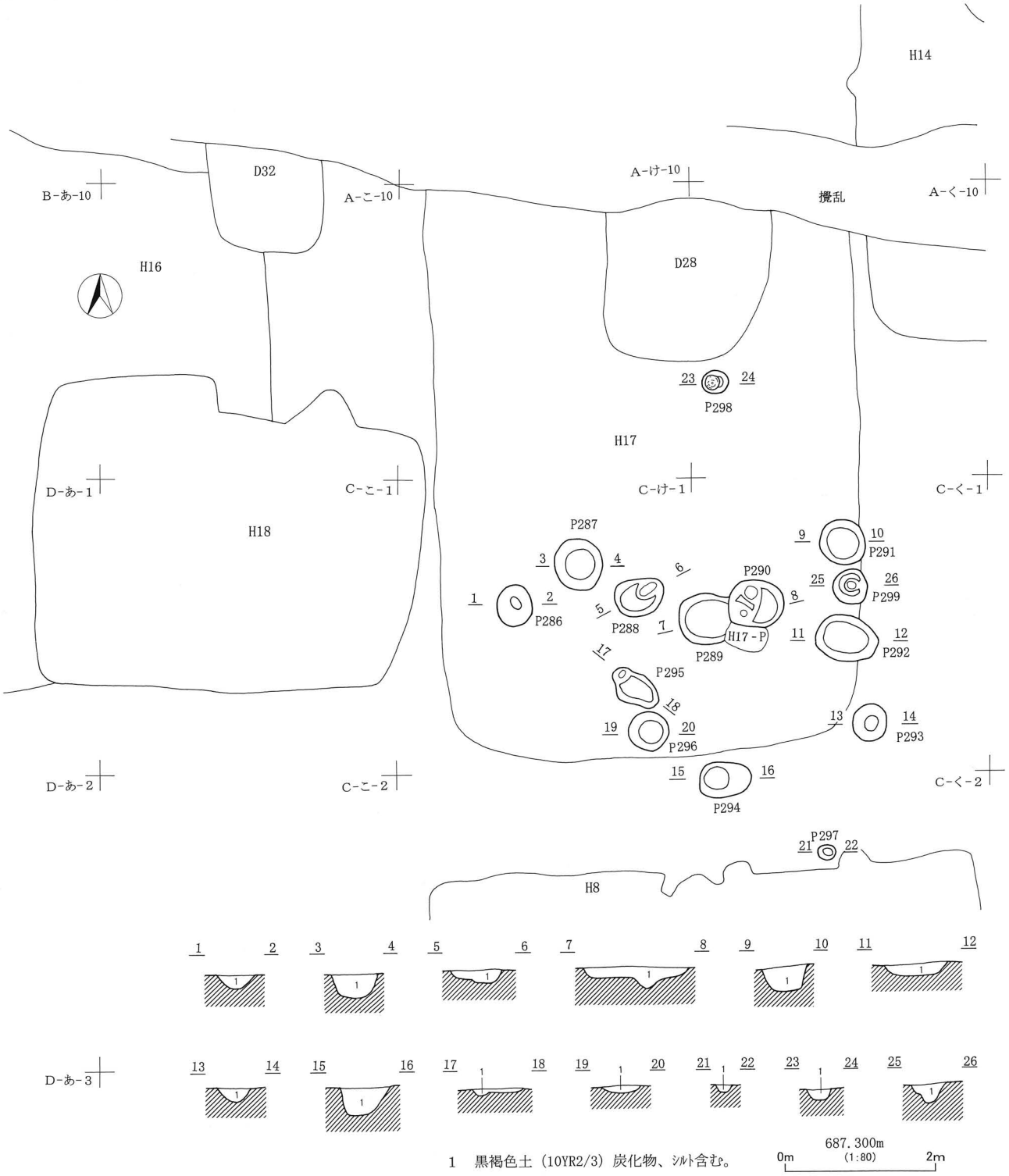

第64図　Ｍ４号溝状遺構　遺構・遺物実測図

第65図　Ｍ５号溝状遺構実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | [13.8] | 丸底 | 〈5.2〉 | 口縁内外面横ナデ　底部ヘラケズリ　内外面摩耗 | 口縁～底部破片 | 外面7.5YR7/4にぶい橙色 |
| 2 | 土師器 | 壺 | ― | 丸底 | 〈8〉 | 外面ヘラケズリ後ミガキ | 胴部破片 | 外面2.5YR6/6橙色 |
| 3 | 土師器 | 鉢 | [15.2] | 4.8 | 7.1 | 内外面赤色塗彩 | 30 | 外面7.5R4/6赤色 |

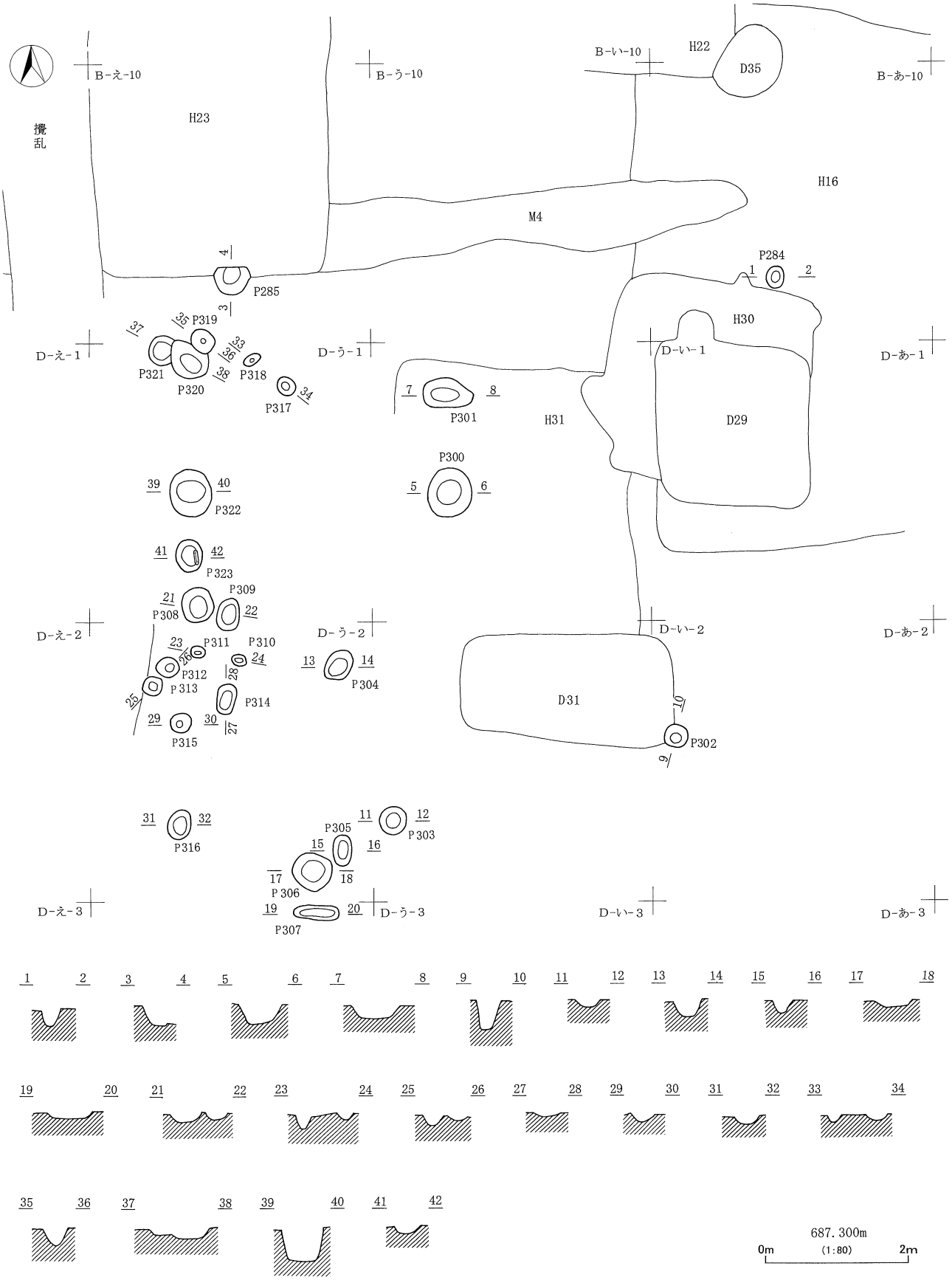
第40表　Ｍ４号溝状遺構遺物観察表

## 第４節　ピット

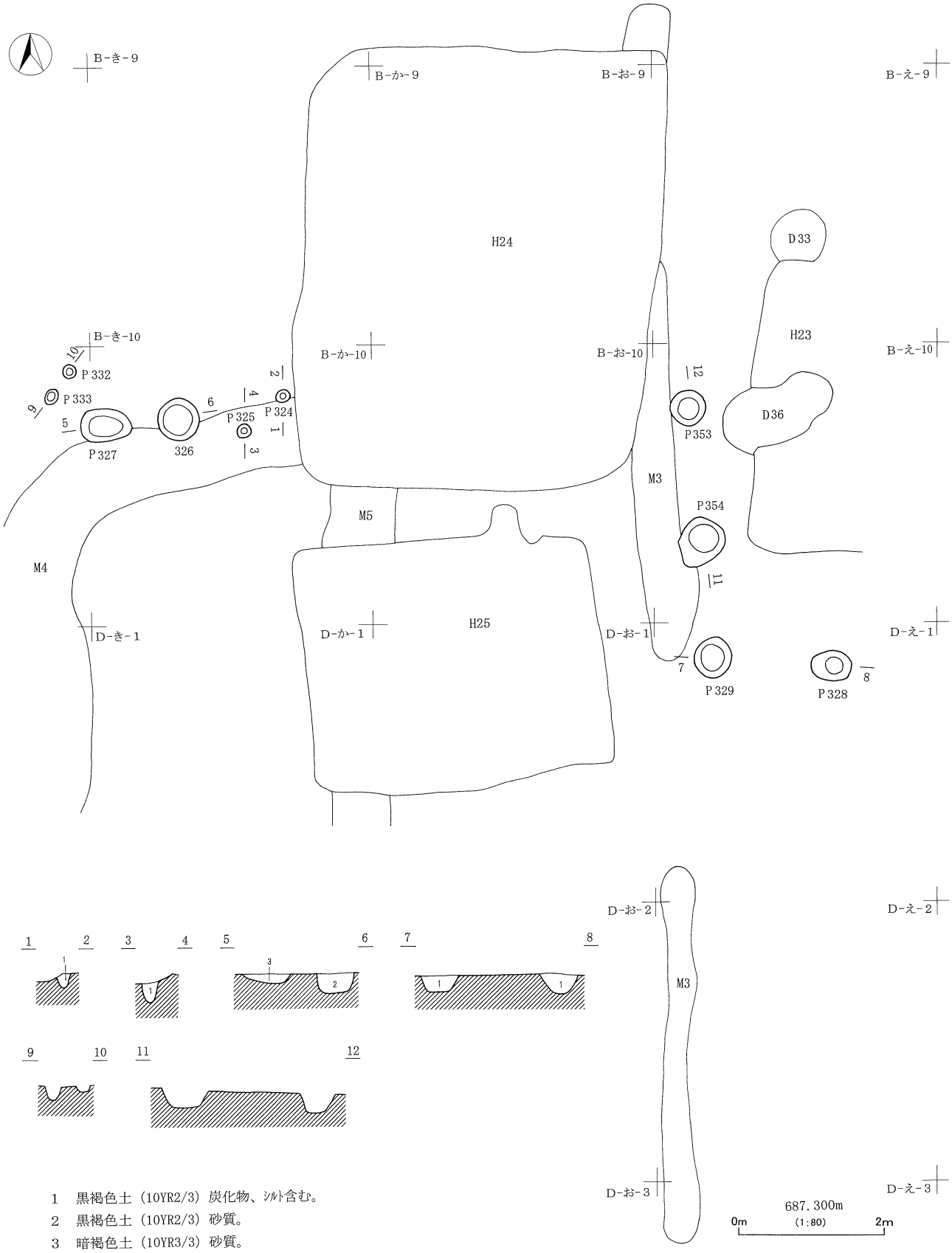



1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。

第66図　ピット実測図（1）

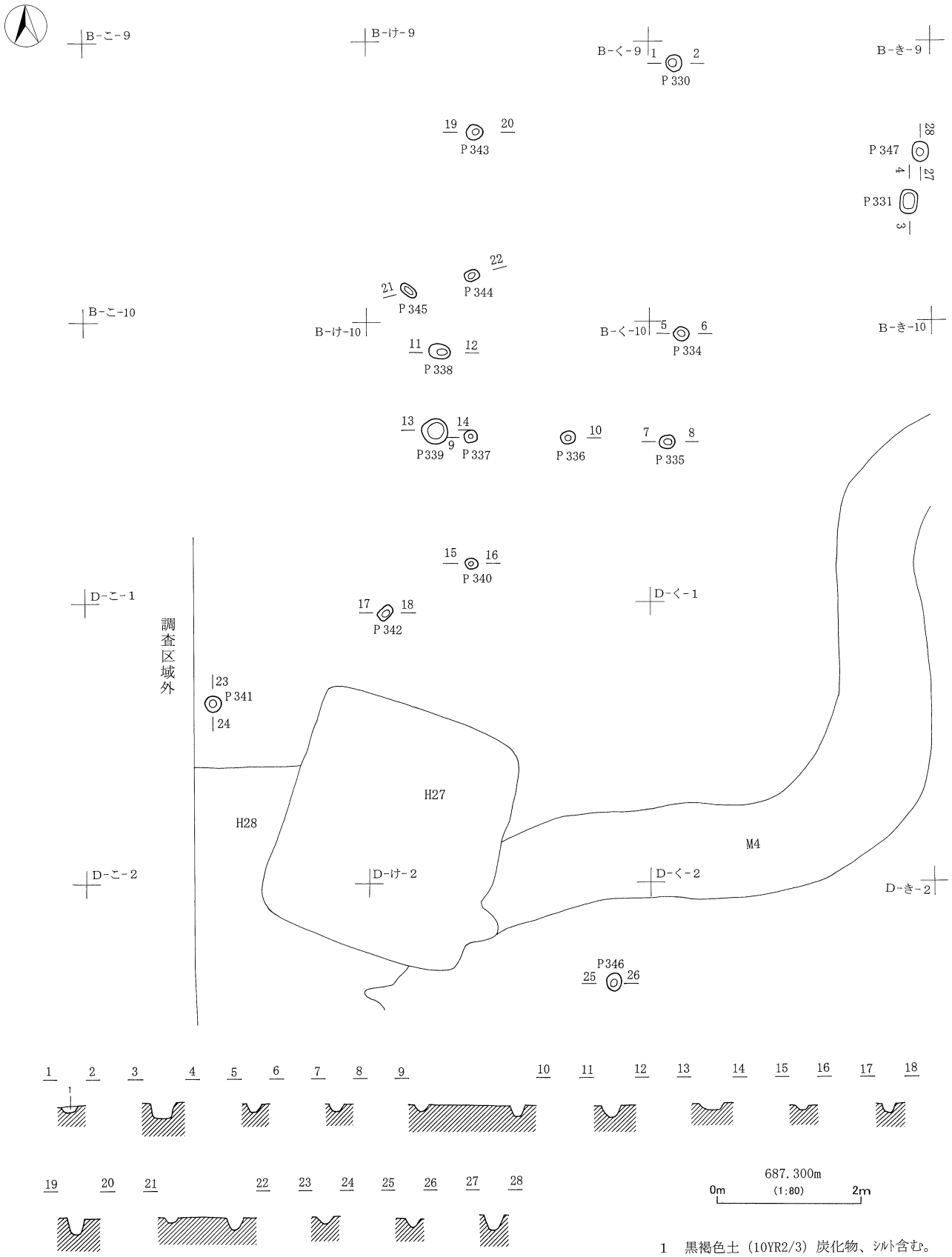



第67図　ピット実測図（2）



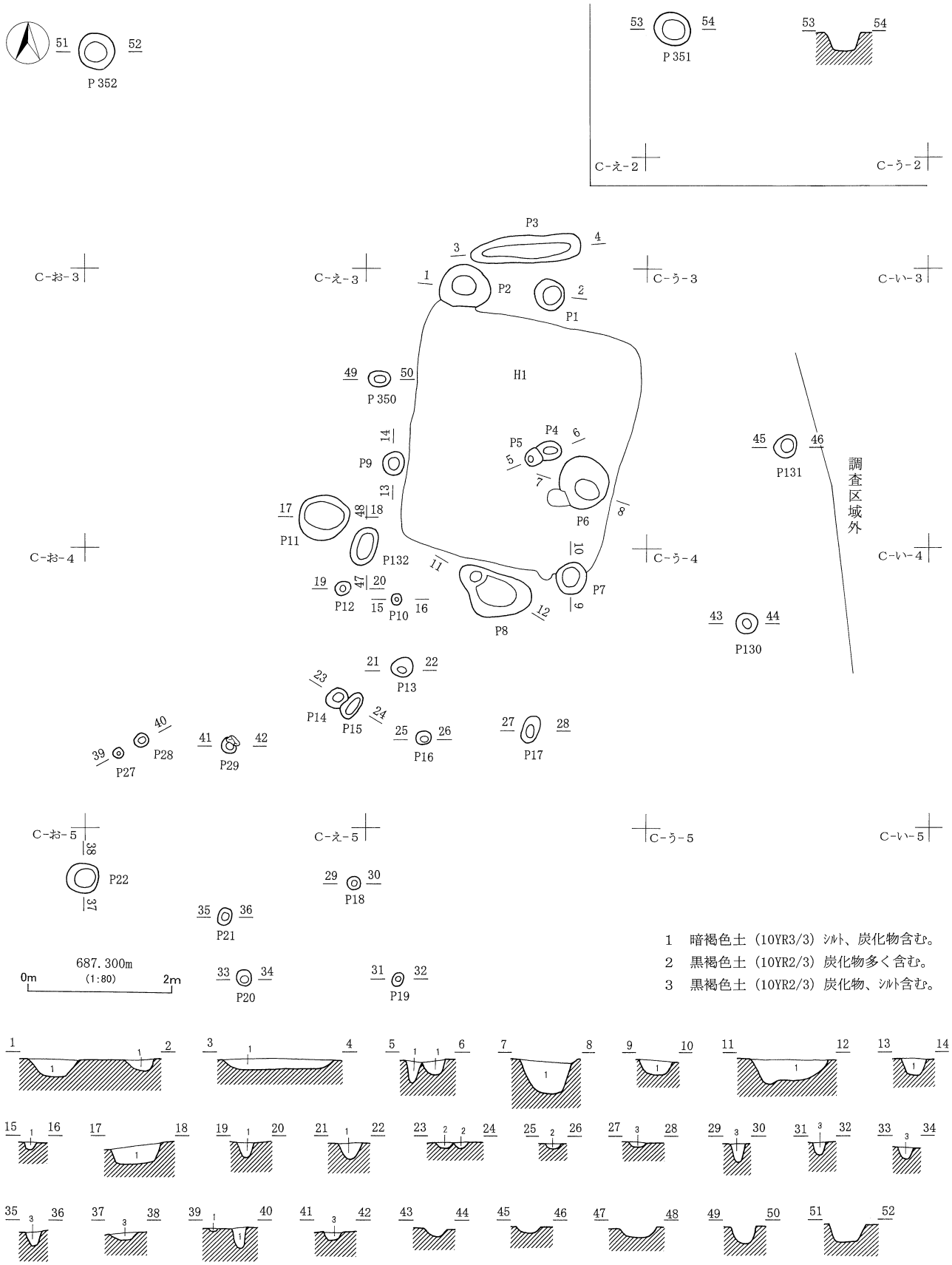

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）砂質。
3　暗褐色土（10YR3/3）砂質。

第68図　ピット実測図（3）

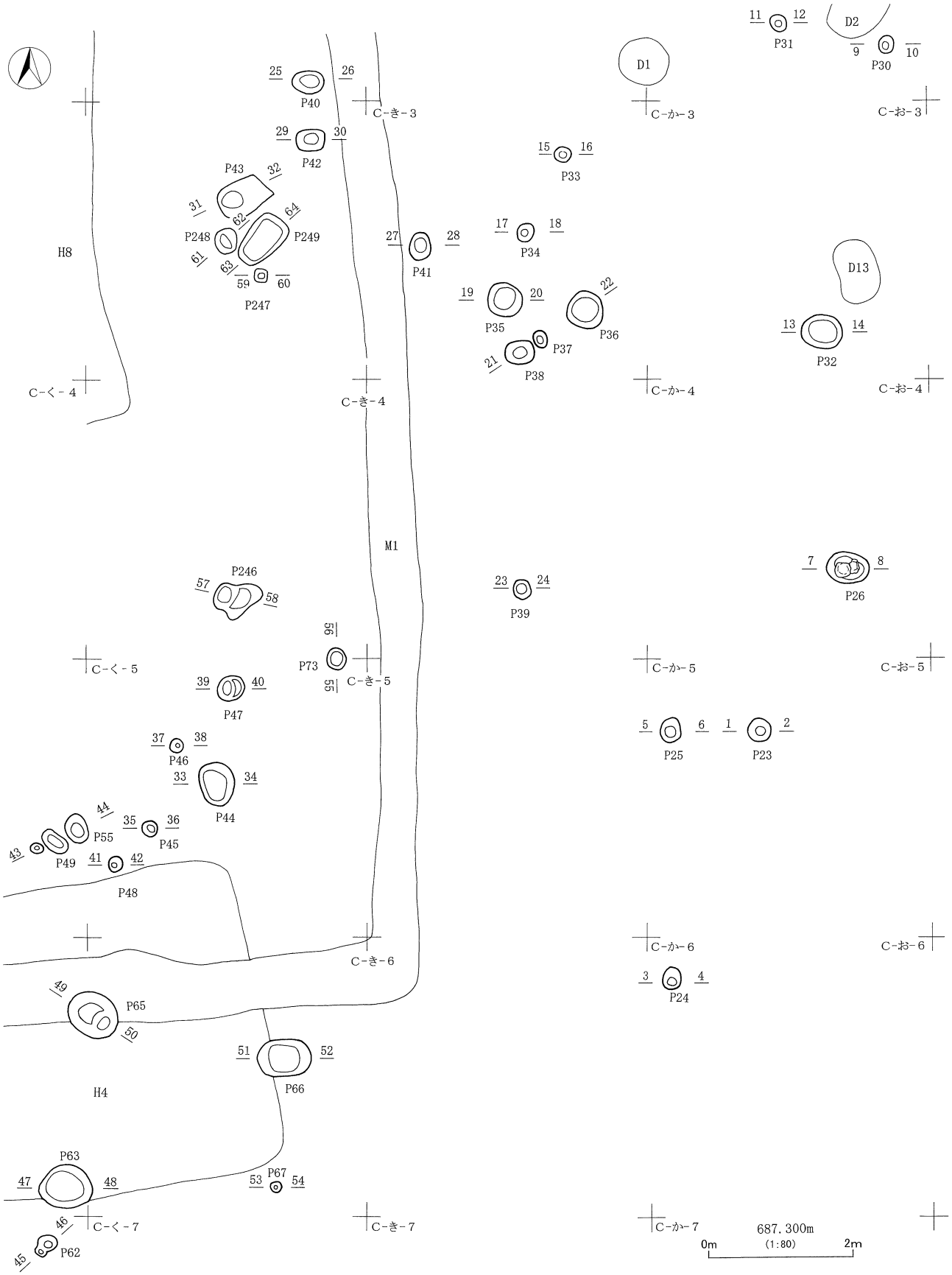



1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。

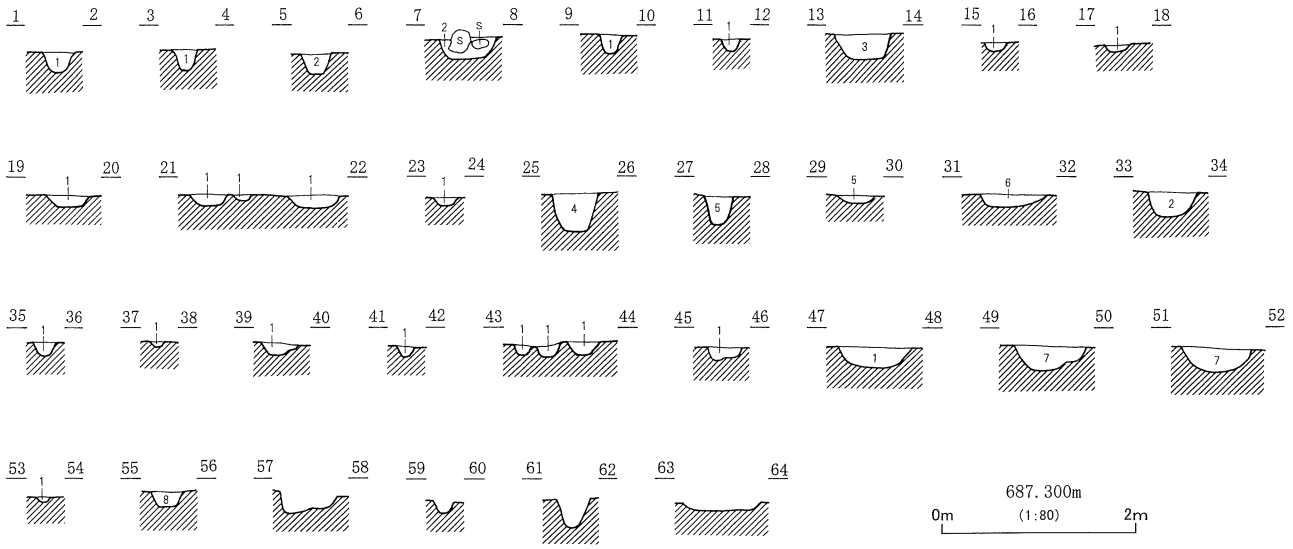
第69図　ピット実測図（4）




第70図　ピット実測図（5）

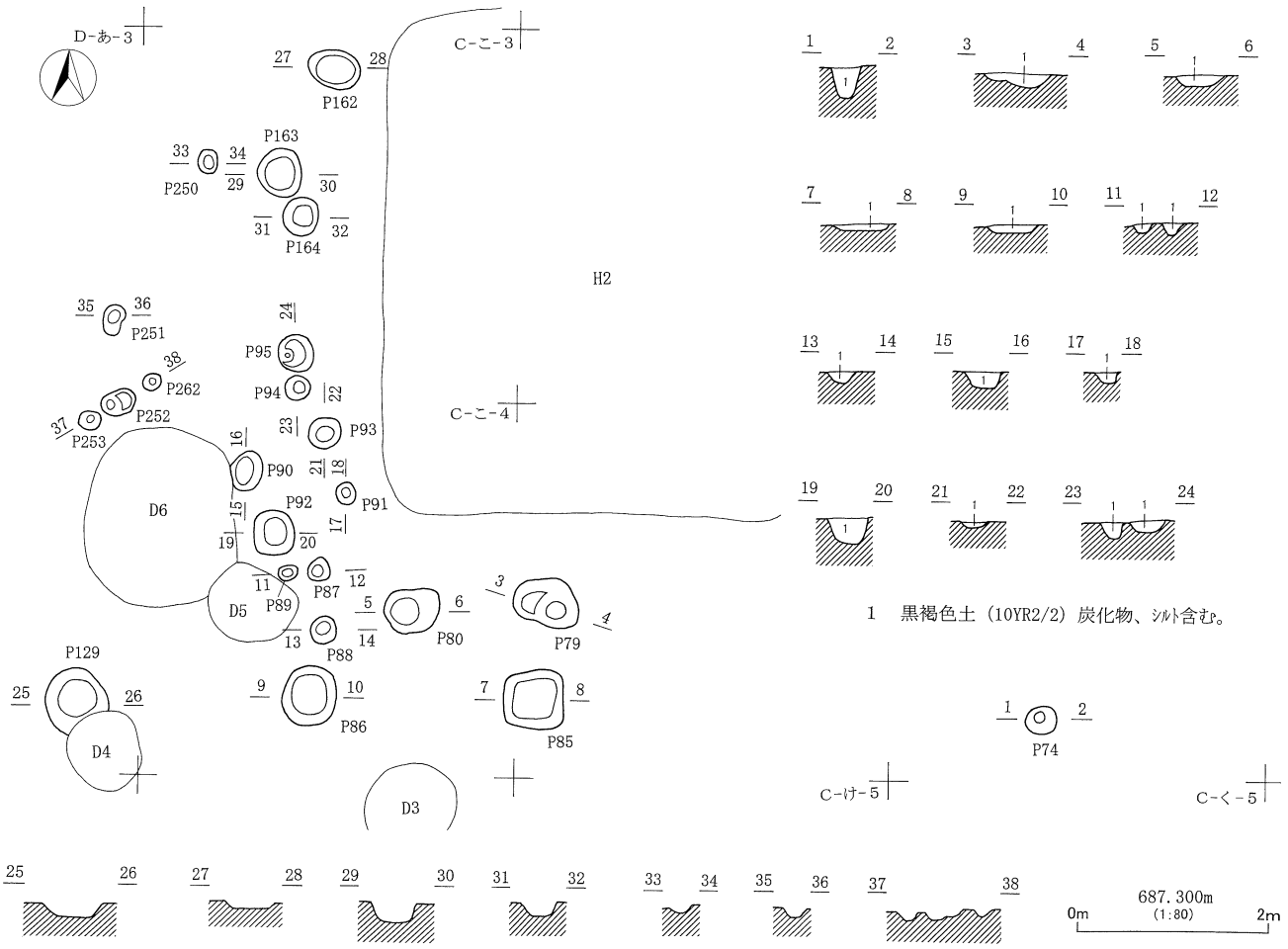



第71図　ピット実測図（6）－1



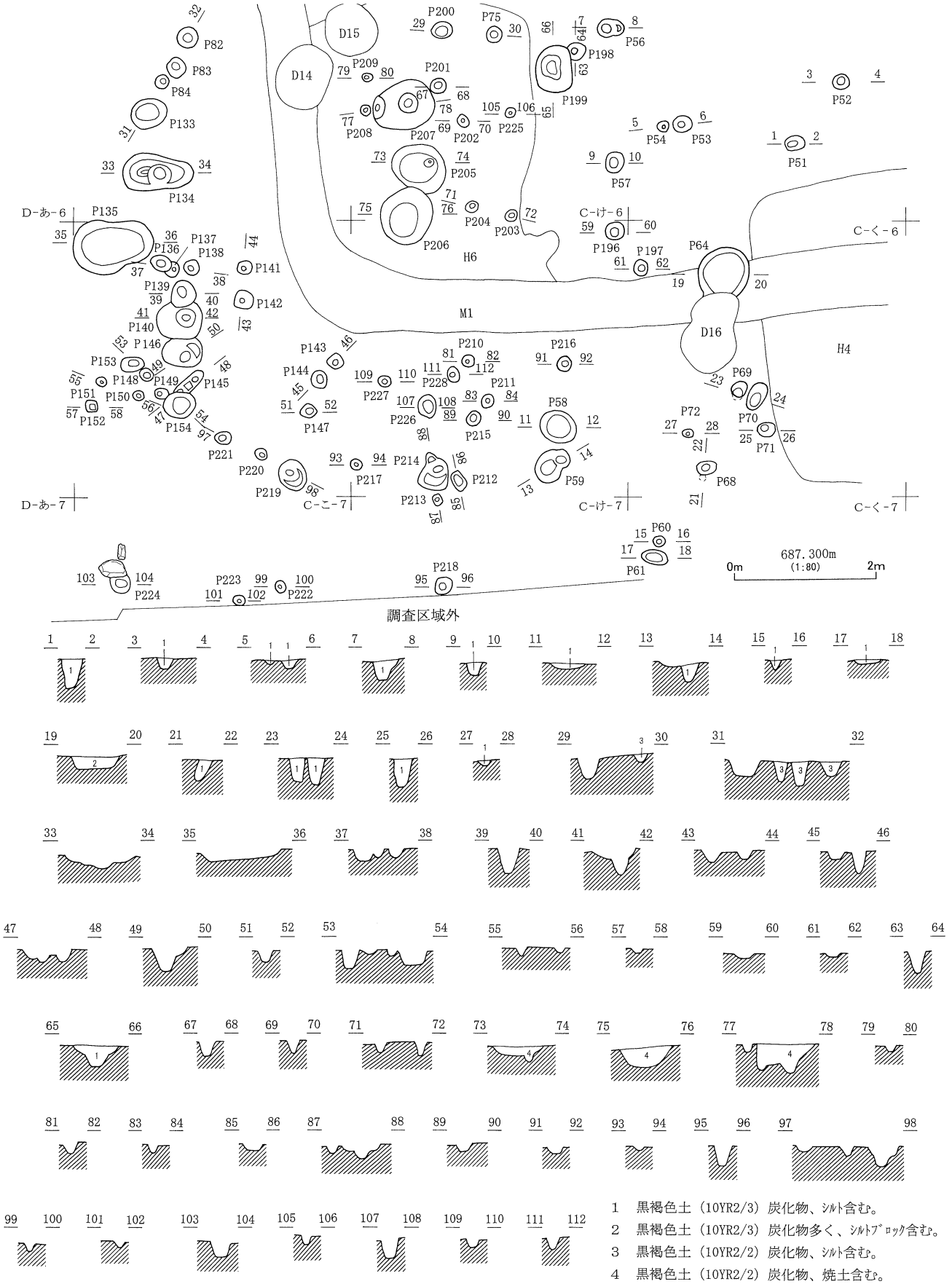

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）ｼﾙﾄ多く含む。
4　極暗褐色土（7.5YR2/3）焼土多く、炭化物、ｼﾙﾄ含む。
5　黒褐色土（7.5YR2/2）焼土少量、炭化物、ｼﾙﾄ含む。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
7　黒褐色土（10YR2/3）炭化物多く、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
8　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。

第72図　ピット実測図（6）－2



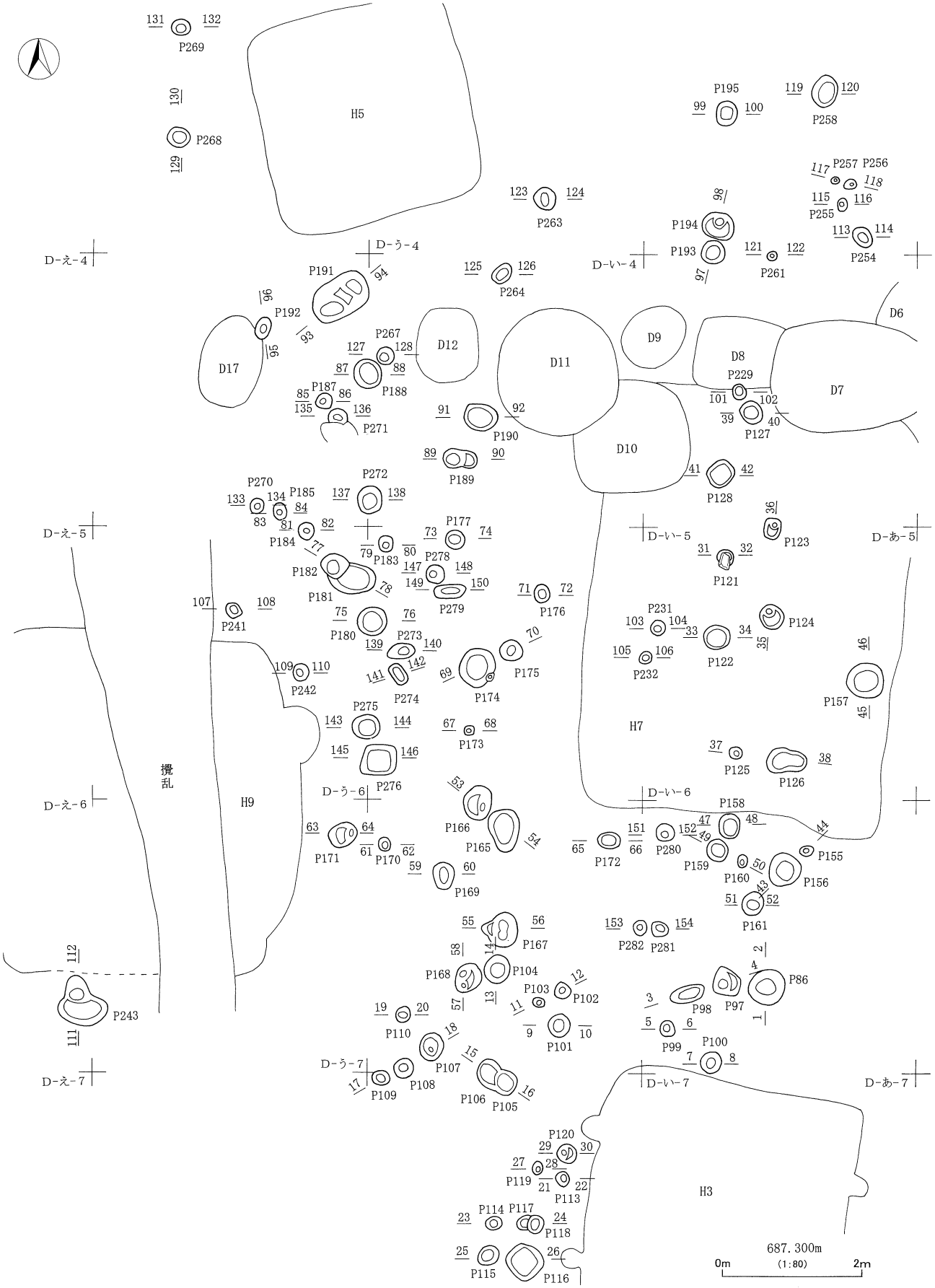

1　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。

第73図　ピット実測図（7）－1

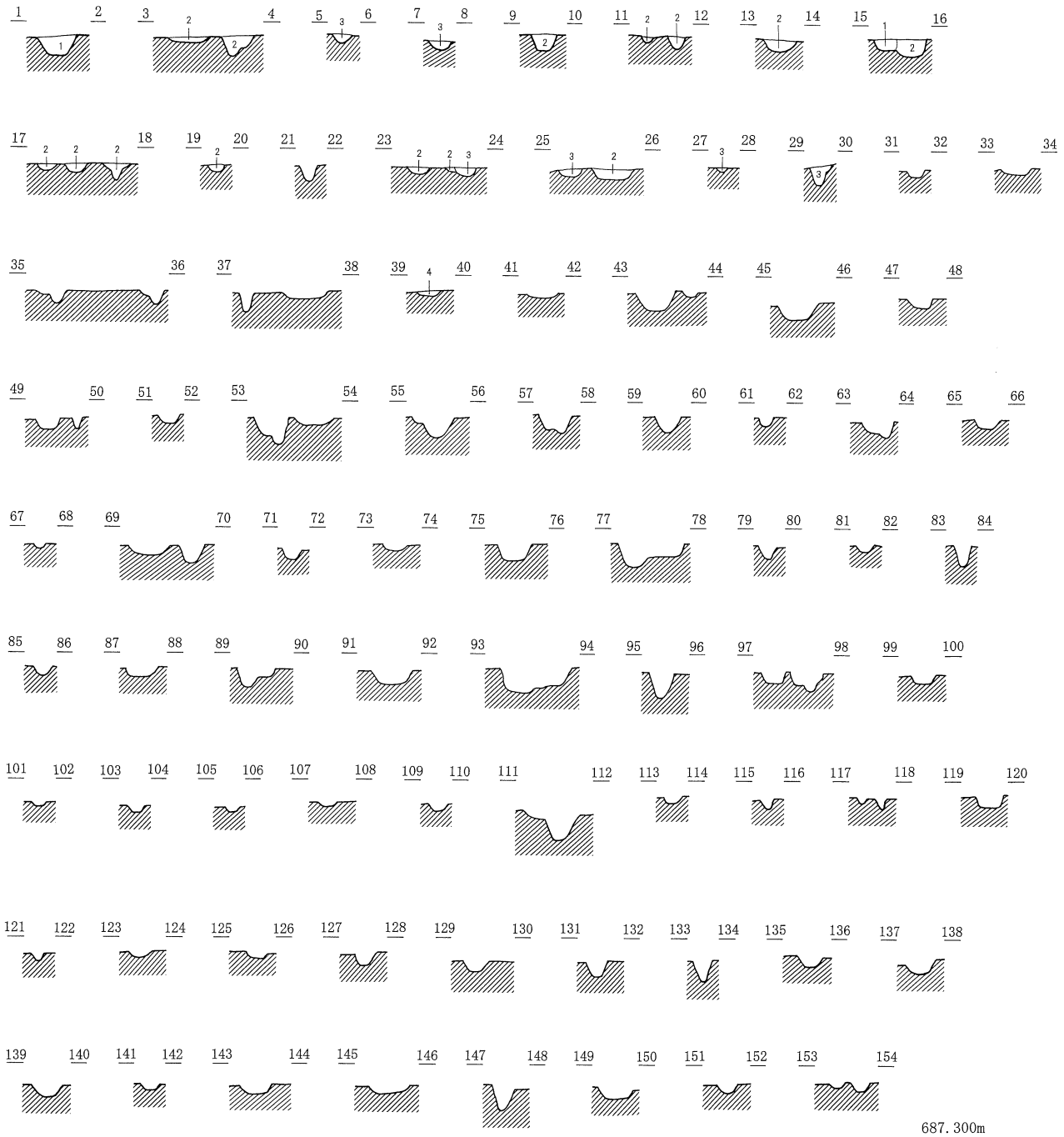



1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化物多く、ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、焼土含む。

第74図　ピット実測図（7）－2

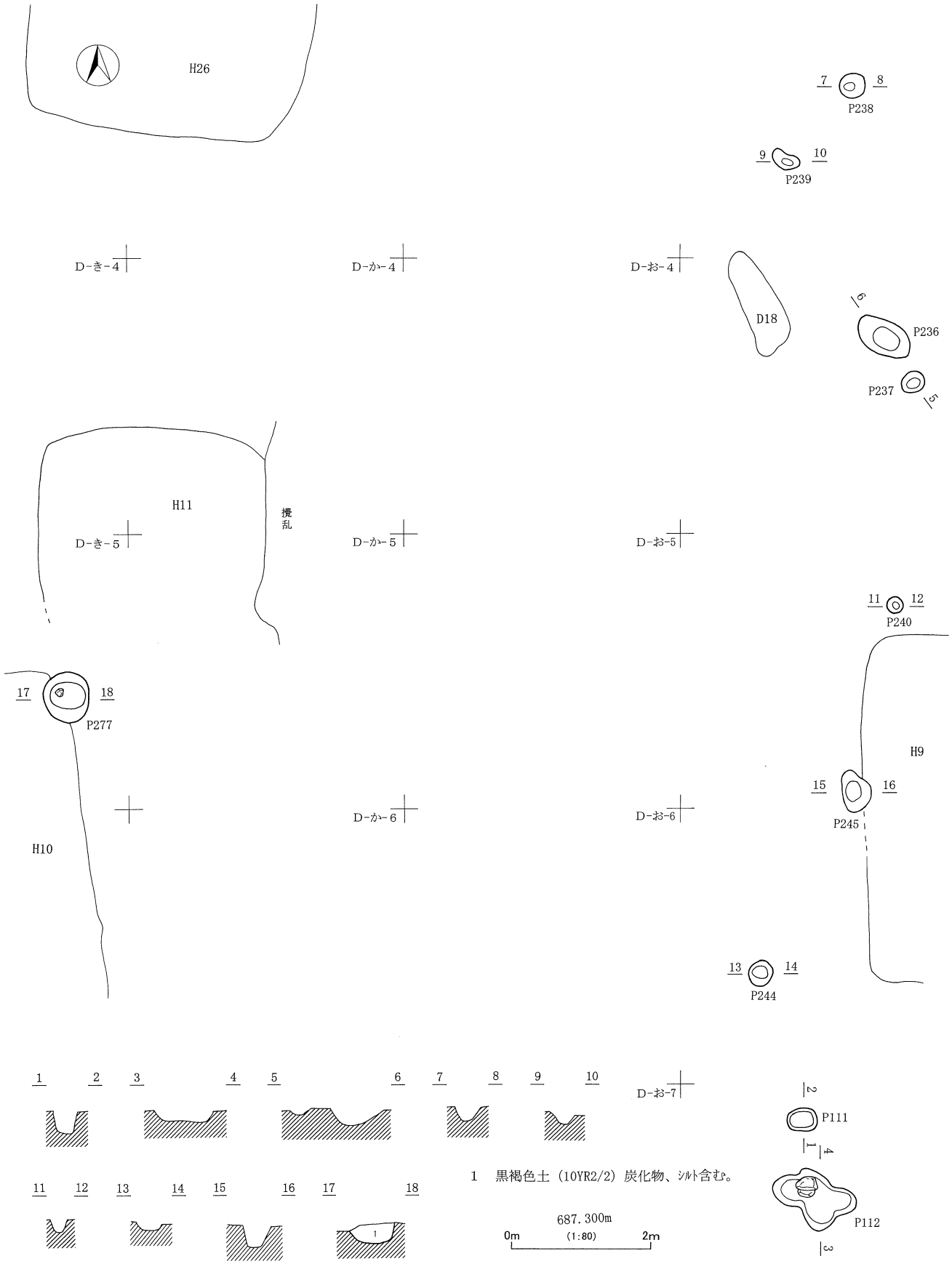



第75図　ピット実測図（8）－1

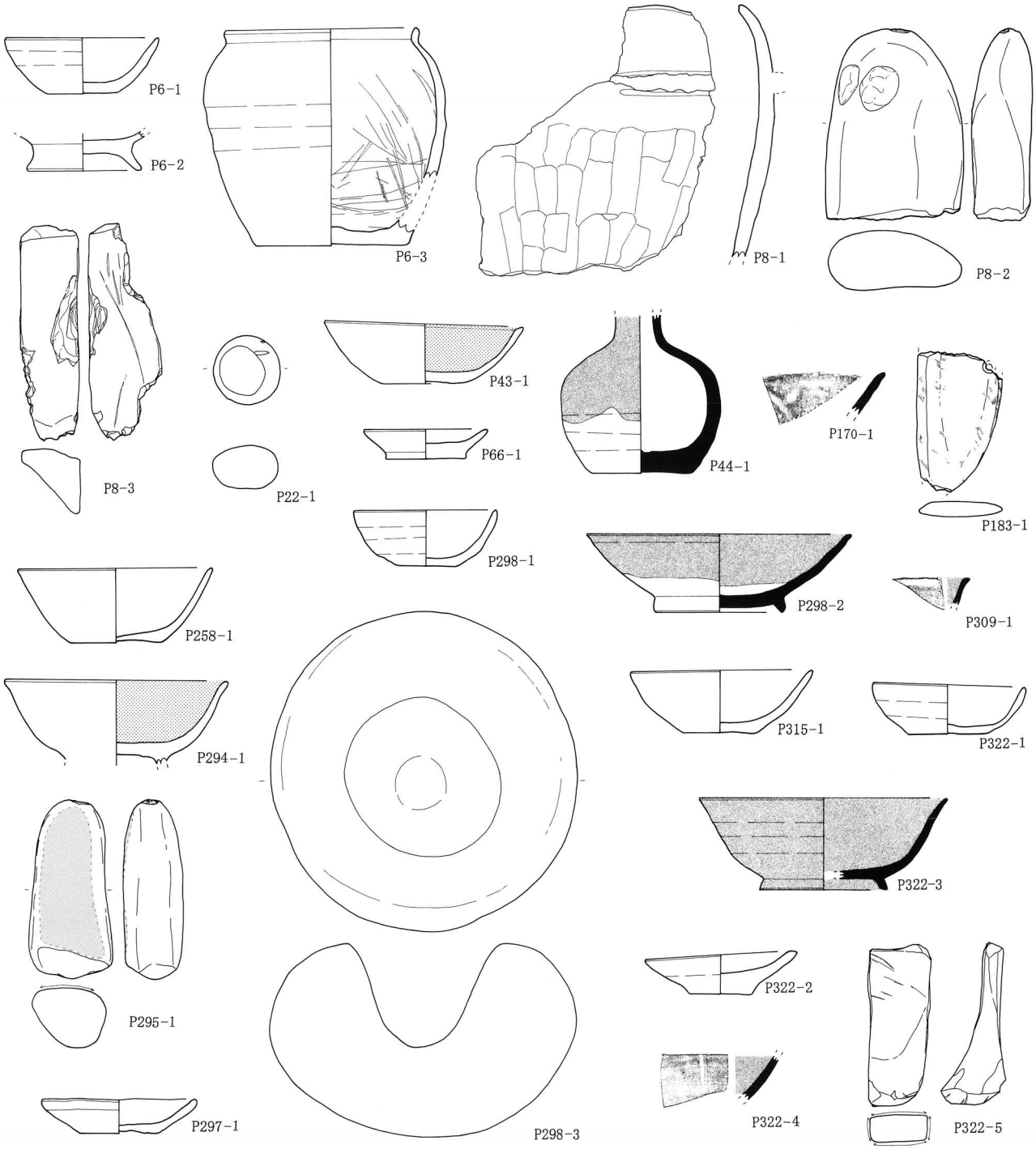



1　黒褐色土（10YR2/2）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、ｼﾙﾄ含む。
4　黒褐色土（7.5YR2/2）炭化物、焼土粒、ｼﾙﾄ含む。

第76図　ピット実測図（8）－2




第77図　ピット実測図（9）




第78図　ピット出土遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P6-1 | 土師器 | 坏 | 10.1 | 4.6 | 2.7 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 99 | 外面5YR8/4淡橙色 |
| P6-2 | 土師器 | 碗 | － | 7.5 | 〈2.6〉 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 底部・高台100 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| P6-3 | 土師器 | 轆轤甕 | 12.5 | 10.2 | 14.3 | 内外面ロクロナデ　内面条線　底部回転糸切り | 70 | 外面5YR6/6橙色 |
| P8-1 | 土師器 | 羽釜 | － | － | 〈16.5〉 | 鍔剥がれ　口縁横ナデ　外面縦ヘラケズリ　内面ナデ | 口縁～胴部破片 | 外面5YR4/1褐灰色 |
| P43-1 | 土師器 | 坏 | 12.9 | 5.4 | 4.1 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り　内面黒色処理 | 80 | 外面5YR8/3淡橙色 |
| P44-1 | 灰釉陶器 | 壺 | － | 6.5 | 〈10.5〉 | ロクロナデ　底部回転糸切り　胴部下端回転ヘラケズリ | 口縁欠損 | 外面7.5YR8/1灰白色 |

第41表　ピット出土遺物観察表（1）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調　整・文　様 | 残存率・部位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P66-1 | 土師器 | 皿 | [8.1] | [5.2] | 1.9 | ロクロナデ　底部回転糸切り | 40 | 内外面7.5YR6/6橙色 |
| P170-1 | 陶器 | 碗 | － | － | － | 施釉あり　蓮弁文 | 口縁破片 | 内外面2.5Y6/3にぶい黄色 |
| P258-1 | 土師器 | 坏 | [12.7] | [6.6] | 4.9 | 外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 35 | 外面10YR7/3にぶい黄橙色 |
| P294-1 | 土師器 | 碗 | [14.6] | － | 〈5.3〉 | 外面ロクロナデ　高台剥がれ　内面黒色処理 | 35 | 外面10YR5/2灰黄褐色 |
| P297-1 | 土師器 | 坏 | 10.2 | 5.2 | 2.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　造り粗雑全体に歪み | 60 | 外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| P298-1 | 土師器 | 坏 | 6.3 | 4 | 3.7 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 99 | 外面7.5YR8/3浅黄橙色 |
| P298-2 | 灰釉陶器 | 碗 | [17.1] | 8.4 | 5.15 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付　ハケ塗り？ | 60 | 外面2.5Y8/1灰白色 |
| P309-1 | 緑釉陶器 | 碗？ | － | － | － | 内外面ロクロナデ・緑釉 | 口縁破片 | 内外面7.5YR4/3暗オリーブ色 |
| P315-1 | 土師器 | 坏 | 11.75 | 4.8 | 4.2 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 100 | 内外面10YR7/4にぶい黄橙色 |
| P322-1 | 土師器 | 坏 | 10 | 5.1 | 3.4 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 90 | 外面7.5YR6/3にぶい褐色 |
| P322-2 | 土師器 | 皿 | 9.8 | 3.9 | 2.9 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り | 95 | 内外面7.5YR7/6橙色 |
| P322-3 | 緑釉陶器 | 碗 | [16.1] | [8.3] | 6 | 内外面ロクロナデ　底部回転糸切り後高台貼付 | 30 | 内外面10Y5/2オリーブ灰色 |
| P322-4 | 緑釉陶器 | 碗 | － | － | － | 内外面ロクロナデ　外面沈線 | 体部破片 | 内外面7.5YR5/3灰オリーブ色 |

第42表　ピット出土遺物観察表（2）

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量（g） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P8-2 | 石器 | すり・敲石 | 〈12.6〉 | 〈8.9〉 | 3.9 | 片側欠損　先端部敲打痕？ | 762.04 | |
| P8-3 | 石器 | 敲石 | 14.1 | 3.8 | 4.8 | 上下・側面に敲打痕　使用による条痕あり | 264.73 | |
| P22-1 | 石器 | すり石 | 4.5 | 4.25 | 2.9 | 表面にすり痕 | 56 | |
| P183-1 | 石器 | 石包丁 | 〈9.2〉 | 5.6 | 1 | 孔1有り　孔径〈0.4〉 | 74.32 | |
| P295-1 | 石器 | 敲石 | 11.7 | 5.5 | 3.9 | 正面すり面　上・下端部敲痕跡 | 390.36 | |
| P298-3 | 石製品 | 搗臼 | 20.9 | 20 | 12.7 | 中央に径9.5×10.5、深さ6.8cmの窪み | 6,310 | |
| P322-5 | 石製品 | 砥石 | 〈10.5〉 | 〈4.1〉 | 3.5 | 砥面５　下部に鮮明な条痕　片側欠損 | 139.42 | |

第43表　ピット出土石器・石製品観察表

## 第５節　遺構外遺物

第79図　遺構外遺物実測図

| 番号 | 器　種 | 器　形 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 調　整・文　様 | 重量（g） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D-あ-4 | 土製品 | 土製円盤？ | 8.2 | 8.2 | 1.4 | 底部転用か？　片面網代痕 | | |
| D-う-6 | 土製品 | 羽口 | 〈6.3〉 | 〈5.5〉 | 2.4 | 外面削り後ナデ　白色粒含み粒子粗い | | |

第44表　遺構外遺物観察表

図版1

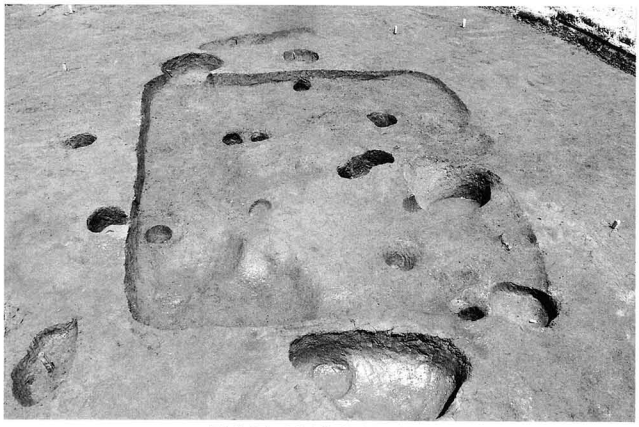
中堰遺跡南側調査区全景（北東から）

中堰遺跡南側調査区全景(北西から)

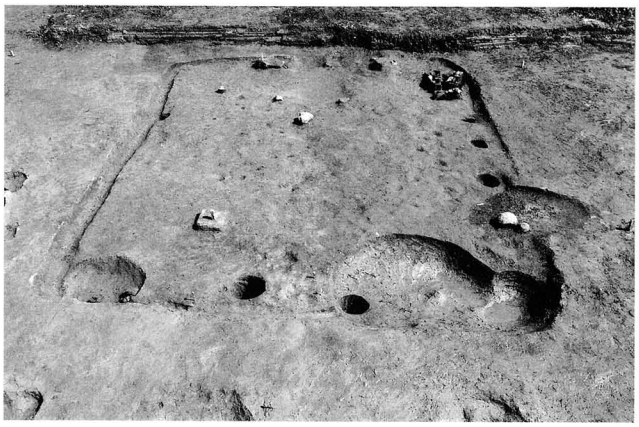
図版2

中堰遺跡北側調査区全景（北東から）

中堰遺跡北側調査区全景（西から）



Ｈ１号住居址堀方全景（南から）



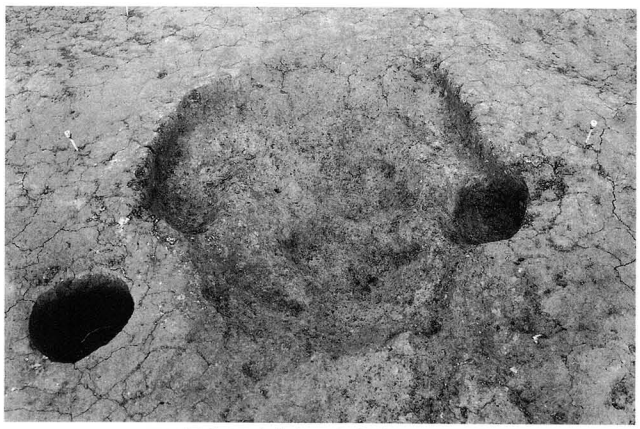
Ｈ２号住居址全景（南から）

Ｈ２号住居址北カマド（南から）

Ｈ２号住居址北カマド石材（南から）

Ｈ２号住居址北カマド掘方（南から）

Ｈ２号住居址東カマド（西から）

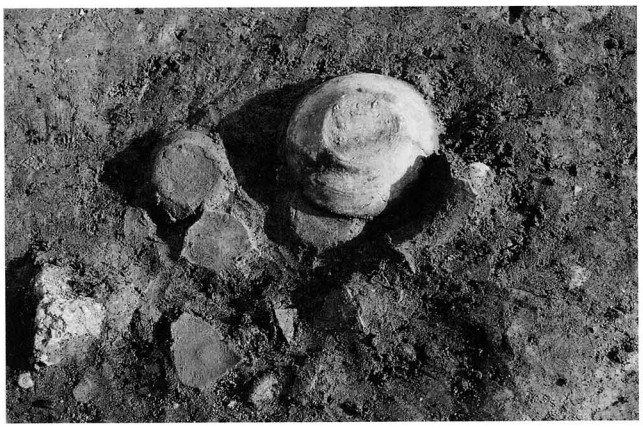


Ｈ２号住居址東カマド掘方（西から）

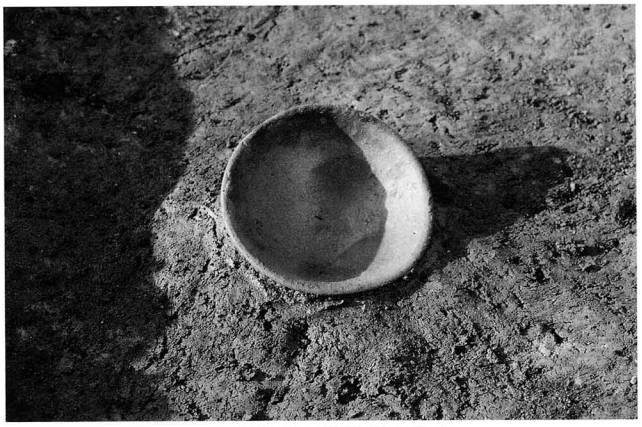
Ｈ２号住居址北東コーナー遺物出土状況

図版4

Ｈ２号住居址南東コーナー土坑



Ｈ２号住居址遺物出土状況



Ｈ２号住居址遺物出土状況

Ｈ２号住居址遺物出土状況

Ｈ３号住居址全景（南から）

Ｈ３号住居址掘方全景（南から）

Ｈ３号住居址遺物出土状況

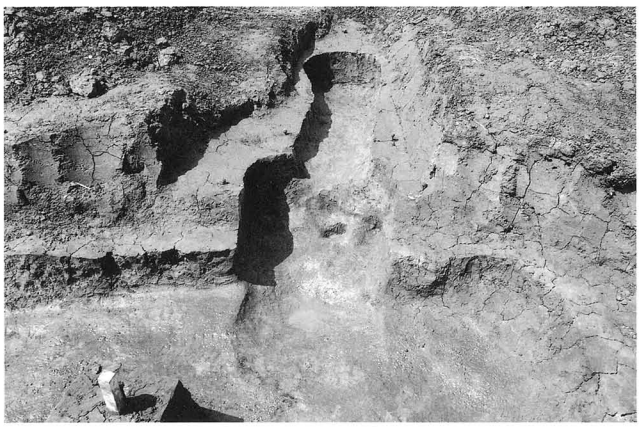
Ｈ４号住居址全景（南から）

Ｈ４号住居址掘方全景（南から）

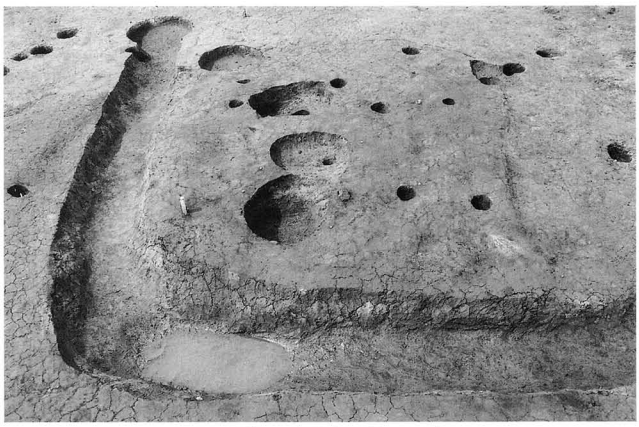
Ｈ５号住居址全景（南から）

Ｈ５号住居址カマド（南から）

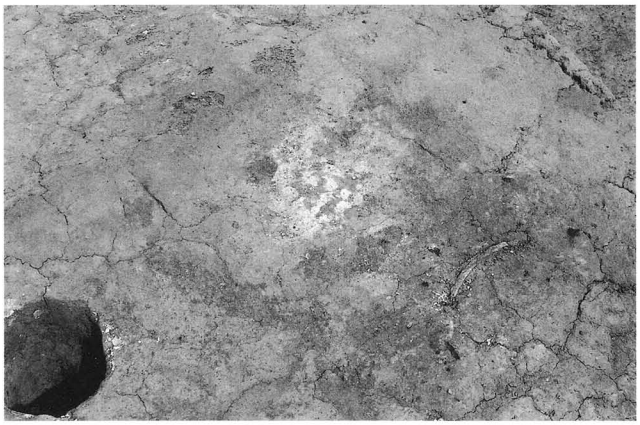
Ｈ５号住居址掘方全景（南から）



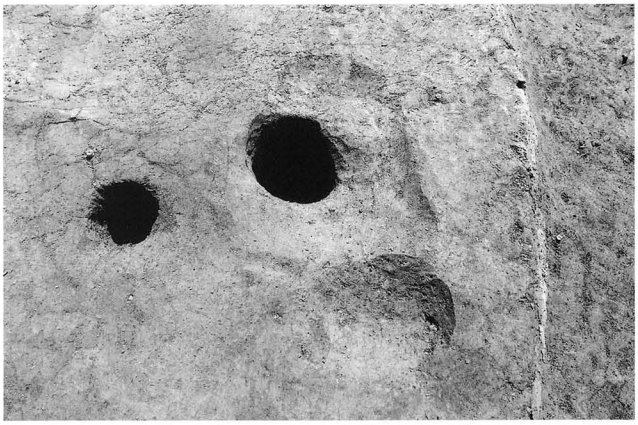
Ｈ５号住居址カマド掘方（南から）



Ｈ６号住居址全景（南から）



Ｈ６号住居址カマド（西から）

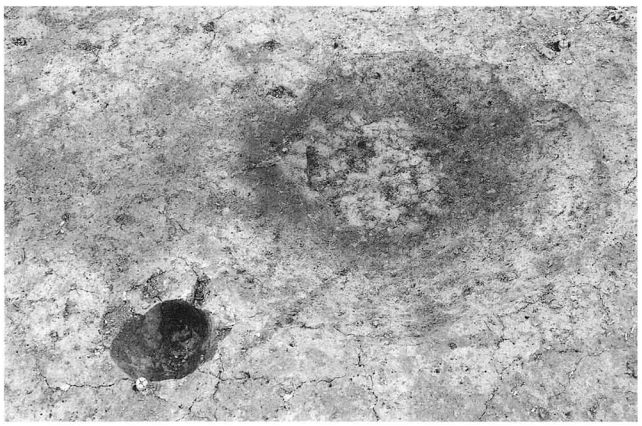


Ｈ６号住居址カマド掘方（西から）

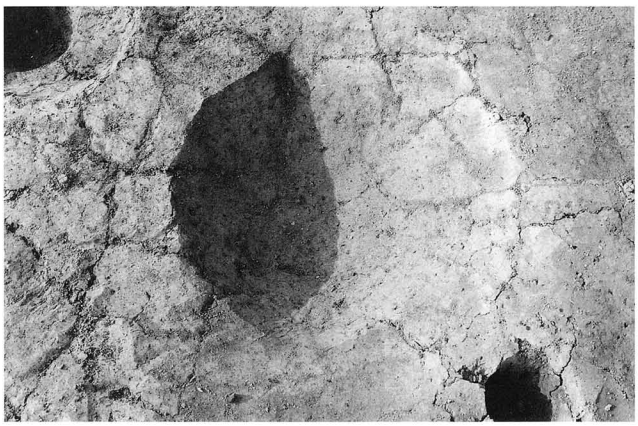
図版6

Ｈ６号住居址掘方全景（南から）

Ｈ７号住居址全景（東から）

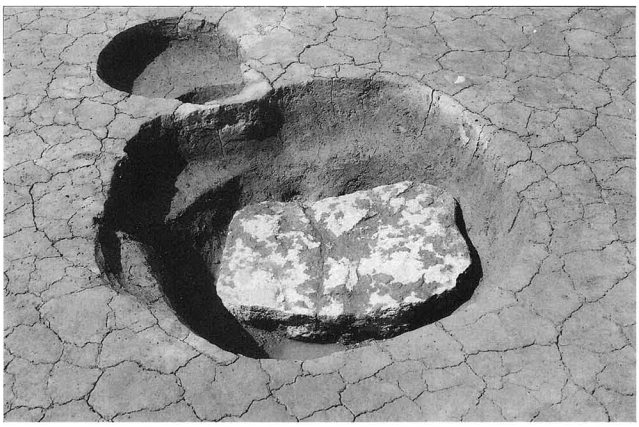


Ｈ７号住居址炉跡

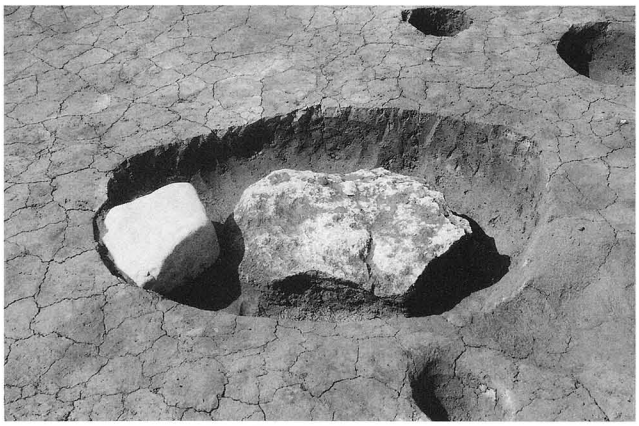


Ｈ７号住居址炉跡掘方

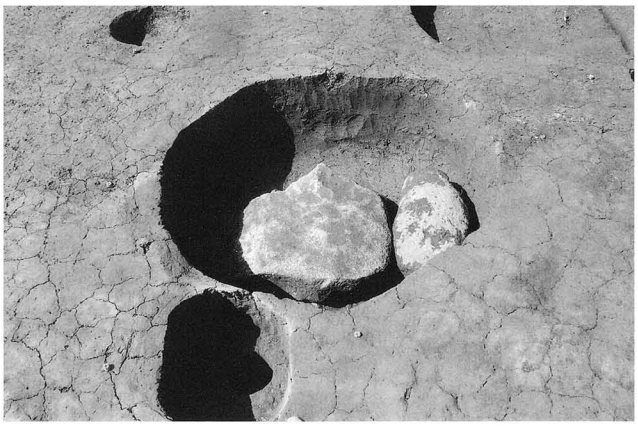
Ｈ８号住居址全景（南から）



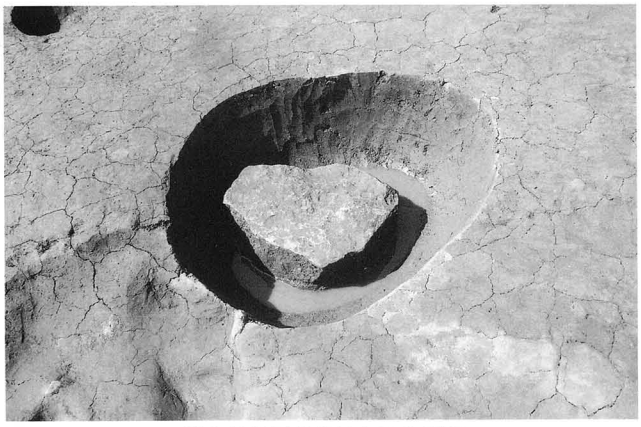
Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ4礎石



Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ3礎石



Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ1礎石



Ｈ８号住居址主柱穴Ｐ２礎石

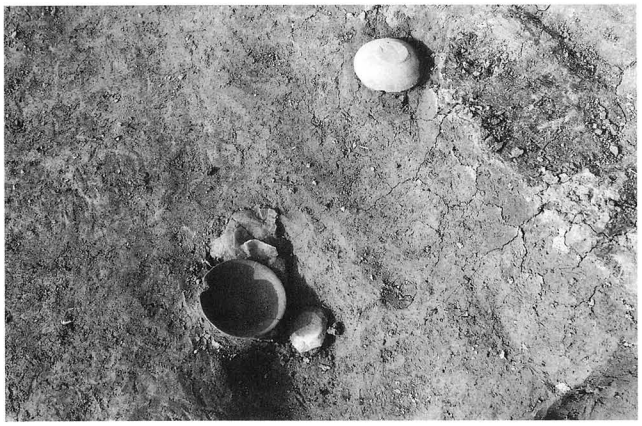
Ｈ８号住居址カマド（南から）

Ｈ８号住居址カマド掘方（南から）

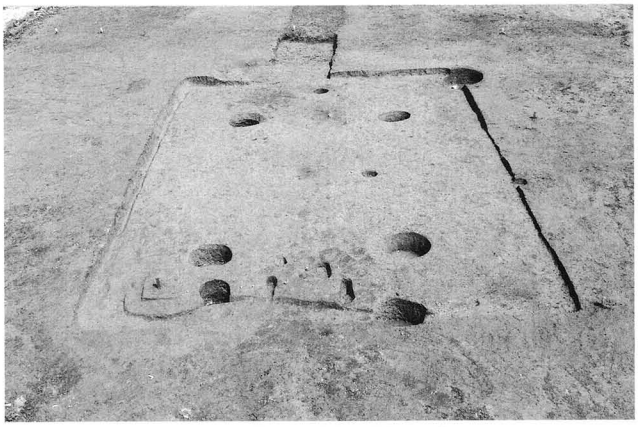
Ｈ８号住居址掘方全景（南から）

Ｈ９号住居址全景（南から）

Ｈ９号住居址掘方全景（南から）



Ｈ９号住居址遺物出土状況



H10号住居址全景（南から）

図版8

H10号住居址炉跡

H10号住居址炉跡掘方

H11号住居址全景（南から）

H12号住居址全景（西から）

H12号住居址遺物出土状況

H13号住居址南側部分（西から）

H13号住居址北側部分（南から）

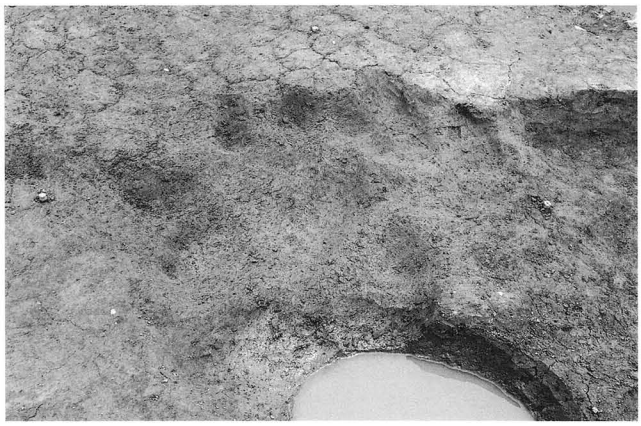
H14号住居址全景（南から）

H14号住居址カマド掘方（北西から）

H15号住居址全景（西から）

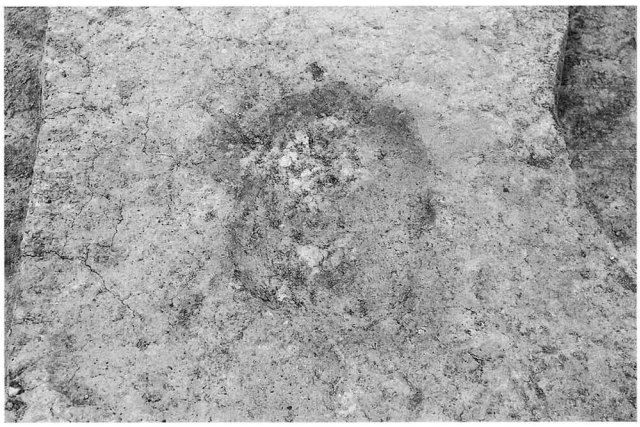
H15号住居址遺物出土状況

H15号住居址カマド（北西から）


H15号住居址カマド掘方（西から）

H15号住居址掘方全景（西から）

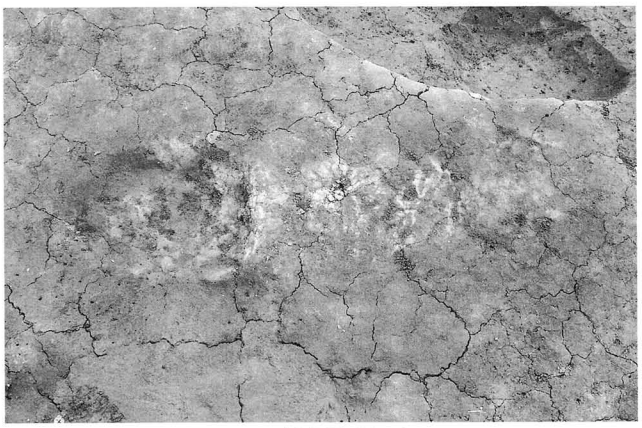
H16号住居址全景（南から）


H16号住居址炉跡

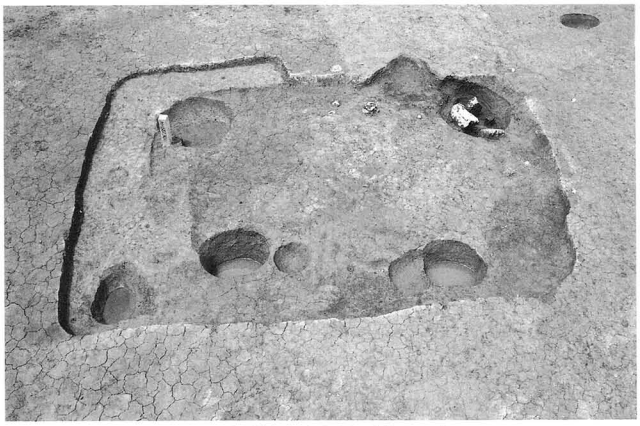
図版10

H16号住居址炉跡（覆土除去状況）

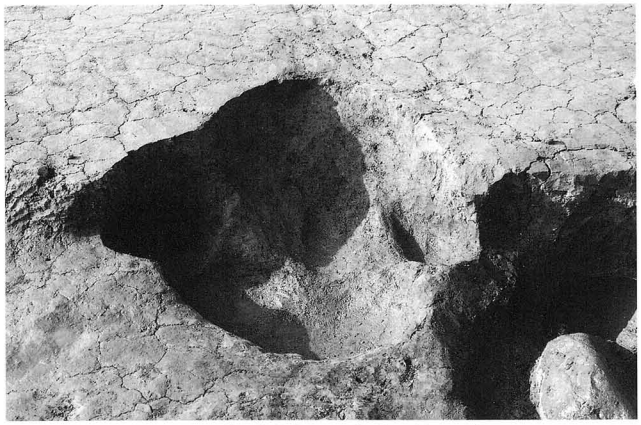
H17号住居址全景（東から）


H17号住居址炉跡

H17内Ｐ298号ピット出土搗臼出土状況


H18号住居址全景（南から）

H18号住居址カマド（南から）


H18号住居址カマド掘方（南から）

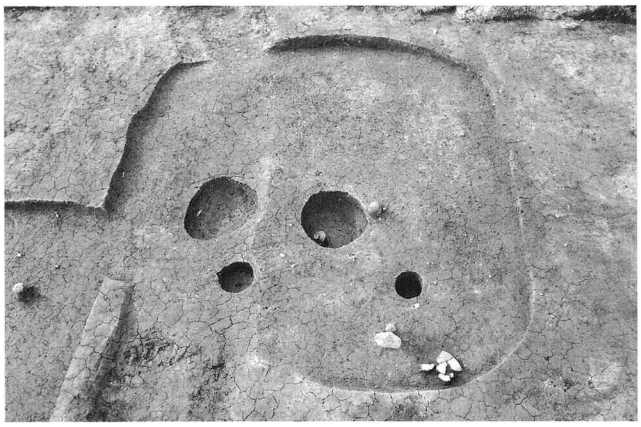
H18号住居址掘方全景（南から）

H19号住居址全景（南西から）

H19号住居址カマド（西から）

H19号住居址カマド掘方（西から）

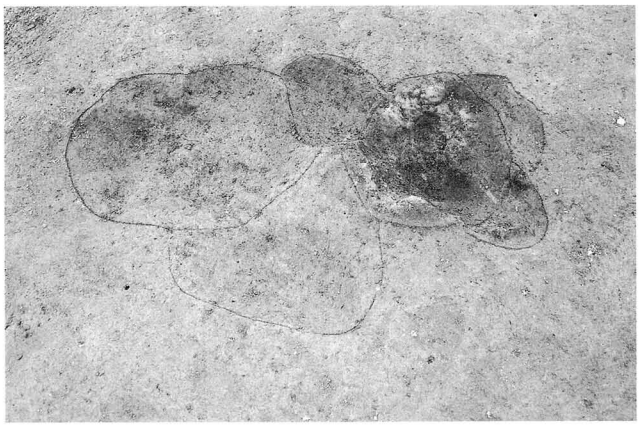
H19号住居址掘方（南から）



H20号住居址全景（南から）

H20号住居址掘方全景（南から）

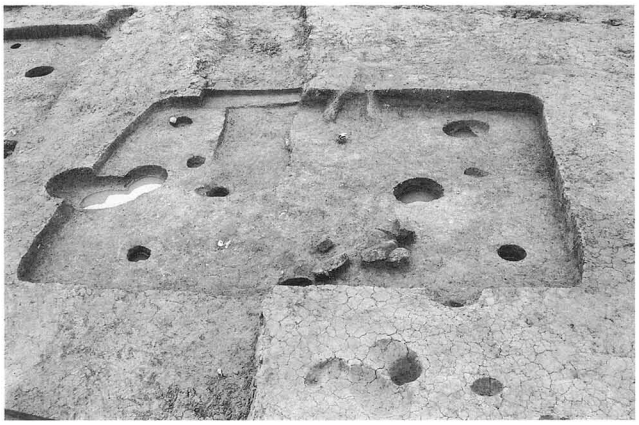
H21号住居址全景（南から）



H21号住居址鍛冶関連遺構？

図版12

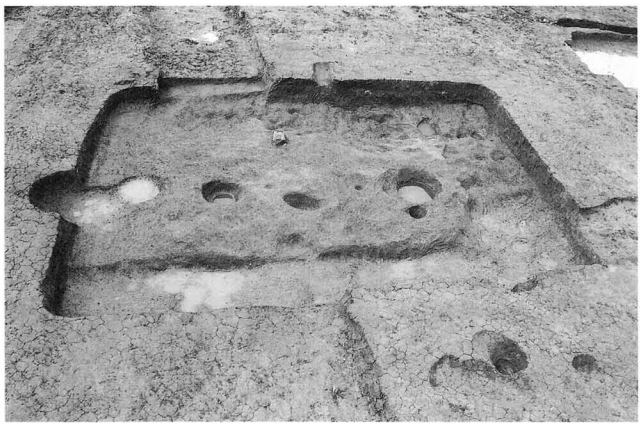
H22号住居址全景（南から）



H23号住居址全景（南から）

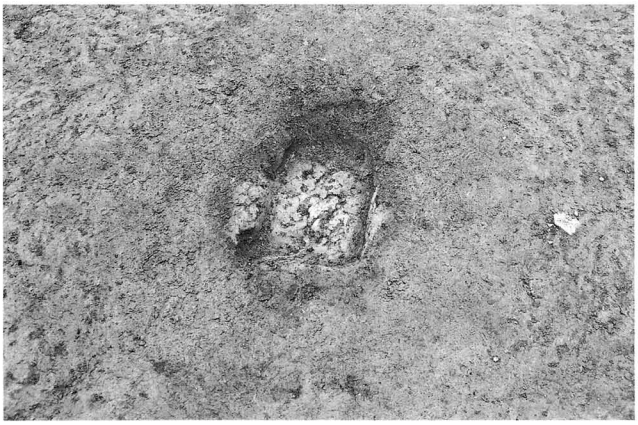
H23号住居址カマド（南から）

H23号住居址カマド掘方（南から）

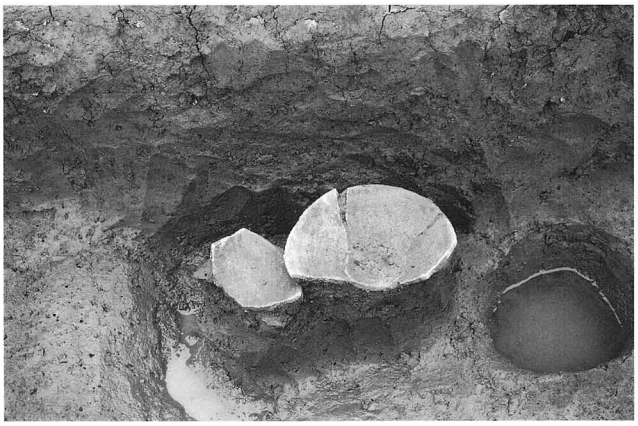


H23号住居址掘方全景（南から）

H24号住居址全景（南から）



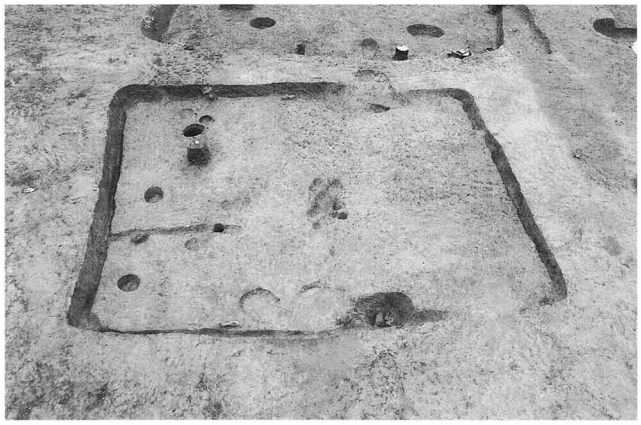
H24号住居址炉跡



H24号住居址南壁際遺物出土状況

H24号住居址南西壁際遺物出土状況

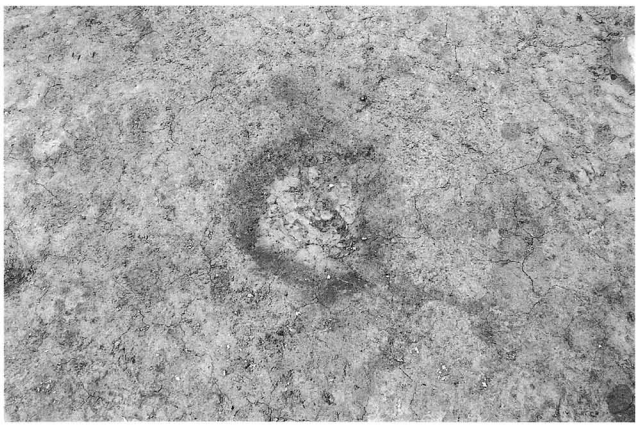
H24号住居址南東コーナー遺物出土状況

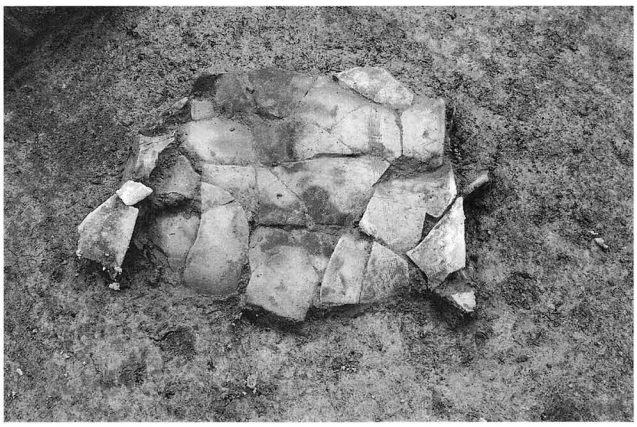

H25号住居址全景（南から）

H25号住居址カマド（南から）

H25号住居址掘方全景（南から）

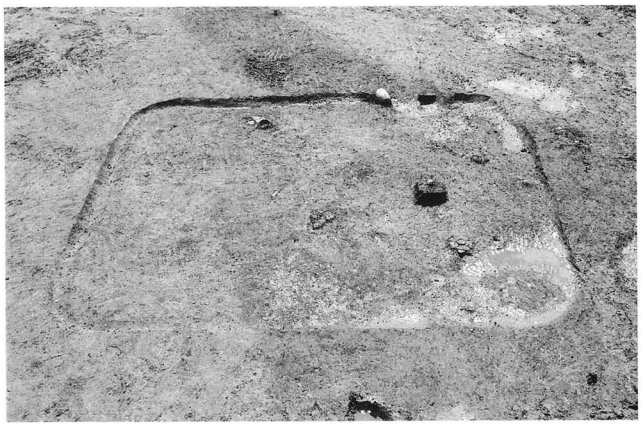
H26号住居址全景（東から）


H26号住居址炉跡


H26号住居址遺物出土状況

図版14

H26号住居址遺物出土状況



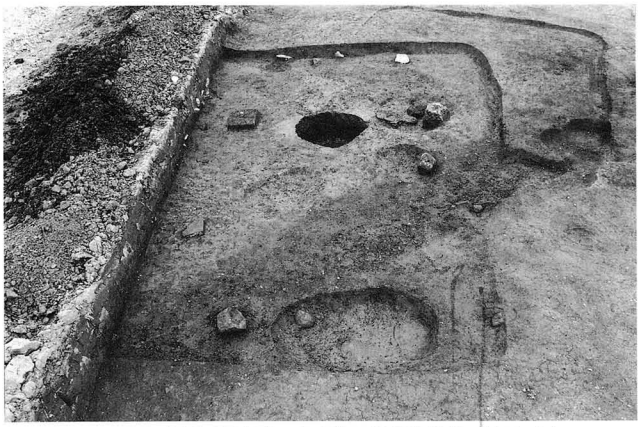
H27号住居址全景（西から）

H27号住居址カマド（西から）

H27号住居址カマド掘方（西から）

H27・28号住居址掘方（南から）

H28号住居址全景（南から）



H27・28号住居址ピット掘り下げ後状態（南から）

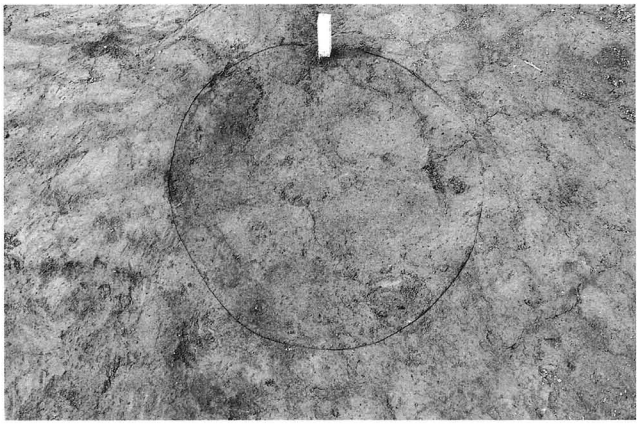
H28号住居址カマド（西から）

H27号住居址内ピット

H29号住居址全景（東から）

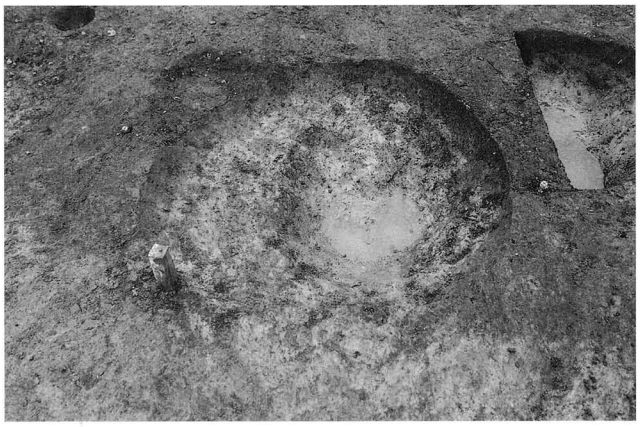
H30号住居址全景（南から）

H31号住居址全景（南から）

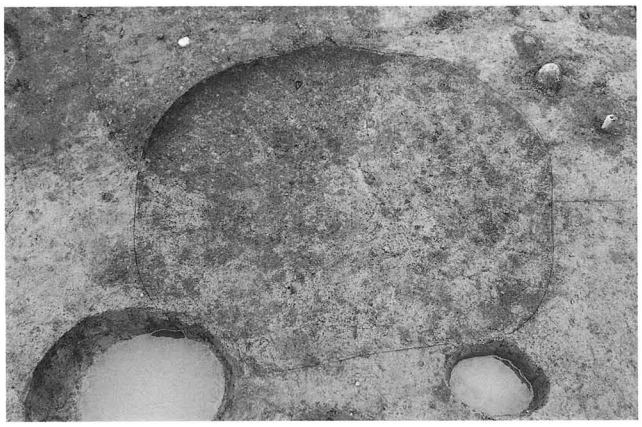

Ｄ１号土坑全景

Ｄ２号土坑全景

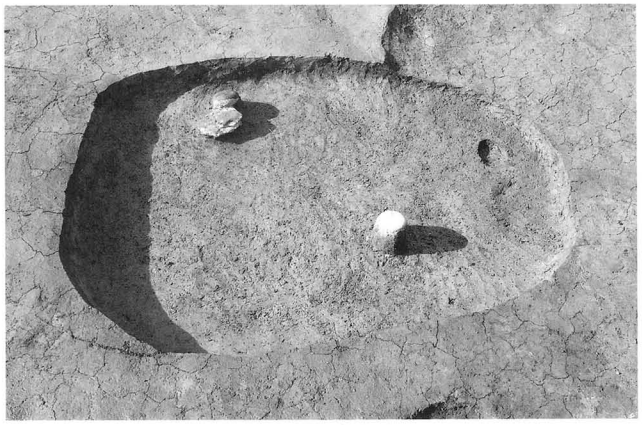
Ｄ３号土坑全景


Ｄ４号土坑全景

図版16

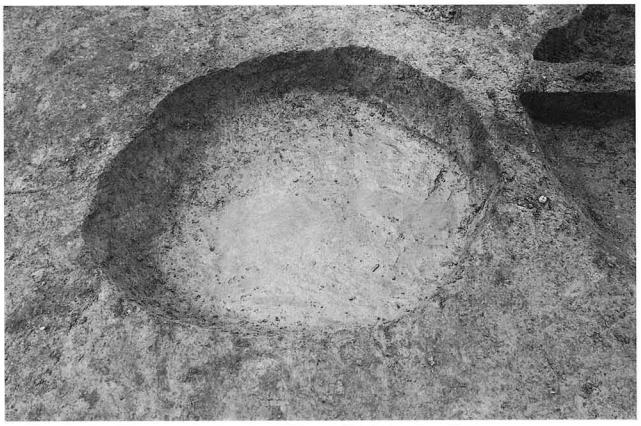


Ｄ５・６号土坑全景



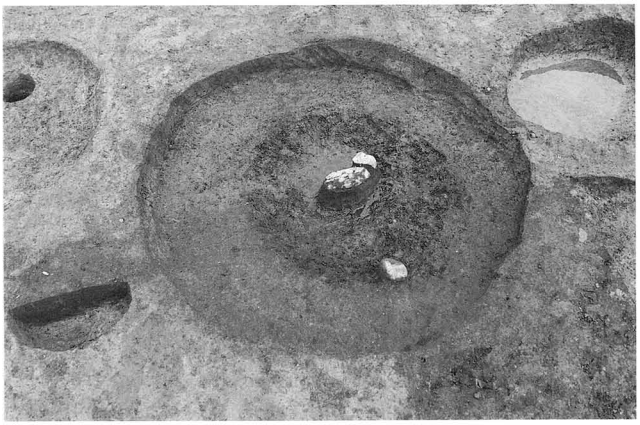
Ｄ７号土坑全景

Ｄ８号土坑全景



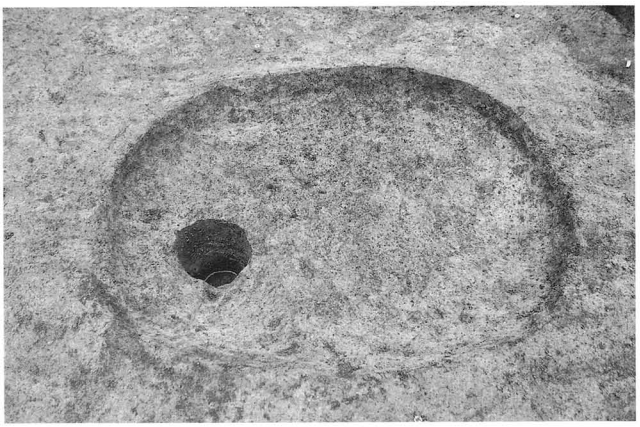
Ｄ９号土坑全景

Ｄ10号土坑全景（東から）



Ｄ11号土坑炭化層確認状況

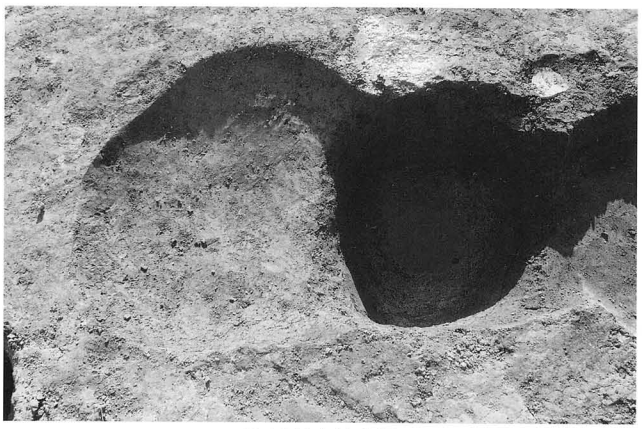
Ｄ11号土坑完掘状況全景



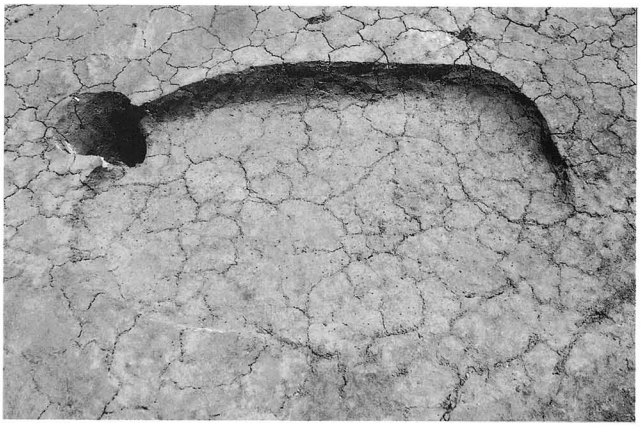
Ｄ12号土坑全景

D14・15号土坑全景

D16号土坑遺物出土状況



D16号土坑全景

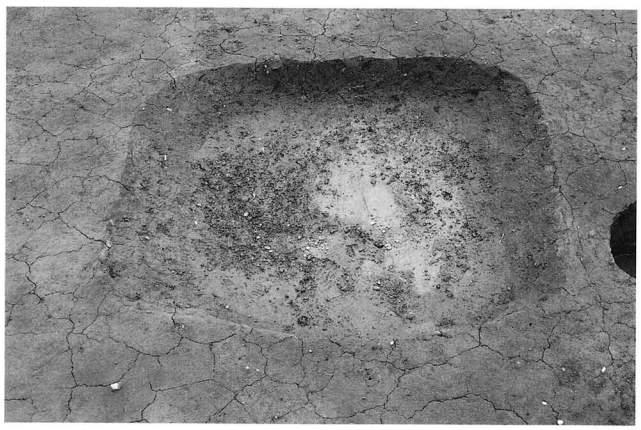


D17号土坑全景

D18号土坑全景

D19号土坑全景

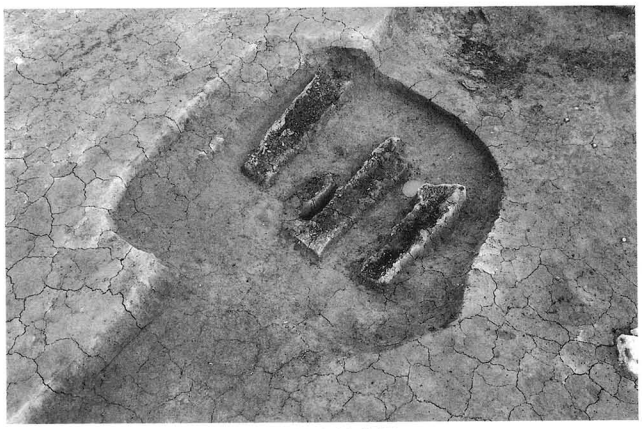
D20号土坑全景



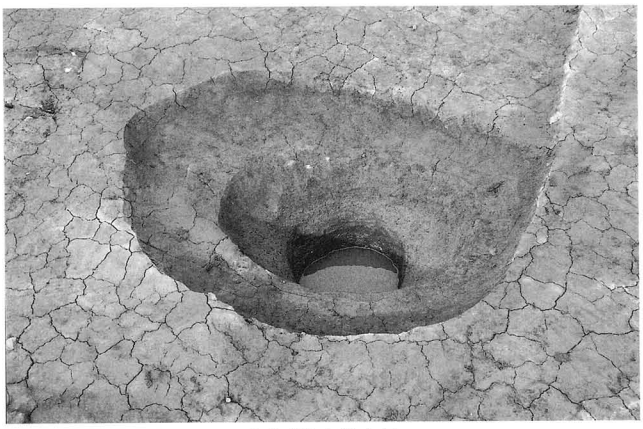
D21号土坑全景

図版18

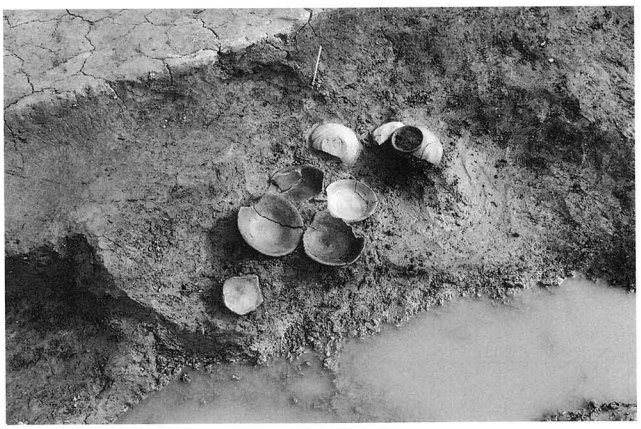
D22号土坑全景



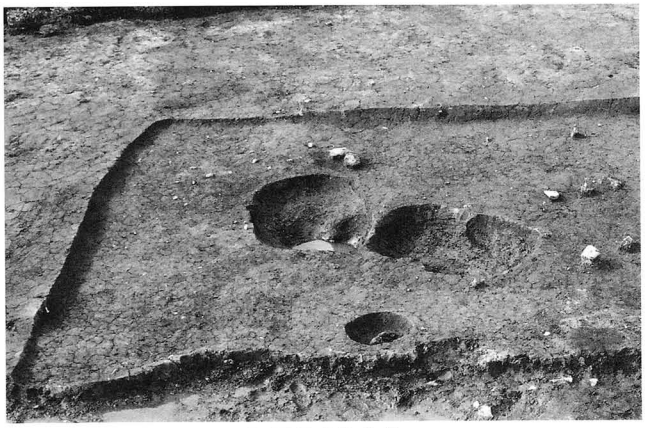
D23号土坑全景



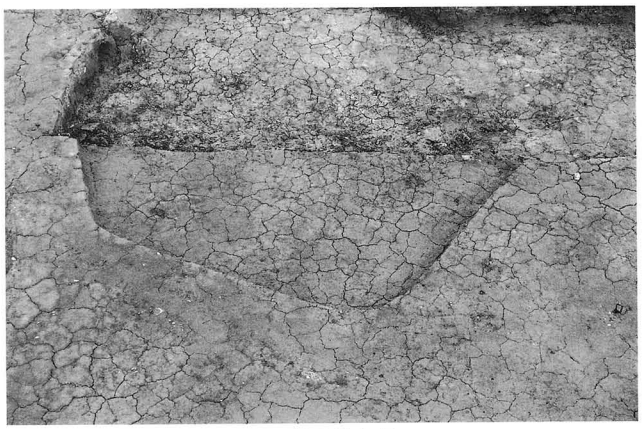
D24号土坑全景



D25号土坑全景

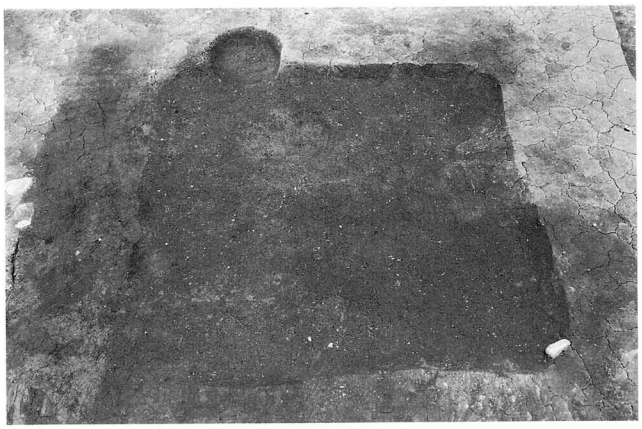


D26号土坑全景

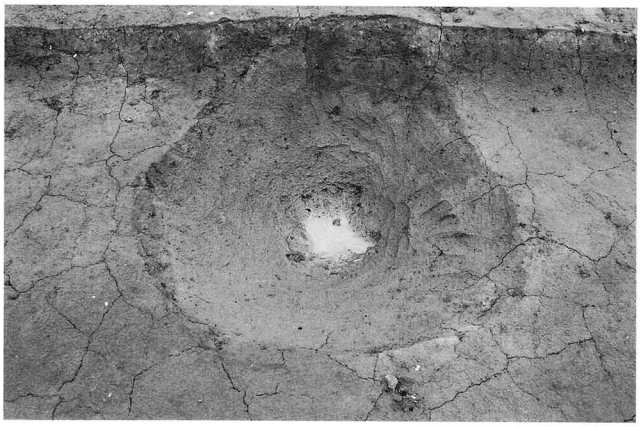


D27号土坑全景

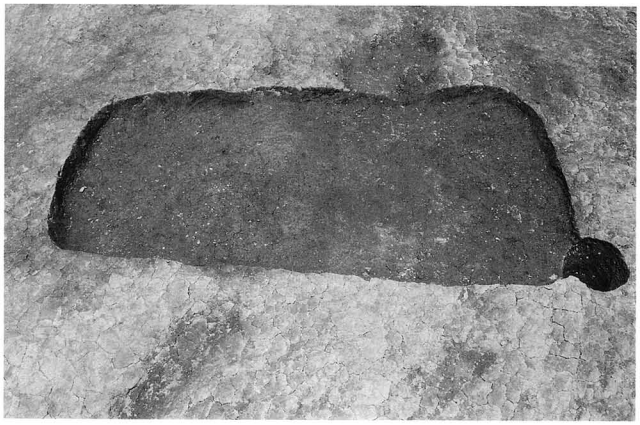
D28号土坑全景



D29号土坑全景



D30号土坑全景



D31号土坑全景

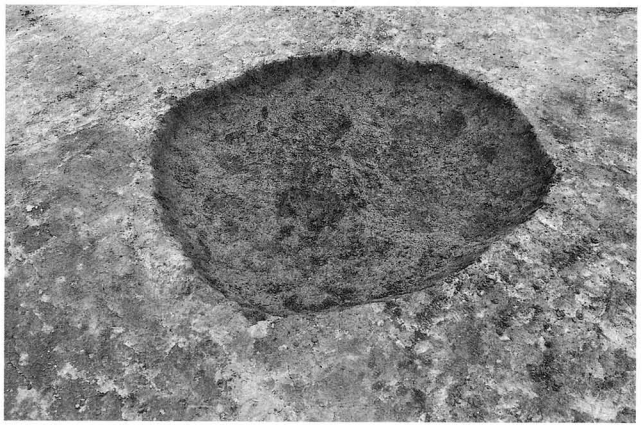
D32号土坑羽口出土状況

D32号土坑全景

D34号土坑全景

D35号土坑全景

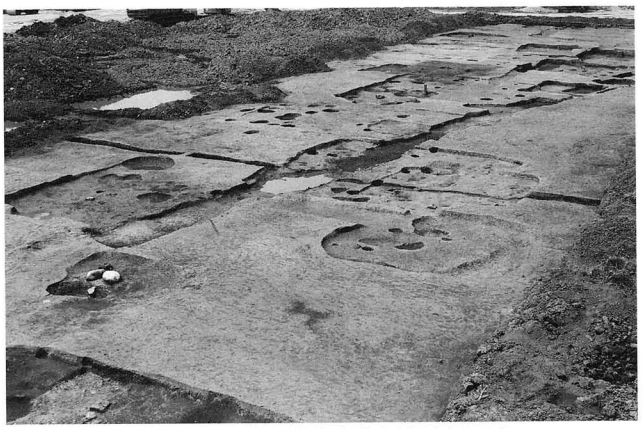
D36号土坑全景



D37号土坑全景

図版20

南側調査区Ｍ１号溝状遺構全景（東から）



北側調査区Ｍ１号溝状遺構全景（東から）

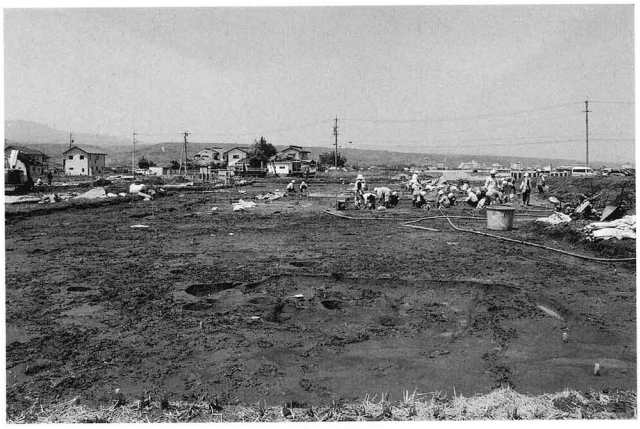
Ｍ２号溝状遺構全景（南から）

Ｍ４号溝状遺構全景（西から）

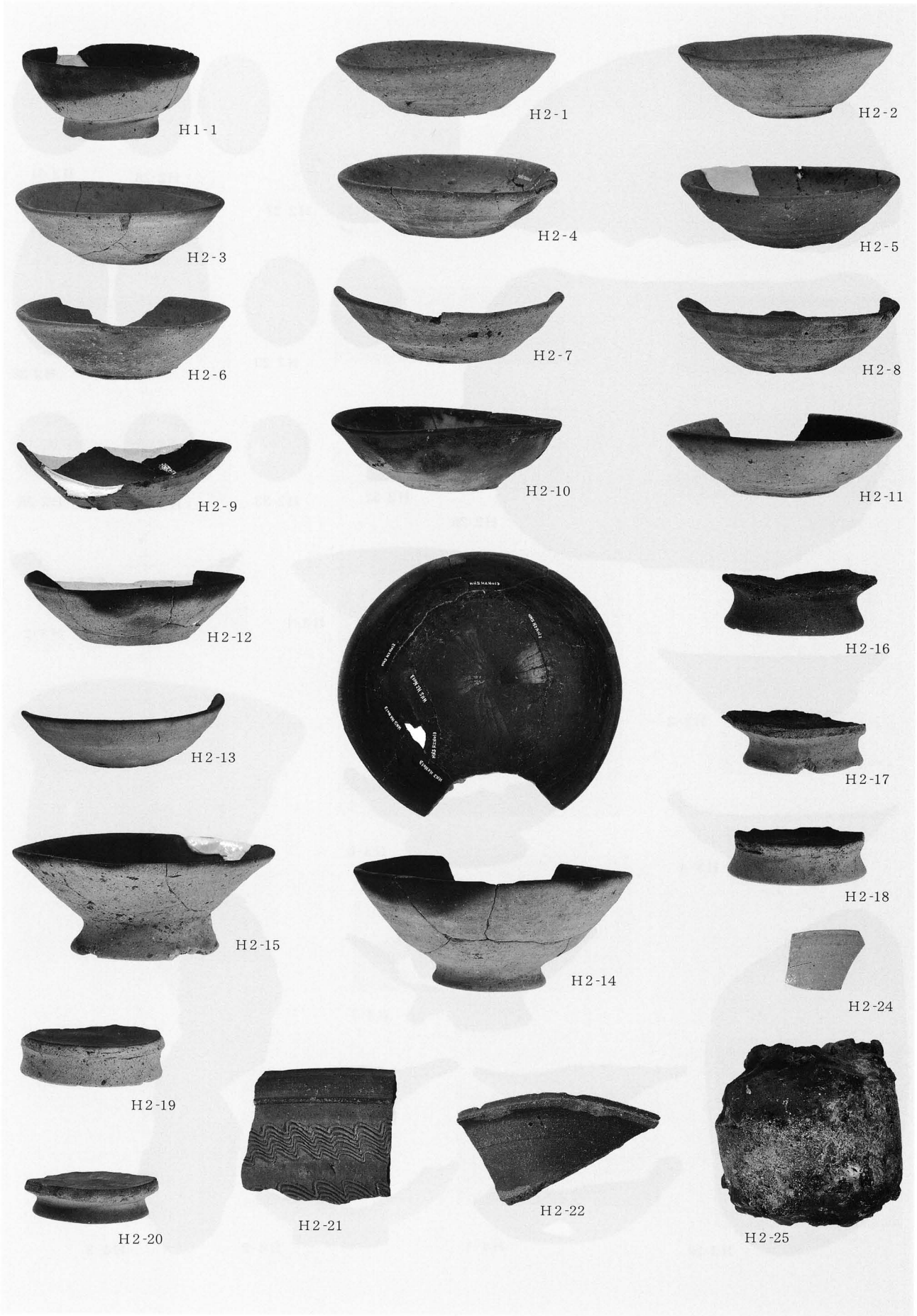
Ｍ５号溝状遺構全景（北から）

南側調査区表土除去作業

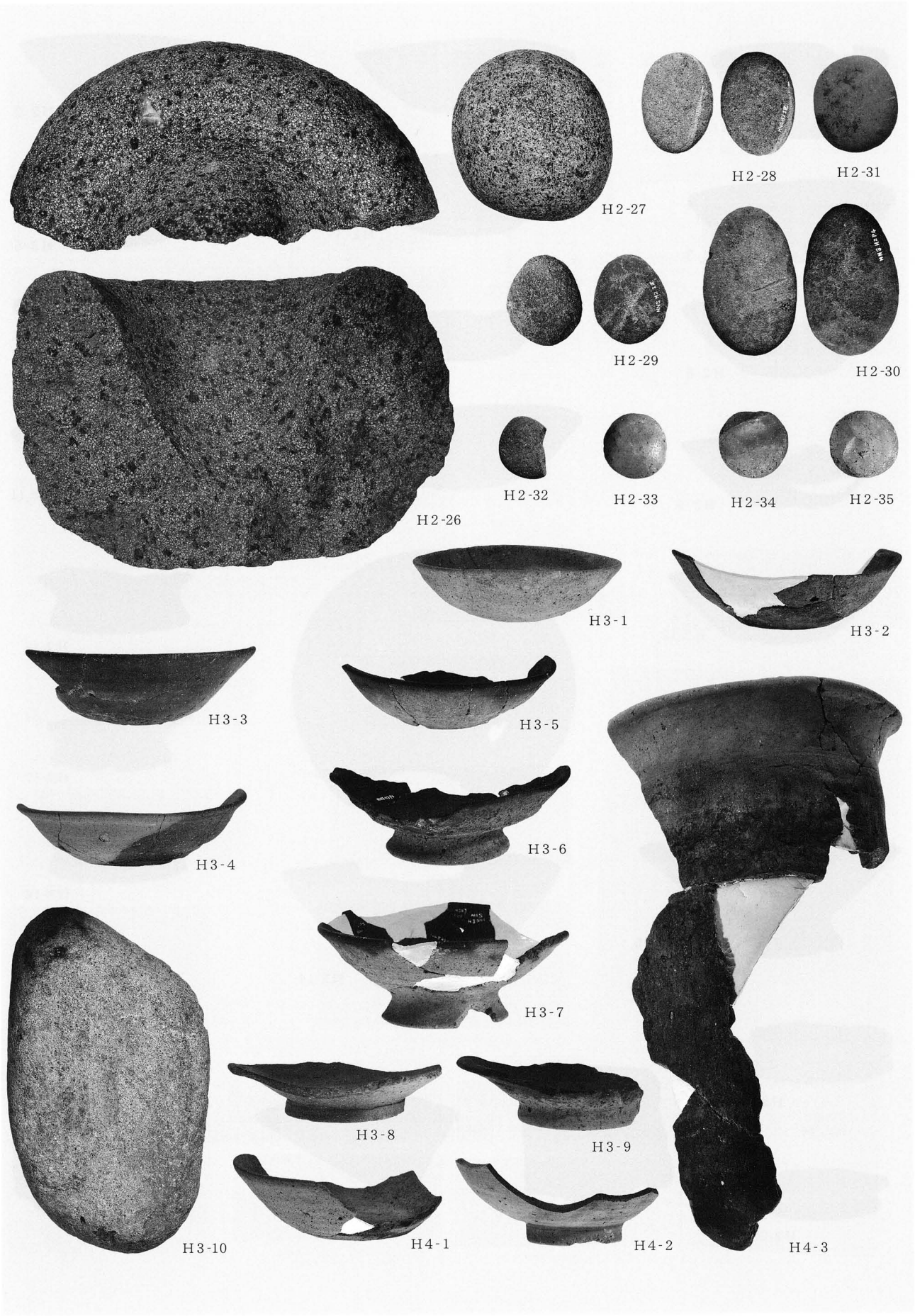
北側調査区表土除去作業



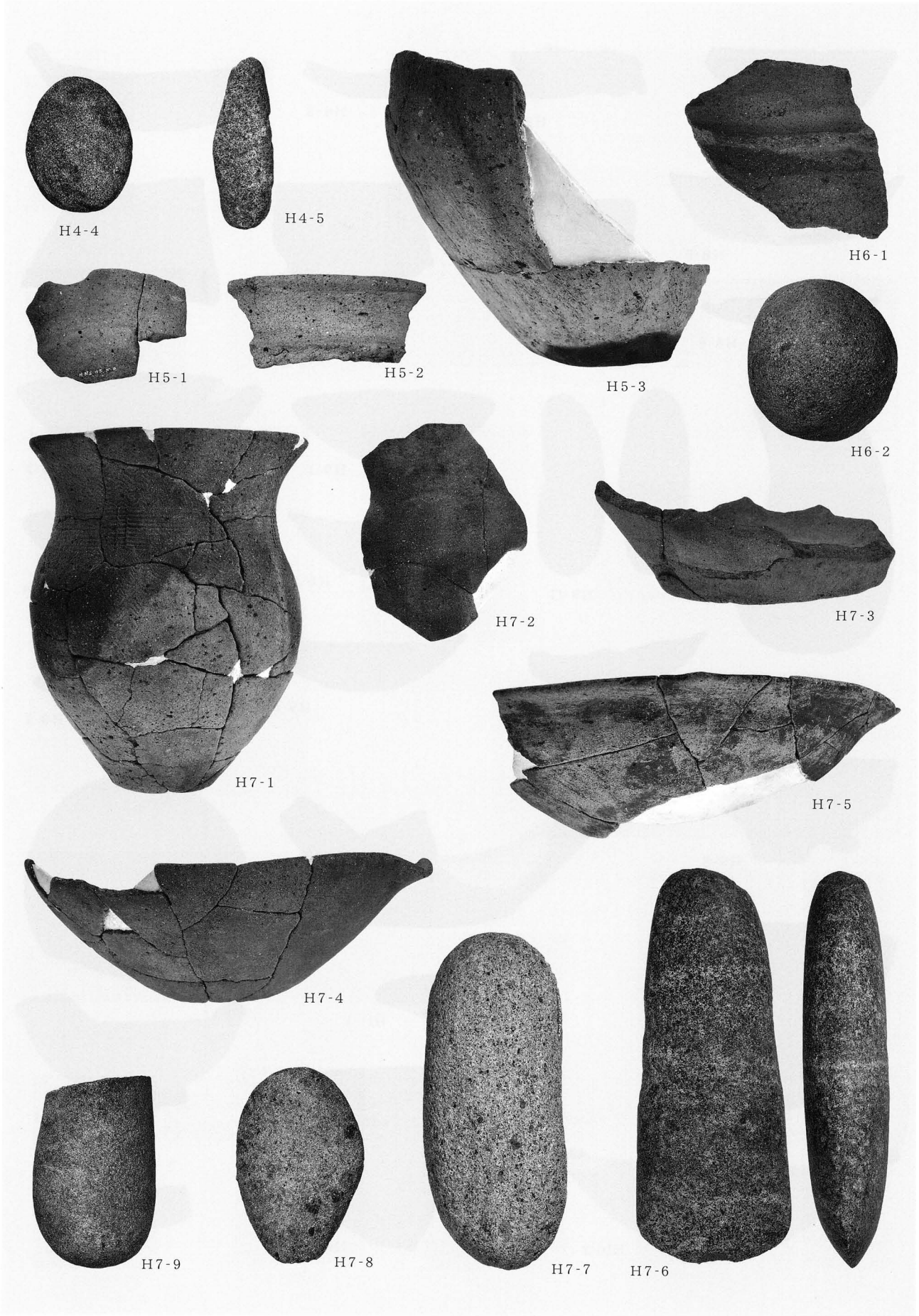
調査風景




H１・２号住居址出土遺物

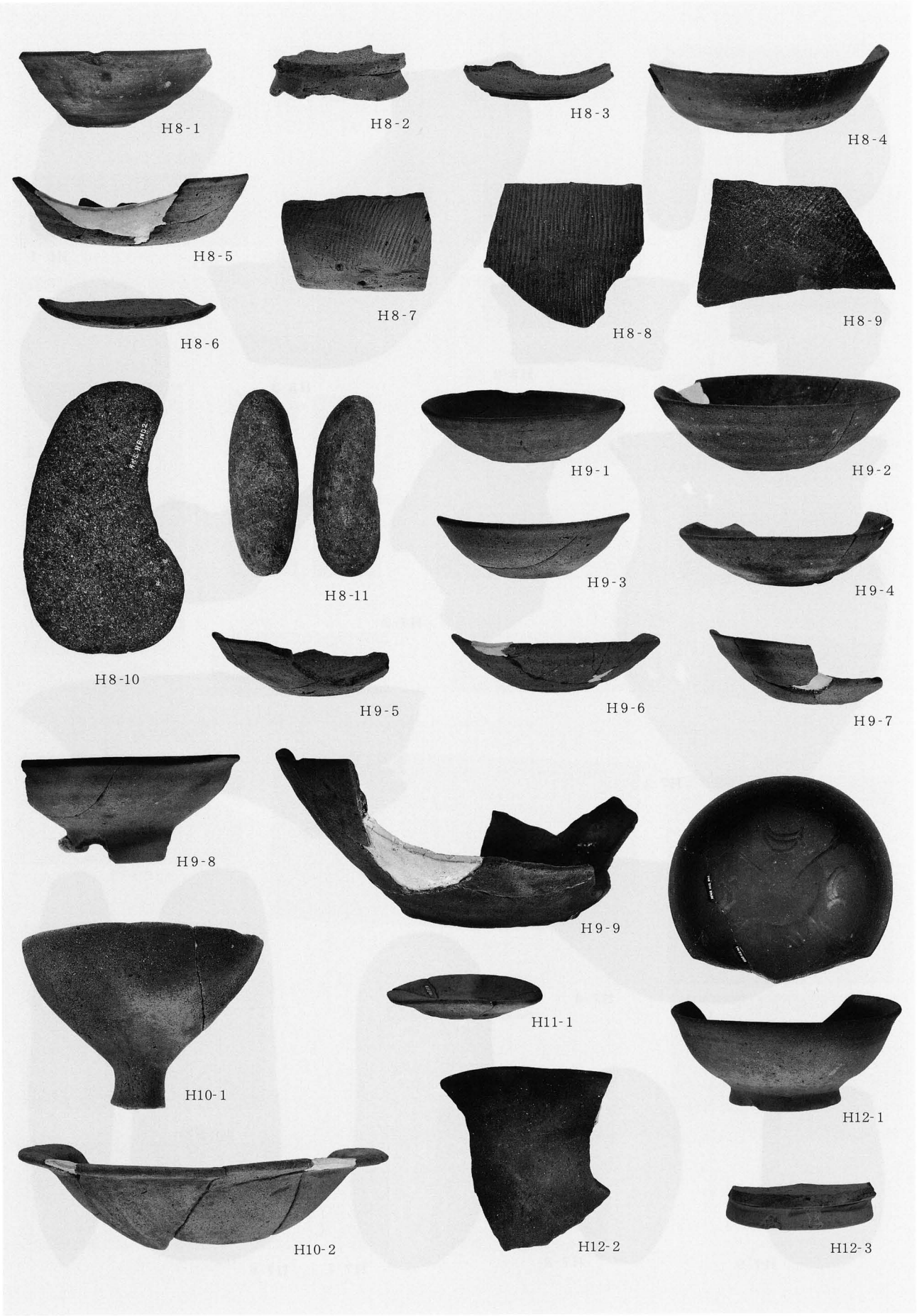



H2・3・4号住居址出土遺物

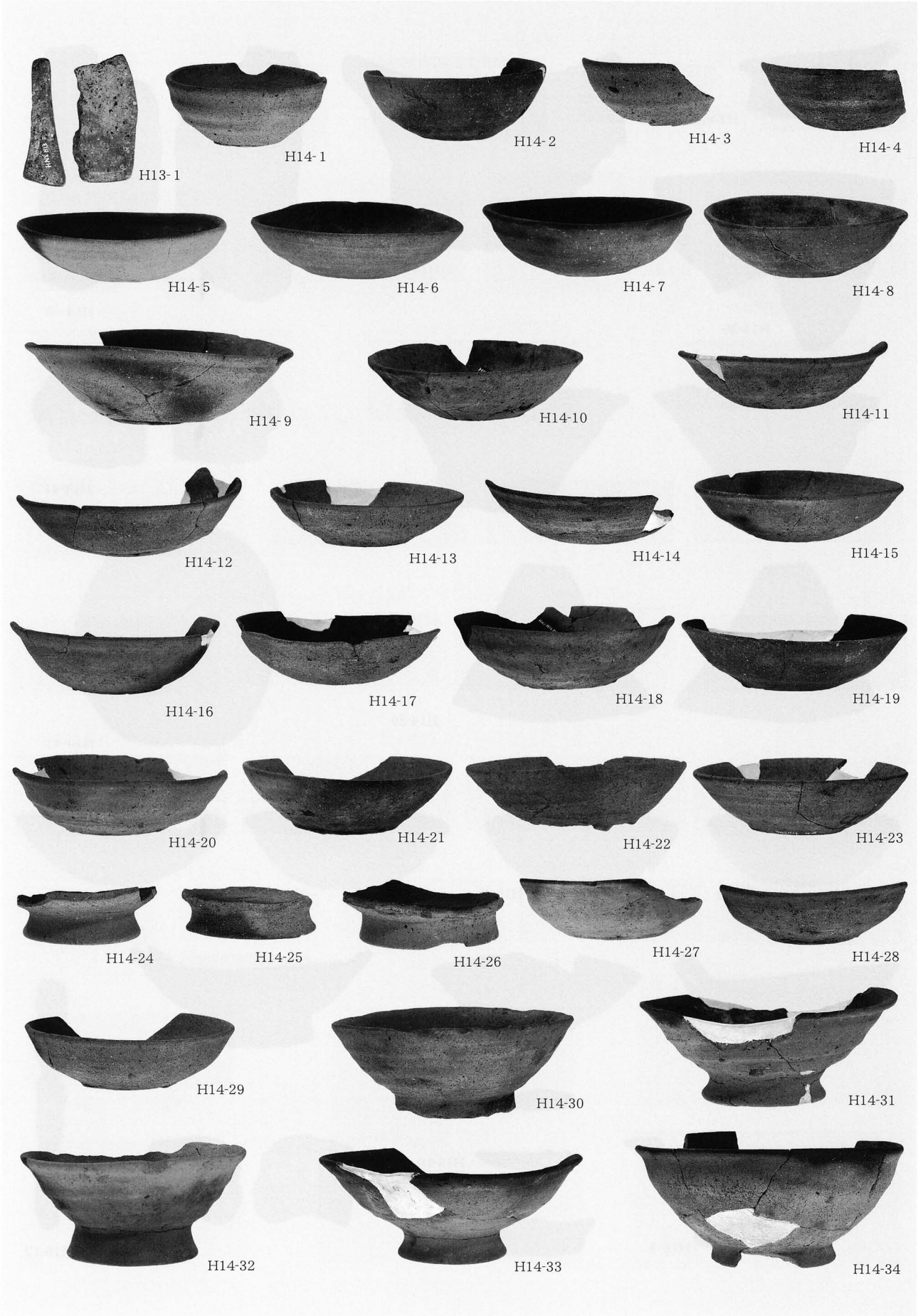



H4・5・6・7号住居址出土遺物

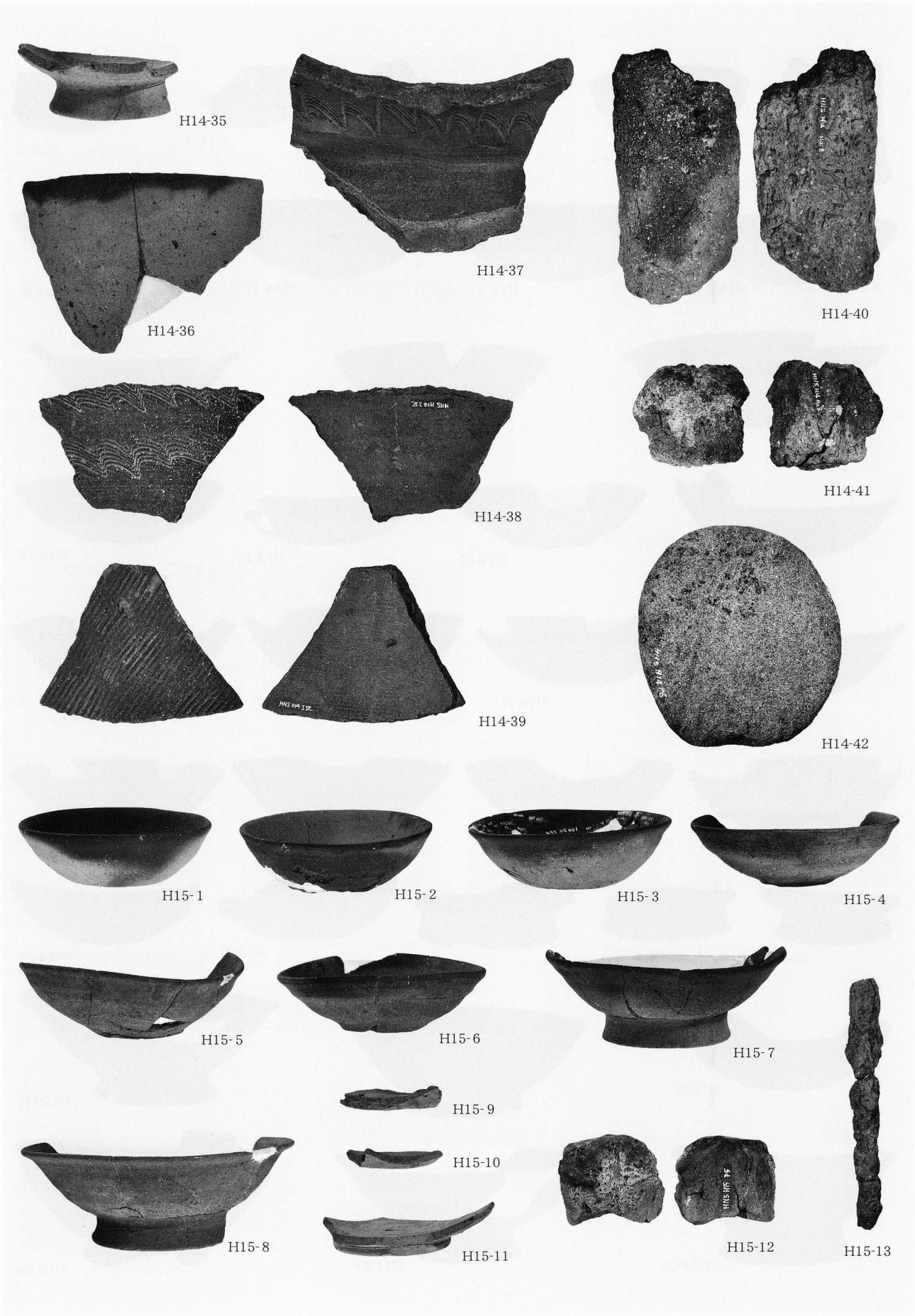
図版24



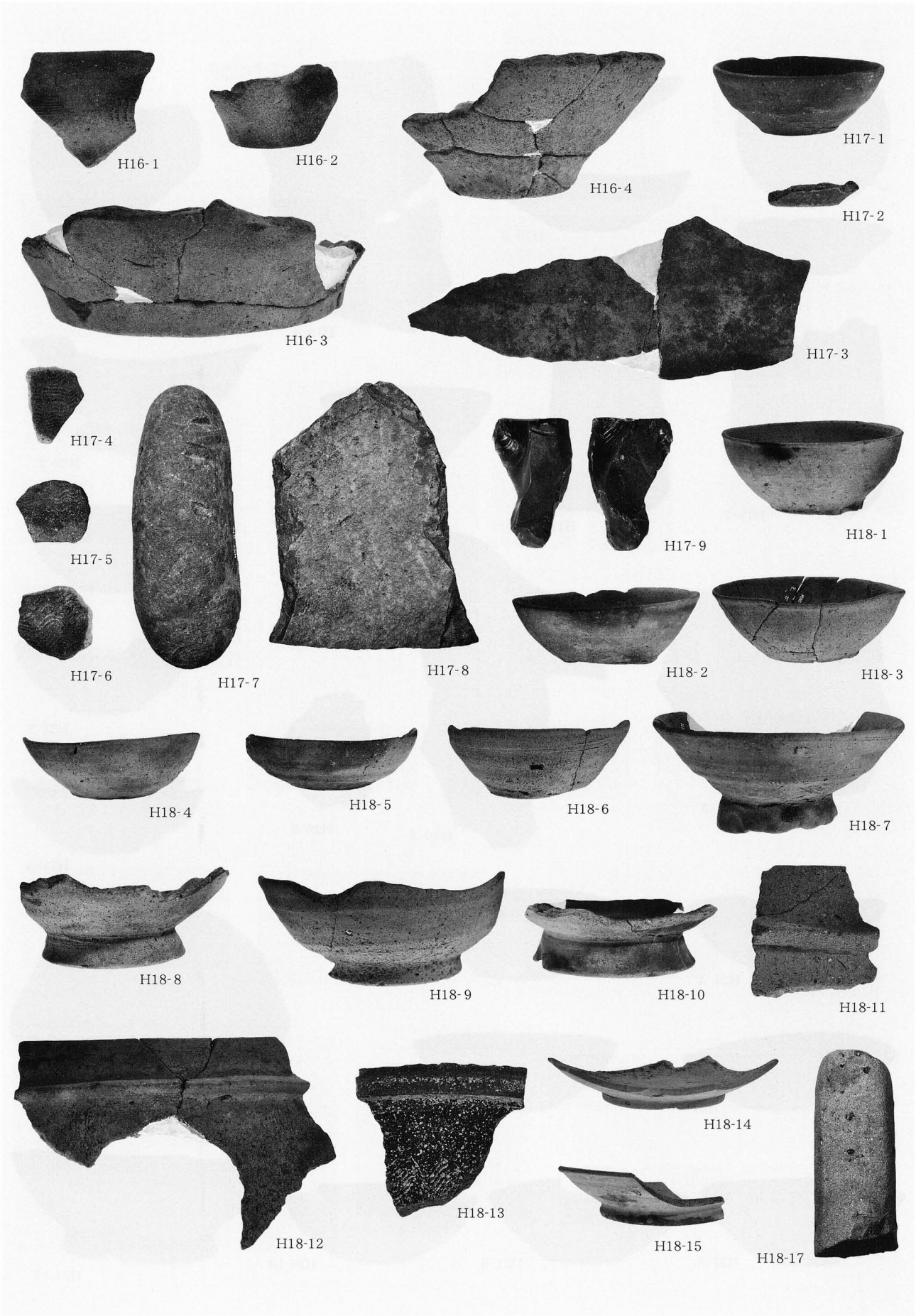

H8・9・10・11・12号住居址出土遺物




H13・14号住居址出土遺物

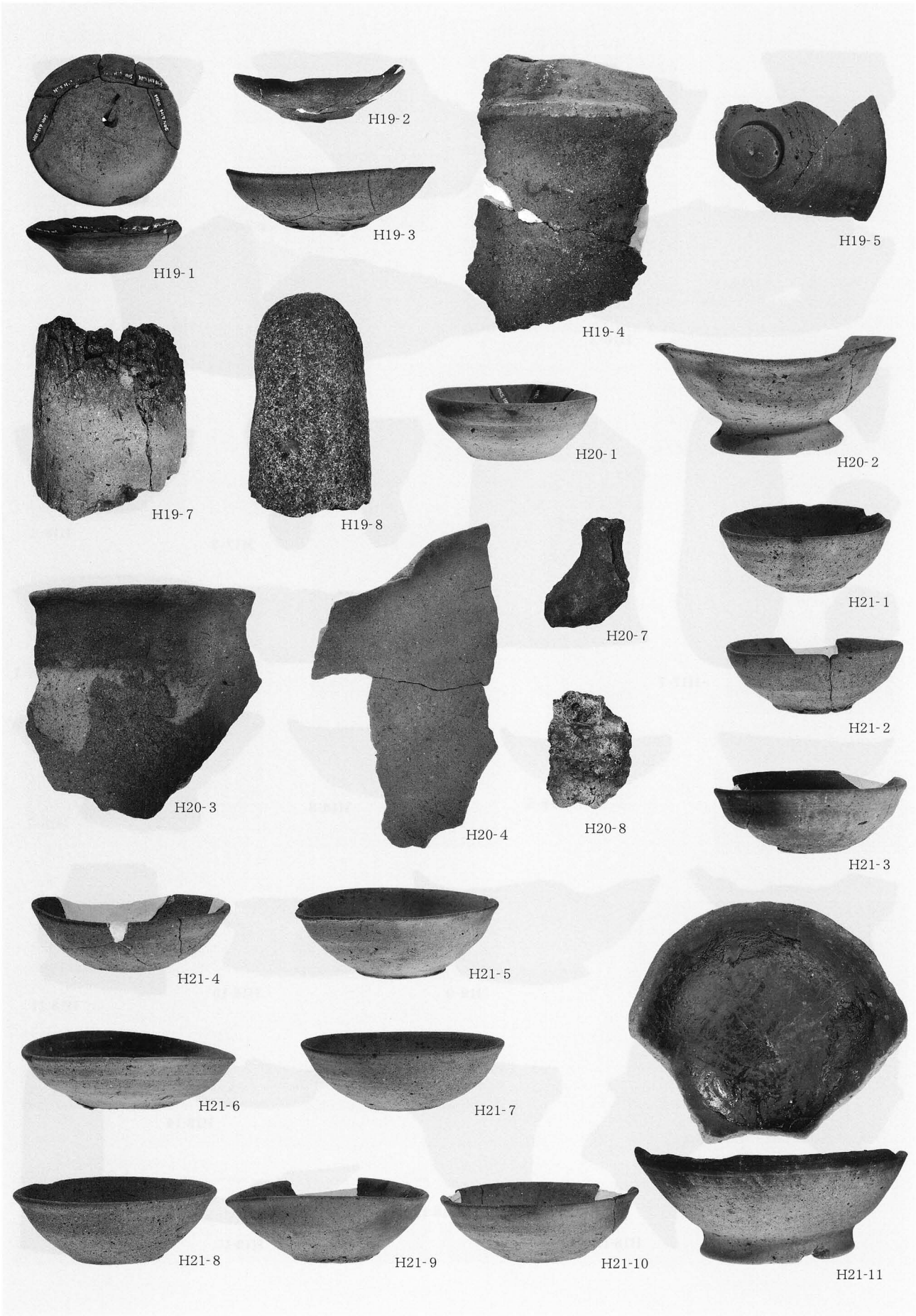



H14・15号住居址出土遺物

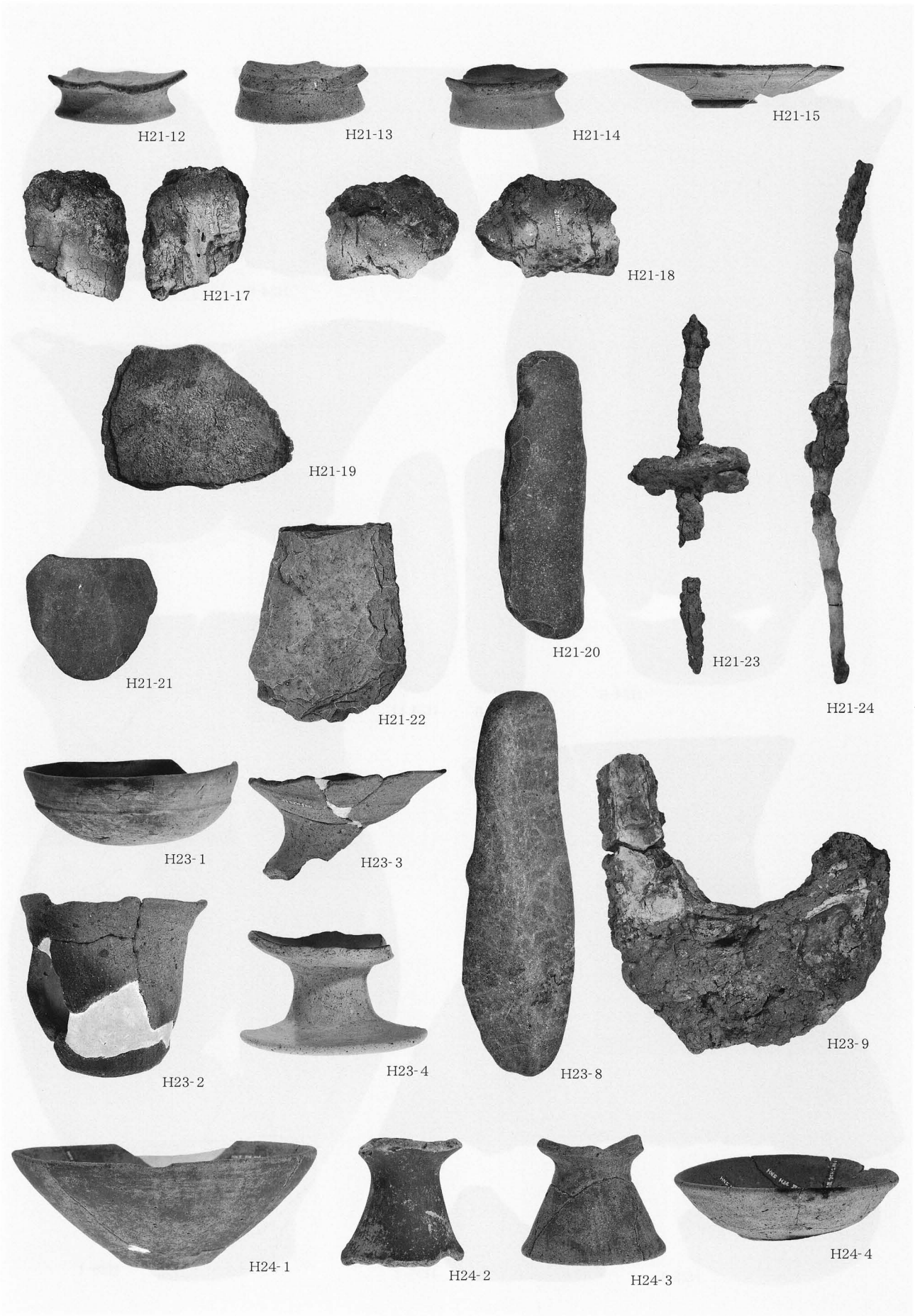



H16・17・18号住居址出土遺物

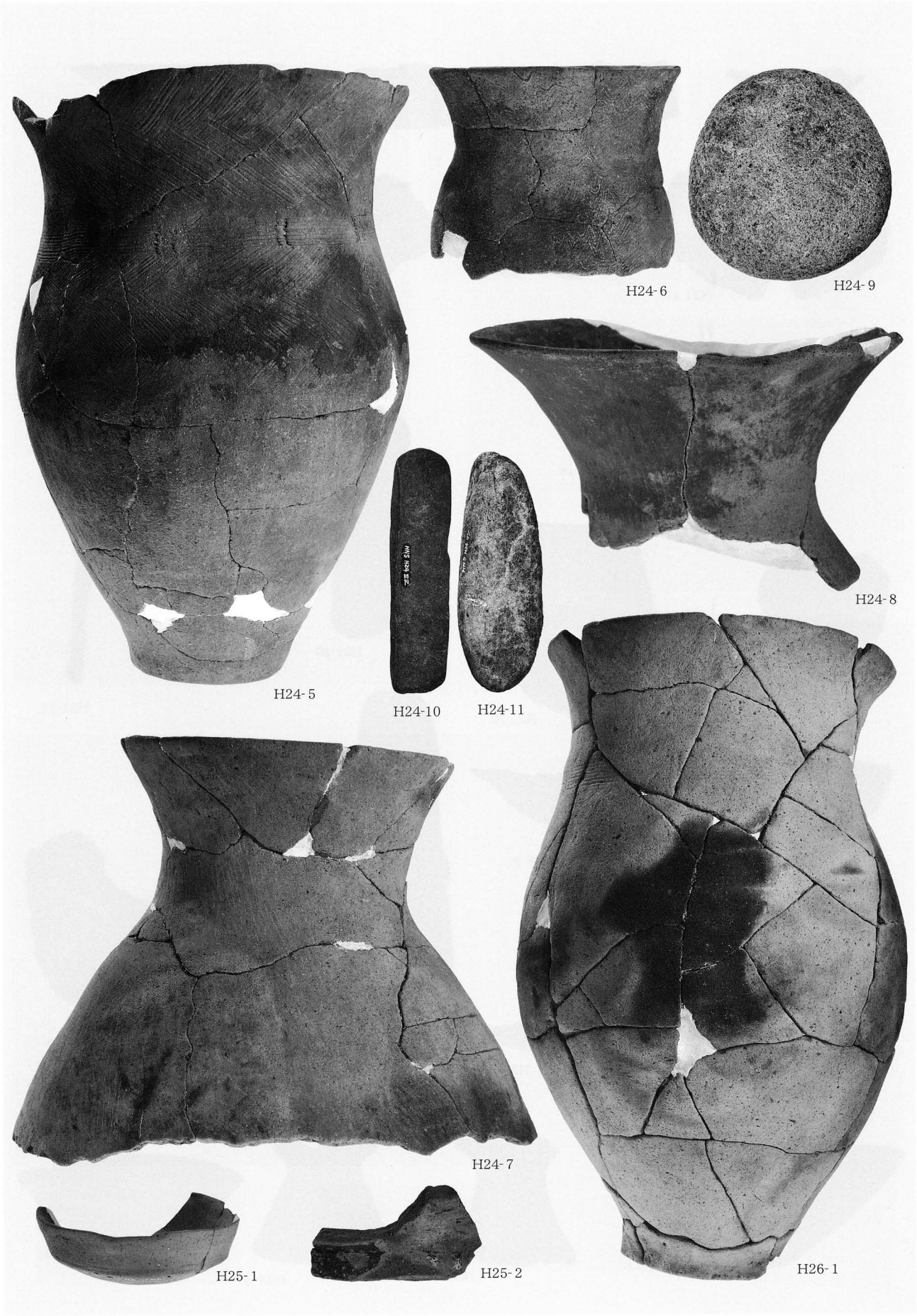
図版28



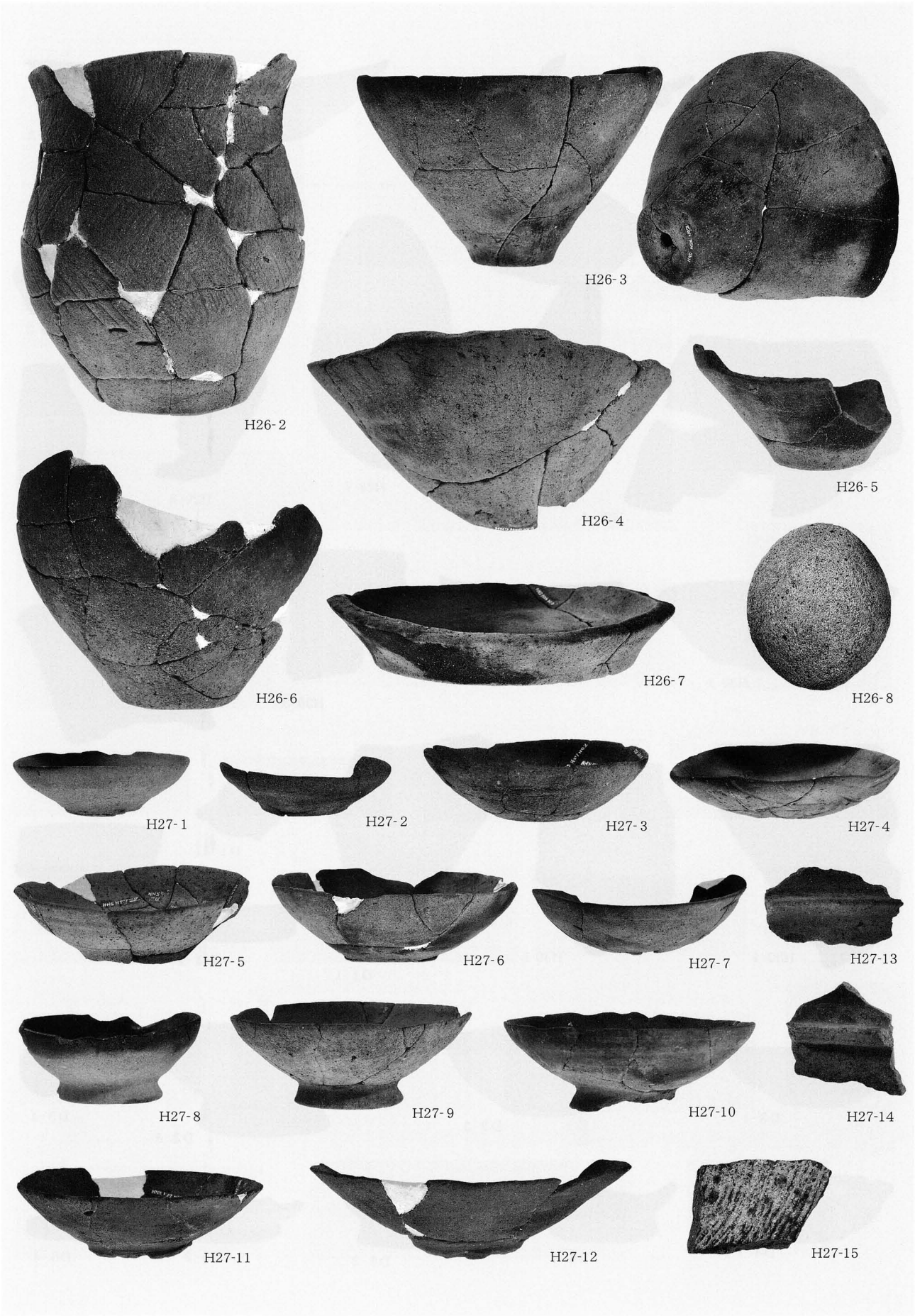

H19・20・21号住居址出土遺物



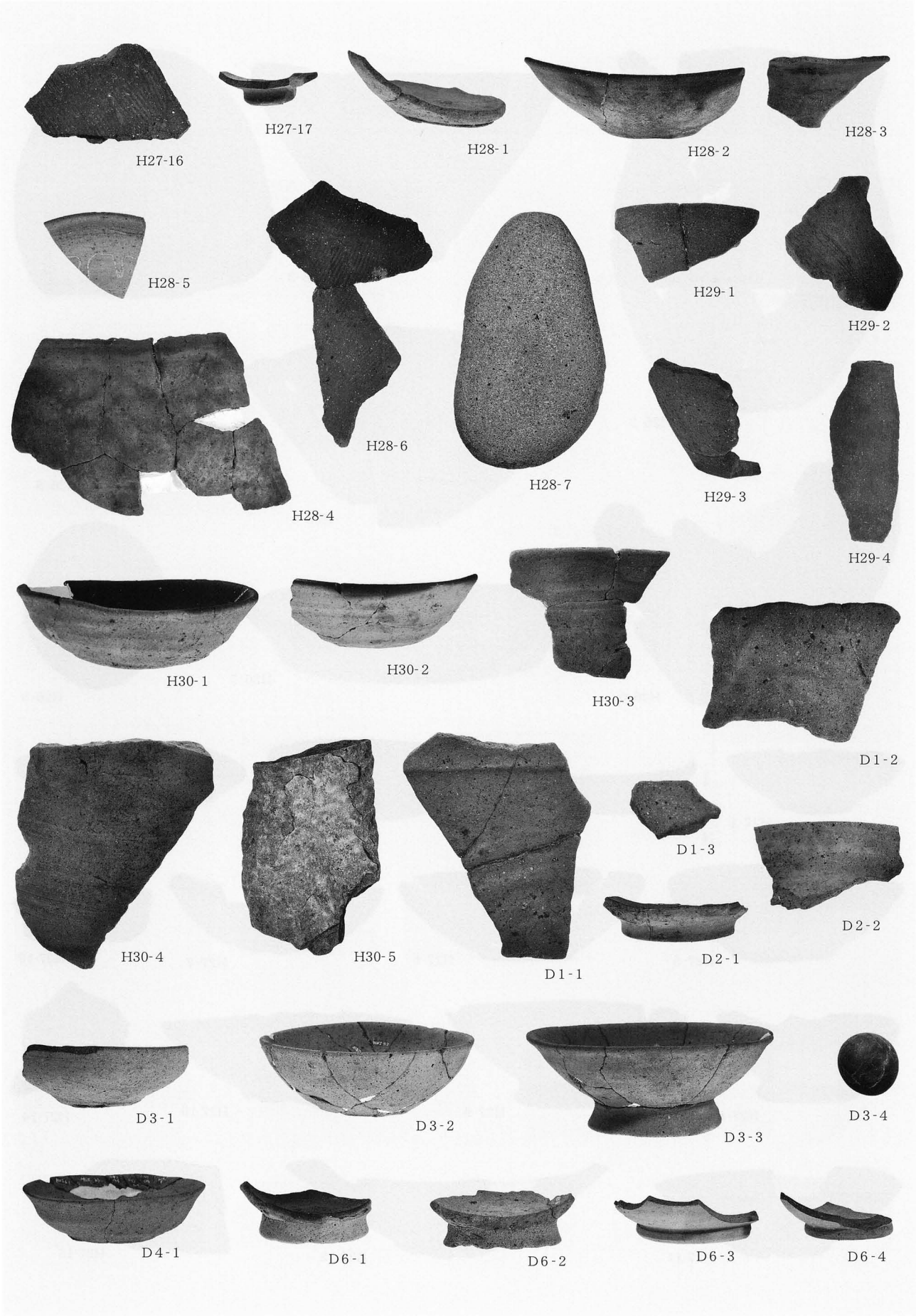

H21・23・24号住居址出土遺物



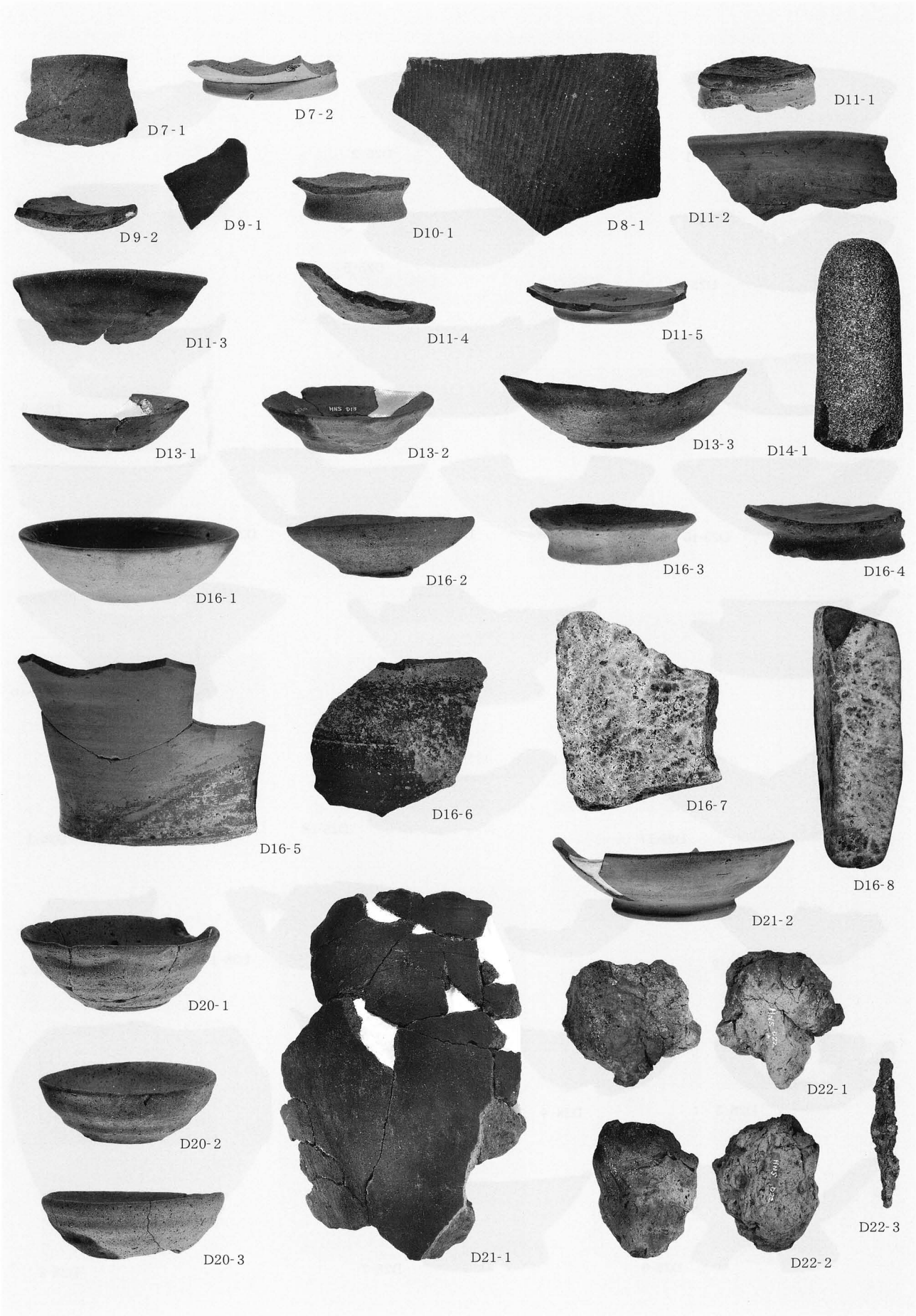

H24・25・26号住居址出土遺物



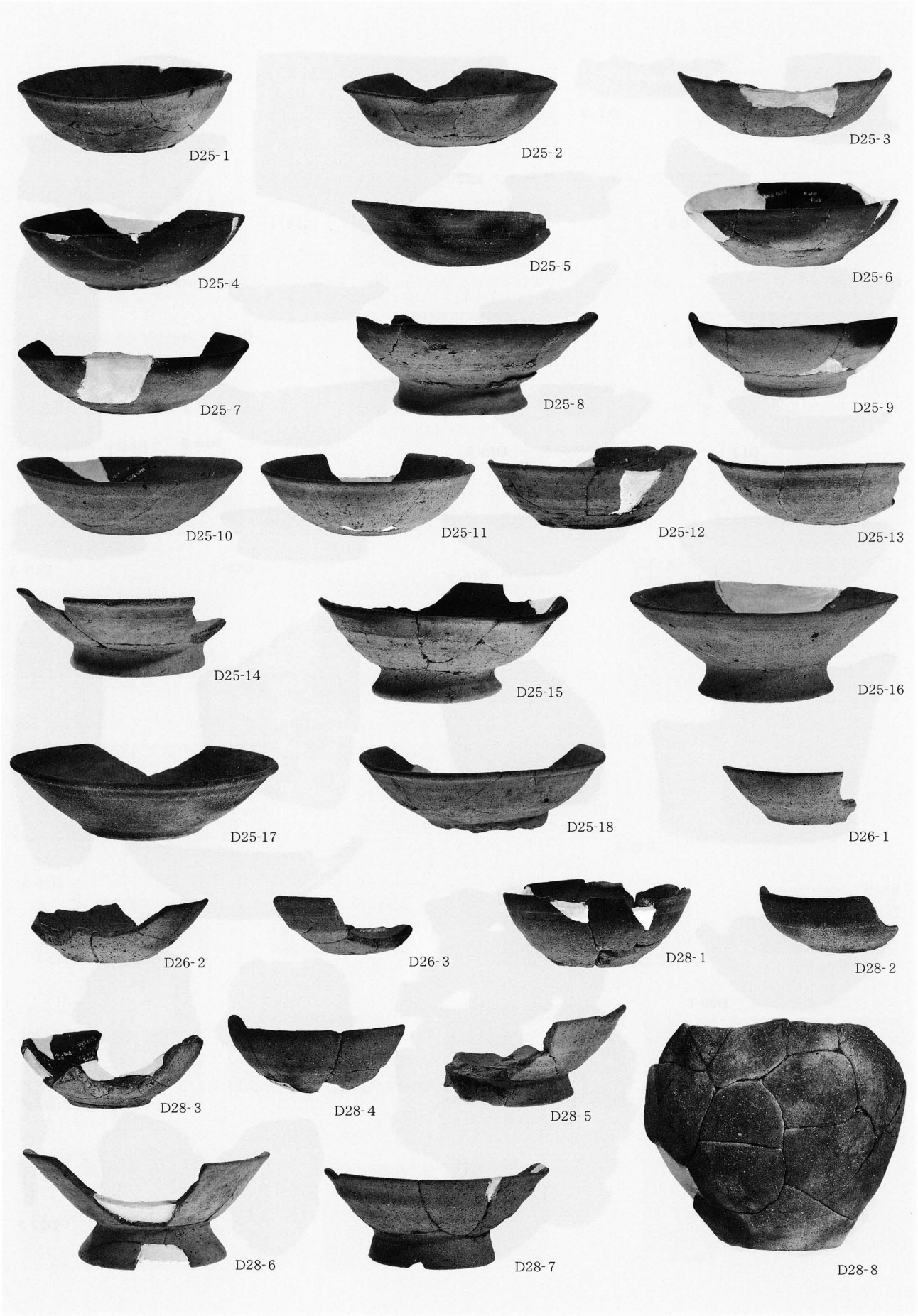

H26・27号住居址出土遺物



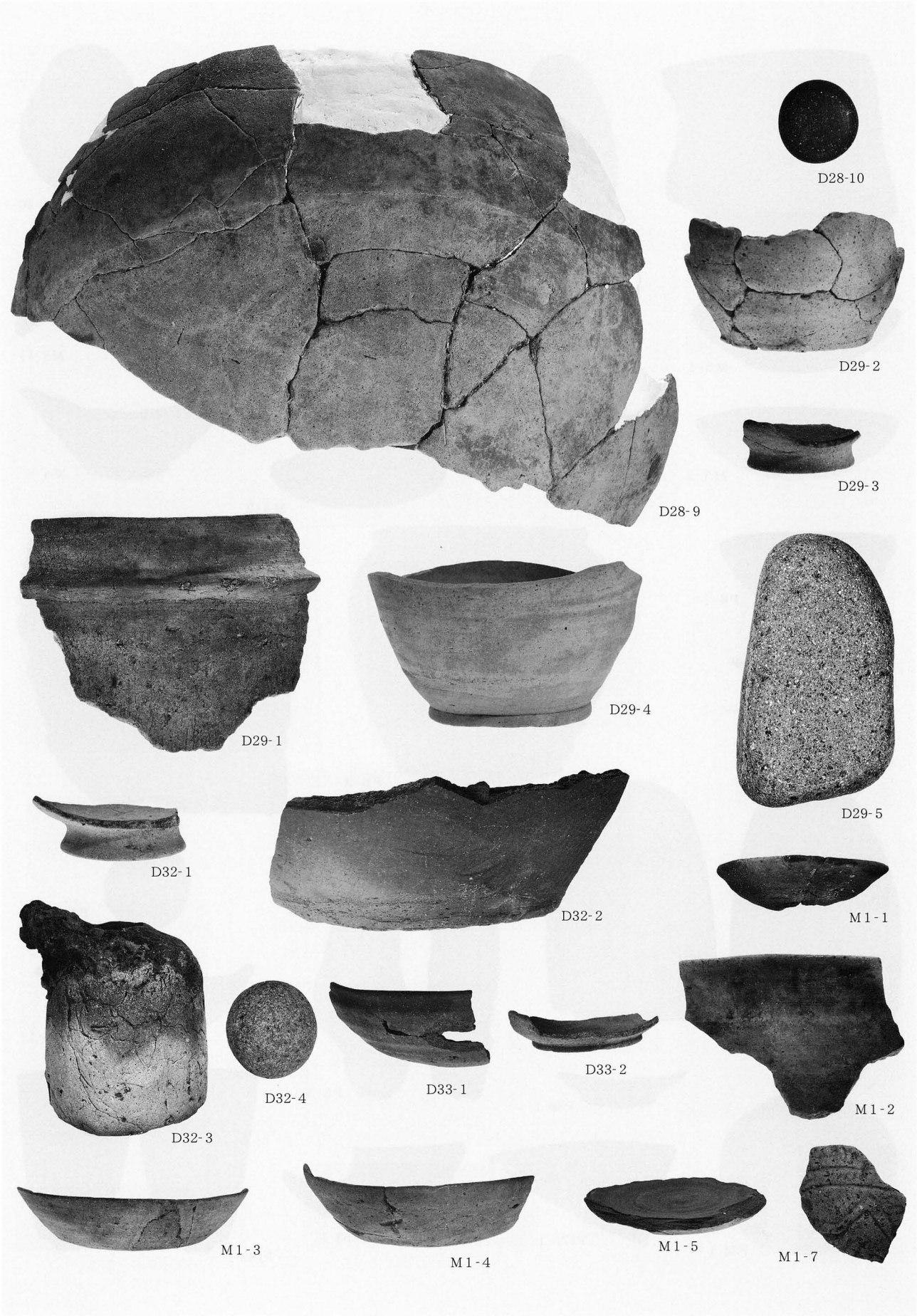

H27・28・29・30号住居址、D１・２・３・４・６号土坑出土遺物



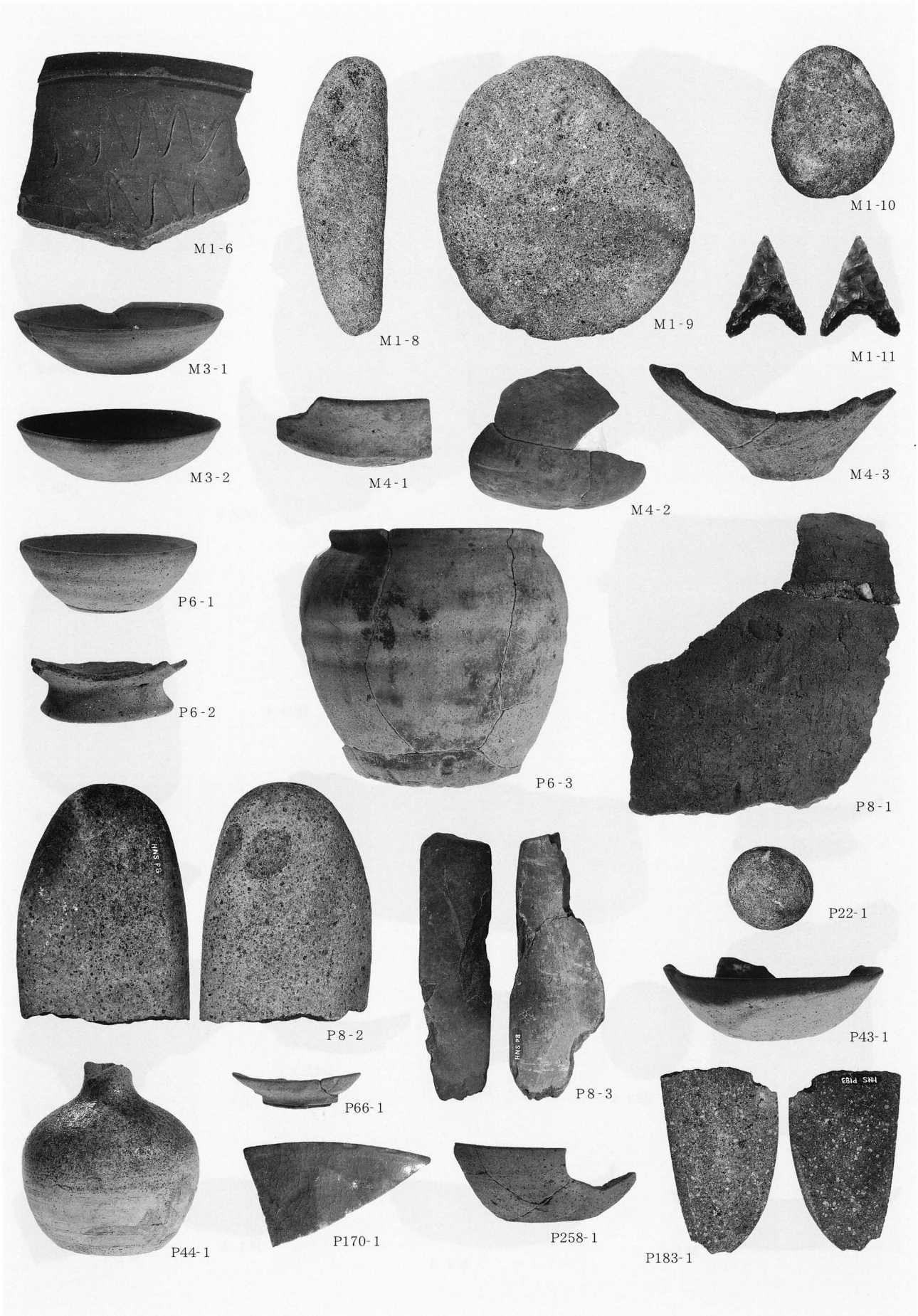

D７・８・９・10・11・13・14・16・20・21・22号土坑出土遺物




D25・26・28号土坑出土遺物




D28・29・32・33号土坑、M1号溝状遺構出土遺物

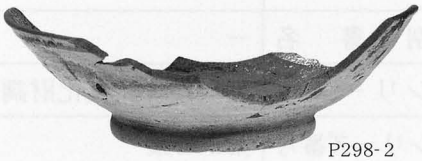



M1・3・4号溝状遺構、P6・8・22・43・44・66・170・183・258号ピット出土遺物

P294-1

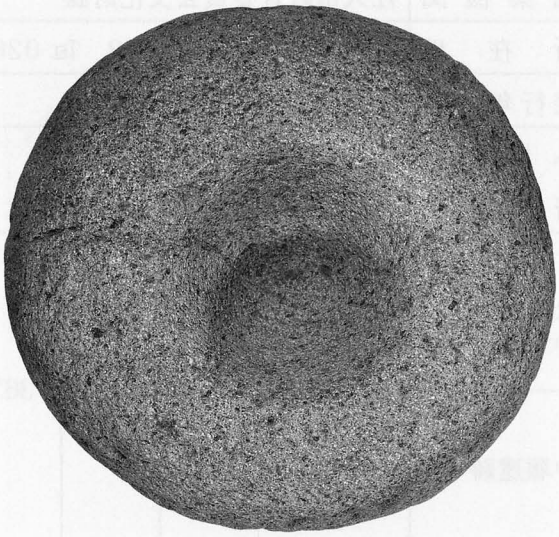
P295-1

P298-1


P298-2

P297-1

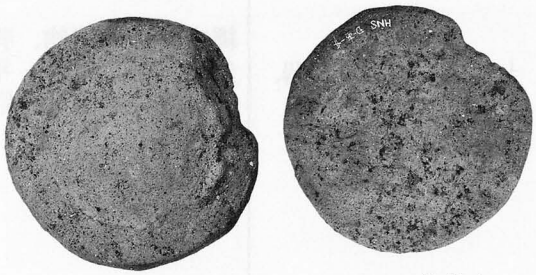
P315-1

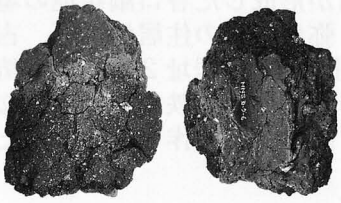

P298-3

P322-1

P322-2

P322-5


D-あ-4


D-う-6

P294・295・297・298・315・322号ピット、グリッド出土遺物

| | |
|---|---|
| ふりがな | なかせぎいせき |
| 書名 | 中堰遺跡 |
| 副書名 | ― |
| シリーズ名 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第202集 |
| 編著者名 | 上原　学 |
| 編集機関 | 佐久市教育委員会文化財課 |
| 所在地 | 長野県佐久市志賀5953　TEL 0267-68-7321　FAX 0267-68-7323 |
| 発行年月日 | 平成25年（2013）1月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積㎡ | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| なかせぎいせき | さくし ひらかあざ かしやぶ | 20217 | 433 | 36°13′3″ | 138°29′32″ | 20110427～20110622 | 2,540 | 特別養護老人ホーム |
| 中堰遺跡 | 佐久市平賀字樫藪738、740、741 | | | | | | | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中堰遺跡 | 集落 | 縄文・弥生・古墳・奈良・平安 | 竪穴住居址31軒、溝状遺構５条、土坑37基、ピット | 土器、石製品・石器、鉄製品、土製品 | 縄文時代の遺物、弥生・古墳・奈良・平安時代の集落が発見された。 |

| | |
|---|---|
| 要約 | 佐久南部の千曲川右岸沖積地上と東方からの河川が形成した谷口扇状地の境界付近に展開する遺跡である。今回の調査対象地からは、弥生時代の住居址７軒、古墳時代の住居址３軒、奈良・平安時代の住居址19軒、時期不明の住居址２軒及び土坑、溝状遺構等が発見された。平安時代の住居址及び周辺の土坑内から鉄滓及び羽口など鉄製品製作にかかわる遺物が多く認められることから、鉄製品の製作を行っていた集落であると推定された。 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第202集
中堰遺跡
平成25年（2013）１月

編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006　長野県佐久市志賀5953
TEL0267-68-7321

印　刷　所　キクハラインク有限会社